静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告　第101集

桧林A遺跡

平成8・9年度東駿河湾環状道路
埋蔵文化財発掘調査報告書

1998

財団法人 静岡県埋蔵文化財調査研究所

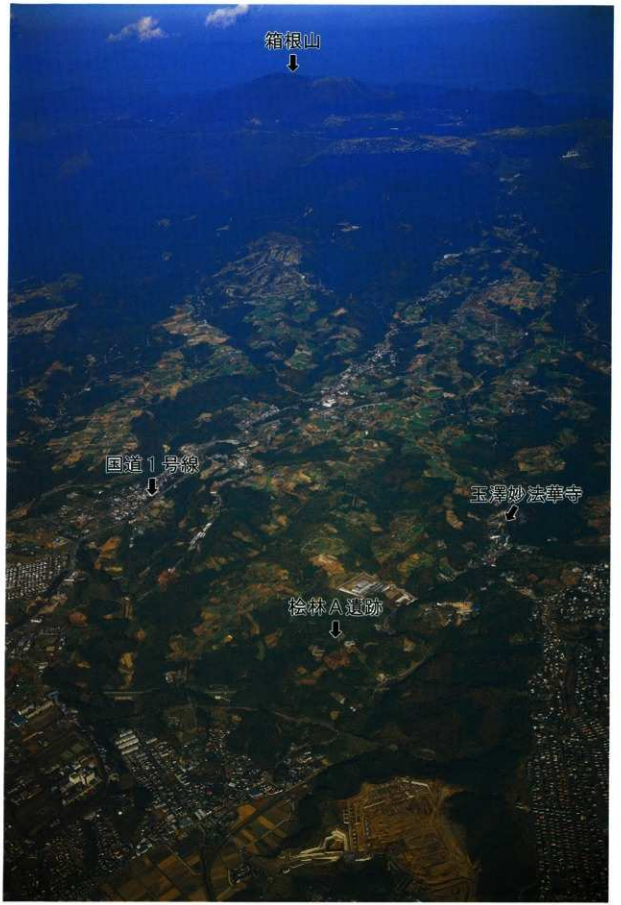
静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告　第101集

桧林A遺跡

平成8・9年度東駿河湾環状道路
埋蔵文化財発掘調査報告書

1998

財団法人 静岡県埋蔵文化財調査研究所



遺跡遠景（南西から）

序

桧林A遺跡は、東駿河湾環状道路の建設に伴う事前調査として、建設省沼津工事事務所の委託を受け、平成8年4月から平成9年9月まで現地調査を行った。

東駿河湾環状道路の建設される箱根山西麓から愛鷹山南麓は、静岡県内でも有数の埋蔵文化財含蔵地であり、特に、旧石器時代から縄文時代にかけての遺跡が、数多く確認されている。桧林A遺跡においても、旧石器時代はもとより、さらに近代に至るまでの遺構・遺物を検出した。本書は、その調査報告書である。

まず、調査区の尾根を横断する形で、近世箱根道の一つ「竹倉街道」に伴う道路状遺構を検出した。調査前、遺跡分布図では旧石器～縄文の含蔵地となっていたが、現地調査において地元の方々から様々いただいた示唆から検出できた遺構である。

期待された平坦部からの成果は見られなかったが、谷頭部では後期旧石器時代から縄文時代晩期に至る、長い期間の先人の営みが明らかになった。また、中世から近世・近代に至る遺物も、遺構などの割合に比し、かなりの量が出土している。

今後、伊豆半島を、三島から田方平野へと、南に下る東駿河湾環状道路の調査が予定されている。桧林A遺跡では、同じ調査区の中でも様々な厚みをもった休場層の堆積や中部ローム層の堆積、テフラの堆積状況は、今後の参考となる資料と考える。火山灰の他、石器石材などにおいても、いままで行われてきた東駿河湾環状道路関連調査の成果に基づき、より共通した資料が提供できるよう努めた。

最後になるが、調査ならびに本書の作成にあたっては、建設省をはじめとした関係機関各位に多大なる援助・協力を受けた。この場を借りて厚くお礼申し上げる。また、現地調査・資料整理に参加した多くの調査員・作業員の労をねぎらいたい。

平成10年3月

財団法人　静岡県埋蔵文化財調査研究所
所長　斎藤　忠

例　　言

1　本書は静岡県三島市谷田字石神に所在する桧林A遺跡の発掘調査報告書である。

2　調査は、平成８・９年度東駿河湾環状道路埋蔵文化財発掘調査業務として、建設省中部建設局沼津工事事務所の委託を受け、静岡県教育委員会文化課の指導のもと、財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所が実施した。

3　桧林A遺跡の現地調査は、平成８年４月から平成９年９月まで、資料整理は、平成９年10月から平成10年３月まで実施した。

4　調査体制は以下のとおりである。

平成８年度

所長　斎藤　忠、副所長　池谷和三、常務理事　三村田昌昭、調査研究部長　石垣英夫、調査研究四課長　橋本敬之、調査研究員　小川正夫・山中朝二

平成９年度

所長　斎藤　忠、副所長　池谷和三、常務理事　三村田昌昭、調査研究部長　石垣英夫、調査研究四課長　橋本敬之、調査研究員　小川正夫・石田　勉（９月まで）・小林靖彦（10月から12月まで）

5　本書の作成は小川正夫が、現地調査の写真・実測等はそれぞれの調査員が、資料整理における遺物写真については当研究所が行った。

6　火山灰同定は、パリノ・サーヴェイ株式会社、国立沼津工業高等専門学校の高橋豊氏に依頼した。

7　石器の実測は、株式会社アルカに依頼した。

8　当調査報告における資料は、すべて静岡県埋蔵文化財調査研究所が保管している。

凡　　例

本書の記載については、以下の基準に従い統一した。

1　遺物番号は土器：P、石器：S、礫：R、金属器：Mの略号に通し番号を付けた。
　また、遺物番号は現地調査時と報告書作成段階で変更を行わなかったため、欠番や重複があり、必要に応じて一部に枝番を使用している。

2　石器の実測は、原則として第三角投影法に拠った。

3　出土遺構・遺物実測図の縮尺は、各ページの図ごとに掲載の通りである。

4　遺物の出土位置については、一覧表内に座標で明記した。座標はA0グリッドを（X・Y）＝（0・0）とし、南北方向をX軸に、東西方向をY軸にとった。

5　陶磁器の編年に関しては次の各論者の編年によった。
　大橋 1989（肥前）　小野 1993（貿易陶磁）　中野・赤羽 1994（知多古窯系）
　藤沢 1986（大窯）1994（山茶碗）1995（古瀬戸）1998（登窯）

6　石器石材の名称は柴田・山本両氏の標準資料によった。

7　土層・土器の色調は、新版「標準土色帖」(農水省農林水産技術会議事務局監修1996)を基準にした。

8　本文中の遺構の略号は次のとおりである。
　溝状遺構（ＳＤ）　竪穴状遺構（ＳＸ）　道路状遺構（ＳＴ）

9　挿図に記入されている方位は方眼北である。

10　土坑実測図の方位は上を北（方眼北）とする。

11　本文中・挿図中の表記は次のとおりである。

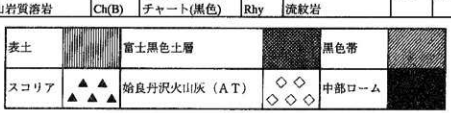
土層略号

略　号	層　名	略　号	層　名	略　号	層　名
ＫＵ	栗色土層	ＳＣⅠ	第Ⅰスコリア層	ＳＣⅢｓ１	第Ⅲスコリア層スコリア１
ＦＢａ	富士黒色土層ａ	ＢＢⅠ	第Ⅰ黒色帯	ＳＣⅢｂ１	第Ⅲスコリア層黒色帯１
ＦＢｂ	富士黒色土層ｂ	ＮＬａ	ニセロームａ	ＳＣⅢ	第Ⅲスコリア層
ＹＬｕ	休場層上層	ＮＬｂ	ニセロームｂ	ＳＣⅢｓ４	第Ⅲスコリア層スコリア４
ＹＬｍ	休場層中層	ＢＢⅡ	第Ⅱ黒色帯	ＢＢⅣ	第Ⅳ黒色帯
ＹＬｌ	休場層下層	ＳＣⅡ	第Ⅱスコリア層	ＳＣ	スコリア層
ＢＢ０	休場層直下黒色帯	ＢＢⅢ	第Ⅲ黒色帯	ＢＢⅤ	第Ⅴ黒色帯

標準石材・産地名

略号	和　名	略号	和　名	略号	和　名	略号	和　名
GAn	ガラス質黒色安山岩	Ch(Gy)	チャート(灰色)	SS	砂岩	Ob	黒曜石
An(Hy)	輝石安山岩(Hy)	An(Py)	輝石安山岩	FAn	細粒安山岩	KRM	霧ヶ峰
Ch	チャート	Tu	凝灰岩	RJa	赤玉石	TTS	蓼科
Da	デイサイト	STu	珪化凝灰岩	Ch(R)	チャート(赤色)	WDT	和田峠
RJa	へき玉（赤褐色）	GT	緑色凝灰岩	PO	ポーセラナイト	KSW	柏峠
Hor	ホルンフェルス	Ba	玄武岩	Sl	粘板岩	HTJ	畑宿
Ag	メノウ	HFT	硬質細粒凝灰岩	Sh	頁岩	KOZ	神津島
AnL	安山岩質溶岩	Ch(B)	チャート(黒色)	Rhy	流紋岩		

土層トーン



目　　次

巻頭写真
序
例　言
凡　例

第Ⅰ章　調査の概要
第1節　調査に至る経緯 …… 1
第2節　遺跡の位置と歴史的環境 …… 1
第3節　現地調査の方法 …… 5
第4節　現地調査の経過 …… 7

第Ⅱ章　遺跡の概要
第1節　基本土層と遺跡の土層堆積状況 …… 8
第2節　各区の土層堆積状況 …… 12

第Ⅲ章　旧石器時代
第1節　遺　構 …… 25
第2節　遺　物 …… 33

第Ⅳ章　縄文時代
第1節　遺　構 …… 45
第2節　土　器 …… 54
第3節　石　器 …… 70

第Ⅴ章　弥生から近代
第1節　弥生から古代 …… 89
第2節　中世から近世 …… 92
第3節　近世から近代 …… 101
Ⅰ　遺　構 …… 101
Ⅱ　遺　物 …… 112

第Ⅵ章　調査の成果と課題 …… 125
附　編
1　松林A遺跡・生沢沢遺跡の基本層序と黒ボク土層の生成環境 …（パリノ・サーヴェイ株式会社）128
2　豆州田方郡玉澤経王山妙法華寺境内絵図について …（栗木　崇）151
出土石器一覧表・蛍光X線分析結果一覧表 …… 159
出土土器一覧表 …… 173
写真図版

挿図目次

第1図　三島市と周辺の火山 …… 1
第2図　東駿河湾環状道路と路線内の遺跡 … 2
第3図　遺跡と周辺の地形 …… 4
第4図　調査区と調査深度 …… 6
第5図　基本土層柱状図 …… 10
第6図　1区土層柱状図 …… 13
第7図　2区・3区土層柱状図 …… 14
第8図　土層堆積状況図(1) …… 15・16
第9図　土層堆積状況図(2) …… 17・18
第10図　土層堆積状況図(3) …… 19・20
第11図　土層堆積状況図(4) …… 21・22
第12図　1区現地形等高線図 …… 23
第13図　1区第7層等高線図 …… 23
第14図　1区YL層等高線図 …… 24
第15図　1区第30層等高線図 …… 24
第16図　黒曜石産地判別図 …… 26
第17図　旧石器時代石器分布図 …… 27
第18図　旧石器器種別分布図 …… 28
第19図　旧石器石材別分布図（黒曜石） …… 29
第20図　旧石器石材別分布図（安山岩） …… 30
第21図　旧石器石材別分布図（その他1） … 31
第22図　旧石器石材別分布図（その他2） … 32
第23図　尖頭器(1) …… 36
第24図　尖頭器(2) …… 37
第25図　ナイフ形石器(1) …… 38
第26図　ナイフ形石器(2) …… 39
第27図　削器・抉入削器・掻器 …… 40
第28図　石刃・剥片（黒曜石） …… 41
第29図　石刃・剥片（その他） …… 42
第30図　縄文時代の遺構全体図 …… 45
第31図　溝状遺構(1)SD－1 …… 48
第32図　溝状遺構(2)SD－2～6 …… 49
第33図　溝状遺構(3)SD－7・8 …… 50
第34図　縄文時代土坑1～7号 …… 52
第35図　竪穴状遺構（SX－1） …… 53
第36図　縄文土器分布図 …… 56
第37図　縄文土器(1)Ⅰ群1・2・3類 …… 57
第38図　縄文土器(2)Ⅰ群3類 …… 58
第39図　縄文土器(3)Ⅱ群・Ⅲ群1・2類 …… 59
第40図　縄文土器(4)Ⅳ群1類 …… 60
第41図　縄文土器(5)Ⅳ群2・3類・Ⅴ群・他 … 61
第42図　縄文時代石器分布図 …… 71
第43図　縄文時代石器分布図（器種別） …… 72
第44図　縄文時代石器分布図（黒曜石） …… 73
第45図　縄文時代石器分布図（安山岩） …… 74
第46図　縄文時代石器分布図（その他） …… 75
第47図　槍先形尖頭器 …… 78
第48図　有舌尖頭器・植刃 …… 79
第49図　石鏃 …… 80
第50図　打製石斧 …… 81
第51図　剥片石器 …… 82
第52図　礫器・加工礫 …… 83
第53図　磨石 …… 84
第54図　磨石・敲石・凹石・石座 …… 85
第55図　石皿 …… 86
第56図　弥生～古代の土器分布図 …… 89
第57図　弥生時代の石器 …… 90
第58図　弥生土器・土師器・須恵器 …… 91
第59図　中世～近代の遺構全体図 …… 92
第60図　中世土坑8～13号 …… 94
第61図　中世の遺物分布図 …… 95
第62図　中世陶磁器 …… 96
第63図　中世土師質土器 …… 97
第64図　道路状遺構ST－1 …… 102
第65図　道路状遺構ST－2検出状況 … 103・104
第66図　道路状遺構ST－2完掘状況 … 105・106
第67図　石積み遺構 …… 108
第68図　畝状遺構 …… 110
第69図　配石遺構 …… 111
第70図　近世～近代の遺物分布図 …… 113
第71図　近世の陶器（瀬戸） …… 114
第72図　近世の陶器（その他） …… 115
第73図　近世～近代の陶器（摺鉢） …… 116
第74図　近世～近代の磁器 …… 117
第75図　中世～近世の砥石・その他 …… 123
第76図　中世～近世の金属製品・銭貨 …… 124

挿表目次

表1　東駿河湾環状道路関係埋蔵文化財包蔵地 … 3
表2　作業工程表 …… 5
表3　旧石器時代の石器組成 …… 25
表4　旧石器時代の石器計測表 …… 43・44
表5　縄文土器観察表
　　（含む土器組成グラフ） …… 62～69
表6　縄文時代の石器組成 …… 70
表7　縄文時代の石器計測表 …… 87・88
表8　弥生時代の石器計測表 …… 90
表9　弥生～古代の土器観察表 …… 90
表10　中世の土器組成グラフ（破片数比） … 93
表11　中世の土器組成グラフ（重量比） …… 93
表12　中世の土器観察表 …… 98～100
表13　近世の土器組成（破片数比） …… 112
表14　近世の土器組成（重量比） …… 112
表15　近世～近代の土器観察表 …… 118～122
表16　中世～近世の石製品計測表 …… 122
表17　金属製品計測表 …… 124
表18　出土石器一覧表 …… 159～168
表19　蛍光X線分析結果一覧表 …… 169～172
表20　出土土器一覧表 …… 173～184

写真図版目次

巻頭カラー　桧林A遺跡遠景（南西から）
図版1　調査区近景（1区－2、三島・沼津市街地）
　　調査区近景（1区－1・2、3区）
図版2　土層堆積状況（1区－1、D－8（イ）TP西壁）
　　土層堆積状況（1区－1、E－9（ア）TP北壁）
　　土層堆積状況（2区－1、第1トレンチ中部ローム層）
図版3　作業風景（1区－1）
　　YL層石器検出状況（1区－1・E－10、東から）
図版4　溝状遺構（SD－1）完掘状況（1区－1・C－10、東から）
　　溝状遺構（SD－7・8）完掘状況（北から）
図版5　溝状遺構（SD－7）土層堆積状況（第3トレンチ北壁）
　　4号土坑半裁状況（東から）
図版6　竪穴状遺構（SX－1）遺物検出状況（東から）
　　縄文土器検出状況（第6トレンチ・S－5、堀ノ内式）
図版7　中世土坑完掘状況（西から）
　　現「竹倉街道」（調査区東側残存部分）
図版8　道路状遺構1（ST－1）検出状況（西から）
　　道路状遺構1（ST－1）土層堆積状況
図版9　道路状遺構2（ST－2）遺物検出状況（北から）
　　道路状遺構2（ST－2）（北から）
図版10　石積み遺構・畝状遺構検出状況（北から）
　　調査区近景（1区－2、第5トレンチより東半面）
図版11　豆州田方郡玉沢経王山妙法華寺境内絵図

図版12　旧石器時代尖頭器
図版13　ナイフ形石器(1)
図版14　ナイフ形石器(2)
図版15　削器・抉入削器・掻器・石刃・剥片
図版16　石刃・剥片
図版17　縄文土器第Ⅰ群１・２・３類
縄文土器第Ⅰ群３類
図版18　縄文土器第Ⅱ群、第Ⅲ群１・２類
縄文土器第Ⅳ群１・２・３類、第Ⅴ群
図版19　堀ノ内式土器
縄文土器（大粒輝石含有）
図版20　縄文時代石器集合（礫器・加工礫・磨石）
図版21　縄文時代石器集合（石皿・石座・敲石・凹石）
図版22　縄文時代尖頭器
図版23　有舌尖頭器・植刃
図版24　石　鏃
図版25　縄文時代石器集合（打製石斧・削器・楔形石器・剥片・石鏃未製品）
図版26　土師器（甕）・弥生時代石器
土師器・須恵器
図版27　貿易陶磁・古瀬戸・大窯
かわらけ
土師質土器
瓦質土器
図版28　渥美・常滑系・その他
山茶碗・古瀬戸、大窯摺鉢
図版29　近世瀬戸
近世瀬戸摺鉢
図版30　近世美濃
肥前系・志戸呂・その他
図版31　近世・近代の磁器
砥石・金属製品・銭貨

附編図版目次

〈附編１〉桧林Ａ遺跡・生茨沢遺跡の基本層序と黒ボク土層の生成環境

第１図　桧林Ａ遺跡・生茨沢遺跡位置図 …… 128
第２図　桧林Ａ遺跡第２地点の柱状図および重鉱物組成表 …… 131
第３図　桧林Ａ遺跡資料採集地点および土層図 …… 132
第４図　桧林Ａ遺跡第１地点の柱状図および土壌特性 …… 138
第５図　生茨沢遺跡の柱状図および土壌特性 …… 139
第６図　桧林Ａ遺跡第１地点の植物珪酸体組成 …… 141
第７図　生茨沢遺跡の植物珪酸体組成 …… 141

表１　鉱物分析結果 …… 131
表２　桧林Ａ遺跡第１地点の土壌理化学分析結果 …… 138
表３　生茨沢遺跡の土壌理化学分析結果 …… 139
表４　植物珪酸体分析結果 …… 140

写真図版１　鉱物 …… 149
写真図版２　植物珪酸体 …… 150

〈附編２〉豆州田方郡玉澤経王山妙法華寺境内絵図について

第１図　境内絵図トレースその１ …… 153
第２図　境内絵図トレースその２ …… 154
第３図　寸法・料紙 …… 155
第４図　現地比定図 …… 157

表１　境内絵図文字注記 …… 155

第Ⅰ章　調査の概要

第１節　調査に至る経緯

静岡県と神奈川県の県境に位置する箱根山系の西麓は、愛鷹南麓と共に、近年の考古学的発掘調査の実施により、めざましい成果をあげている地域である。特に旧石器・縄文時代の遺跡が数多く存在する事が以前より知られ、今後さらなる進展が予想される。そのような遺跡が拡がる静岡県東部地域に、昭和62年、沼津・三島の両市街地を迂回するバイパスとなる東駿河湾環状道路の建設が企画された。（第２図参照）それをうけ、当研究所による事前調査が始まったのは、平成３年からである。

桧林Ａ遺跡は、三島市教育委員会が市内の東駿河湾環状道路予定路線内に確認した埋蔵文化財含蔵地の遺跡番号ではNo.21地点に登録されている。（表１参照）現地は、三島市街地から東南方向に約５㎞、箱根山系から西側の三島市街地に向って、いくつも張り出した尾根筋のひとつに立地する。近辺には南側に向山・夏梅木両古墳群、北側には旧石器～縄文時代の遺跡である初音ケ原遺跡・下原遺跡と続いており、桧林Ａ遺跡も縄文時代～旧石器時代に至る含蔵地として登録されていた。

平成８年３月、静岡県教育委員会文化課、当研究所の２者による現地踏査が行われ、確認調査の必要を協議の上決定し、平成８年４月より確認調査を行い、引き続き本調査を行った。当初、東駿河湾環状道路本線部分のみを約半年間の現地調査の予定だったが、年度途中にインターチェンジ部分について二度にわたる調査区の拡張があり調査対象面積は２倍に膨らんだ。また、周辺に点在するNo.19～25地点の確認調査の拠点事務所としても機能したため、現地調査は平成９年９月までの１年半に渡った。

第２節　遺跡の位置と歴史的環境

桧林Ａ遺跡は三島市街地を望む箱根山西麓の丘陵上に位置し、晴れた日には三島・沼津の両市街地はもとより、遠く駿河湾から静岡方面までをも一望にできる、日当たりも良く、見晴らしの良い場所である。このような箱根山西麓の丘陵部は、静岡県内では県西部の磐田原台地、県東部の愛鷹山東南麓と共に、旧石器時代から縄文時代に至る遺跡が数多く存在する地域である。それらの遺跡は、近年の大規模なゴルフ場開発や宅地造成などの開発、さらに東駿河湾環状道路建設に伴う発掘調査によって、さまざまな資料が次第に整いつつある。

特に八田原遺跡・加茂ノ洞Ｂ遺跡・下原遺跡・初音ケ原遺跡と続く、第Ⅱ～第Ⅲ黒色帯よりまとまって検出した土坑は、この地域の旧石器時代の注目される遺構である。さらに近年、より下層からの石器の検出例も増えつつある。

第１図　三島市と周辺の火山

箱根から伊豆半島天城山にかけての地域は、黒耀石の産地であり、桧林Ａ遺跡で検出された石器についても最も多く使われる石材である。近年その産地については蛍光Ｘ線によるデータの蓄積により、伊豆諸島の神津島から中部高地産の物まで、非常に広域に渡ることが明らかになってきた。また、それら石器・石材の器種構成や時期的な変遷も、資料の増加によって次第に明らかになりつつある。

このような地域にある桧林Ａ遺跡の立地する尾根筋は、北東から南西方向に張り出した細長い台地を

第２図　東駿河湾環状道路と路線内の遺跡

形成しており、北から南に向って緩やかに下る地形である。調査前の状況は、尾根中央の平坦部が香花を中心とした畑地で、北側・西側は桧を中心とした山林、東側の谷部は牧草地であった。最も高い調査区北東側が標高95m、南西側が標高80m、南北方向に200mの長さを持つ。東西方向に180mの幅を持ち、尾根の東側・西側ともに浅い谷を形成する。東側は標高70m、西側は標高65mで西側はそのまま竹倉の集落へ、さらに田方平野と開けている。こうした平野部に張り出した小高い丘陵部には、周辺で多くの古墳が確認されており、本遺跡においても、明確な遺構は確認されなかったが、当該時期の遺物を少量であるが検出している。

近世になると、本遺跡内は、東へ約2km程の玉澤に所在する日蓮宗の古刹「経平山妙法華寺」の寺領となった。「妙法華寺」は、弘安7年（1284年）鎌倉に創立の後、紆余曲折を経て、江戸の初め、元和7年（1621年）現在地に移転した。（付編2参照）徳川家および太田家の資援を受け、広大な寺域を持ったと言われる。調査区内には西方の竹倉の集落から妙法華寺に至る古道が調査前までその痕跡をのこしており、地元の方々は「竹倉街道」と呼称していた。戦前までは馬力道などとして使われていたとの事であるが、調査前は深い草木に覆われて、道としての務めを終えていた。

また、調査区東西にある谷部分は、小字名を「古田（こでん）」と言い、やはり、戦前までは「妙法華寺」の地所であった所で、古くから開墾された場所であったとの事である。1区－2西側で検出した道路状遺構や石積み遺構、配石遺構などは、これらに関連した遺構と思われる。

表1　東駿河湾環状道路関係埋蔵文化財包蔵地

番号	各市町村整理番号	遺跡名	備考	番号	各市町村整理番号	遺跡名	備考
1	沼津市4	上松沢平	調査予定	22	三島市10	八田原	H7本調査 旧石器～縄文、中近世
2	沼津市3	虎杖原1号墳	調査予定				
3	沼津市2		調査予定	23	三島市11	加茂ノ洞B	H6本調査 旧石器～縄文
4	沼津市1	丸尾北	調査予定				
5	長泉町14	柏原B	調査予定	24	三島市12	遺跡なし	
6	長泉町54	桜畑上	調査予定	25	三島市13		市道につき調査対象外
7	長泉町53	山岸A	H9確認調査 遺跡なし	26	三島市14	五百司	H5確認調査　集石
				27	三島市15	焼場	H4・6本調査 旧石器～縄文・中近世
8	長泉町42	木戸	H9確認調査 遺跡なし	28	三島市16	下原	H5・9本調査
				29	三島市17		旧石器～縄文
9	長泉町37	池出B	調査予定	30	三島市18	押出シ	H8・9本調査 縄文中期集落
10	長泉町38	鉄平	調査予定				
11	長泉町48	大平	H7・8本調査 中近世	31	三島市19	生実沢	H8確認調査 旧石器～縄文・古墳
12	三島市0		調査予定				
13	三島市1	桜B	調査予定	32	三島市20	中峯	H9本調査 旧石器～縄文
14	三島市2	北ノ入A	調査予定				
15	三島市3	長平衛平	H9本調査 旧石器～縄文	33	三島市21	神林A	H8・9本調査 旧石器～縄文
16	三島市4	小池	H9本調査 旧石器～縄文	34	三島市22		調査予定
				35	三島市23		H9確認調査
17	三島市5			36	三島市24	ヌタウチド山	H9確認調査
18	三島市6	徳倉B	H8本調査 旧石器～縄文	37	三島市25		H9確認調査
				38	三島市26	田頭山	調査予定
19	三島市7	上ノ池	H7・8本調査 旧石器～縄文	39	三島市27	大明神洞	調査予定
				40	三島市28	長命洞B	調査予定
20	三島市8	遺跡なし		41	三島市29	大場向山	調査予定
21	三島市9			42	三島市30		調査予定

第３図　遺跡と周辺の地形

第３節　現地調査の方法

遺跡全体を把握するために、国家座標（Ｘ・Ｙ）＝(-98,060.00・+41,200.00）上を原点Ａ１とし、Ｘ方向に数字を、Ｙ方向にアルファベットを附し、遺跡全体に10mの方眼を単位としてグリッドを設定した。また、Ａ１を原点に、南北方向にＸ軸を、東西方向にＹ軸をとり、標高をＨ軸として３次元の座標を遺物・遺構の位置を示すために用いた。本文中・巻末に掲載している遺物出土一覧表の座標はすべてこれを用いている。

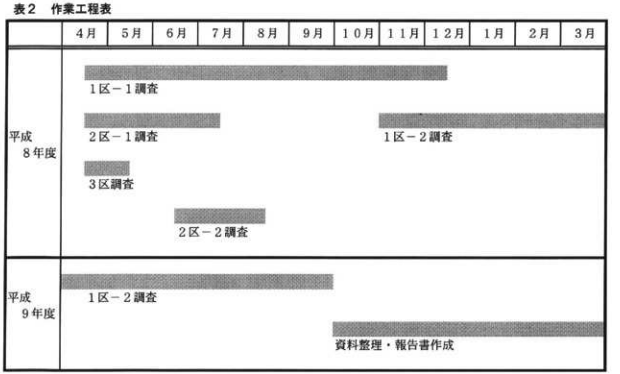
現地調査開始時、調査区内を走る三島市道によって調査区を１・２・３区に分けたが、１区・２区については、前述のように平成８年度途中に調査区の拡張があったため、その後１区－１・１区－２、２区－１・２区－２、３区と区割りをした。また、１区－２については、当初設定のＡ１よりも西側に拡張してしまったため、Ａ１よりも西側の調査区についてはＹ方向を西から東へ、ＯからＴまでのアルファベットを附している。（第４図参照）

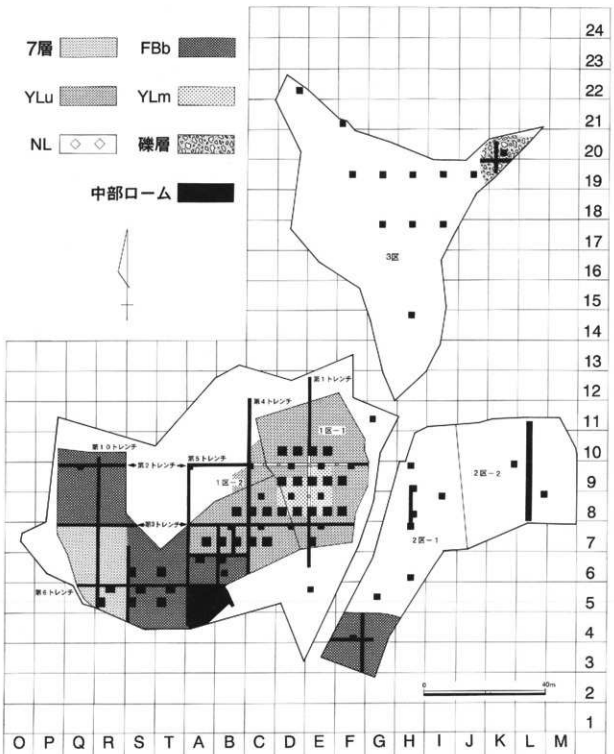
平成８年４月から行った確認調査は、調査区が東駿河湾環状道路に沿って南北に細長い調査区であったため、まず、道路のセンターラインに沿ってテストピットを開ける事から始めた。

その結果、１区－１については、休場層中層までを精査、以下テストピットで第Ⅲスコリア層までを掘削した。１区－２については、中部ローム層のみの堆積であった丘陵部はトレンチ調査によって土層確認をしたのみだが、谷部については、中世～縄文層の精査、以下をトレンチ・テストピットによる調査とした。２区－１・２区－２、３区も、ほとんどが表土の下は中部ローム層の堆積であったが、一部遺物の検出した区域について、それぞれ平面的に精査をかけた。（第４図参照）

遺物の取り上げは、トータルステーションを用いて行った。遺物には土器＝Ｐ、石器＝Ｓ、礫＝Ｒの略号と通し番号を付し、Ｘ・Ｙの座標と標高（Ｈ）の記録とともに、コンピューターに保管した。また、礫群の取り上げや遺構・セクションについては原則的に1/20の図面によって記録している。

表２　作業工程表





(A1) = (X・Y) = (-98,060.00・41,000.00)

第４図　調査区と調査深度

第４節　現地調査の経過

１区－１（1,427㎡）　平成８年４月18日～12月11日

調査区中央テストピットより、富士黒色土層・休場層までの良好な堆積を確認した。さらに、トレンチにより、調査区の土層堆積状況を確認したところ、調査区中央に向って南北両方向、および東方向から落ち込む地形であることが確認された。調査区縁辺部では表土の下部よりすぐ中部ローム層が見られるのに対し、中央部では表土から休場層が約４ｍと深く堆積していた。遺物包含層の主体が富士黒色土層及び休場層上層である事から、トレンチ調査が終了したところで表土層（１～４層）を重機により除去した後、第７層富士黒色土ａ（ＦＢａ）相当より休場層中層までをジョレンにより精査をかけ、休場層下層以下は10月よりテストピット調査に切り換えた。下原遺跡などで旧石器時代の落し穴と思われる土坑の確認された第Ⅲスコリア層まで削平を目指したが、一部をのぞいて休場層下層以下の堆積は非常に乱れており、遺物・遺構も確認出来ず、調査を終了した。

１区－２（5,902㎡）　平成８年11月１日～平成９年９月30日

平成８年10月買収が終了し、11月より確認調査を行った。調査は、まず露蓋と茂った山林の伐採を行った後、テストピット・トレンチ調査を開始した。丘陵部と谷部にそれぞれ２×２ｍのテストピットを数カ所入れた。丘陵部では、一部休場層が残っていたものの、大半は崩落により乱れていた。よって、土層確認のためのトレンチを入れるのみで、調査を終了した。谷部については、富士黒色土層相当～休場層を確認したため、１区－１に続く部分から全面調査にかかったが、抜根作業に手間取り、平面調査が動き出したのは平成９年３月になってからであった。

２区－１（1,603㎡）　平成８年４月18日～７月26日

東駿河湾環状道路センターラインに沿ってテストピットを開けたところ、表土より下層はさまざまなロームが堆積していた。今後、東駿河湾環状道路関連の調査がより南に向けて展開する事を考え、ローム層確認のため、重機により深いトレンチを切り、土壌分析を行った。ただし、２区－１南側については、斜面地ながら富士黒色土層ｂ相当の堆積と遺物が確認されたため、全面的に精査をかけた。

２区－２（1,520㎡）　平成８年６月12日～８月27日

５月末、協議にて買収が確認され、６月よりテストピット調査に引き続き、谷を縦断する形でトレンチ調査を行った。いくつかの遺物が確認されたが、いずれも縄文～近世までが渾然となって検出されたため、尾根部よりの流れ込み、耕作等に伴う撹乱を受けていると判断した。

３区（4,025㎡）　平成８年４月18日～６月23日

全面に拡がった樹木等の伐採がすんだところで、尾根平坦部を中心にテストピット調査を行った。２区－１程多種に渡らないが、表土より下層は中部ローム層の堆積であった。ただし、北側頂上部の礫層の拡がり部から土師器片が検出したため、付近の拡張調査を行った。

第Ⅱ章　遺跡の概要

第１節　基本土層と遺跡の土層堆積状況

桧林Ａ遺跡の立地する箱根西麓は、古期富士火山を主な供給源とするローム層が厚く堆積する地域である。この中で、考古遺物を包含する上部ローム層は、富士火山起源のテフラが主体となっている。

桧林Ａ遺跡は、箱根山から延びる尾根上に位置するが、２区－１・３区の尾根上では、表土直下が中部ローム層であり、上部ローム層は確認されなかった。元来は現在の地形より、より急峻な尾根と谷を形成していたと考えられる。ただ、同じ尾根上に位置する１区－１は、富士黒色土層から休場層下部までが、３ｍと非常に厚く堆積していた。元来は摺鉢状の地形で、この部分にだけそれらの土層が残ったものと思われる。（第５図・８図・15図参照）

第７層富士黒色土（ＦＢａ相当）から休場層上層にかけて検出した石器群は、当時１区－１から西側に延びる緩い斜面地である１区－２、さらに田方平野・駿河湾と展望の開けた谷頭部であったと考えられる１区－１西側の平坦な部分に集中していた。（第17図・42図参照）

１区－１東側の谷である２区－２では、再堆積と思われる層が厚く確認されたが、西側の谷にあたる１区－２では、斜面地は基本的に第７層黒色土より下層は崩落地形であり、一部には、中部ローム層の上に第７層黒色土・栗色土層・中世の包含層と考えられる黒色土も堆積していたが、基本的に第７層黒色土については上からの流れこみの可能性が高いと思われる。（第６図）

第１層　表　　土（現耕作土）
第２層　　（客　　土）
第３層　　（旧耕作土１）
第４層　　（旧耕作土２）

第５層　黒色土層　小砂利を含む粒の粗い層、調査区西側（１区－２）の谷部分にのみ堆積していた。

第６層　栗色土層（ＫＵ）　黄褐色のパミス質土。第５層同様、谷部分に堆積していた。

第７層　黒色土層（富士黒色土層ａ・ＦＢａ相当）　やや褐色を帯びる黒色土で、カワゴ平パミスと思われるφ１～２㎜の白色パミスを含む。通常箱根西麓に見られる富士黒色土層ａに比べて粘性に富み良く締まっていることからＦＢａ相当とした。

第８層　富士黒色土層ｂ（ＦＢｂ）　暗褐色土でφ１～２㎜の褐色スコリアを含む。下半部は休場層に由来するロームブロックを含み漸移的に第９層休場層に変化する。

第９層　休場層上層１（ＹＬｕ１）　明黄褐色ローム層で、締まりはやや弱いが粘性があり、パウダー状を呈する。小粒の赤色スコリアを含むが、含有量は少ない。６層に分けた休場層の中で最も黄色の発色が鮮やかである。

第10層　休場層上層２（ＹＬｕ２）　第９層同様、明黄褐色のパウダー状のローム層である。１区－１中央部に厚く堆積していたため、スコリアの含有量で２枚に分けた。第９層に比べて、スコリアの含有量がやや多い。

第11層　休場層中層１（ＹＬｍ１）　黄褐色のローム層で、φ１～３㎜の赤褐色および黒褐色スコリアを少量含む。休場層上層に比べてやや締まった感触がある。

第12層　休場層中層２（ＹＬｍ２）　第11層に比べ、粘性に富む。

第13層　休場層下層1（ＹＬⅠ1）　黄褐色のローム層であるが、休場層中層に比べやや暗い色調である。粘性、締まり共に富み、かなり硬質である。

第14層　休場層下層2（ＹＬⅠ2）　第11・12・13層同様赤褐色および黒褐色のスコリアを含むが、含有量が多く、他にφ1～2㎜の白色パミスを含むのが特徴である。第13層に比べるとやや締まりに欠ける。

第15層　休場層直下黒色帯（ＢＢ0）　暗赤褐色スコリア質土。黒色粒子が多く箱根西麓の同じ層に比べ黒色の度合いが強い。第14層同様白色パミスを全体に含む。

第16層　第Ⅰスコリア帯（ＳＣⅠ）　赤褐色のスコリア層である。

第17層　第Ⅰ黒色帯（ＢＢⅠ）　硬質の黒褐色のスコリア質層である。φ1～5㎜の赤褐色および黒褐色のスコリアを大量に含み、少量だが炭化物も含む。粘性はさほどでもないが締まりは強い。

第18層　ニセロームａ（ＮＬａ）　明黄褐色のスコリア層で、非常に固い。

第19層　ニセロームｂ（ＮＬｂ）　第18層に比べスコリアの含有量が少ない。姶良・丹沢広域火山灰（ＡＴ）を、上部に1～5㎝のパッチ状に観察できる。

第20層　第Ⅱ黒色帯（ＢＢⅡ）　にぶい黒褐色で、黒色および明るい褐色のスコリアを多く含む。粘性・締まり共に富む。

第21層　第Ⅱスコリア層（ＳＣⅡ）　暗赤褐色のスコリア層。部分的に層をなす所もあるが、多くは第20層との境界は不明瞭で、スコリアの含有量がやや多い点から区分できる程度である。

第22層　第Ⅲ黒色帯（ＢＢⅢ）　暗黒褐色のスコリア質土で第20層に似るが、色調がより暗い。

第23層　第Ⅲスコリア層スコリア1（ＳＣⅢｓ1）　褐色のスコリア層で、明赤褐色のスコリア、黒色細気孔スコリアを含む硬質な層である。

第24層　第Ⅲスコリア層黒色帯（ＳＣⅢｂ1）　黒褐色のスコリア質土で、黒色の度合いが強く、粘性に富む。

第25層　第Ⅲスコリア層（ＳＣⅢ）　明赤褐色のスコリア質土で、黒色スコリアに特色のある硬質な層である。

第26層　第Ⅲスコリア層スコリア4（ＳＣⅢｓ4）　非常に硬質なスコリア層。黄色を主体に、黒色赤色・明褐色等の発泡スコリアの集積層である。

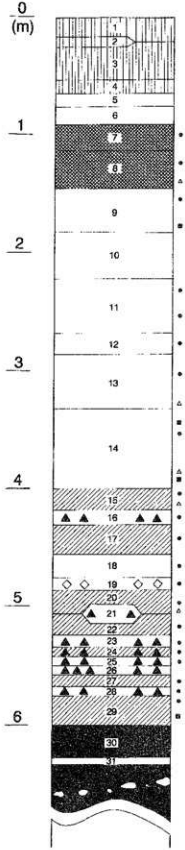
第27層　第Ⅳ黒色帯（ＢＢⅣ）　黒色微細気孔スコリアを含む黒色の粘性の強い層である。

第28層　スコリア層（ＳＣ）　にぶい赤褐色のスコリア、黒色スコリアを含むスコリア層である。

第29層　第Ⅴ黒色帯（ＢＢⅤ）　粘性に富む黒色帯。層中に含まれていた箱根系白色岩片から第Ⅴ黒色帯と判断した。

第30層　茶褐色粘性ローム　非常に粘性に富む緊密な層。調査区のどの部分に於いても確認された層である。上層が崩落や流失、削平を受けているため、明確ではないが中部ローム層の、三島パミスを挟んで前後する層か、下部ローム層のオレンジパミスを挟んで前後する層かと思われる。

第31層　オレンジパミス　第30層の中に2枚が確認された。このうちの上層については、重鉱物組成から、三島パミスに対比される可能性がある。



	< 層 名 >		<色 調>	<テフラ番号>
1	表土（現耕作土）			
2	客土			
3	旧耕作土1			
4	旧耕作土2			
5	黒色土層		5YR2/1	
6	褐色土層	(KU)	10YR4/6	
7	黒色土層	(FBa相当)	5YR2/1	• Y-141-3
8	富士黒色土層	(FBb)	10YR3/3	• Y-141-2
9	休場層上層	(YLu1)	10YR6/8	• Y-141-1
10	休場層上層	(YLu2)	10YR6/8	
11	休場層中層	(YLm1)	10YR6/6	• Y-140 • Y-139
12	休場層中層	(YLm2)	10YR6/6	• Y-138
13	休場層下層	(YLl1)	10YR5/6	• Y-132
14	休場層下層	(YLl2)	10YR5/6	• Y-131～127
15	休場層直下黒色帯	(BB0)	10YR4/2	• Y-126'
16	第Ⅰスコリア層	(SCⅠ)	10YR7/6	• Y-123
17	第Ⅰ黒色帯	(BBⅠ)	7.5YR4/2	• Y-122
18	ニセロームa	(NLa)	10YR7/8	• Y-121
19	ニセロームb	(NLb)	10YR6/6	• Y-116, • Y-118
20	第Ⅱ黒色帯	(BBⅡ)	7.5YR4/2	• Y-115
21	第Ⅱスコリア層	(SCⅡ)	7.5YR5/6	
22	第Ⅲ黒色帯	(BBⅢ)	7.5YR3/1	• Y-114
23	第Ⅲスコリア層スコリア1	(SCⅢs1)	7.5YR5/6	• Y-113
24	第Ⅲスコリア層黒色帯	(SCⅢb1)	7.5YR3/1	• Y-112
25	第Ⅲスコリア層	(SCⅢ)	10YR4/4	• Y-111
26	第Ⅲスコリア層スコリア4	(SCⅢs4)	2.5YR5/6	
27	第Ⅳ黒色帯	(BBⅣ)	7.5YR4/2	• Y-110
28	スコリア層	(SC)	10YR4/4	• Y-109
29	第Ⅴ黒色帯	(BBⅤ)	7.5YR3/2	• Y-108, Y-108'
30	茶褐色粘性ローム		10YR3/3	
31	オレンジパミス		5YR6/8	

第５図　基本土層柱状図

（土層中の特徴的な含有物、備考および問題点）

層番号	記号	備　　考
8	△	橙褐色スコリア（色調7,5ＹＲ6/8）
9	■	熱水変質岩片（Ｙ 141-2に対応か？）
13	●	相模野Ｂ１に対応
	△	黒～黄褐色スコリア礫
14	●	相模野Ｌ２に対応
	■	黒色岩片＝古富士泥流に対応（色調7,5Ｇ Y6/1） （この時期噴火の箱根系白色岩片　ＣＣＰ17と対応）
	△	赤色～レンガ色スコリア礫（色調7,5Ｇ Y5/1）
	■	黒色岩片＝古富士泥流に対応（色調　10Ｒ4/6） （ＳＣＩに対応するこの時期噴火の箱根系白色岩片　ＣＣＰ16と対応）
15	●	相模野Ｂ２に対応（15層上部ＵＰ、15層下部Ｕ nder）
	△	ＣＣＰ15～15′（Ｙ-125～126′）＝ＣＣＰ16～17同様、検出時は風化して白色化した軽石礫。火砕流の可能性もある。
16	●	Ｙ-122は通常ＢＢ０下部に見られる。また、Ｙ-122～Ｙ-126は非常に硬質である。
		※桧林Ａ遺跡13～16層については、現地における調査員の肉眼による分層とは対応しないという問題点がある。現地において分析を行った地点は、調査区の中でも休場層が特に厚い箇所であり、本遺跡だけの問題か否か今後の課題と思われる。
18	●	相模野第１スコリアに対応
19	◇	Ｙ-118（ＡＴ＝姶良・丹沢広域火山灰）（色調　５Ｙ8/4）
20	△	灰白色スコリア（色調　2,5Ｙ8/1）
22	●	相模野Ｂ３に対応
23	●	相模野Ｂ４に対応
28	●	※安定した所でなければＹ-109は堆積できないため、Ｙ-108′の上層で桧林Ａ遺跡１区－１西側の谷地形が安定したと考えられる。
29	■	ＣＣＰ12＝箱根系赤色軽石
		※29層下部は部分的にＢＢⅦ、さらに下部はベアスコリアに対応する可能性もある。
31		※現地では確認出来なかったが、上層から考え、Ｙ-99 Topに見られるＣＣＰ８（黄色軽石）の可能性も考えられる。

なお、第５図のテフラ番号、あるいは火山性噴出物に関する記載は、都留文科大学教授、上杉　陽氏の肉眼観察での現地指導の結果をもとに、調査担当者が作成した。

第２節　各区の土層堆積状況

第１節で述べたように、本遺跡の土層堆積状況は同じ調査区の中でも非常に変化が激しい。この２区－１、２区－２および３区は、基本的には中部ローム層の堆積しか見られない。（第７図）

３区については、頂上部および南側は第30層茶褐色粘性ローム層の段階で水平堆積の状況が見られるが、南西側斜面は、第30層の上層から南西に向かって崩落する様子が窺える。（第７図）

２区－１および２区－２西側の尾根部は第30層より上層が流出してしまっており、２区－２谷部は、第30層の上に元来尾根部にあったと思われる土層を厚く堆積している状況が見られる。この、谷部に厚く堆積した土層からは、黒曜石の石鏃や近代の陶磁器類などが混然となった状態で検出された。この遺物を包含する土層は、北から南に向かって次第に厚く堆積し、２区－２南端部では表土下1.2mの厚さを測った。（第７図）

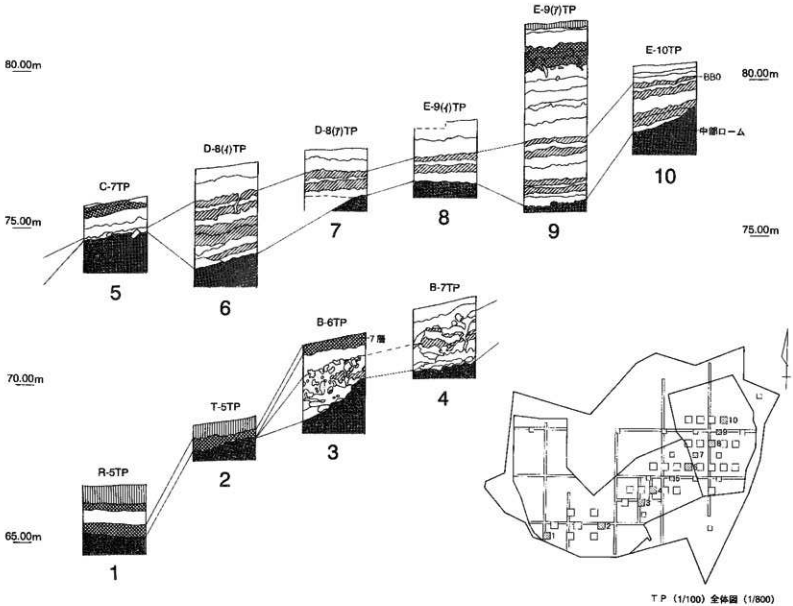
２区－１南側は一部富士黒色土黒色土層ｂ相当の堆積・遺物が見られたため全面調査を行なった。縄文時代早期の土器を中心に遺物の検出を見たが、他に近世～近代の陶磁器を同一の層から検出したことや、西側の谷に下る急斜面といった地形から、流れこみ堆積と思われる。

１区－１および１区－２については、第１節の基本土層に見られるすべての土層を確認したが、その分布状況および堆積状況は、場所によってさまざまである。なお、柱状図中、表土のないところは重機による表土剥ぎを行ったため、削除されている。

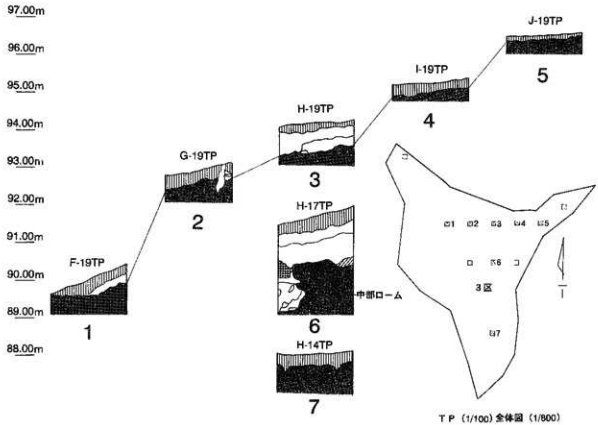
このうち縄文時代の包含層で、遺物の検出状況から富士黒色土（ＦＢａ相当）と考えられる第７層黒色土は、１区－１中央部で緩やかに堆積した後、１区－１西側から１区－２に向かって斜面堆積し、１区－２西側で再び緩やかに堆積する状況が窺える。特に、ＡおよびＢ－６・７グリッド付近では激しく乱れる堆積状況が見られる。（第６図）また第４トレンチの堆積からは、１区－２東側の斜面については、東西方向だけでなく南北方向にも斜面堆積であることが窺える。（第８図）

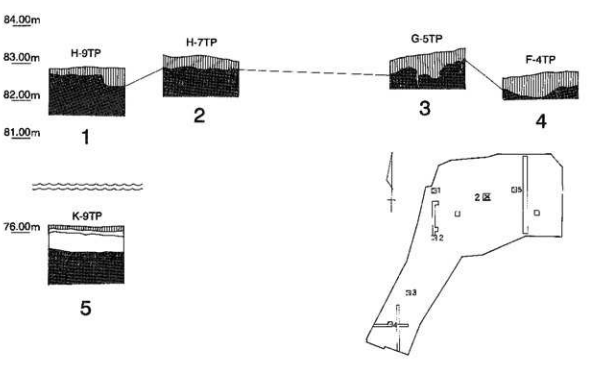
同じく縄文時代の包含層である第８層富士黒色土ｂ層については、第７層が斜面堆積に移ろうとする第４トレンチ付近より西側での検出は見られなかった。

休場層より下層の土層についても、第８層と同様の分布状況が見られる。その堆積は１区－１のＤ－８およびＥ－９グリッドで特に厚く堆積する。（第６図）このような堆積状況を見るため、１区－１および１区－２に広く分布した第30層上層での等高線から原地形を復原してみると、Ｄ－８およびＥ－９グリッド付近で西側から入江状に深く入り込み、さらに摺鉢状に落ちこむ地形であったことがわかる。（第15図）桧林Ａ遺跡における複雑な土層堆積や、遺物に見られる水平および垂直移動はこのような原地形の複雑な状況に起因すると思われる。

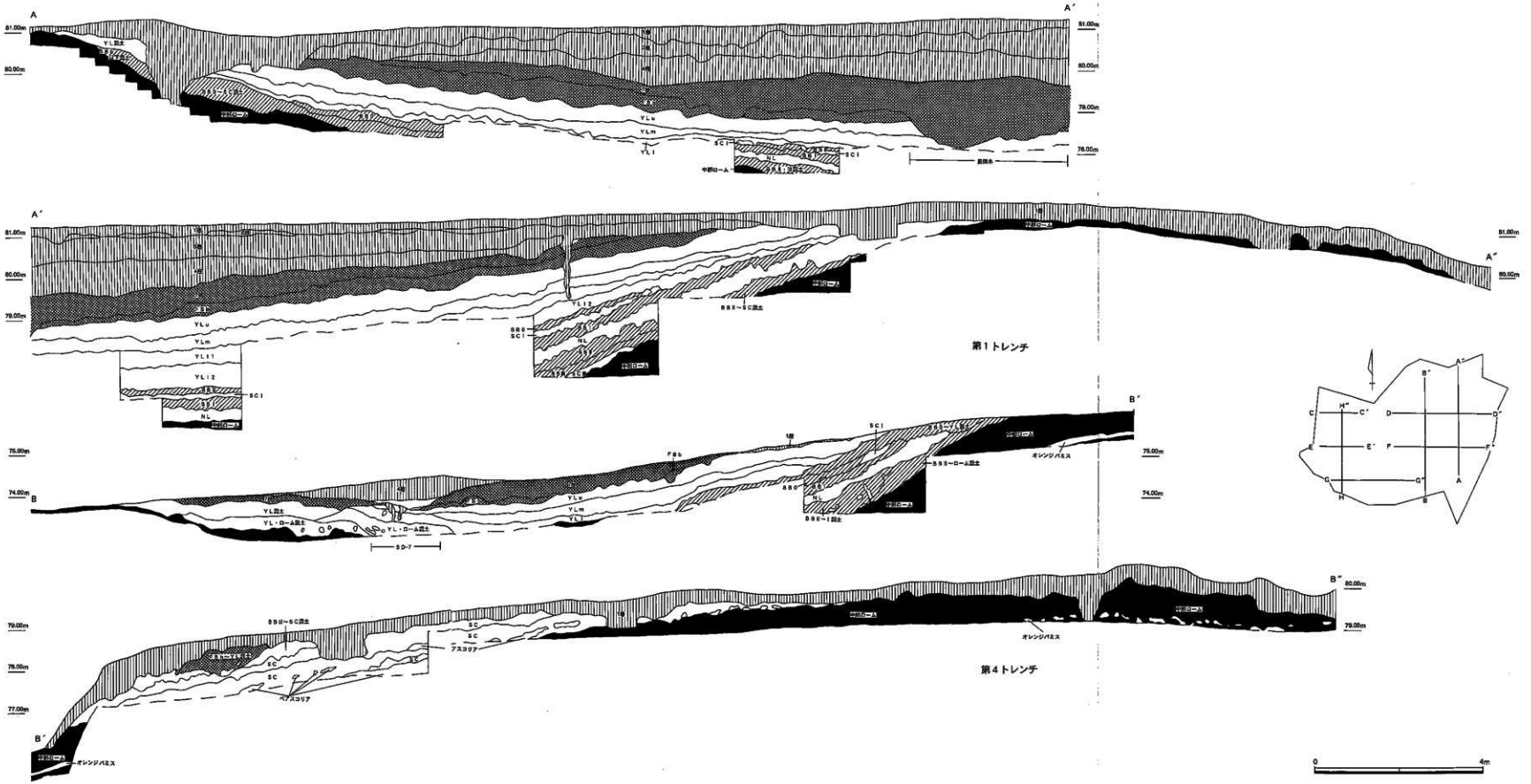


第69図 1区土層柱状図

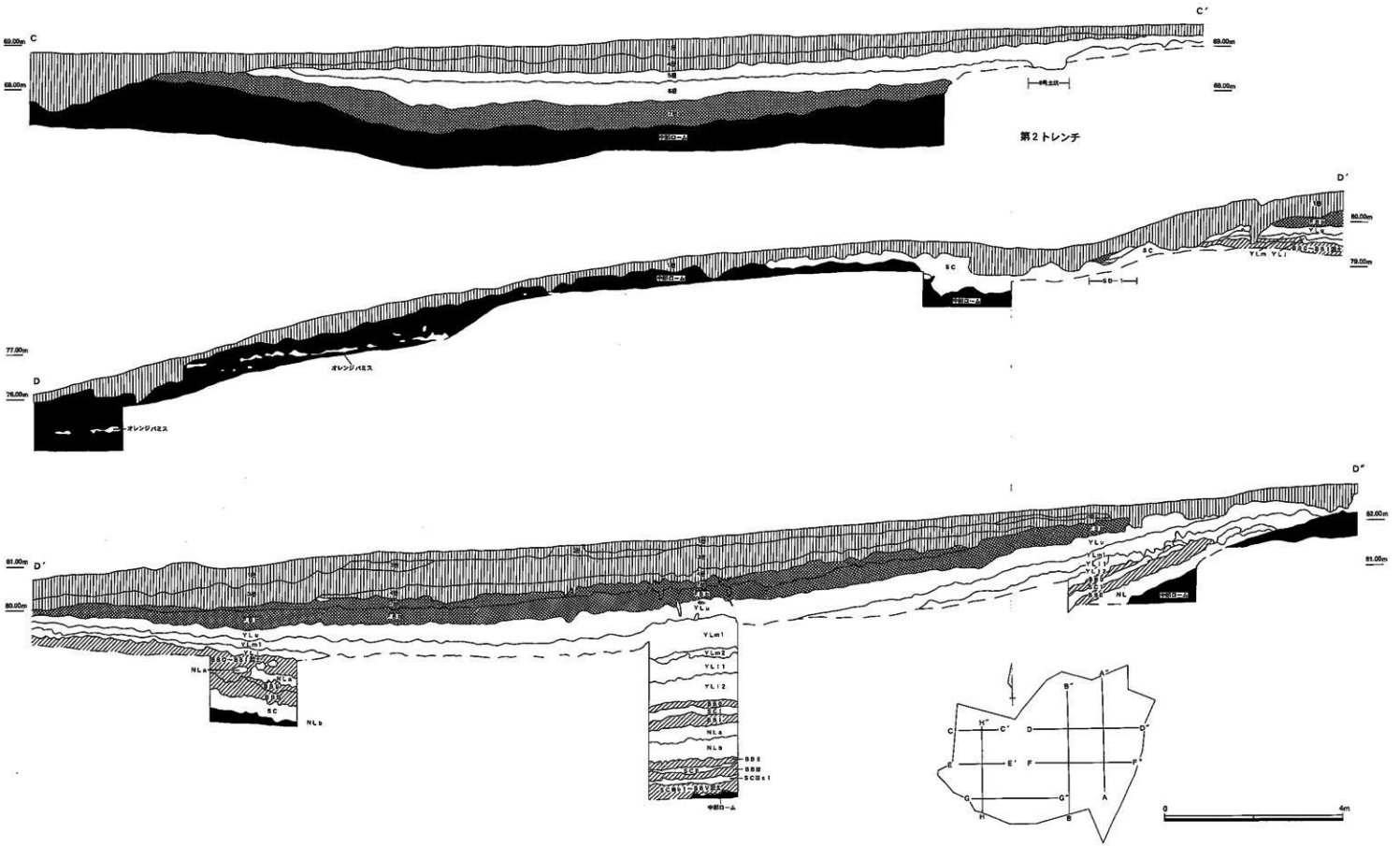




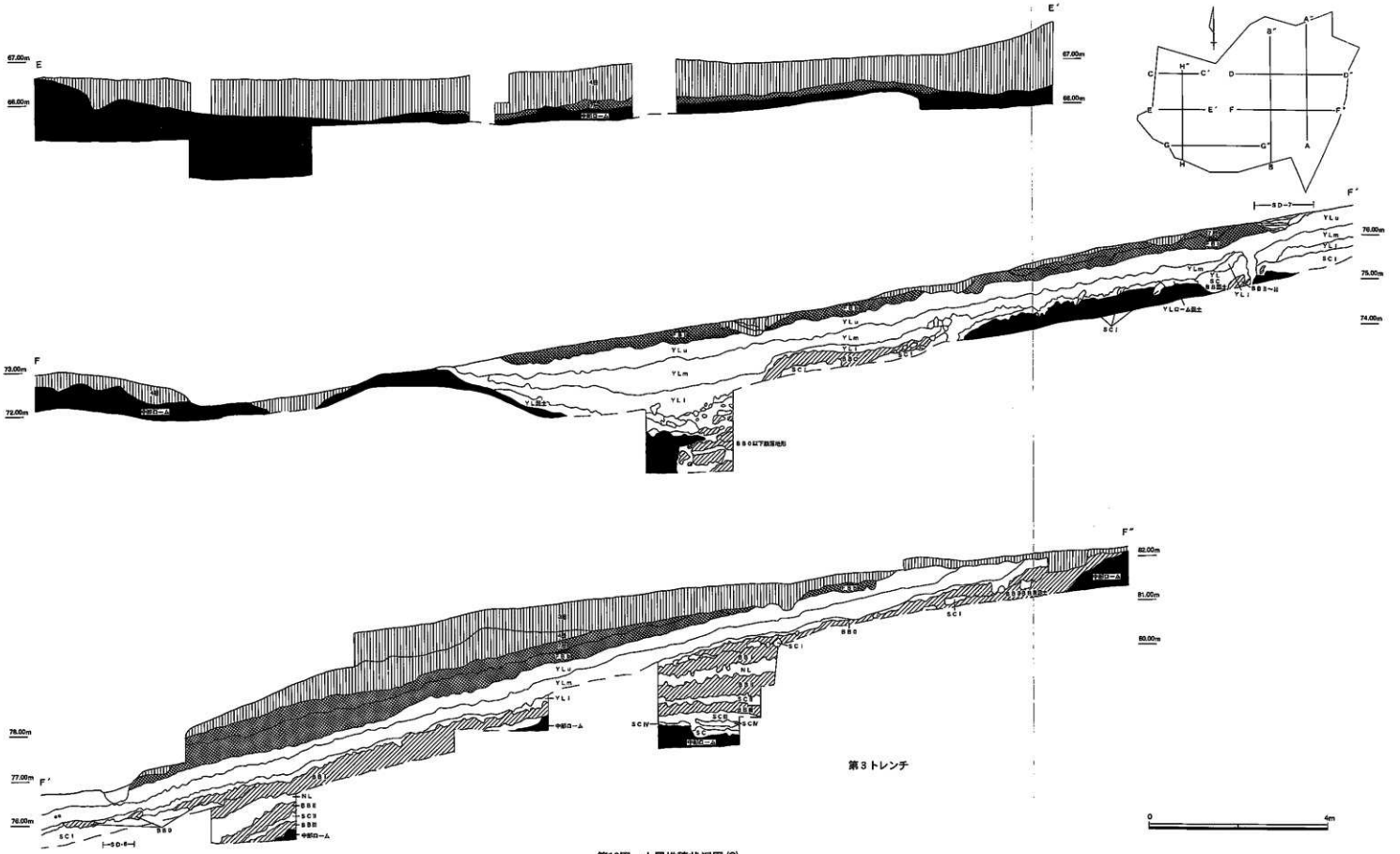
第７図　２区・３区土層柱状図



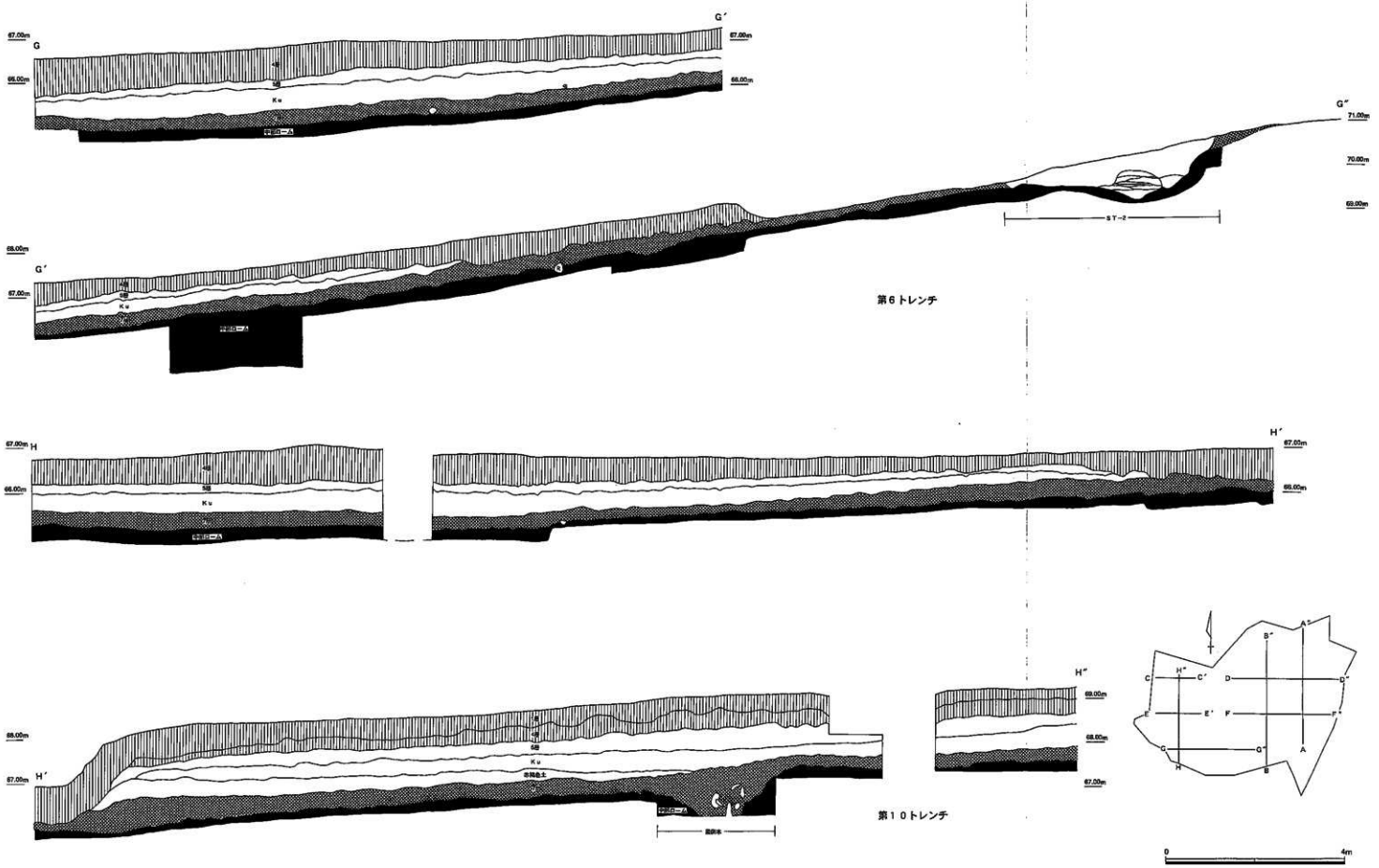
第８図　土層堆積状況図 (1)



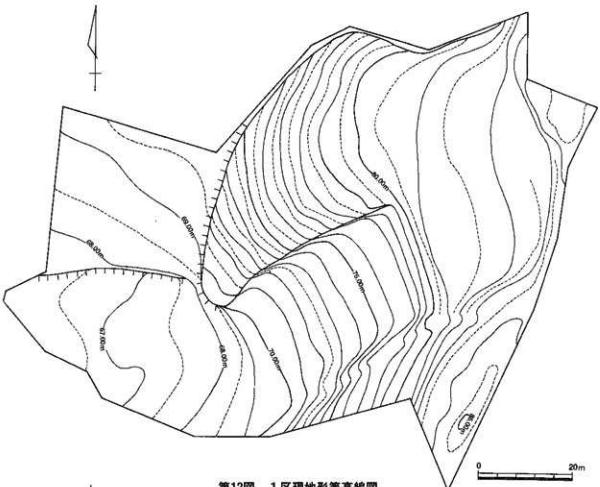
第9図　土層堆積状況図 (2)



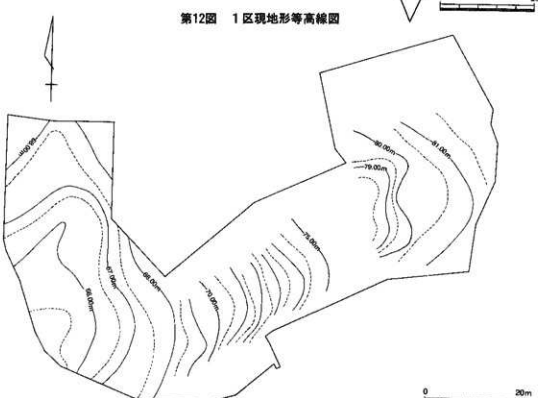
第10図　土層堆積状況図 (3)



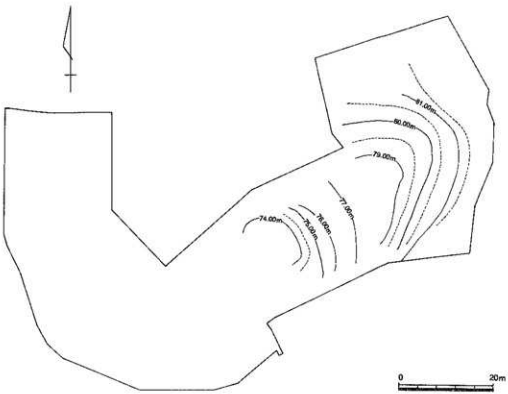
第11図　土層堆積状況図(4)



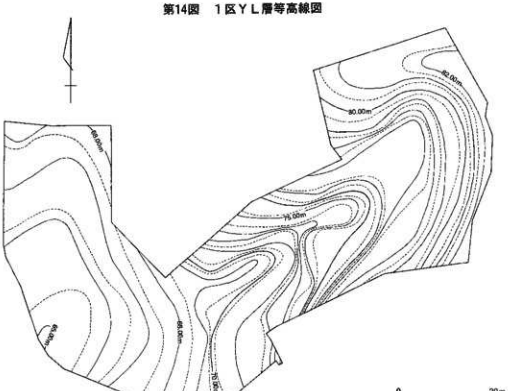
第12図　1区現地形等高線図



第13図　1区第7層等高線図



第14図　１区ＹＬ層等高線図



第15図　１区第30層等高線図

第Ⅲ章　旧石器時代

第1節　遺　構

遺物集中出土地点

遺物の出土状況は、第17図および18図に示したとおりである。遺物の出土状況は、おおよそ本遺跡における休場層の広がりを示す。休場層の堆積は１区－１および１区－２で確認され、他の地点での堆積は確認されなかった。特に遺物の集中するＥ－９グリッドは、第Ⅱ章第２節で述べたように特に厚い休場層の堆積を確認した地点であり、トレンチおよびテストピットから作成した第30層茶褐色粘性ローム層上面の等高線をあてはめてみると、Ｅ－９グリッド付近が摺鉢状に窪む地形であることがわかる。しかし、全体に西に向って下る地形であることからも、遺物の垂直移動および並行移動はかなり進んでいるものと考えねばならない。（第15図参照）

表３　旧石器時代の石器組成

		尖頭器	ナイフ形石器	削器	掻器	石刃	楔形石器	石核	使用痕剥片	打面調整剥片	二次加工剥片	剥片	チップ	合計
黒曜石	霧ヶ峰		14	2		1		1	3			19	1	41
	蓼科	4	3											7
	和田峠	3	5							1	1	11		21
	柏峠													0
	畑宿		6				1	1	1		1	16		26
	神津島											1		1
	不明	2					1					10	1	14
ガラス質黒色安山岩		1	3			1						43		48
細粒安山岩			1					1				5		7
ホルンフェルス			2	1	1	1						54		59
玄武岩												1		1
デイサイト												1		1
流紋岩			2			1						15		18
ＨＦＴ				1								3		4
緑色凝灰岩			1									1		2
珪化凝灰岩						2				1		2		5
チャート												4		4
赤玉石			2											2
陶質碧玉												1		1
瑪瑙												1		1
合計		10	39	4	1	6	2	3	4	2	2	188	2	263

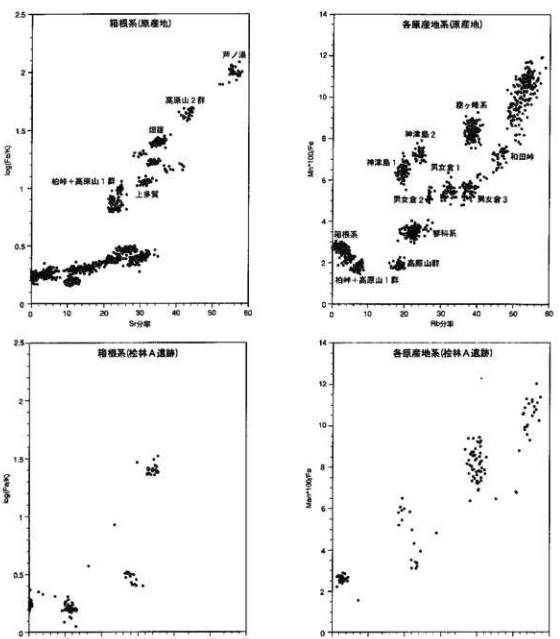
出土層位について、第17図ではＹＬｕ層とＹＬｍ層に分けて表示したが、実際にはＹＬｕ１層からＹＬｕ２層にかけてが中心であり、ＹＬｍ層についてはＹＬｍ１上層が中心である。

ＹＬｕ１層からは有舌尖頭器など縄文草創期の石器も出土しているが、それらは次節の縄文時代の遺物として報告する。その他にもここでＹＬｕ層として提示している遺物の中には、縄文時代の遺物が含まれている可能性もあると思われる。また、ナイフ形石器の中にはＡＴ降灰前後の様相を示すものもある。それらの混在は前述のような理由によると思われるが、この章で報告することとする。

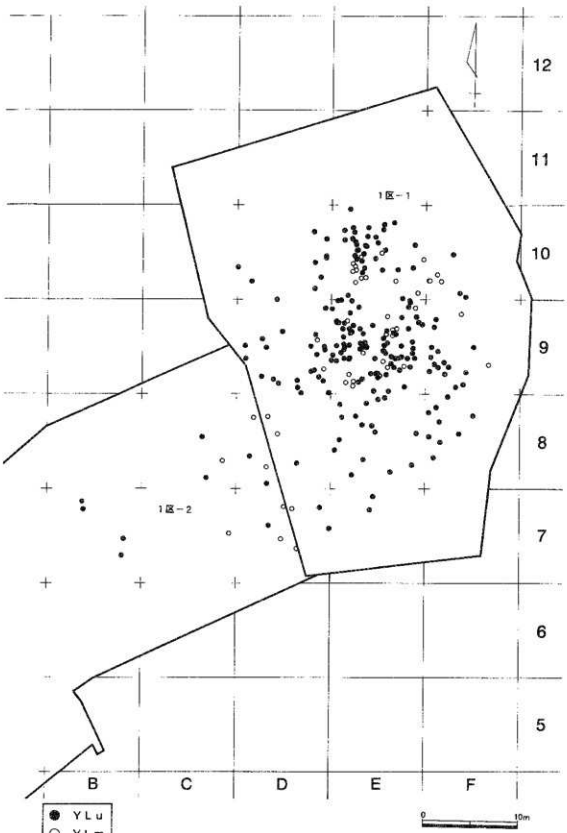
遺物出土数の詳細は表３のとおりである。

なお、縄文時代および旧石器時代のToolと旧石器時代の黒曜石（蛍光Ｘ線による分析可能な、厚さ２mm以上・長さ10mm以上の剥片および砕片）125点について産地同定を行なった。

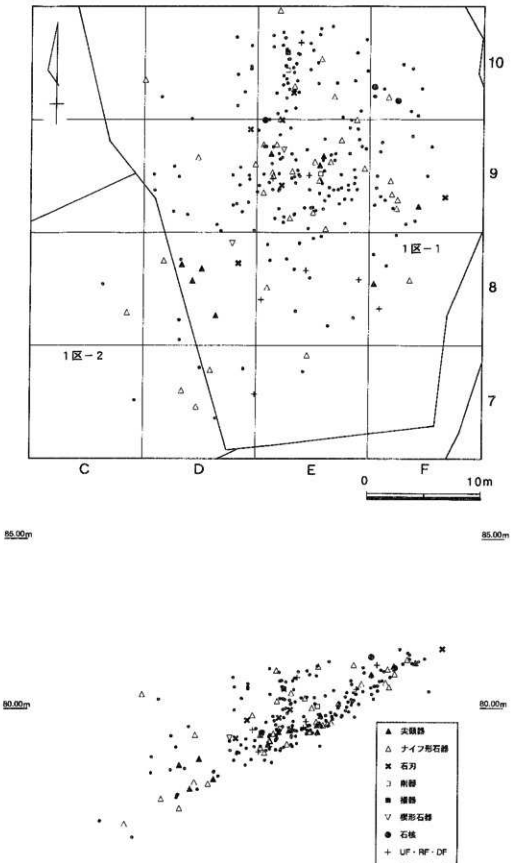
（測定方法については「八田原遺跡」静岡県埋蔵文化財調査研究所1997を参照）



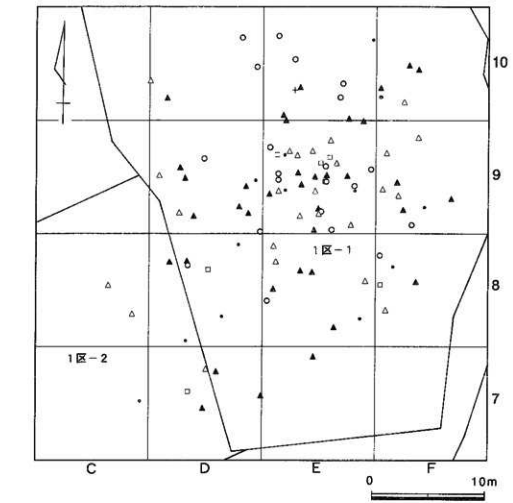
第16図　黒曜石産地判別図

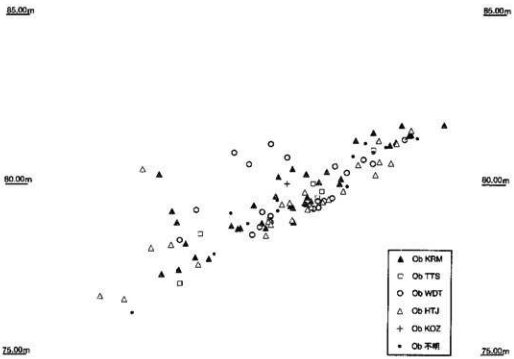


第17図　旧石器時代石器分布図

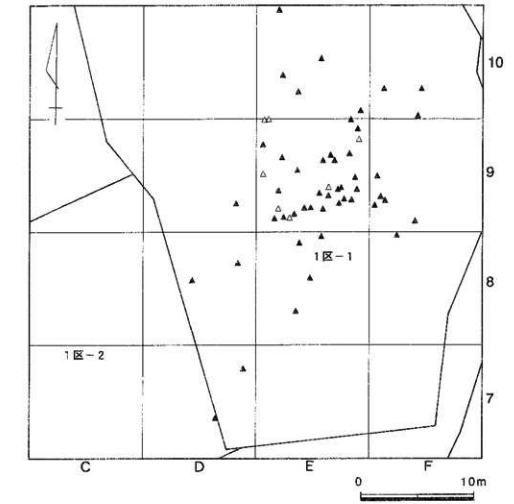


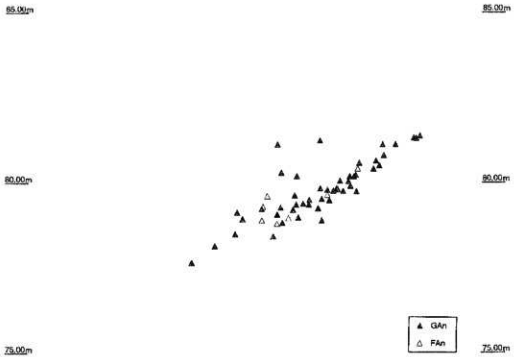
第18図　旧石器器種別分布図



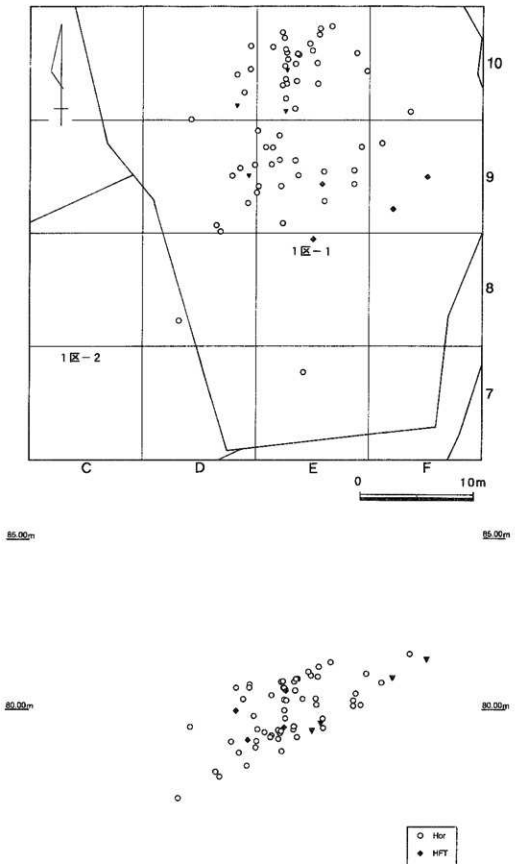


第19図　旧石器石材別分布図（黒耀石）

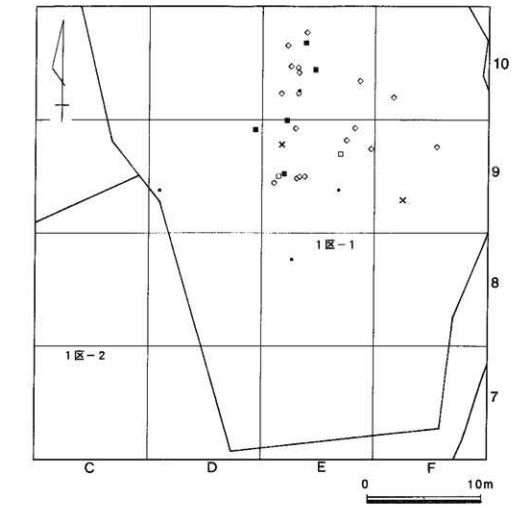


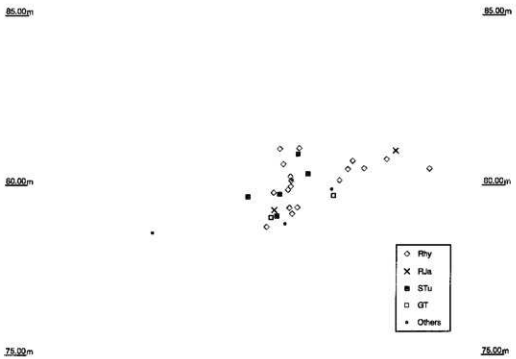


第20図　旧石器石材別分布図（安山岩）



第21図　旧石器石材別分布図（その他１）





第22図　旧石器石材別分布図（その他２）

第2節　遺　物

休場層から出土した石器は総数263点である。石器と器種・石材の関係は表3に示したとおりである。

(1)　尖頭器（第23図、1～10・第24図、1～10）

第1群　黒耀石製を主体とする尖頭器石器群（第23図、1～10）

透明な信州産黒耀石を用いて、縦長剥片・横長剥片を素材に、平坦剥離で、両面加工・半両面加工・片面加工の尖頭器を製作している。大きさは5㎝前後で、最も大きな尖頭器でも7㎝を超えることは希である。

1から9まではいずれも加工途中の破損品である。破損の程度は多様であるが、端を欠く1から5、先端だけの6、小型尖頭器の胴部だけの7、基部だけの8、9となっている。

10は安山岩の尖頭器で、風化が激しく剥離面が読み取りにくい。

＊第2群および3群は通常ナイフ型石器にも分類可能な石器群であるが、全体の形態（第2群）および先端部の加工（第3群）から尖頭器の群に入れた。

第2群　形態が尖頭器で、加工がナイフ形石器の石器（第24図、1～4）

透明な信州産黒耀石を用い、側辺に鋭い素材の縁辺を残すが、いずれも形態は木の葉形の尖頭器形態の石器である。さらに、基部を丸くつくる加工（3）が見られたり、加工に平坦剥離（4）を用いることが、この石器の特徴である。

第3群　形態がナイフ形石器で、先端部に加工がある石器（第24図、5～10）

石刃を素材とし、柳葉形の形態を押圧剥離の刃潰し加工によって形成している。形態はナイフ形石器だが、先端には両側辺に加工があることが特徴である。

5は加工が辺の周囲にある。また、15は基部を加工によって丸くしているのも特徴である。

6、7は先端の両側辺に加工がある。

これらのことから、この石器は、柳葉形の形態に丸い基部、そして先端に素材の鋭い側辺を残さないことがわかる。

石材は7がガラス質黒色安山岩である他は信州産の黒耀石を用いている。

(2)　ナイフ形石器（第25図、1～17・第26図、1～12）

第4群　薄い石刃を素材にし、先端を加工して、素材の鋭利な側辺に尖頭部をつくるナイフ形石器と部分加工のナイフ形石器（第25図、1～9）

素材の打面を残している。加工しない鋭利な側辺の反対側は、特に打面近くの厚い部分に限って刃潰し加工がされて形態を整えている。1、2、7が典型品である。3は基部が破損、4、5は胴部のみ。

6は部分加工のナイフ形石器であるが、その素材は、この群のナイフ形石器と同じ石刃であることから、この群に組んだ。

9はホルンフェルスで風化が激しい。かろうじて加工が観察できる程度であるが、素材の形態と加工の部位からここに組んだ。

石材として使われている黒耀石はすべて信州産である。

第5群　やや厚い、均整のとれた石刃を素材にする二側縁加工のナイフ形石器と部分加工のナイフ形石器（第25図、10～17）

やや厚めの石刃を素材にした二側縁加工のナイフ形石器である。尖頭形態の10から13までは、両側辺からの加工が基部で繋がらないのが特徴である。いずれの基部も素材の辺を残している。尖頭部は12を例外として、打面側に形成されているのも特徴である。

14、15は切っ先の角度がやや開く形態である。尖頭形態よりも寸詰まりの石刃を利用しているが製作技法はまったく同じである。意識的に素材の選択を行い、異なる形態のナイフ形石器を製作しているのか、それとも、素材の変異に対応する同じナイフ形石器の変異なのか、今後の分析課題であろう。

16、17は15と同じ素材を用いた部分加工のナイフ形石器である。

石材として使われている黒耀石のうち15は鷹山産だが、他は信州産である。

第6群　5cmを超える中形の石刃を素材にしたナイフ形石器（第26図、1～3）

中形の石刃を素材に、均整のとれたナイフ形石器を製作している。残された素材側辺は鋭く、その反対側の加工は、厚くガッシリとしている。その刃潰し加工は、裏面から背面ばかりでなく、背面側から裏面へも行われる対向剥離も特徴である。

2はＹＬｍ層の出土であることにも注意しなければならない。

3は同じ石刃を素材に折り取り、折り取りによってできる縁を刃潰しし加工で除去している、部分加工のナイフ形石器である。1・2は黒耀石で3の石材は緑色凝灰岩である。

第7群　厚い剥片素材のナイフ形石器（第26図、4～6）

4は厚い石刃を、素材を断ち切るように対向剥離の刃潰し加工によって加工し、また、基部を尖るように作り出している。この技法を持つナイフ形石器は、愛鷹・箱根西麓ではＢＢ０層（武蔵野台地ではⅧ層からⅤ層～Ⅳ層）にかけて出土している。

第8群　その他のナイフ形石器（第26図、7～12）

刃潰し加工がある石器をまとめた。

7は左側辺を刃潰し加工によって成形している。基部にも加工が見られるが、折れているため基部の形態は不明である。

8は横長剥片の両側辺を刃潰し加工によって成形し、さらに尖頭部を作っている。

9は安山岩の剥片の一部に刃潰しが見られる。

10は横長剥片の先端に刃潰し加工をしている石器。部分加工のナイフ形石器としても良いかもしれない。帰属する群は不明。

11は不純物の多い黒耀石の縦長剥片の両側辺に刃潰し加工を施した石器である。手前の辺が折れていることや、左側辺が新しい傷によって破損していることなどから、全体の形態は不明である。

13は上下ともに折れてしまっており、どのような石器かわからない、石器の断片である。右側辺もさほど鋭い縁辺ではない。

この群で使われる石材は黒耀石・細粒安山岩・流紋岩で、黒曜石はすべて箱根産である。

(3)　削器・抉入削器（第27図、1・2・3・5）

1の左側辺下部は凸形に湾曲する掻器になっている。左側辺には不規則な剥離痕が付き、右側辺にノッチを持つ。削器、抉入削器、掻器の複合石器である。石材であるＨＦＴは、遠隔地からの搬入石材と

思われる。

2、3、5は縦長剥片の側辺に通常の剥離で刃付けをした石器である。

(4) 掻　器（第27図、4）

黒耀石の剥片を利用した掻器で、急角度の剥離によって刃部を形成している。

(5) 黒耀石の石刃と剥片（第27図、6～8・第28図、1～12）

第5図の6から8は使用痕のある剥片である。第6図1は使用痕のある稜付きの石刃である。

第6図2から7、9と10は使用痕のある剥片である。

2は自然面打面の剥片で、石刃石核から剥離された剥片である。

3は剥離の進んだ石刃石核から剥離された剥片で、この剥片の剥離によって石核は破壊されている。

4、5は寸詰まりの剥片で、ナイフ形石器第5群の部分加工ナイフ形石器の素材である。

6は調整打面を持つ剥片。

7は薄い剥片で、ナイフ形石器第4群の素材である。

第6図8は剥片剥離後に残った残核である。

9、10は剥片剥離時に出る剥片で、10はそのような剥片の断片である。

第6図11は刃部の折れたナイフ型石器の剥片、12は2次加工剥片である。

(6) 黒耀石以外の石材による石刃および剥片（第29図、1～7）

1は幅広の縦長剥片である。複剥離打面を持つ。

2は石刃である。石核をハンマーがかすって剥離されているため、打面は無打面である。

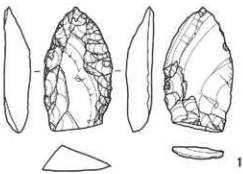
3は使用痕のある石刃である。調整打面を持つ。

4は複剥離打面を持つ石刃である。左側辺に微細な使用痕が見られる。

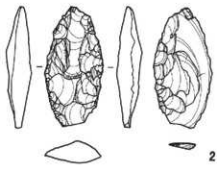
5はガラス質安山岩の石刃である。剥離時に縦折れ剥離をしている。

6は幅広の石刃の末端である。

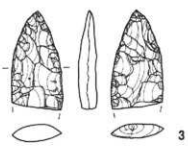
7はチャートの剥片で、チャートは外部からの搬入石材である。



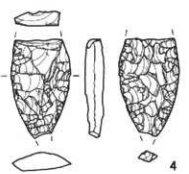
F-8 YLu TTS (218)



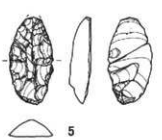
E-9 YLm WDT (378)



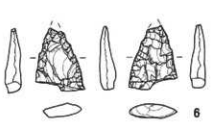
D-8 SD-5 TTS (426)



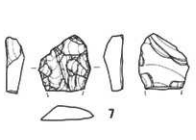
D-8 YLu Ob (472)



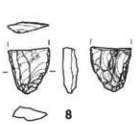
E-9 YLu TTS (296)



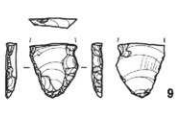
E-9 YLu TTS (266)



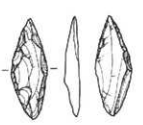
D-8 7層 WDT (423)



E-9 YLu WDT (328)



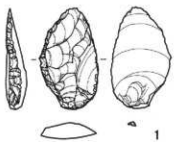
F-9 YLu Ob (247)



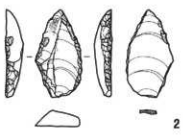
D-8 YLm GAn (482)

0 5cm

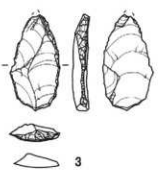
第23図　尖頭器 (1)



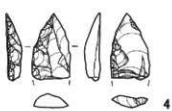
F-8 攪乱 KRM (118)



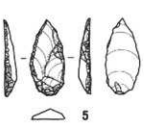
E-10 FBb KRM (292)



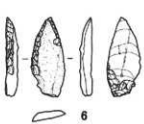
D-7 YLu TTS (466)



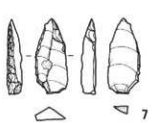
E-9 YLu WDT (265)



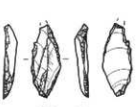
D-9 YLu WDT (373)



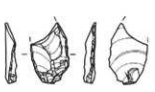
E-9 YLu TTS (267)



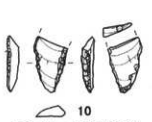
E-10 YLu GAn (73)



E-9 YLu KRM (272)

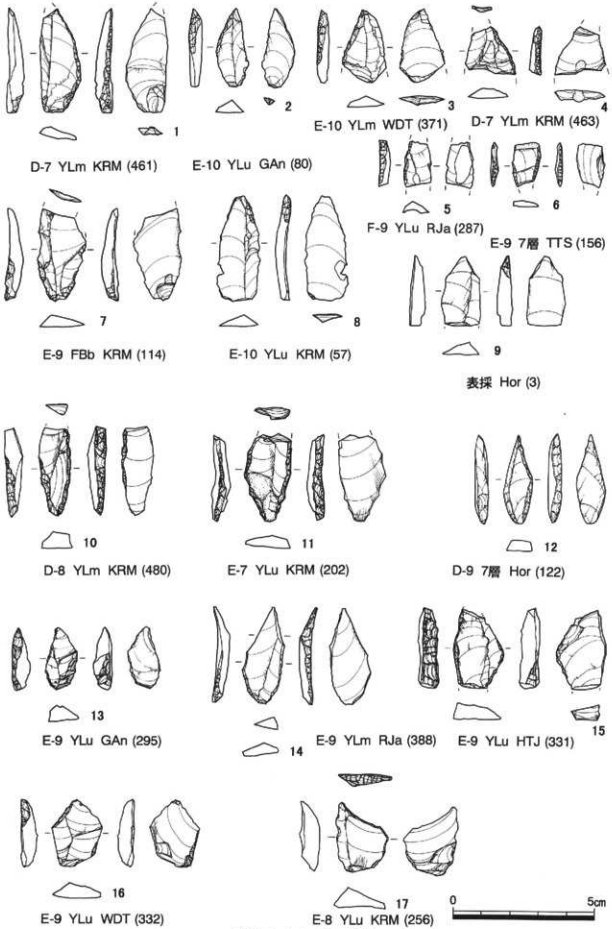


F-8 YLu KRM (244)

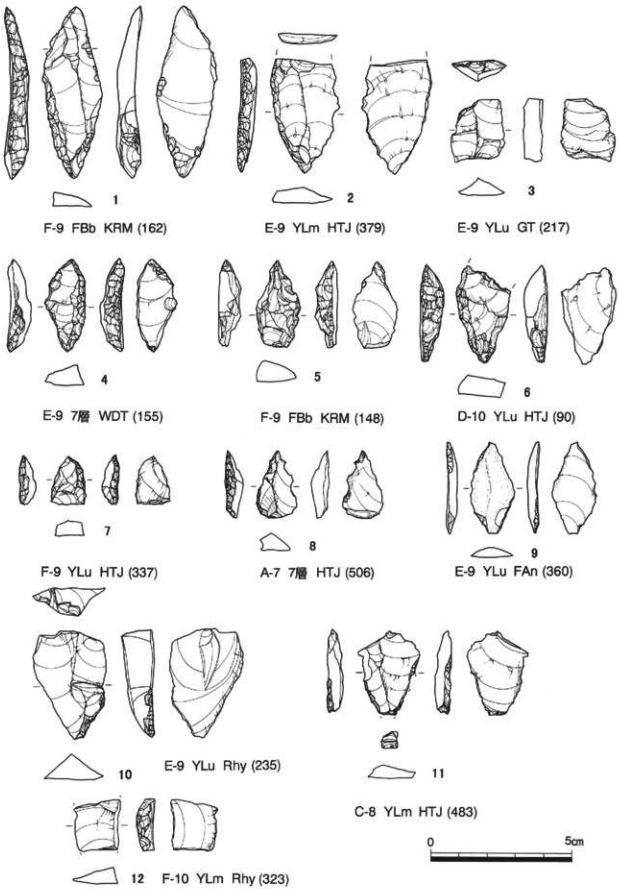


E-9 YLu KRM (268)

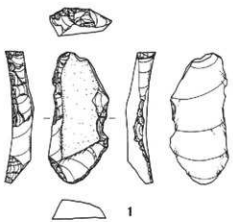
第24図　尖頭器 (2)



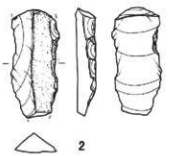
第25図　ナイフ形石器 (1)



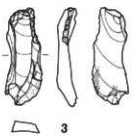
第26図　ナイフ形石器 (2)



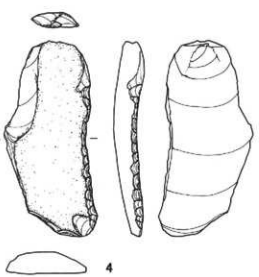
E-10 YLu HFT (59)



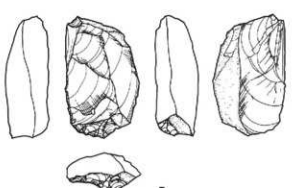
L-8 攪乱 Hor (17)



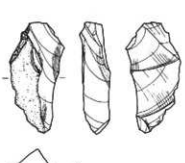
S-5 7層 KRM (538)



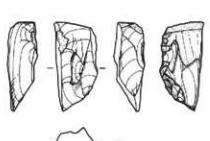
E-10 YLu Hor (79)



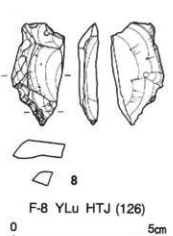
E-9 YLu KRM (231)



E-9 FBb KRM (207)

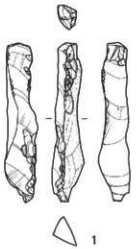


D-7 YLu KRM (357)



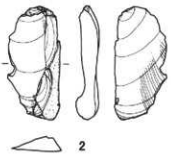
F-8 YLu HTJ (126)

第27図　削器・抉入削器・掻器



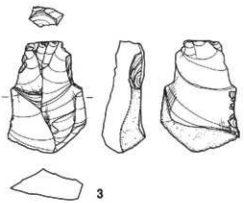
1

F-9 YLm KRM (127)



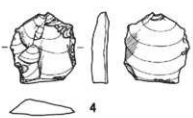
2

E-8 YLu KRM (257)



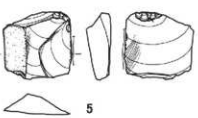
3

D-9 YLu WDT (392)



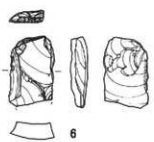
4

D-9 YLu Ob (414)



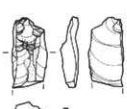
5

C-7 YLm Ob (485)



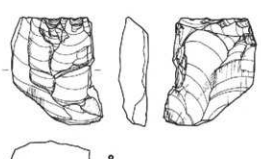
6

E-8 YLu WDT (365)



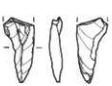
7

D-8 4層 Ob (147)



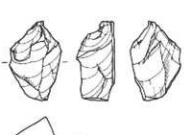
8

F-10 3層 KRM (37)



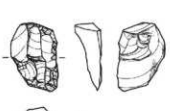
9

E-9 FBb WDT (186)



10

E-9 YLu HTJ (271)



11

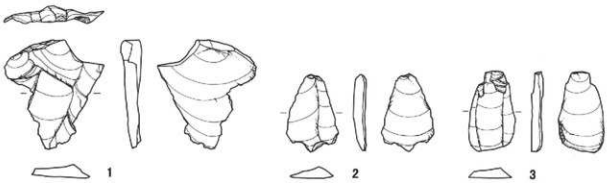
E-9 YLu WDT (298)

12

E-8 YLu HTJ (255)

0 5cm

第28図　石刃・剥片（黒耀石）



第29図　石刃・剥片（その他）

表4　旧石器時代の石器計測表 (1)

図版No.	器種	層位・遺構	遺物No.	石　材	産地	縦長mm	横長mm	厚mm	重量g
23-01	尖頭器	YLu	S- 218	黒耀石	蓼科	44	24.5	9.5	7.9
23-02	尖頭器	YLm	S- 378	黒耀石	和田峠	42.5	21	8.5	6.1
23-03	尖頭器	SD-5	S- 426	黒耀石	蓼科	34.5	18	6.0	3.9
23-04	尖頭器	YLu	S- 472	黒耀石	-	34	21	6.5	5.0
23-05	尖頭器	YLu	S- 296	黒耀石	蓼科	30	15	5.0	2.7
23-06	尖頭器	YLu	S- 266	黒耀石	蓼科	25.5	18	5.5	1.5
23-07	尖頭器	7	S- 423	黒耀石	和田峠	20	18	6.0	1.9
23-08	尖頭器	YLu	S- 328	黒耀石	和田峠	16	14.5	5.5	1.0
23-09	尖頭器	YLu	S- 247	黒耀石	-	19	17	4.0	1.0
23-10	尖頭器	YLm	S- 482	ガラス質黒色安山岩		36	13	4.7	2.0

図版No.	器種	層位・遺構	遺物No.	石　材	産地	縦長mm	横長mm	厚mm	重量g
24-01	ナイフ形石器 2	撹乱	S- 118	黒耀石	霧ヶ峰	36	21	7.0	3.9
24-02	ナイフ形石器 2	FBb	S- 292	黒耀石	霧ヶ峰	31	16.5	6.0	2.3
24-03	ナイフ形石器 2	YLu	S- 466	黒耀石	蓼科	34	17.5	5.0	2.4
24-04	ナイフ形石器 2	YLu	S- 265	黒耀石	和田峠	23.5	14	5.5	1.5
24-05	ナイフ形石器 3	YLu	S- 373	黒耀石	和田峠	27	12	4.0	1.0
24-06	ナイフ形石器 3	YLu	S- 267	黒耀石	蓼科	28	12	4.0	1.0
24-07	ナイフ形石器 3	YLu	S- 073	ガラス質黒色安山岩		26	11.5	5.0	1.4
24-08	ナイフ形石器 3	YLu	S- 272	黒耀石	霧ヶ峰	26	10.5	4.0	0.9
24-09	ナイフ形石器 3	YLu	S- 244	黒耀石	霧ヶ峰	21.5	13.5	4.0	0.7
24-10	ナイフ形石器 3	YLu	S- 268	黒耀石	霧ヶ峰	19	12	4.0	0.7

図版No.	器種	層位・遺構	遺物No.	石　材	産地	縦長mm	横長mm	厚mm	重量g
25-01	ナイフ形石器 4	YLm	S- 461	黒耀石	霧ヶ峰	36	14.5	6.0	2.4
25-02	ナイフ形石器 4	YLu	S- 080	ガラス質黒色安山岩		27.5	11.5	4.5	1.0
25-03	ナイフ形石器 4	YLm	S- 371	黒耀石	和田峠	25.5	15.5	4.0	1.1
25-04	ナイフ形石器 4	YLm	S- 463	黒耀石	霧ヶ峰	17	18	4.0	1.0
25-05	ナイフ形石器 4	YLu	S- 287	赤玉石		16.5	10	3.5	0.5
25-06	ナイフ形石器 4	7	S- 156	黒耀石	蓼科	15.5	10	2.5	0.4
25-07	ナイフ形石器 4	FBb	S- 114	黒耀石	霧ヶ峰	32	17	5.0	1.8
25-08	ナイフ形石器 4	YLu	S- 057	黒耀石	霧ヶ峰	37	15	4.0	1.6
25-09	ナイフ形石器 4	表採	S- 003	ホルンフェルス		25	13	4.4	1.3
25-10	ナイフ形石器 5	YLm	S- 480	黒耀石	霧ヶ峰	30	10	5.8	2.1
25-11	ナイフ形石器 5	YLu	S- 202	黒耀石	霧ヶ峰	30	16	5.0	2.5
25-12	ナイフ形石器 5	7	S- 122	ホルンフェルス		32	10	4.1	1.6
25-13	ナイフ形石器 5	YLu	S- 295	ガラス質黒色安山岩		22	12	5.8	1.3
25-14	ナイフ形石器 5	YLm	S- 388	赤玉石		34	15	4.0	1.6
25-15	ナイフ形石器 5	YLu	S- 331	黒耀石	畑宿	28	17	5.0	1.0
25-16	ナイフ形石器 5	YLu	S- 332	黒耀石	和田峠	23	18	4.5	1.7
25-17	ナイフ形石器 5	YLu	S- 256	黒耀石	霧ヶ峰	25	18	5.3	1.7

図版No.	器種	層位・遺構	遺物No.	石　材	産地	縦長mm	横長mm	厚mm	重量g
26-01	ナイフ形石器 6	FBb	S- 162	黒耀石	霧ヶ峰	60	21.5	8.0	7.5
26-02	ナイフ形石器 6	YLm	S- 379	黒耀石	畑宿	40.5	25	5.5	5.0
26-03	ナイフ形石器 6	YLu	S- 217	緑色凝灰岩		24	19	5.7	2.3

表4　旧石器時代の石器計測表 (2)

図版No.	器種	層位・遺構	遺物No.	石　材	産地	縦長mm	横長mm	厚mm	重量g
26-04	ナイフ形石器 7	7	S- 155	黒耀石	和田峠	32.5	14.5	7.5	2.6
26-05	ナイフ形石器 7	FBb	S- 148	黒耀石	霧ヶ峰	30	16	8.0	2.7
26-06	ナイフ形石器 7	YLu	S- 090	黒耀石	畑宿	34.5	19	8.5	3.9
26-07	ナイフ形石器 8	YLu	S- 337	黒耀石	畑宿	17	12	5.4	1.2
26-08	ナイフ形石器 8	7	S- 506	黒耀石	畑宿	24	14	5.5	1.3
26-09	ナイフ形石器 8	YLu	S- 360	細粒安山岩		32	15.5	3.5	1.1
26-10	ナイフ形石器 8	YLu	S- 235	流紋岩		39	28	10.7	7.2
26-11	ナイフ形石器 8	YLm	S- 483	黒耀石	畑宿	27	20	5.3	3.0
26-12	ナイフ形石器 8	YLm	S- 323	流紋岩		17	14	5.2	1.5

図版No.	器種	層位・遺構	遺物No.	石　材	産地	縦長mm	横長mm	厚mm	重量g
27-01	削器（抉入）	YLu	S- 059	硬質細粒凝灰岩		45	20	6.0	7.0
27-02	削器	攪乱	S- 017	ホルンフェルス		40	15	7.0	4.9
27-03	削器	7	S- 538	黒耀石	霧ヶ峰	34	12	5.0	2.1
27-04	掻器	YLu	S- 079	ホルンフェルス		65	30	7.5	21.3
27-05	削器	YLu	S- 231	黒耀石	霧ヶ峰	43	25	11.9	12.6
27-06	使用痕剥片	FBb	S- 207	黒耀石	霧ヶ峰	40	17	7.4	4.8
27-07	使用痕剥片	YLu	S- 357	黒耀石	霧ヶ峰	32	15	10.3	5.1
27-08	使用痕剥片	YLu	S- 126	黒耀石	畑宿	36.5	19	7.0	4.1

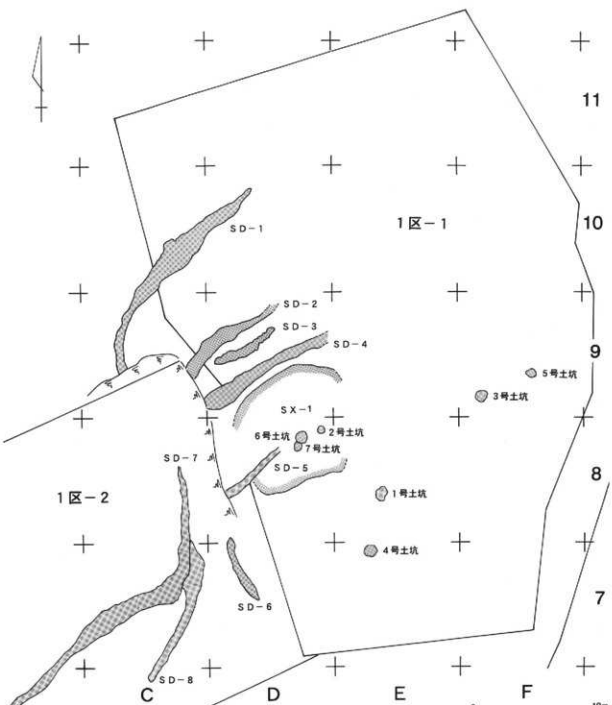
図版No.	器種	層位・遺構	遺物No.	石　材	産地	縦長mm	横長mm	厚mm	重量g
28-01	石刃	YLm	S- 127	黒耀石	霧ヶ峰	56	11.5	12.0	5.0
28-02	使用痕剥片	YLu	S- 257	黒耀石	霧ヶ峰	40	18	6.8	4.0
28-03	剥片	YLu	S- 392	黒耀石	和田峠	39	25	14.5	12.2
28-04	剥片	YLu	S- 414	黒耀石	-	25	23	4.8	2.5
28-05	剥片	YLm	S- 485	黒耀石	-	25	22	6.9	4.3
28-06	打面調整剥片	YLu	S- 365	黒耀石	和田峠	25	16	5.3	2.6
28-07	楔形石器	4	S- 147	黒耀石	-	24.5	13	6.0	1.5
28-08	石核（残核）	3	S- 037	黒耀石	霧ヶ峰	40	30	9.4	12.5
28-09	剥片	FBb	S- 186	黒耀石	和田峠	23	10.5	4.0	0.5
28-10	楔形石器	YLu	S- 271	黒耀石	畑宿	27	18	11.5	4.8
28-11	二次加工剥片	YLu	S- 298	黒耀石	和田峠	26	17	6.9	2.1
28-12	二次加工剥片	YLu	S- 255	黒耀石	畑宿	14	12.5	5.5	0.8

図版No.	器種	層位・遺構	遺物No.	石　材	産地	縦長mm	横長mm	厚mm	重量g
29-01	打面調整剥片	YLu	S- 068	珪化凝灰岩		40	35	7.0	5.0
29-02	石刃	YLm	S- 105	流紋岩		27	19	3.3	1.4
29-03	石刃	YLu	S- 339	珪化凝灰岩		27	16	3.0	1.8
29-04	石刃	YLu	S- 121	珪化凝灰岩		30	22	4.1	2.7
29-05	石刃	7	S- 173	ガラス質黒色安山岩		36	13	5.7	3.5
29-06	石刃	FBb	S- 180	ホルンフェルス		25	22	4.4	2.4
29-07	剥片	YLu	S- 293	チャート		38	25	7.3	6.0

第Ⅳ章　縄文時代

第1節　遺　構

1区－1から1区－2にかけて、8基の溝状遺構（SD－1～8）、7基の土坑、竪穴状遺構1基（SX－1）が検出している。



第30図　縄文時代の遺構全体図

(1) 溝状遺構（ＳＤ１～８）

１区－１北東側から谷側の１区－２南西方向に向って、計８基が検出された。このうちＳＤ１～５は１区－１から１区－２への段差によって切られてしまっていた。堆積の薄い１区－１北側では、休場層に掘りこむ形で検出したが、１区－２では７層（富士黒色土層ａ相当）から掘りこまれていることから縄文時代の遺構と考えた。

覆土は、やや赤みを帯びた、締まり・粘性の弱い黒色土で基本土層の７層と類似している。また、低部に非常に良く締まった硬質な層を持つ点が共通している。

いずれも調査区１区－１から１区－２へと南西方向に下る地形に沿って存在する。

ＳＤ－１（第31図、写真図版４）

１区－１、Ｄ－10グリッドおよびＣ－９グリッドで、全長約16mが検出された。検出面はＹＬｕ層である。Ｄ－10グリッド（北東側）からＣ－９グリッド（南西側）に向い弧状に下る形態をとる。検出時の最大幅は2.8m、検出面からの深さは、最大72cmである。Ｄ－10グリッドではＹＬ層の堆積は薄く、ＳＣ層まで掘り込んでいた。覆土は均一な黒褐色土からなり、底部には非常に硬質な褐灰色土が10cmほどの厚みをもって堆積していた。覆土にはこぶし大の礫を10点ほど含む。他には縄文土器片１点（Ｐ202）を検出したが、磨耗の激しい小片で時期・型式・文様などは不明である。底部硬質土を外した底面は、部分的に凸凹の階段状を呈する。

ＳＤ－２（第32図）

１区－１、Ｄ－９グリッドに位置する。北からＳＤ－２・３・４と並んで検出された。検出面はＦＢｂ層からＹＬｕ層上面である。北東側は第２トレンチによって切られてしまったが、全長は約８m、北東側が浅く南西側が深い形態をとる。検出時の最大幅は約1.3m、１区－２への段差部分での深さは57cmを測る。覆土①は７層に類似した黒色土で、こぶし大の礫３点、径12cmほどの敲石１点（Ｓ428）を検出した。

ＳＤ－３（第32図）

ＳＤ－２と同じくＦＢｂ層に黒色土が落ち込むことから検出されたが、形態はより浅く、底部の硬質な土は見られなかった。全長５mほどの中で完結しており、北東側および南東側への広がりは不明である。底部は不定形な凸凹を呈し、覆土からはＳＤ－１・２同様にこぶし大の礫を７点検出した。

ＳＤ－４（第32図）

１区－１、Ｄ－９グリッドに位置する。北東側は第１トレンチによって切られてしまったが、全長は約13mを測る。北東側が浅く、南西側に向って次第に深くなる。ほぼ真っすぐに延びる形態をとり、検出面、掘り込み面ともにＦＢｂ層である。南西側に向って次第に幅が拡がり、最大幅は約1.6m、南西側１区－２に落ち込む部分での深さは74cmを測る。覆土は７層に類似した黒色土で、最大20cmまでの礫25点の他、二次加工の見られる黒耀石剥片（Ｓ441）１点とホルンフェルス剥片１点（Ｓ442）を検出した。

ＳＤ－５（第32図）

１区－１、Ｄ－８グリッドで検出された。調査区が拡張された時、残っていた１区－１縁辺部にあたる。縦穴状遺構（ＳＸ－１）検出作業中、７層の中で底部の硬質な土の広がりが確認され、検出された遺構である。ＳＤ－１～４同様北東側から南西側に向うと思われる。本来の覆土が７層に似た黒色土だ

ったため、全体のプランを出すことができなかった。全長約５ｍ、最大幅は70cmになるが、確認された底部硬質土の厚みは約４cmほどでしかない。しかし、底部の硬質土中から黒曜石の槍先１点（Ｓ426）を検出している。

ＳＤ－６（第32図）

１区－２、Ｄ－７グリッドで検出された。南北方向に全長約5.5m、幅50cm、深さ30cmほどの遺構である。検出面はＹＬｕ層、掘り込み面はＹＬｍ層である。底部の硬質な層は見られず、黒色土①が覆土として混入していた。遺物・礫などは特に含まなかった。

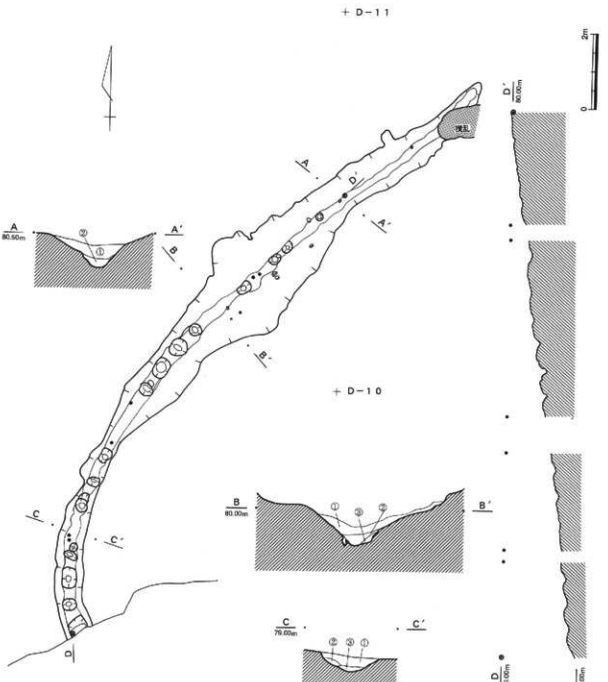
ＳＤ－７（第33図、写真図版４・５）

１区－２、Ｂ－６およびＣ－７・８グリッドで検出された。北側半分が南北方向に、中央部分から南西方向に弧状に折れ曲がる形態をとる。全長は約27mを数え、両端が浅く狭く、中央部分が深く幅も広い。最も深い部分で深さ70cm、広い部分は幅1.8mを測る。ＹＬｕ層上面で検出されたが、第４トレンチ断面で見ると、７層から掘り込まれていることが窺える。下層の堆積が薄いため、掘り込みは中部ローム層（茶褐色粘性ローム）まで達している。やはり底部に褐灰色の硬質な層を持ち、覆土同様、両端部では薄いが中央部分が厚い。堆積の厚い中央トレンチ断面からは、硬質な面が１層だけでなく、少なくとも覆土④・⑦・⑧層と３つの堆積が見られる。また、方向的には他の溝状遺構同様、北東側から南西側に向うものと考えられる。

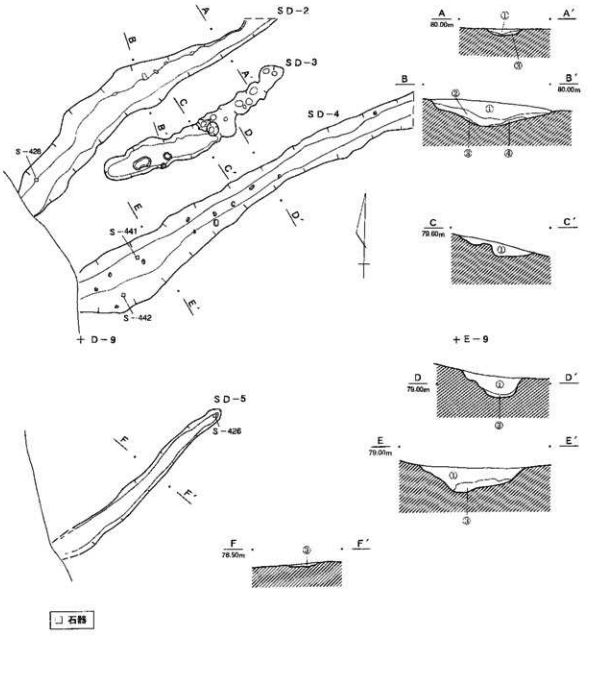
覆土②は最大20cmまでの礫を30点ほど含み、遺物としては、黒曜石の石鏃１点（Ｓ434）および剥片３点（Ｓ450、478、502）の他に、安山岩の敲石１点（Ｓ478）および縄文時代晩期の安行Ⅲと思われる土器片１点（Ｐ473）を検出した。検出状況は不規則で、いずれも流れ込んだような様子が見られる。北東側について、方向的にはＳＤ－１に繋がる可能性も考えられるが、南西側では同様の遺構を検出することはできなかった。

ＳＤ－８（第33図、写真図版４）

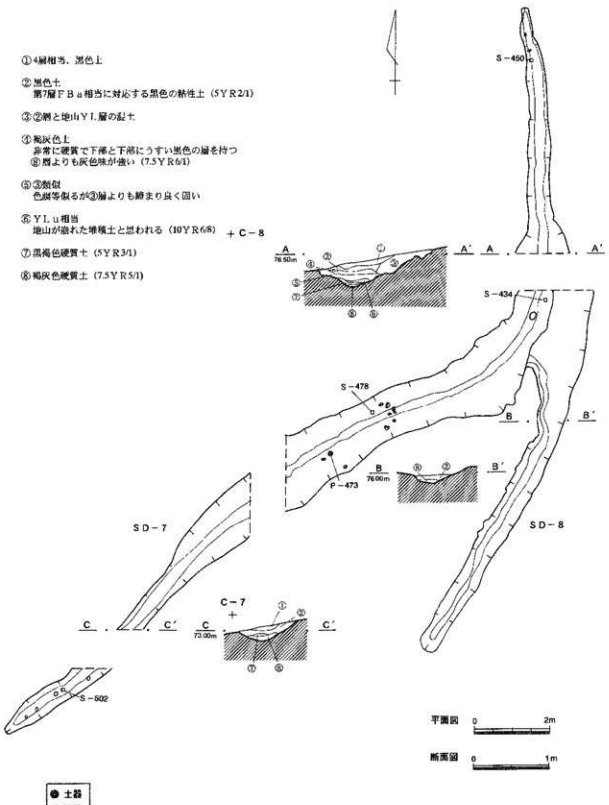
１区－２、Ｃ－７グリッドで検出された。南北方向に全長は約10m、南側が浅く、ＳＤ－７によって切られる北側に向って深くなる形態をとる。中央サブトレンチ部分で、幅60cm、深さ20cmほどを測る。検出面はＹＬｕ層だが、南側は検出面・掘り込み面とも中部ローム層（茶褐色粘性ローム）である。底部には硬質の褐灰色土を持つが、遺物・礫などは見られなかった。



第31図　溝状遺構(1) ＳＤ－１



第32図　溝状遺構(2) SD－2～6



第33図　溝状遺構(3) ＳＤ－７・８

(2) 土　坑（第34図）

1区－1から7基が検出された。基本的な形態は円形で浅く、いずれも覆土はレンズ状の堆積状況である。1～3・5～7号土坑は、ＹＬｕ層上面で検出されたが、4号土坑はＦＢｂ層中で検出された。また2・6・7号土坑は、竪穴状遺構（ＳＸ－1）南側の風倒木による再堆積土で検出されたが、上層の堆積は縄文層から良好であった。1～7号土坑いずれも7層（ＦＢｂ相当黒色土）およびＦＢｂ層が堆積していることから、縄文時代の遺構と考えた。遺物としては、7号土坑覆土から縄文土器1点を検出したが、磨耗の激しい小片のため、時期・型式などは不明である。

1号土坑

Ｅ－8グリッドで検出された。長径118cm・深さ44cmを測る。形態は不定形な長円形で、底部は北側が深く掘り込まれ南側に緩く立ち上がる。検出面はＹＬｕ層で、掘り込み面はＢＢ０層に達する。覆土からは地山の壁が崩れ堆積した後、ＦＢｂ・7層と堆積した様子が窺える。

2号土坑

Ｄ－8グリッドで検出された。長径64cm・深さ10cmを測る。形態はやや崩れた円形で浅い。検出面、掘り込み面ともにＹＬｕ層である。

3号土坑

Ｆ－9グリッドで検出された。長径100cm・深さ26cmを測る。形態は円形で、底部は東側にやや偏りをみせる。検出面はＹＬｕ層で、掘り込み面はＹＬ1層に達する。

4号土坑（写真図版5）

Ｅ－7グリッドで検出された。長径112cm・深さ16cmを測る。形態は正円形で浅い。底部は平らだが壁の立ち上がりは急である。検出面、掘り込み面ともにＦＢｂ層である。

5号土坑

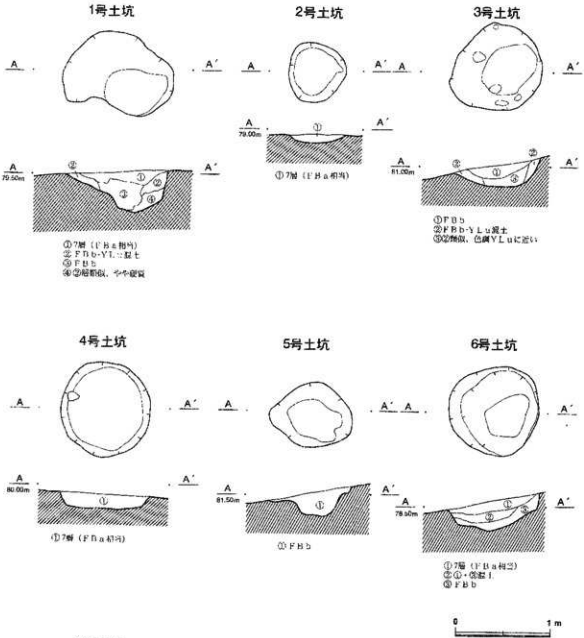
Ｆ－9グリッドで検出された。長径88cm・深さ26cmを測る。形態は楕円形で、断面は先の開いたＵ字形を呈する。検出面はＹＬｕ層で、掘り込み面はＹＬ1層である。

6号土坑

Ｄ－8グリッドで検出された。長径96cm・深さ32cmを測る。形態は円形で、底部は緩やかだが壁は急に立ち上がる。南側が7号土坑を切っている。検出面、掘り込み面ともにＹＬｕ層である。

7号土坑

Ｄ－8グリッド、6号土坑に隣接して検出された。長径は6号土坑によって切られているため、推定で94cm・深さ21cmを測る。形態は長円形を呈すると思われ、断面は不定形なＵ字形である。検出面、掘り込み面ともにＹＬｕ層である。覆土（ＦＢｂ層）から縄文土器片1点（Ｐ450）が検出した。胎土は早期条痕文系に似るが、磨耗の激しい小片のため型式・文様などは不明で、時期なども不明である。



<土坑計測表>単位cm

	最大径	最大深		最大径	最大深
1号	118	44	5号	88	26
2号	64	10	6号	96	32
3号	100	26	7号	94	21
4号	112	26			

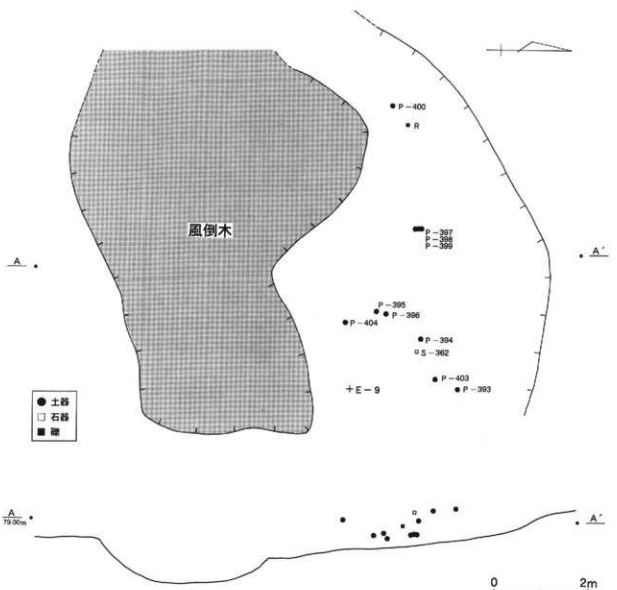
(7号土坑の径は推定)

第34図　縄文時代土坑1～7号

⑶ 竪穴状遺構（ＳＸ－１）

１区－１から１区－２のＤ－８・９および一部Ｅ－８・９グリッドにかけて検出された。１区－１の尾根から南西側１区－２に向い谷が落ち込み始める部分にあたる。ただし、西側は段差によって切られてしまい、南側は大きな風倒木によって撹乱されてしまっていた。検出面はＦＢｂ上面である。検出時の規模は、風倒木部分を除き、おおむね南北７ｍ、東西11ｍ、深さ0.75ｍを測る。全体の形態は東西方向に不定形な長円形で、断面は南側風倒木部分から北側に向い緩やかに立ち上がる。覆土は第７層黒色土（ＦＢａ相当）である。

覆土からは縄文早期後葉～末に比定される条痕文系の土器を中心に、石皿なども検出している。住居の可能性を考え、トレンチ調査を行ったが、床面や掘り込みなどは見られなかった。



第35図　竪穴状遺構（ＳＸ－１）

第2節　土　器

1区－1および1区－2、2区から325点が出土している。いずれも磨耗が激しく、破片資料が多い。その中で、時期・型式・文様・部位等わかる物は151点である。このうち83点を図化・掲載した。主体となるのは早期後葉から末および後期前葉である。これらをⅠ群～Ⅴ群に分類して報告する。

Ⅰ　群　（早期の土器）　1　類　早期前葉の土器
　　2　類　早期後葉～末の土器
　　3　類　早期末の土器
Ⅱ　群　（前期の土器）
Ⅲ　群　（中期の土器）　1　類　中期前葉の土器
　　2　類　中期後葉の土器
Ⅳ　群　（後期の土器）　1　類　後期前葉の土器
　　2　類　後期中葉の土器
　　3　類　大粒の輝石を含有する土器
Ⅴ　群　（晩期の土器）

Ⅰ群1類（第37図、1～4）

撚糸文4点、押型文1点が出土している。このうち撚糸文は1区－1、E－10グリッド内で出土位置が近接しており、胎土も類似していることから同一個体の可能性が高い。

Ⅰ群2類（第37図、5～18・第38図、1～5，7）

条痕文系・絡条体圧痕文・野島～鵜ケ島に分類される。

条痕文系は本遺跡の出土縄文土器中、最も多く出土した土器で、総点数に占める割合は約20%になる。肉厚で焼成の度合いは良好であるが、いずれも磨耗が激しく、部位なども明確な物は少ない。遺構からは竪穴状遺構（SX－1）から10点が出土している。

絡条体圧痕文は2区南端部から2点が出土している。その他にも2区南端部のFBa相当層からは早期末の土器が集中して検出された。

野島もしくは鵜ケ島と思われる個体は6点出土しているが、近接した出土状況、良く似た胎土等から同一個体となる可能性が高いと思われる。口縁を1点含むが、いずれも小片である。いずれも焼成は良好で外側に貝殻腹縁文、一部の内面に擦痕が見られる。

Ⅰ群3類（第38図、6）

貝殻腹縁文1点、擦痕文3点。他に、小片のため型式等不明の土器が2点出土している。

Ⅱ群（第39図、1～13）

諸磯C式に比定される土器群である。1区－1のE－9およびF－9グリッドから18点が出土した。小片が多く、接合関係が見られたのは1点だけである。薄手の土器で、焼成はやや軟質、胎土は金雲母を含むものが多く、色調は外面：暗褐色、内面：赤褐色を呈するものが多い。これらは出土位置等も近接し、同一個体になるものが多いと思われる。

Ⅲ群１類（第39図、14～16）

井戸尻式に比定される土器である。３点が出土しているが、このうち２点は小片の上磨耗が激しく、施文の判読によっては藤内Ⅱ式とも考えられる。

Ⅲ群２類（第39図、17～31）

加曽利Ｅ式に比定される土器７点と、曽利Ⅳ～Ⅴ式に比定される土器８点が出土している。１区－１から１区－２にかけての谷頭部を中心に検出されており、遺構からは竪穴状遺構（ＳＸ－１）から１点溝状遺構（ＳＤ－５）の底部硬質土から１点検出している。

Ⅳ群１類（第40図、１～15）

称名寺式および掘ノ内式に分類される。称名寺は土として１区－１谷頭部から、掘ノ内は１区－２谷部からそれぞれ各14点が出土している。このうち谷部から出土した掘ノ内式の粗製土器は、底部の網代目が良く残っており、かつ本遺跡出土の縄文土器としては唯一１個体として接合復原が行なえた。

Ⅳ群２類（第41図、１～５）

加曽利ＢⅠ式に比定される土器５点が出土している。第41図－１は明瞭な沈線を持つ口縁部で数少ない接合のできる破片の一組であった。

Ⅳ群３類（写真図版19）

いずれも肉厚で、焼成の状況・色調が掘ノ内式に良く似る。特に、胎土に大粒で黒色の輝石を含有する点が共通する。しかし、部位・型式などが不明なこと、文様も見られないから、Ⅳ群３類として独立して分類した。総点数41点は出土した縄文土器全体のうち約14％を占める。

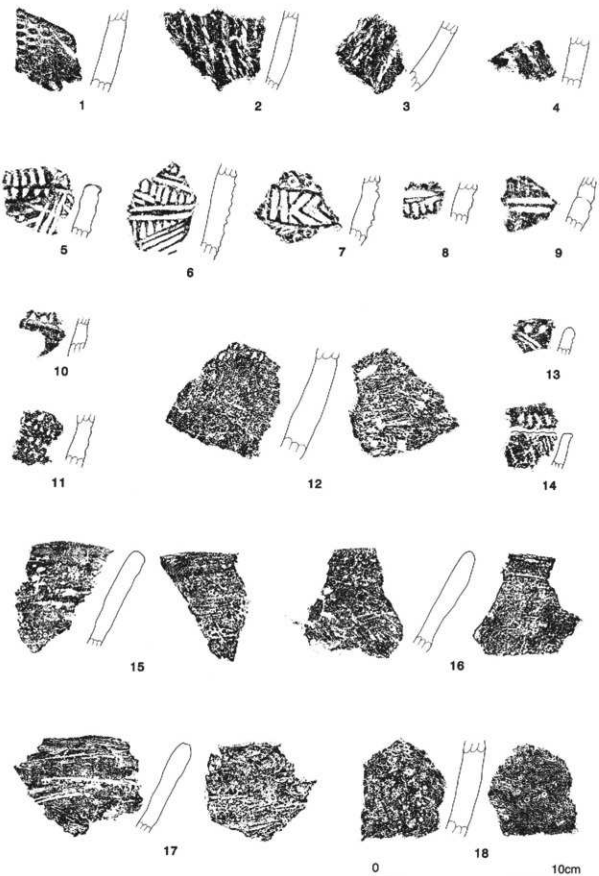
Ⅴ群（第41図、６～９）

薄手で明瞭な沈線を持つ点が共通する晩期の土器である。５点が出土しており、うち１点は、溝状遺構（ＳＤ－７）覆土から出土している。安行Ⅲか清水天王山に比定すると思われる。

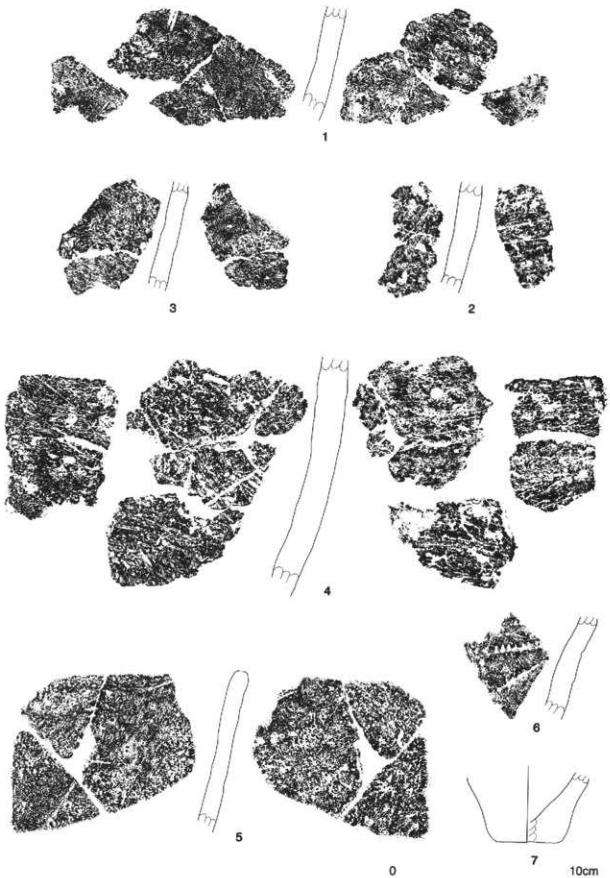
その他（第41図、10～13）

ⅠからⅤ群いずれにも属さない不明品３点と土製円盤１点を掲載した。

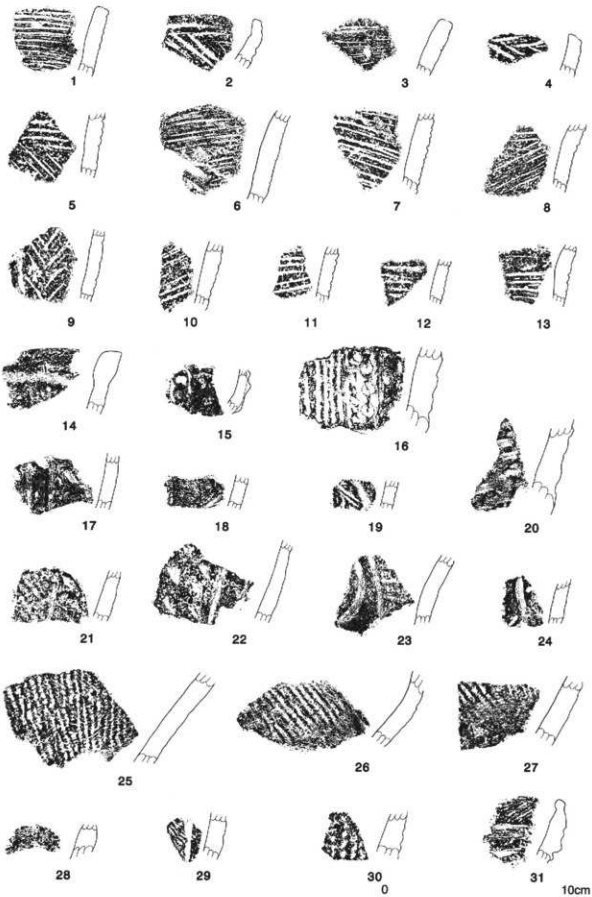
第36図　縄文土器分布図



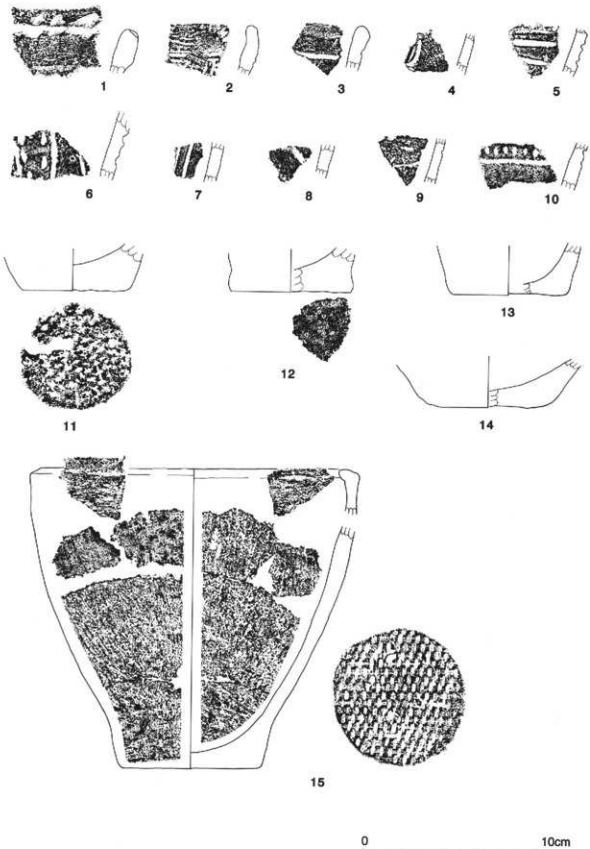
第37図　縄文土器(1) Ⅰ群1・2・3類



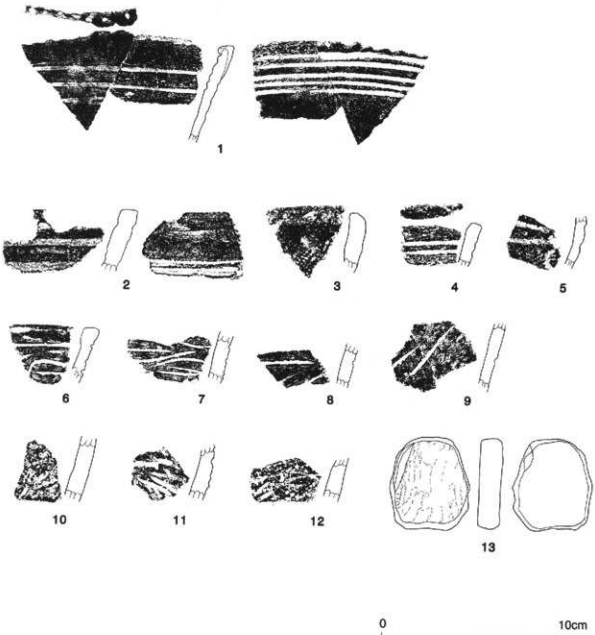
第38図　縄文土器(2) Ⅰ群3類



第39図　縄文土器(3) Ⅱ群・Ⅲ群1・2類



第40図　縄文土器(4) Ⅳ群1類



第41図　縄文土器 ⑸ Ⅳ群２・３類・Ⅴ群・他

表5　縄文時代の土器観察表(1)

図版番号 遺物番号	区 ｸﾞﾘｯﾄﾞ 層位・遺構	時期 土器様式	文様 胎土 胎土色調	焼成 重量 (g)	備考
第37図 1	1－2	早期前葉	外面：押型文（楕円）　内面：繊維痕明瞭	良好	
516	B-7	押型文系	砂粒（小粒）少量、輝石微量、長石微量、石英微量含む、繊維痕あり。	18.7	
	7		外面：にぶい黄橙10YR6/3 内面：橙色5YR6/6		
第37図 2	1	早期前葉	外面：撚糸文	良好	
241	E-10	撚糸文系	砂粒、輝石少量、長石微量、石英少量含む。	18.2	
	3		外面：橙色5YR6/6 内面：にぶい黄褐色10YR4/3		
第37図 3	1	早期前葉	外面：撚糸文	良好	
292	E-10	撚糸文系	石英微量含む。	15.1	
	FBb		外面：橙色5YR6/6 内面：にぶい黄橙10YR6/4		
第37図 4	1	早期前葉	外面：撚糸文	良好	
293	E-10	撚糸文系	砂粒、輝石微量、石英微量含む。	10.9	
	FBb		外面：橙色5YR6/6 内面：にぶい黄褐色10YR5/3		
第37図 5	1	早期後葉～末	口縁、外面：貝殻腹縁文	良好	
362	E-8	野島式～鵜ヶ島	砂粒（大粒）輝石微量、長石微量、石英含む、繊維痕あり。	12.1	
	7		外面：明赤褐色5YR5/6 内面：にぶい褐色7.5YR5/4		
第37図 6	1－2	早期後葉～末	外面：貝殻腹縁文　内面：擦痕	良好	
428	D-7	野島式～鵜ヶ島	砂粒少量、輝石微量、長石微量、石英含む、繊維痕あり。	23.8	
	7		外面：明赤褐色5YR5/8 内面：明赤褐色2.5YR5/6		
第37図 7	1－2	早期後葉～末	外面：貝殻腹縁文　内面：擦痕	良好	
559	S-6	野島式～鵜ヶ島	砂粒（小粒）少量、輝石微量、長石微量、石英含む、繊維痕あり。	12.6	
	7		外面：にぶい赤褐色2.5YR4/8 内面：にぶい赤褐色5YR4/3		
第37図 8	1	早期後葉～末	外面：貝殻腹縁文	良好	
375	D-8	野島式～鵜ヶ島	砂粒（大粒）少量、輝石微量、長石微量、石英含む、繊維痕あり。	5.7	
	7		外面：明赤褐色2.5YR5/8 内面：明赤褐色5YR5/6		
第37図 9	1	早期後葉～末	外面：貝殻腹縁文	良好	
342	E-9	野島式～鵜ヶ島	砂粒少量、輝石微量、石英少量含む。	10.2	
	7		外面：橙色5YR6/6 内面：橙色5YR6/8		
第37図 10	1	早期後葉～末	外面：貝殻腹縁文	良好	
335	E-8	野島式～鵜ヶ島	砂粒（大粒）輝石、石英多量、長石微量含む、繊維痕あり。	4.5	
	7		外面：明褐色7.5YR5/6 内面：にぶい褐色7.5YR5/4		
第37図 11	2	早期後葉～末	外面：絡条体圧痕文	良好	
164	G-3	絡条体圧痕文系	砂粒（大粒）輝石微量、石英少量含む、繊維痕あり。	10.3	
	FBb相当		外面：明赤褐色 内面：にぶい赤褐色5YR4/4		

表5　縄文時代の土器観察表(2)

図版番号 遺物番号	区 ｸﾞﾘｯﾄﾞ 層位・遺構	時期 土器様式	文様 胎土 胎土色調	焼成 重量 (g)	備考
第37図 12	2	早期後葉～末	外面：絡条体圧痕文　内面：擦痕？	良好	
180	G-3	絡条体圧痕文系	砂粒（大粒）輝石微量、石英少量含む、繊維痕あり。	49.2	
	FBb相当		外面：明赤褐色5YR5/6 内面：橙色　5YR6/6		
第37図 13	2	早期末	外面：条痕　口端：刻目	良好	
289-8	-	不明	砂粒、輝石少量含む。	3.3	
	撹乱		内外面：橙色5YR6/6		
第37図 14	1	早期末	外面：条痕　口端：刻目	良好	
333	F-8	不明	砂粒含む、繊維痕あり。	4.1	
	FBb		内外面：明赤褐色5YR5/6		
第37図 15	1－2	早期末	内外面：擦痕	良好	波状口縁
442	D-7	早期条痕文系	砂粒（大粒）多量、安山岩微量含む、繊維痕あり。	25.4	
	7		内外面：橙色7.5YR6/6		
第37図 16	1－2	早期末	内外面：擦痕	良好	波状口縁
557	R-9	早期条痕文系	砂粒多量、安山岩少量含む、繊維痕あり。	30.3	
	7		内外面：明赤褐色5YR5/6		
第37図 17	1－2	早期末	内外面：擦痕	良好	波状口縁
410	D-7	早期条痕文系	砂粒、安山岩微量含む、繊維痕あり。	37.1	
	FBb		内外面：橙色５YR６／６		
第37図 18	1	早期後葉～末	内面：擦痕	良好	
401	D-8	早期条痕文系	砂粒（大粒）輝石少量、長石少量、石英微量含む、繊維痕あり。	35.6	
	7		外面：明赤褐色2.5YR5/6 内面：暗褐色7.5YR3/3		
第38図 1	1	早期後葉～末	内面：擦痕	良好	
400 483	D-8 D-9	早期条痕文系	砂粒、輝石微量、石英少量含む、繊維痕あり	28.8	
	FBb SX-1		外面：橙色5YR6/6 内面：灰黄褐色10YR6/2		
第38図 2	2	早期後葉～末	内面：擦痕	良好	
003	F-4	早期条痕文系	砂粒、輝石微量、石英少量含む、繊維痕あり	31.2	
	FBb		外面：明赤褐色5YR5/6 内面：にぶい黄褐色10YR5/3		
第38図 3	1－2	早期後葉～末	内面：擦痕	良好	
458 459	D-8	早期条痕文系	砂粒（大粒）輝石微量、長石少量、石英少量含む、繊維痕あり。	33.1	
	7 SX-1		外面：明赤褐色2.5YR5/8 内面：灰黄褐色10YR5/2		
第38図 4	2	早期後葉～末	内面：擦痕	良好	
174 182 183 184	F-4 G-3 G-4	早期条痕文系	砂粒（大粒）輝石微量、長石微量、石英少量含む、繊維痕あり。	182.9	
186 190 191	FBb相当 表土		外面：橙色5YR6/6 内面：にぶい褐色7.5YR5/4		
第38図 5	1－2	早期後葉～末	外内面：不明	やや軟質	
517	B-7	早期条痕文系	砂粒（大粒）輝石微量、長石少量、石英少量含む、繊維痕あり。	88.3	
	7		外面：明黄褐色10YR6/6 内面：橙色7.5YR6/8		

表5　縄文時代の土器観察表(3)

図版番号 遺物番号	区 ｸﾞﾘｯﾄﾞ 層位・遺構	時期 土器様式	文様 胎土 胎土色調	焼成 重量 (g)	備考
第38図 6 176	2 G-3 FBb相当	早期末 貝殻腹縁文系	外面：貝殻腹縁文　内面：擦痕 砂粒多量、安山岩微量含む、繊維痕あり。 内外面：明赤褐5YR5/6	良好 23.8	打越式類似
第38図 7 008 009 029-1	3 K-20 礫層直上	早期後葉～末 早期条痕文系	不明 砂粒（大粒）輝石微量、石英微量含む、繊維痕あり。 外面：明赤褐色2.5YR5/6 内面：灰褐色7.5YR4/2	良好 37.6	底径:(3.3)cm
第39図 1 365	1 E-9 7	前期 諸磯C	外面：集合条線　内面：ナデ 砂粒、金雲母多量含む。 外面：暗褐色7.5YR3/3 内面：にぶい黄褐色10YR4/3	やや軟質 14.7	凝口縁
第39図 2 343	1 F-9 FBb	前期 諸磯C	外面：集合条線　内面：ナデ 口縁に爪跡？ 砂粒多量、金雲母含む。 外面：赤褐色5YR4/8 内面：暗褐色7.5YR3/3	やや軟質 9.3	
第39図 3 346	1 E-9 7	前期 諸磯C	外面：集合条線　内面：ナデ 砂粒多量、金雲母含む。 外面：暗褐色5YR3/6 内面：褐色　7.5YR4/6	やや軟質 9.0	凝口縁
第39図 4 345	1 E-9 7	前期 諸磯C	外面：集合条線　内面：ナデ 砂粒多量、金雲母含む。 外面：黒褐色10YR2/3 内面：暗褐色7.5YR3/4	やや軟質 5.0	
第39図 5 329-1	1 F-8 撹乱	前期 諸磯C	外面：集合条線　内面：ナデ 砂粒多量、金雲母含む。 外面、黒褐色10YR3/2 内面：赤褐色2.5YR4/6	やや軟質 11.1	
第39図 6 347	1 F-9 7	前期 諸磯C	外面：集合条線　内面：ナデ 砂粒多量、金雲母含む。 外面：赤褐色5YR4/4 内面：褐色10YR4/6	やや軟質 21.3	
第39図 7 313	1 F-9 3	前期 諸磯C	外面：集合条線　内面：ナデ 砂粒多量、金雲母含む。	やや軟質 17.0	
第39図 8 259	1 F-9 3	前期 諸磯C	外面：集合条線　内面：ナデ 砂粒多量、金雲母少量含む。 外面：暗褐色7.5YR3/3 内面：赤褐色2.5YR4/6	やや軟質 11.6	
第39図 9 321-3	1 E-9 3	前期 諸磯C	外面：矢羽状沈線　内面：ナデ 砂粒多量、輝石、カクセン石微量含む。 外面：明赤褐色5YR5/6 内面：にぶい黄橙10YR6/4	良好 12.1	
第39図 10 258	1 F-9 3	前期 諸磯C	外面：集合条線　内面：ナデ 砂粒多量、金雲母少量含む。 外面：暗褐色7.5YR3/3 内面：赤褐色2.5YR4/6	やや軟質 7.2	
第39図 11 314	1 F-9 3	前期 諸磯C	外面：集合条線　内面：ナデ 砂粒、金雲母を含む。 外面：褐色7.5YR4/4 内面：赤褐色5YR4/6	やや軟質 5.5	

表5　縄文時代の土器観察表 (4)

図版番号 遺物番号	区 ｸﾞﾘｯﾄﾞ 層位・遺構	時期 土器様式	文様 胎土 胎土色調	焼成 重量 (g)	備考
第39図 12 339	1 E-9 7	前期 諸磯C	外面：集合条線　内面：ナデ? 砂粒多量、金雲母含む。 外面：暗褐色　7.5YR3/3 内面：赤褐色　7.5YR4/6	やや軟質 4.4	
第39図 13 327-1	1 E-9 3	前期 諸磯C	外面：集合条線　内面：ナデ？ 砂粒多量、金雲母含む。 外面：黒褐色　10YR3/2 内面：赤褐色　2.5YR4/6	やや軟質 8.6	
第39図 14 123	1 D-9 3	中期前葉 井戸尻 or 藤内Ⅱ	外面：横沈線、縦沈線文or綱文 砂粒（大粒）多量、輝石、カクセン石、長石少量、石英微量含む。 外面：明赤褐色5YR5/6 内面：にぶい黄橙色10YR6/4	良好 20.7	
第39図 15 668	1－2 R-10 7	中期前葉 井戸尻？	外面：半肉彫 砂粒、輝石、石英少量含む。 外面：明赤褐色2.5YR5/8 内面：にぶい赤褐色5YR4/4	良好 5.1	
第39図 16 511	1－2 R-9 7	中期前葉 井戸尻Ⅲ	外面：半肉彫、縦平行沈線、懸垂文？ 砂粒（大粒）輝石少量、長石少量、石英少量含む。 外面：橙色5YR6/6 内面：明赤褐色2.5YR5/6	良好 41.2	
第39図 17 325	1 F-10 FBb	中期後葉 曽利Ⅳ～Ⅴ	外面：沈線、列点文？ 砂粒、長石少量、石英少量含む。 外面：明赤褐色5YR5/6 内面：橙色7.5YR6/6	やや軟質 12.0	
第39図 18 446	1－2 D-8 SD-5	中期後葉 曽利Ⅳ～Ⅴ	外面：列点文？ 砂粒、輝石微量、石英微量含む。 外面：橙色7.5YR6/6 内面：にぶい黄褐色10YR5/4	良好 5.8	
第39図 19 405	1 D-8	中期後葉 曽利Ⅳ～Ⅴ	外面：並行沈線、沈線 砂粒、輝石微量、石英微量含む。 外面：橙色5YR6/6 内面：黒色10YR2/1	良好 4.2	
第39図 20 513	1－2 Q-9 7	中期後葉 曽利Ⅳ～Ⅴ	不明 砂粒（大粒）多量、金雲母微量、輝石少量、長石少量、石英少量含む。 外面：明赤褐色5YR5/6 内面：にぶい赤褐色2.5YR4/4	良好 19.4	
第39図 21 387	1 D-8 7	中期後葉 曽利Ⅳ～Ⅴ	外面：沈線・縄文LR? 砂粒多量、輝石少量、長石少量、石英少量含む。 外面：明赤褐色2.5YR5/6 内面：褐色7.5YR4/3	やや軟質 12.8	
第39図 22 324	1 F-10 FBb	中期後葉 曽利Ⅳ～Ⅴ	外面：沈線、列点文 砂粒（大粒）多量、輝石少量、長石少量、石英少量含む。 外面：明赤褐色5YR5/6 内面：黒褐色10YR3/2	やや軟質 19.2	

表5　縄文時代の土器観察表(5)

図版番号 遺物番号	区 ｸﾞﾘｯﾄﾞ 層位・遺構	時期 土器様式	文様 胎土 胎土色調	焼成 重量 (g)	備考
第39図 23	1	中期後葉	外面：沈線、ハの字文	やや軟質	
306	E-9	曽利Ⅳ～Ⅴ	砂粒、輝石少量、長石少量、石英微量含む。	17.7	
	4		外面：赤褐色2.5YR4/6 内面：暗赤褐色5YR3/3		
第39図 24	1	中期後葉	外面：沈線	良好	
377	D-8	曽利Ⅳ～Ⅴ	砂粒、石英微量含む。	5.9	
	7		外面：橙色7.5YR6/6 内面：明黄褐色10YR6/6		
第39図 25	1－2	中期後葉	外面：縄文LR	良好	
445	D-7	加曽利E	砂粒、輝石少量、石英微量含む。	49.1	
	7		外面：橙色5YR6/6 内面：にぶい黄褐色10YR5/4		
第39図 26	1－2	中期後葉	外面：縄文LR	良好	
485	D-8	加曽利E	砂粒（大粒）輝石微量含む。	31.4	
	4		外面：明赤褐色5YR5/6 内面：にぶい黄褐色10YR4/3		
第39図 27	1－2	中期後葉	外面：縄文LR	良好	
486	D-8	加曽利E	砂粒（大粒）輝石微量含む。	21.3	
	7		外面：明赤褐色5YR5/6 内面：にぶい黄橙10YR6/4		
第39図 28	1	中期後葉	外面：縄文？	良好	
330-1	E-9	加曽利E	砂粒、輝石微量、長石少量、石英少量含む。	8.9	
	7		外面：橙色7.5YR6/6 内面：にぶい黄橙10YR6/4		
第39図 29	1	中期後葉	外面：縄文LR、沈線	良好	
124	D-9	加曽利E Ⅲor Ⅳ	砂粒微量、長石微量含む。	6.3	
	3		外面：にぶい黄褐色 10YR5/4 内面：橙色7.5YR6/6		
第39図 30	1－2	中期後葉	外面：撚糸文	良好	
478	B-7	勝坂 or 加曽利E	砂粒（大粒）輝石少量、長石少量、石英少量含む。	9.1	
	7		外面：赤褐色2.5YR4/6 内面：明赤褐色5YR5/6		
第39図 31	1－2	中期後葉	外面：縄文RL?→ 条沈線	良好	
467	D-8	不明	砂粒少量、輝石少量、長石微量、石英微量含む。	8.5	
	7		外面：明赤褐色5YR5/6 内面：赤褐色5YR4/6		
第40図 1	1	後期前葉	外面：横沈線　口縁部：刻目	やや軟質	
352	E-9	称名寺	砂粒多量。輝石微量、長石少量、石英含む。	16.8	
	7		外面：橙色7.5YR6/6 内面：明黄褐色10YR7/6		
第40図 2	1－2	後期前葉	外面：条線文？　内面：指頭痕？	良好	
550	A-6	称名寺	砂粒、金雲母少量、輝石、長石少量、石英少量含む。	7.6	
	7		外面：明赤褐色5YR5/6 内面：赤褐色2.5YR4/6		
第40図 3	1	後期前葉	外面：横沈線	良好	
425	D-8	称名寺	石英微量含む。	6.4	
	7		内外面：浅黄橙色7.5YR8/6		

表5　縄文時代の土器観察表(6)

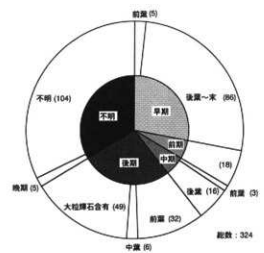
図版番号 遺物番号	区 ｸﾞﾘｯﾄﾞ 層位・遺構	時期 土器様式	文様 胎土 胎土色調	焼成 重量 (g)	備考
第40図 4 125	1 D-9 3	後期前葉 称名寺	外面：縄文→沈線区画　内面：ナデ？ 輝石少量、長石微量、石英含む。 外面：橙色7.5YR6/6 内面：橙色7.5YR7/6	良好 3.8	
第40図 5 344	1 E-9 7	後期前葉 称名寺	外面：沈線 砂粒、金雲母少量、輝石微量、長石微量、石英含む。 外面：灰黄褐色10YR5/2 内面：にぶい黄橙10YR4/3	良好 4.5	器面の剥落 が激しい
第40図 6 673	1－2 R-8 7	後期前葉 称名寺	外面：沈線、列点文 砂粒（大粒）、輝石微量、長石少量、石英含む。 外面：黒褐色7.5YR3/1 内面：赤褐色5YR4/6	良好 13.1	
第40図 7 328-3	1 D-10 4	後期前葉 称名寺	外面：沈線　内面：ナデ？ 砂粒微量、輝石微量、長石微量、石英含む。 外面：橙色7.5YR6/6 内面：橙色7.5YR7/6	良好 2.7	
第40図 8 426	1－2 D-9 4	後期前葉 称名寺	外面：磨き、沈線 砂粒（大粒）、輝石微量、長石微量、石英微量含む。 外面：褐色7.5YR4/3 内面：明赤褐色5YR5/6	良好 3.7	
第40図 9 122	1 D-9 3	後期前葉 称名寺	外面：沈線区画、列点文？　内面：ナデ 砂粒、輝石少量、長石多量、石英少量含む。 外面：灰黄褐色4/2 内面：褐色7.5YR4/3	良好 4.5	
第40図 10 582	1－2 S-5 7	後期前葉 称名寺	外面：沈線区画、刺突文？ 砂粒多量、金雲母微量、輝石、長石少量、石英少量含む。 外面：橙色7.5YR6/6 内面：明黄褐色10YR7/6	良好 10.4	
第40図 11 389	1 E-8 7	不明 不明	底部：網代痕 砂粒少量、長石微量、石英微量含む。 外面：にぶい黄褐色10YR5/3 内面：にぶい黄橙10YR7/4	良好 89.5	底径:5.0cm
第40図 12 278	1 E-9 4	不明 不明	底部：網代痕 砂粒（大粒）多量、輝石少量、長石微量含む 外面：明赤褐色2.5YR5/8 内面：橙色7.5YR6/6	良好 24.4	底径:(6.3)cm
第40図 13 192	2 F-4 FBb相当	不明 不明	内外面：不明 砂粒多量、輝石多量、長石少量、石英少量含む。 外面：橙色5YR6/6 内面：にぶい黄褐色10YR5/2	やや軟質 69.5	底径:(6.0)cm
第40図 14 675-1	1－2 T-7 表土	不明 不明	不明 砂粒（大粒）少量、輝石微量、長石微量、石英微量含む。 内外面：橙色2.5YR6/8	良好 34.0	底径:(5.0)cm

表5　縄文時代の土器観察表(7)

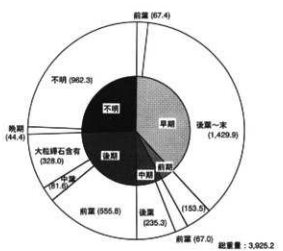
図版番号 遺物番号	区 ｸﾞﾘｯﾄﾞ 層位・遺構	時期 土器様式	文様 胎土 胎土色調	焼成 重量 (g)	備考
第40図 15	1	後期前葉	内外面：縦擦痕　底部：網代痕	良好	口径:17.5cm
353 370 571	E-8 S-5	堀ノ内	砂粒（大粒）多量、輝石多量、長石少量、石英少量含む。	468.8	器高:15.8cm 底径:7.5cm
583 626			内外面：明赤褐色2.5YR5/6		
627 628	KU				
629 638	FBb				
639 640	7				
641 642					
643 644					
645 646					
第41図 1	1－2	後期中葉	外面：磨き→条沈線　内面：磨き→条沈線	良好	波状口縁
409 443	D-7	加曽利BⅠ	砂粒、石英微量含む。	32.1	
	7		外面：にぶい褐色7.5YR5/3 内面：明黄褐色10YR7/6		
第41図 2	1－2	後期中葉	外面：条沈線　内面：条沈線	良好	
661	Q-7	加曽利BⅠ	砂粒（大粒）多量、金雲母、輝石少量、長石多量、石英含む。	24.3	
	撹乱		外面：明赤褐色2.5YR5/6 内面：明赤褐色5YR5/6		
第41図 3	1	後期中葉	外面：縄文RL	良好	
041	D-10	不明	砂粒、輝石少量、長石、石英含む。	10.2	
	3		外面：にぶい橙色7.5YR6/4 内面：橙色7.5YR6/6		
第41図 4	1－2	後期中葉	外面：条沈線	良好	
573	S-5	加曽利BⅠ	砂粒（大粒），輝石微量、長石多量、石英多量含む。	9.3	
	KU		外面：にぶい黄褐色10YR5/4 内面：灰黄褐色10YR4/2		
第41図 5	1－2	後期中葉	外面：沈線、縄文RL？（魔消縄文）？	良好	
669	R-9	加曽利BⅠ	砂粒、輝石少量、長石少量、石英含む。	5.7	
	7		外面：灰黄色2.5YR7/2 内面：にぶい黄橙6/4		
第41図 6	1	晩期	外面：巴三叉状沈線文　内面：ナデ	良好	
336	E-9	安行Ⅲ	砂粒、金雲母微量、長石少量、石英少量含む	10.0	
	7	or 清水天王山	外面：にぶい黄橙10YR6/4 内面：灰黄褐色10YR5/2		
第41図 7	1－2	晩期	外面：三叉状沈線文	良好	
512	Q-9	安行Ⅲ or	砂粒（大粒）多量、金雲母微量、輝石少量、長石少量、石英多量含む。	11.5	
	7	清水天王山	外面：橙色7.5YR6/6 内面：明赤褐色5YR5/6		
第41図 8	1－2	晩期	外面：矢羽状沈線文	良好	
427	D-8	安行 Ⅲ	砂粒、金雲母微量、長石少量、石英少量含む	7.3	
	7	or 清水天王山	外面：にぶい黄橙色10YR6/4 内面：灰黄褐色10YR5/2		
第41図 9	1－2	晩期	外面：矢羽状沈線文	良好	
472 473	A-7 C-7	安行Ⅲ	砂粒、金雲母微量、長石少量、石英少量含む	15.6	
	7 SD-7	or 清水天王山	外面：明赤褐色 5YR5/6 内面：にぶい黄橙10YR5/4		

表5　縄文時代の土器観察表 (8)

図版番号 遺物番号	区 ｸﾞﾘｯﾄﾞ 層位・遺構	時期 土器様式	文様 胎土 胎土色調	焼成 重量 (g)	備考
第41図 10	1－2	不明	不明	良好	
552	A-6		砂粒少量、輝石微量、長石微量、石英微量含む。	9.4	
	7		外面：橙色5YR6/6 内面：橙色5YR6/6		
第41図 11	1－2	晩期？	外面：条沈線	良好	
518	R-9	不明	砂粒（大粒）多量、輝石微量、長石少量、石英少量含む。	8.0	
	7		外面：暗褐色7.5YR3/3 内面：にぶい赤褐色5YR4/4		
第41図 12	2	不明	外面：縄文RL	良好	
286-1	-		砂粒少量、石英微量含む。	8.9	
	撹乱		外面：明黄褐色7/6 内面：黒色10YR2/1		
第41図 13	2	土器転用	外面：縄文→研磨　内面、側面：研磨	良好	長軸：4.9cm
660	-	土製円盤	砂粒（大粒）少量、輝石少量、石英微量含む	36.3	短軸：4.3cm
	表土		内外面：にぶい黄橙10YR6/3		厚　：1.2cm



縄文時代の土器組成（破片数比）



縄文時代の土器組成（重量比）

第3節　石　器

縄文時代の包含層と考えられる第7層黒色土（ＦＢａ相当）と第8層ＦＢｂ層からの出土石器は、総点数204点である。ただしこの中には、ＹＬ層から検出した有舌尖頭器や大ぶりの槍先形尖頭器など、ＹＬ層出土の石器で、縄文時代草創期の石器であると判断できるものも含まれている。

器種・石材・産地（黒曜石のみ）の詳細は表6のとおりである。それぞれの点数は少ないが、器種ごとに石材を使い分ける傾向が見受けられる。

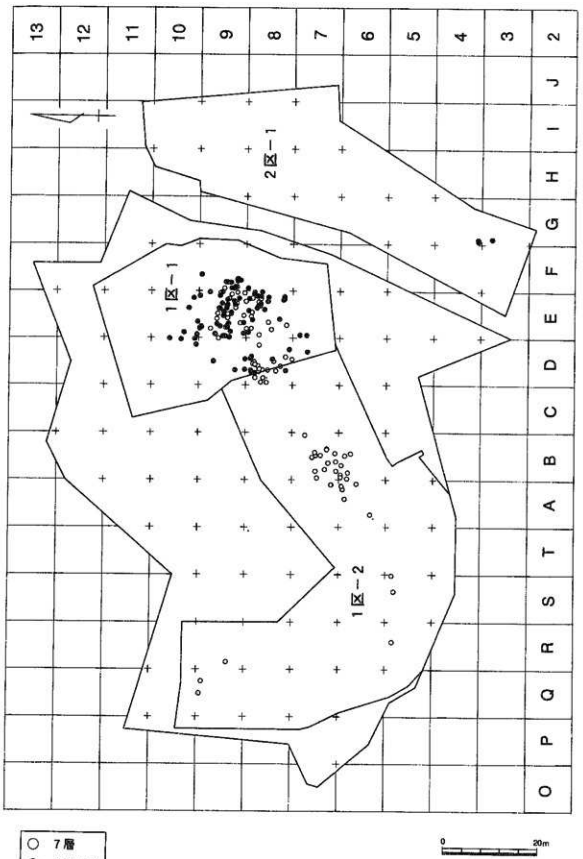
全体の出土状況は、包含層の残る1区－1・1区－2に集中する。その中でも、Ｅ－8・9グリッドおよびＤ－8グリッド付近、そして第7層黒色土からだけだがＢ－7グリッド付近の三ヶ所に集中する状況が窺える。ただし、明確なブロックを形成する程のまとまりや石器製作址といった遺構は見られない。

このような石器の集中する状況は、各区の土層堆積・旧石器の稿で触れたように、谷地形と上層の堆積によって、遺物の集中する三つの地点が形成されたと考えられる。

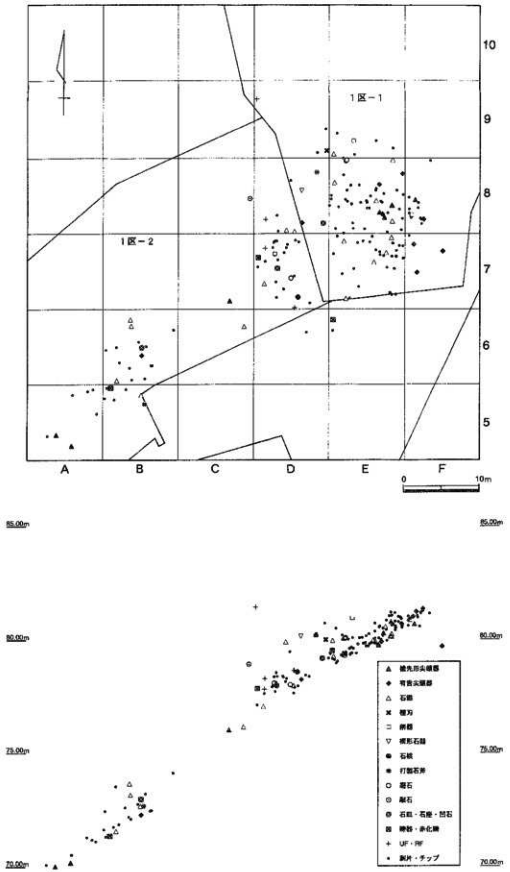
同様なことは縄文土器の出土状況からも窺える。（第36図）ただし、早期の土器をまとまって検出した2区南端からは、石器の検出は確認できなかった。

表6　縄文時代の石器組成

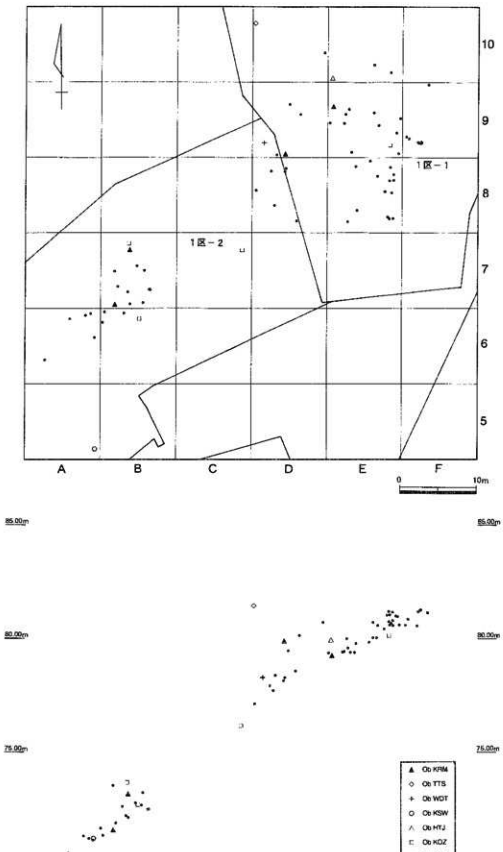
		槍先形尖頭器	有舌尖頭器	石鏃	削器	楔形石器	打製石斧	石核	磨石	敲石	石皿	凹み石	石錘	礫器	赤化礫	使用痕剥片	二次加工剥片	剥片	チップ	合計
黒曜石	霧ヶ峰			6																6
	鷲ヶ科															1				1
	和田峠																1			1
	柏峠			1																1
	畑宿			1																1
	神津島			6																6
	不明			1	1		1		1									58	5	67
ガラス質黒色安山岩		5	6	2												1		23		37
細粒安山岩		1	1			1								1			1	8		13
輝石安山岩									5	2	4	1	1	1	2					16
安山岩質溶岩									1											1
ホルンフェルス			2				1							1				19		23
デイサイト		1			1													4		6
粘板岩				6																6
流紋岩														1				5		6
緑色凝灰岩																		2		2
珪化凝灰岩																		2		2
チャート				2														3		5
赤玉石																		1		1
陶質碧玉																		1		1
砂岩							1													1
頁岩							1													1
合計		7	9	25	2	1	3	1	6	2	4	1	1	4	2	2	2	126	5	204



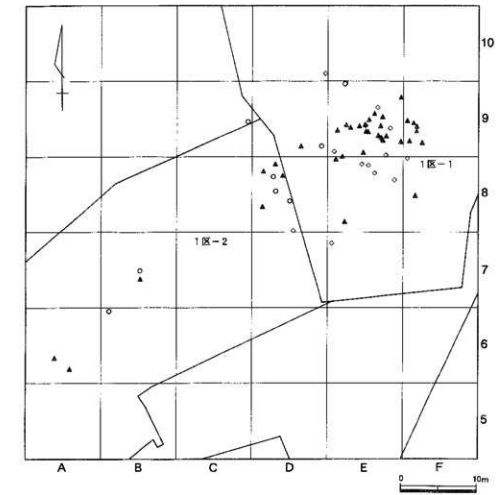
第42図　縄文時代石器分布図

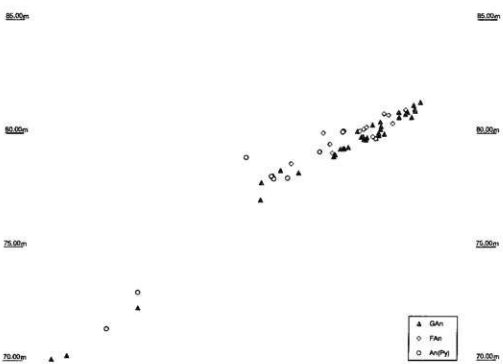


第43図　縄文時代石器分布図（器種別）

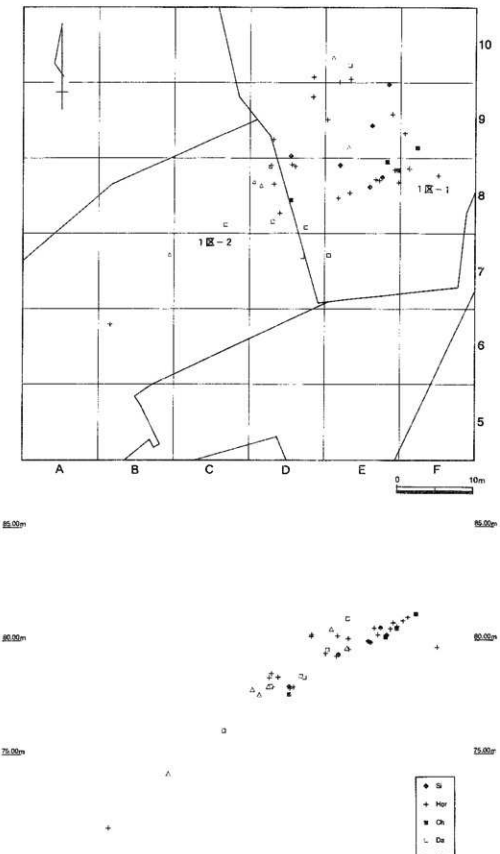


第44図　縄文時代石器分布図（黒耀石）





第45図　縄文時代石器分布図（安山岩）



第46図　縄文時代石器分布図（その他）

(1) 槍先形尖頭器（第47図、１～７）

縄文時代草創期に特徴的な槍先形尖頭器である。この時期の尖頭器は、安山岩や粘板岩などを利用した中形・大型の尖頭器が主体で、おそらくソフトハンマーを利用した直接打撃によって製作されるのが特徴である。土器の共伴はなかった。

６は槍先形尖頭器の製作剥片としたが、石鏃未製品の可能性もある。

(2) 有舌尖頭器（第48図、１～10）

(1) 槍先形尖頭器同様、縄文時代草創期に特徴的な石器である。有舌尖頭器は押圧剥離による成形加工で、桧林Ａ遺跡では側辺が鋸歯状になるものが特徴的である。側辺が鋸歯状になるものは２、３、５、６、７、９である。

１から６は大型で、おそらく同時期のものと思われる。

８は尖頭器としても良いが、大きさのバランスを考慮して有舌尖頭器とした。

10はいわゆる槍刃である。新潟県小瀬が沢洞窟遺跡に類例が多い。

(3) 石　鏃（第49図、１～22）

いくつかの特徴的な形態に、石材が結び付くことが観察された。

１から６は粘板岩の剥片を素材にしている。短い脚が内湾する独特の形態の石鏃である。早期の柔浪文系の土器を共伴することから、当該時期の遺物と考えて良いかもしれない。

７は五角形鏃である。石材は黒色チャートである。

８は７同様五角形鏃とも考えたが、それよりの石鏃未製品としたほうが良いと思われる。

９、10はＹＬＵ層出土の三角鏃である。丁寧で、大きな押圧剥離と均整のとれた形態は、草創期の石鏃としても良いかもしれない。また10は特に、鋸歯状の側辺を持つことより、有舌尖頭器との技術的な関連も推測される石器である。

11もＹＬＵ層の出土である。短いえぐりに大きな押圧剥離は、やはり草創期の石鏃としても良い石器である。石材は９・11がガラス質黒色安山岩、10は神津島産の黒曜石である。

12から20は縄文時代早期以降の石鏃である。

16は脚の端が平らになる鍬形鏃で、早期の撚糸式から早期後半にかけての時期の石器と思われる。その他はやや小形で、えぐりを脚で作る、縄文時代前期および中期の石鏃であろう。

21は石鏃の未製品である。

22は有茎鏃で、中部および関東地方では縄文時代後期以降に出現する形態である。特に25の形態は縄文時代晩期に特徴的である。

石材は17のチャート以外は黒曜石である。

(4) 打製石斧（第50図、１～３）

いずれも偏平な素材の側辺に、直接打撃でハンマーを垂直に振りおろし、着柄のための刃潰し加工をしている。打製石斧の中で顕著な属性は、背面に自然面を残す素材を用いる場合と、素材の剥離面を利用する場合とがある。

１は素材の剥離面をそのまま利用する場合で、２、３は背面に自然面を大きく残す素材を利用する。

(5) 剥片石器（第51図、１～８）

１はガラス質安山岩の使用痕のある剥片である。主要剥離面は石の日によって大きく膨らんでいる。

2も信州産の黒耀石の使用痕のある剥片である。

3は素材に厚みがあるが、黒耀石の石鏃未製品である。正面右側辺に加工があり、先端部は加工で尖らせている。

4は黒耀石製の削器である。比較的大きな剥片を素材にして、その鋭い縁辺に微細な剥離痕がついている。

5は背面に礫面を残す剥片を素材にして、裏面に通常の剥離面で刃部を形成する削器である。

6は黒耀石の、7は細粒安山岩の二次加工剥片である。

7は細粒安山岩製の二次加工剥片である。横長剥片を素材にして、打面部を急角度剥離によって加工している。加工が成形のためなのか、刃の形成なのかは断定できない。石材の風化も激しい。

8は黒耀石製の楔形石器である。

(6) 礫　器（第52図、1～3）

1は偏平な礫に幅の広い加工をして、側辺に刃部を作る礫器である。

3は偏平な礫に急角度剥離の刃をつけた片刃礫器である。この剥離面から取られた剥片は、おそらく幅広で末端が階段状になる剥片で、さらに途中が折れている可能性が高い。石核とも見られるが、剥離される剥片が石器の素材になりにくいことから礫器として理解した。

石材は1が細粒安山岩、2が流紋岩、3がホルンフェルスである。

(7) 磨石・敲石・凹石・石座・石皿（第53図、1～4、第54図、1～6、第55図、1～2）

磨石（第53図、1～4、第54図、1、3）は、第53図1を除きいずれも輝石安山岩を用いている。第53図3、4は被熱による破損を受けている。第54図1は、竪穴状遺構（ＳＸ－1）から出土している。

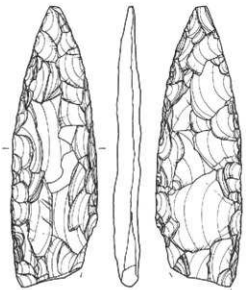
敲石（第54図、4、5）のうち4は磨石との複合石器である。5は溝状遺構（ＳＤ－2）から出土した。石材はどちらも輝石安山岩である。

凹石（第54図、2）も輝石安山岩を利用している。

石座（第54図、6）は、明確な磨面や敲きが見られないことから、石座とした。

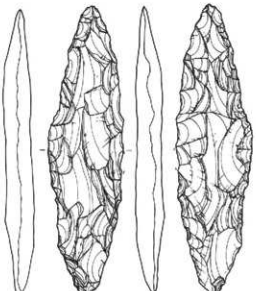
石皿（第55図、1、2）のうち1は、竪穴状遺構（ＳＸ－1）から出土している。2は形態が不整形だが、すり面が見られるため石皿とした。

石材は石座・石皿ともに輝石安山岩である。



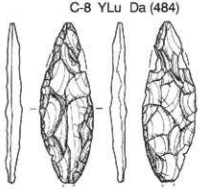
1

C-8 YLu Da (484)



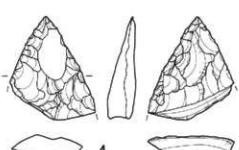
2

A-6 ST-2 GAn (500)



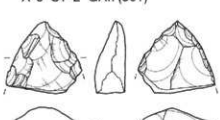
3

A-6 ST-2 GAn (501)



4

E-9 7層 FAn (152)

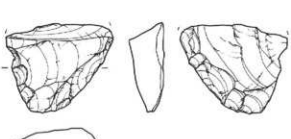


5

F-9 YLu GAn (288)

6

E-9 7層 GAn (159)

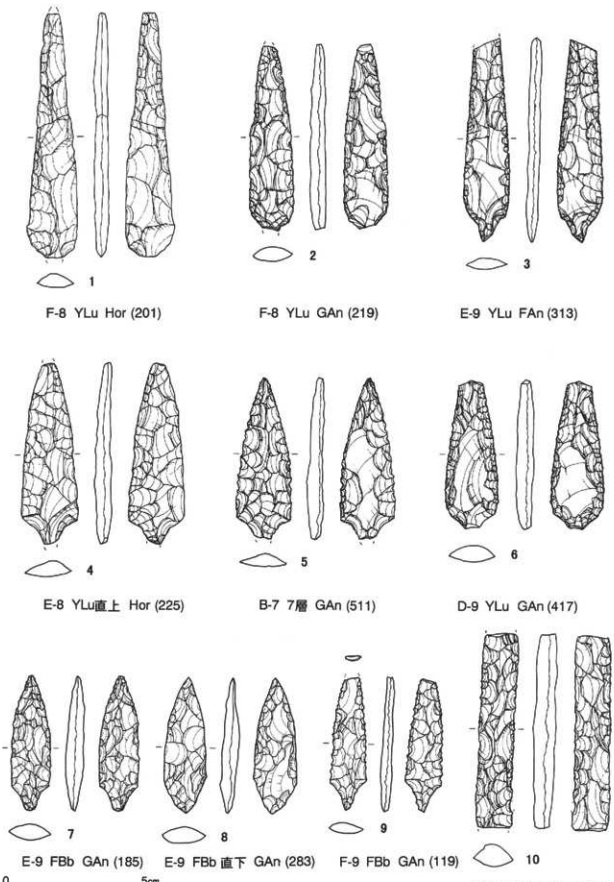


7

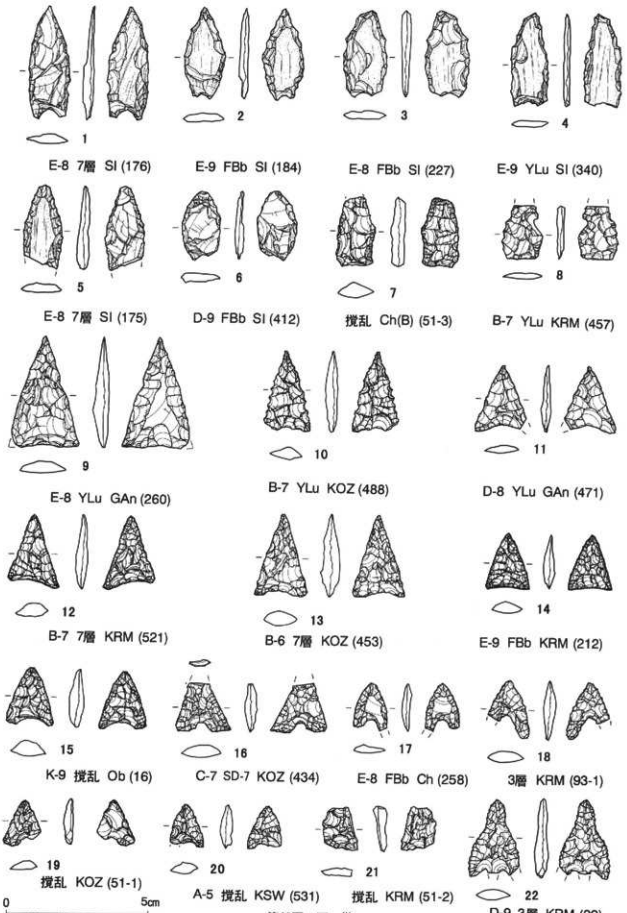
E-9 YLu GAn (274)

0 5cm

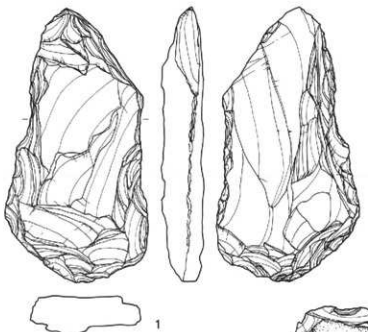
第47図 槍先形尖頭器



第48図　有舌尖頭器・植刃

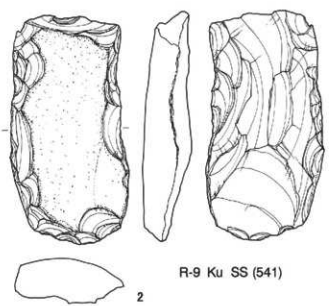

1
E-8 7層 SI (176)
2
E-9 FBb SI (184)
3
E-8 FBb SI (227)
4
E-9 YLu SI (340)
5
E-8 7層 SI (175)
6
D-9 FBb SI (412)
7
撹乱 Ch(B) (51-3)
8
B-7 YLu KRM (457)
9
E-8 YLu GAn (260)
10
B-7 YLu KOZ (488)
11
D-8 YLu GAn (471)
12
B-7 7層 KRM (521)
13
B-6 7層 KOZ (453)
14
E-9 FBb KRM (212)
15
K-9 撹乱 Ob (16)
16
C-7 SD-7 KOZ (434)
17
E-8 FBb Ch (258)
18
3層 KRM (93-1)
19
撹乱 KOZ (51-1)
20
A-5 撹乱 KSW (531)
21
撹乱 KRM (51-2)
22
D-9 3層 KRM (29)
0
5cm

第49図 石 鏃



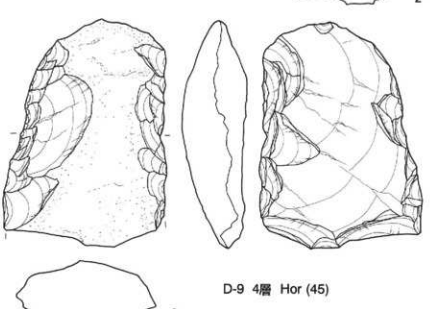
1

B-6 7層 Sh (479)



R-9 Ku SS (541)

2

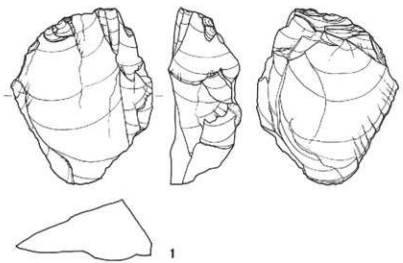


D-9 4層 Hor (45)

3

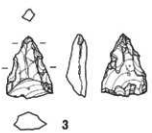
第50図 打製石斧

0 5cm

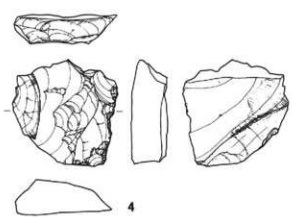


D-8 7層 GAn (440)

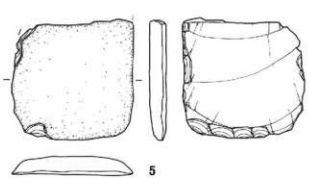
D-10 撹乱 TTS (49)



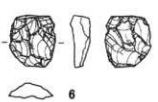
R-5 3層 KOZ (406)



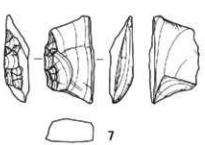
F-9 FBb Ob (163)



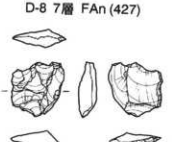
E-10 3層 Da (32)



D-9 SD-4 WDT (441)

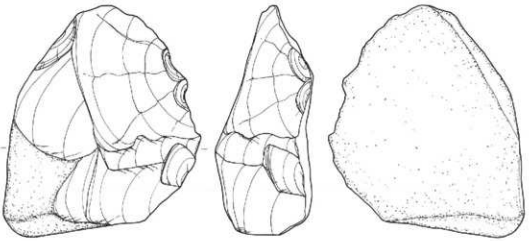


D-8 7層 FAn (427)



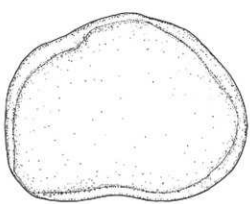
D-9 3層 Ob (28)

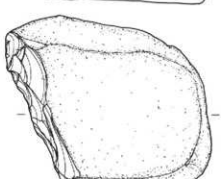
第51図 剥片石器

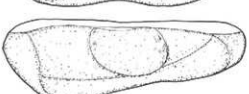


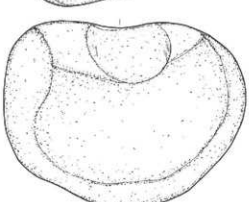
E-7 FBb FAn (250)

1

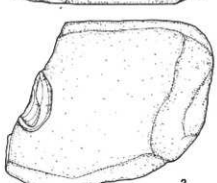








2



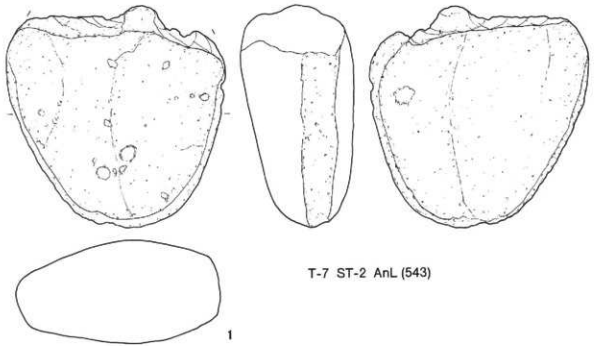
3

表土 Hor (10)

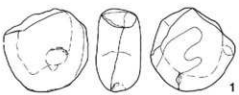
0 5cm

D-8 7層 Rhy (430)

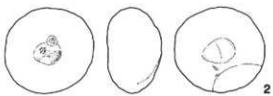
第52図 礫器・加工礫


T-7 ST-2 AnL (543)
1
D-8 7層 An(Py) (443)
2
E-9 FBb An(Py) (352)
3
E-9 FBb An(Py) (351)
4
0
5cm

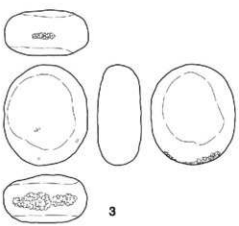
第53図 磨 石



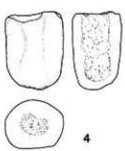
D-8 SX-1 FAn (429)



R-9 7層 An(Py) (528)

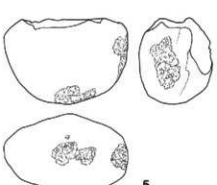


R-5 7層 An(Py) (539)

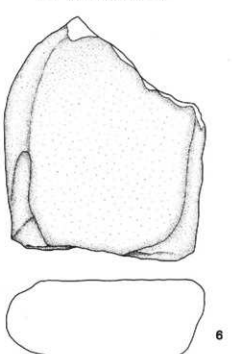


G-4 FBb An(Py)(6)

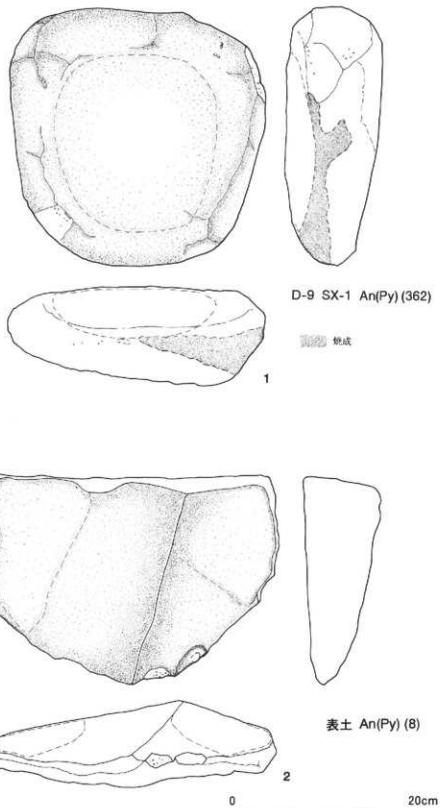
B-7 7層 An(Py) (518)



C-9 SD-2 An(Py) (428)



第54図　磨石・敲石・凹石・石座



第55図　石　皿

表7　縄文時代の石器計測表 (1)

図版No.	器種	層位・遺構	遺物No.	石　材	産地	縦長mm	横長mm	厚mm	重量g	備　考
47-01	槍先形尖頭器	YLu	S- 484	デイサイト		97	30	7.7	27.1	
47-02	槍先形尖頭器	ST-2	S- 500	ガラス質黒色安山岩		105	26	9.3	25.4	
47-03	槍先形尖頭器	ST-2	S- 501	ガラス質黒色安山岩		56	19	5.3	5.0	
47-04	槍先形尖頭器	7	S- 152	細粒安山岩		42	30.5	10.0	6.4	
47-05	槍先形尖頭器	YLu	S- 288	ガラス質黒色安山岩		25.5	27	10.5	6.3	
47-06	槍先形尖頭器	7	S- 159	ガラス質黒色安山岩		31	20.5	5.0	2.1	
47-07	槍先形尖頭器	YLu	S- 274	ガラス質黒色安山岩		37	31	10.4	11.2	

図版No.	器種	層位・遺構	遺物No.	石　材	産地	縦長mm	横長mm	厚mm	重量g	備　考
48-01	有舌尖頭器	YLu	S- 201	ホルンフェルス		86	18	4.0	7.4	
48-02	有舌尖頭器	YLu	S- 219	ガラス質黒色安山岩		65	15	3.5	6.3	
48-03	有舌尖頭器	YLu	S- 313	細粒安山岩		72	16	3.6	5.5	
48-04	有舌尖頭器	YLu直上	S- 225	ホルンフェルス		63	20	5.3	7.3	
48-05	有舌尖頭器	7	S- 511	ガラス質黒色安山岩		56	19	5.4	5.8	
48-06	有舌尖頭器	YLu	S- 417	ガラス質黒色安山岩		51	19	4.6	6.0	
48-07	有舌尖頭器	FBb	S- 185	ガラス質黒色安山岩		47.5	14	6.0	3.7	
48-08	有舌尖頭器	FBb 直下	S- 283	ガラス質黒色安山岩		47.5	15	6.0	4.1	
48-09	有舌尖頭器	FBb	S- 119	ガラス質黒色安山岩		47	13.5	4.0	2.2	
48-10	槍刃	FBb	S- 326	細粒安山岩		68	13	6.3	7.3	

図版No.	器種	層位・遺構	遺物No.	石　材	産地	縦長mm	横長mm	厚mm	重量g	備　考
49-01	石鏃	7	S- 176	粘板岩		40	15	3.5	1.6	
49-02	石鏃	FBb	S- 184	粘板岩		32	14.5	3.0	1.6	
49-03	石鏃	FBb	S- 227	粘板岩		30.5	16	3.0	1.7	
49-04	石鏃	YLu	S- 340	粘板岩		33	13.5	2.0	1.1	
49-05	石鏃	7	S- 175	粘板岩		30	14	4.0	1.7	
49-06	石鏃	FBb	S- 412	粘板岩		24	14	3.0	1.0	
49-07	石鏃	撹乱	S- 51-3	黒色チャート		24	13	4.1	1.6	五角形
49-08	石鏃	YLu	S- 457	黒耀石	霧ヶ峰	19	14	3.0	0.7	未製品
49-09	石鏃	YLu	S- 260	ガラス質黒色安山岩		39	24	5.5	3.3	
49-10	石鏃	YLu	S- 488	黒耀石	神津島	28	16	3.7	1.2	
49-11	石鏃	YLu	S- 471	ガラス質黒色安山岩		23.5	18	3.5	0.8	
49-12	石鏃	7	S- 521	黒耀石	霧ヶ峰	24	18	3.8	1.1	
49-13	石鏃	7	S- 453	黒耀石	神津島	29	19	6.5	2.2	
49-14	石鏃	FBb	S- 212	黒耀石	霧ヶ峰	19	15	4.0	0.7	
49-15	石鏃	撹乱	S- 16	黒耀石		20	15	4.5	1.1	
49-16	石鏃	SD-7	S- 434	黒耀石	神津島	17.5	19.5	4.0	1.2	
49-17	石鏃	FBb	S- 258	チャート		16.5	12	3.0	0.5	
49-18	石鏃	3	S- 93-1	黒耀石	霧ヶ峰	21	15	4.0	0.7	
49-19	石鏃	撹乱	S- 51-1	黒耀石	神津島	16	13	2.7	0.3	
49-20	石鏃	撹乱	S- 531	黒耀石	柏　峠	14	12	3.5	0.5	
49-21	石鏃	撹乱	S- 51-2	黒耀石	霧ヶ峰	16	11	4.0	0.7	未製品
49-22	有茎石鏃	3	S- 29	黒耀石	霧ヶ峰	28	18	5.0	1.6	

図版No.	器種	層位・遺構	遺物No.	石　材	産地	縦長mm	横長mm	厚mm	重量g	備　考
50-01	打製石斧	7	S- 479	頁岩		107	55	16.9	120.8	
50-02	打製石斧	KU	S- 541	砂岩		89	44	18.0	89.0	
50-03	打製石斧	4	S- 45	ホルンフェルス		80	57.5	22.0	108.8	

表7　縄文時代の石器計測表(2)

図版No.	器種	層位・遺構	遺物No.	石　材	産地	縦長mm	横長mm	厚mm	重量g	備　考
51-01	使用痕剥片	7	S-440	ガラス質黒色安山岩		62	50	21.8	54.3	
51-02	使用痕剥片	撹乱	S-49	黒耀石	蓼　科	15	7	4.0	0.5	
51-03	石鏃	3	S-406	黒耀石	神津島	22	16.5	7.0	1.7	未製品
51-04	削器	FBb	S-163	黒耀石		37	35	11.0	16.6	
51-05	削器	3	S-32	デイサイト		54	40	4.7	13.6	
51-06	二次加工剥片	SD-4	S-441	黒耀石	和田峠	18	16	5.5	1.7	
51-07	二次加工剥片	7	S-427	細粒安山岩		30	17	7.6	4.6	
51-08	楔形石器	3	S-28	黒耀石		20	19	6.0	1.8	

図版No.	器種	層位・遺構	遺物No.	石　材	産地	縦長mm	横長mm	厚mm	重量g	備　考
52-01	礫器	FBb	S-250	細粒安山岩		94	72	33.6	209.7	
52-02	礫器	7	S-430	流紋岩		90	70	32.2	291.2	
52-03	礫器	表土	S-10	ホルンフェルス		72	60	23.3	218.7	

図版No.	器種	層位・遺構	遺物No.	石　材	産地	縦長mm	横長mm	厚mm	重量g	備　考
53-01	磨石	ST-2	S-543	安山岩質溶岩		87	84	41.0	371.2	
53-02	磨石	7	S-443	輝石安山岩		88	58	31.6	175.7	
53-03	磨石	FBb	S-352	輝石安山岩		48	25	24.6	29.0	
53-04	磨石	FBb	S-351	輝石安山岩		50	35	20.4	36.2	

図版No.	器種	層位・遺構	遺物No.	石　材	産地	縦長mm	横長mm	厚mm	重量g	備　考
54-01	磨石	7	S-429	細粒安山岩		85	80	46.4	517.8	
54-02	凹み石	7	S-528	輝石安山岩		95	86	58.0	700.0	
54-03	磨石	7	S-539	輝石安山岩		120	85	47.0	500.0	
54-04	敲石	FBb	S-6	輝石安山岩		79	61	51.0	360.0	
54-05	敲石	SD-2	S-428	輝石安山岩		125	83	95.4	1,200.0	
54-06	石棒	7	S-518	輝石安山岩		240	210	92.0	7,500.0	

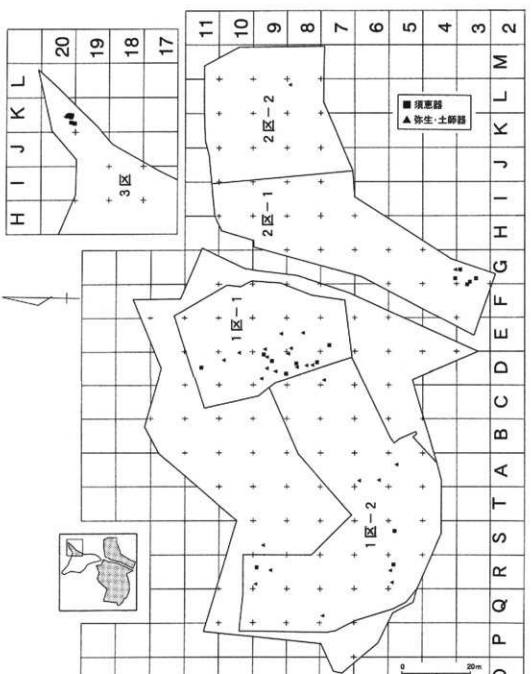
図版No.	器種	層位・遺構	遺物No.	石　材	産地	縦長mm	横長mm	厚mm	重量g	備　考
55-01	石皿	YLa	S-362	輝石安山岩		270	267	103.0	8,600.0	
55-02	石皿	表土	S-8	輝石安山岩		340	220	85.0	6,500.0	

第Ⅴ章　弥生から近代

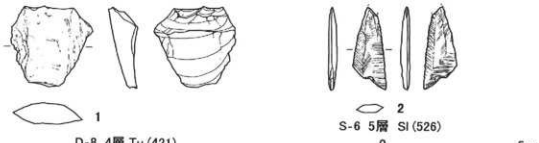
第１節　弥生から古代

遺構はなく、遺物だけが検出されている。土器はいずれも破片資料で、その多くは表土層や攪乱層からの検出である。ただ、３区頂上部で礫層の上面からまとまって検出されている。この礫層は古墳の可能性も考え、周辺の調査を行なったが、特に遺構と思われる構築物や，土層の堆積状況は確認できなかった。

石器は、柱状片刃石斧の破片（第57図１）、有孔磨製石鏃（第57図２）の２点を検出している。



第56図　弥生～古代の土器分布図



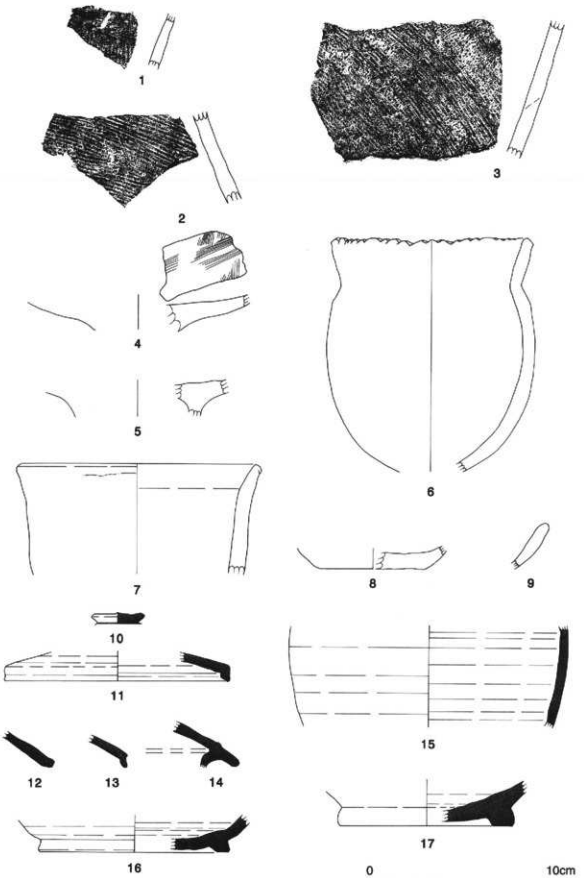
第57図　弥生時代の石器

表8　弥生時代の石器計測表

図版No.	器種	層位	遺物No.	石　材	産地	縦長mm	横長mm	厚 mm	重量 g
57-1	柱状片刃石斧	4	S-421	中粒凝灰岩		29	27	8.2	6.6
57-2	有孔磨製石鏃	5	S-526	粘板岩		29	11	2.0	0.8

表9　弥生～古代の土器観察表

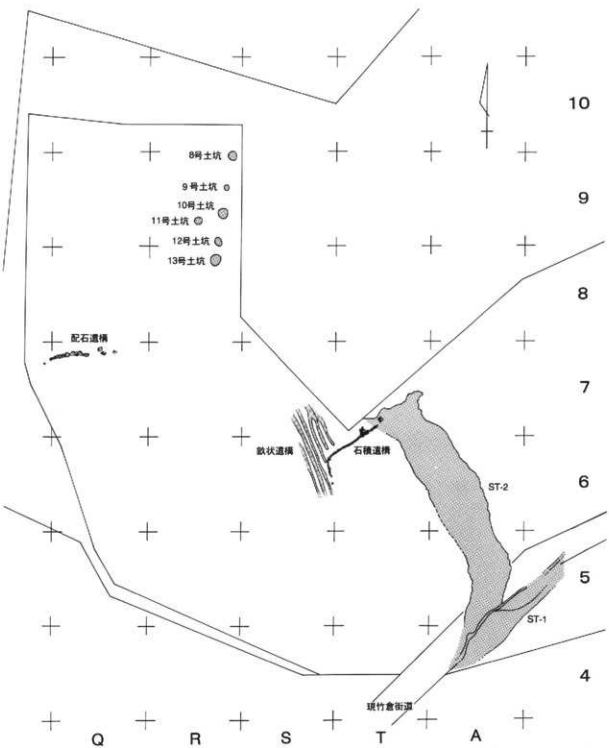
図版番号 遺物番号	区 ｸﾞﾘｯﾄﾞ	層位	種類 器種	時代 技法	重量 (g)	備考
第58図 1 555	1－2 S-9	5	弥生土器 甕？	弥生後期～古墳初頭 外面：ハケ	6.6	
第58図 2 179	2 G-3	表土	弥生土器 壺？	弥生後期～古墳初頭 外面：ハケ	31.6	
第58図 3 181	2 G-4	表土	弥生土器 甕？	弥生時代後期～古墳初頭 外面：ハケ	87.0	
第58図 4 194-1	1 D-8	3	土師器 高杯	古墳時代初頭 内面：ハケ	19.4	
第58図 5 300	1 D-9	4	土師器 台付甕	古墳～古代	17.5	
第58図 6 010～029-2 203～230	3 K-20	礫層直上	土師器 甕	不明 口縁部：刻目	—	口径：(10.7)cm 胴径：(11.0)cm 器面の剥落が著しい
第58図 7 356-2	1 E-8	4	土師器 甑？	古墳時代後期 内外面：磨き	41.1	
第58図 8 649	1－2 Q-7	表土	土師器 坏	9 世紀	17.0	底径：(5.6)cm
第58図 9 264	1 E-9	3	土師器 坏	9 世紀 口縁部外面：ヨコナデ	4.0	
第58図 10 515	1－2 R-9	5	須恵器 坏蓋	7 世紀後葉～8 世紀前葉 湖西	7.9	つまみ径：2.8cm
第58図 11 178	2 G-3	表土	須恵器 坏蓋	7 世紀後葉～8 世紀前葉 湖西	7.0	口径：(11.8)cm
第58図 12 368	1 D-9	4	須恵器 坏蓋	7 世紀後葉～8 世紀前葉 湖西	5.1	
第58図 13 172	2 G-4	表土	須恵器 坏蓋	7 世紀後葉～8 世紀前葉 湖西	3.1	
第58図 14 088	1 D-11	3	須恵器 坏蓋	9 世紀～１０世紀 湖西	10.7	
第58図 15 004	3 K-20	礫層直上	須恵器 長頸壺	7 世紀後葉～8 世紀前葉 不明　外面：自然釉	15.2	
第58図 16 574	1－2 R-5	KU	須恵器 坏	7 世紀後葉～8 世紀前葉 湖西	14.0	底径：(9.9)cm
第58図 17 033	3 K-20	表土	須恵器 長頸壺	9 世紀～１０世紀 不明　外面：自然釉	30.3	底径：(9.2)cm



第58図　弥生土器・土師器・須恵器

第２節　中世から近世

中世以降の遺構としては、土坑６基、道路状遺構（ＳＴ）２基、石積み遺構と周囲に拡がる畝状遺構、さらに配石遺構１基を検出している。



第59図　中世～近代の遺構全体図

Ⅰ 遺 構

土 坑

1区－2の北西側、R－8および9グリッドから6基が検出された。南北に延びる小さな谷の平坦部に位置する。1区－1から西に続く丘陵部が谷に落ち込んだ平坦部東側に、南北方向にほぼ一列に並んで検出した。いずれもほぼ円形を呈し、比較的浅い形態をとる。9・11・12号土坑は断面形がやや不定形であるが、本来は8・10・13号土坑同様円形を呈していたのではないかと思われる。覆土はどれも地山であるKU層（栗色土層）に上層の黒色土が均一に落ち込んでいた。

箱根山西麓地域で検出され、今まで「中世墓」とされてきた、底が浅く直径1m程の円形プランの土坑と形態が似ているため、中世土坑と考えたが、土坑の覆土からは特に遺物は検出されなかった。

Ⅱ 遺 物

今回検出された中世の遺物は、確認できる範囲で舶来陶磁3点、知多古窯系（常滑）11点、渥美窯系2点、山茶碗1点、瀬戸美濃38点、瓦質土器6点、土師質土器60点、鉄砲玉2点と種類は豊富である。

しかし、遺物の主体である土器類はほとんどが小破片であり、図化に耐えないものばかりで、実測図を掲載したものについても、かなり強引な復原を行なっている。陶磁器については個別の観察表を参照していただき、ここでは土師質土器と瓦質土器のみについて若干の解説を行なう。

出土した土師質土器60点のうち55点が「かわらけ」と通称される小皿である。確認できた範囲では、すべてロクロ成形で、推定口径も10cmを超えない小型の「かわらけ」である。当該時期の土師質土器には、他に羽釜（第63図－22）や壺形の土器（第64図－24）、厚手で外面に叩き目を持つ器種不明の土器（第63図－23）が検出された。これらはやはり小破片ながらも、韮山町御所之内遺跡などに存在が確認されており、当該時期の本遺跡の様相を考察する上で重要な手がかりとなる。

また、今回実測図は掲載しなかったが、瓦質土器の破片も検出されており、韮山町御所之内遺跡の遺物との比較から、香炉・手焙り・双耳壺の小破片と考えられる。

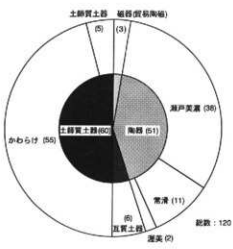


表10 中世の土器組成（破片数比）

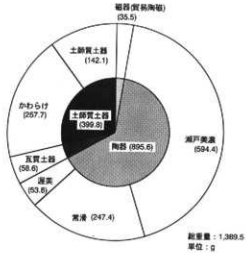
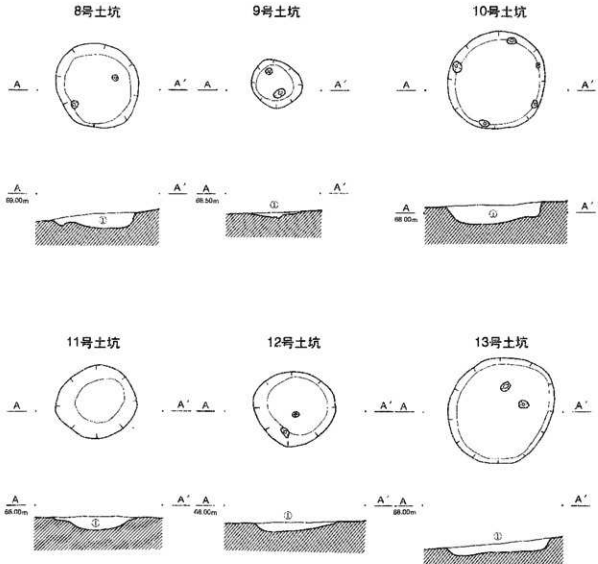


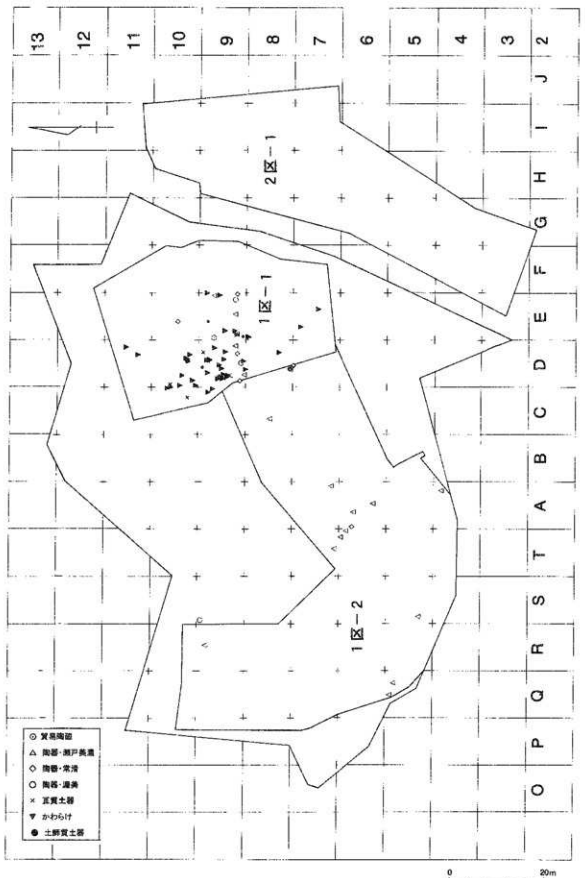
表11 中世の土器組成（重量比）



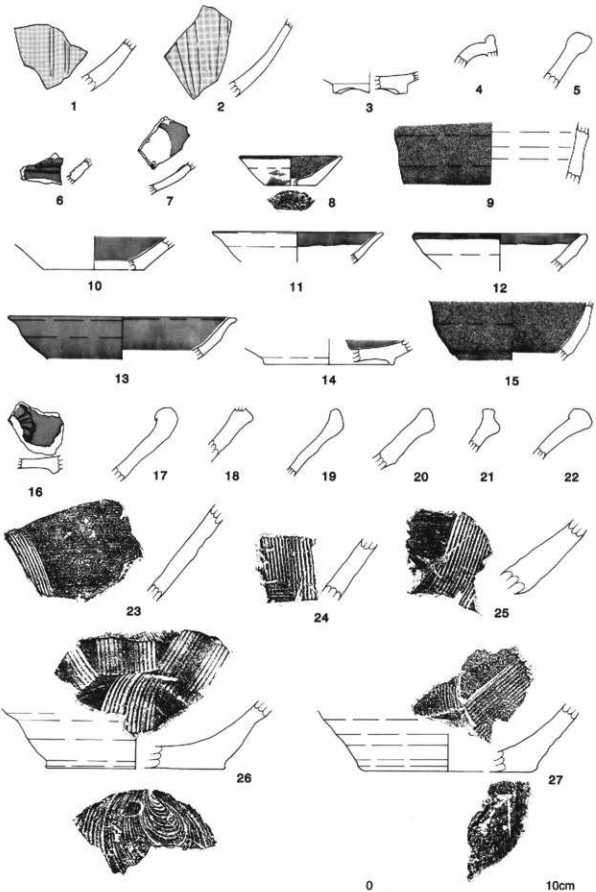
＜土坑計測表＞単位cm

	最大径	最大深		最大径	最大深
8号	88	33	11号	87	14
9号	47	6	12号	89	8
10号	106	20	13号	121	11

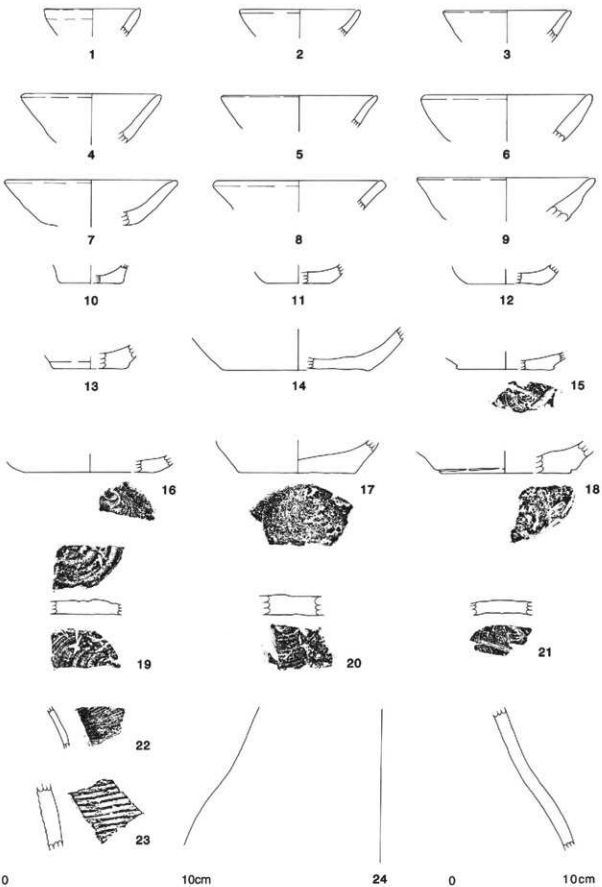
第60図　中世土坑8～13号



第61図　中世の遺物分布図


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
0
10cm

第62図　中世陶磁器



第63図　中世土師質土器

表12　中世の土器観察表(1)

図版番号 遺物番号	区 ｸﾞﾘｯﾄﾞ 層位・遺構	器質 器種	生産地 分類 年代	技法・文様等	重量 (g)	備考
第62図 1 274	1－1 D-9 3	磁器 青磁碗	明 蓮弁文碗Ｂ群 15世紀	青磁釉 蓮弁文	13.7	
第62図 2 606	1－2 Q-5 表土	磁器 青磁碗	明 蓮弁文碗Ｂ群 15世紀	青磁釉 蓮弁文	14.0	
第62図 3 042-5	1－1 D-10 撹乱	磁器 白磁皿	明 白磁皿Ｂ群 15世紀	抉入高台	7.8	高台：(3.8)cm
第62図 4 505	1－1 S-9 5	陶器 大甕	知多半島 ６ｂ～７型式 13世紀後葉～14世紀前葉		12.8	
第62図 5 532-2	1－2 - ST-1 機層	陶器 山茶碗 片口鉢	瀬戸 瀬戸第８型式 13世紀後葉～14世紀前葉		17.6	
第62図 6 319-3	2 - 3	陶器 卸皿？	瀬戸美濃 古瀬戸中期 13世紀末～14世紀中葉	卸目 灰釉	2.0	
第62図 7 146-1	1－1 D-9 3	陶器 浅碗	瀬戸美濃 古瀬戸後期Ⅰ～Ⅱ 14世紀後葉～15世紀初頭	灰釉	3.7	
第62図 8 289-3	2 - 撹乱	陶器 小杯	瀬戸美濃 古瀬戸後期Ⅲ～Ⅳ 15世紀中葉～後葉	鉄釉 底部糸切り痕	4.2	口径：(5.4)cm 器高：1.4cm 底径：(2.6)cm
第62図 9 323-3	1－1 F-9 3	陶器 瓶 or 壺類	瀬戸美濃 古瀬戸後期Ⅲ～Ⅳ 15世紀中葉～後葉	鉄釉	11.9	
第62図 10 424-2	1－2 D-9 4	陶器 平碗	瀬戸美濃 古瀬戸後期？ 14世紀後葉～15世紀後葉？	灰釉	8.7	二次焼成を受ける 底径：(5.5)cm
第62図 11 322-6	1－1 D-9 4	陶器 緑釉皿	瀬戸美濃 古瀬戸後期Ⅲ～Ⅳ 15世紀中葉～後葉	灰釉	3.4	口径：(9.1)cm
第62図 12 114	1－1 C-10 3	陶器 緑釉皿	瀬戸美濃 古瀬戸後期Ⅳ古 15世紀中葉～後葉	灰釉	4.1	口径：(9.2)cm
第62図 13 609	1－2 T-6 ST-2	陶器 端反皿	瀬戸美濃 大窯Ⅰ 15世紀後葉～16世紀初頭	灰釉	4.1	口径：(12.2)cm
第62図 14 197	1－1 D-8 3	陶器 丸皿	瀬戸美濃 大窯Ⅱ 16世紀前葉	灰釉	12.1	底径：(6.9)cm
第62図 15 316-3	2 - 3	陶器 天目茶碗（小型）	瀬戸美濃 大窯Ⅰ？ 15世紀後葉～16世紀初頭？	鉄釉 鬼板	6.2	
第62図 16 092	1－1 C-11 3	陶器 丸皿 or 端反皿	瀬戸美濃 大窯Ⅰ・Ⅱ 15世紀後葉～16世紀前葉	灰釉 印花文	5.0	
第62図 17 069	1－1 D-9 3	陶器 擂鉢	瀬戸美濃 古瀬戸後期Ⅳ新 15世紀後葉	錆釉	27.0	

表12　中世の土器観察表 (2)

図版番号 遺物番号	区 ｸﾞﾘｯﾄﾞ 層位・遺構	器質 器種	生産地 分類 年代	技法・文様等	重量 (g)	備考
第62図 18 528	1－2 A-6 ST-2	陶器 摺鉢	瀬戸美濃 古瀬戸後期Ⅳ新 15世紀後葉	錆釉	12.7	
第62図 19 262	1－1 E-9 3	陶器 摺鉢	瀬戸美濃 古瀬戸後期Ⅳ新 15世紀後葉	錆釉	11.3	
第62図 20 318-1	2 - 3	陶器 摺鉢	瀬戸美濃 古瀬戸後期Ⅳ新 １５世紀後葉	錆釉	50.1	
第62図 21 071	1－1 E-8 3	陶器 摺鉢	瀬戸美濃 大窯Ⅰ 15世紀後葉～16世紀初頭	錆釉	7.4	
第62図 22 287-2	2 攪乱	陶器 摺鉢	瀬戸美濃 大窯？ 15世紀後半～16世紀	錆釉	15.1	
第62図 23 637-1	1 - 表採	陶器 摺鉢	瀬戸美濃 古瀬戸後期Ⅳ新～大窯Ⅰ 15世紀後葉～16世紀初頭	錆釉	42.5	
第62図 24 589	1－2 A-4 ST-1 礫層	陶器 摺鉢	瀬戸美濃 大窯？ 16世紀？	錆釉	19.6	
第62図 25 675-3	1－2 T-7 表土	陶器 摺鉢	瀬戸美濃 大窯 16世紀	錆釉	50.0	
第62図 26 062	1－1 F-9 4	陶器 摺鉢	瀬戸美濃 大窯Ⅱ・Ⅲ 16世紀前葉～中葉	錆釉	89.1	底径：(9.4)cm
第62図 27 656	1－2 T-7 ST-2	陶器 摺鉢	瀬戸美濃 大窯 16世紀	錆釉	57.2	底径：(9.0)cm
第63図 1 145	1 D-9 3	土師質土器 かわらけ	 15～16世紀	ロクロ成形？	2.0	口径：(5.1)cm
第63図 2 109	1 D-10 3	土師質土器 かわらけ	 15～16世紀	ロクロ成形？	1.0	口径：(6.4)cm
第63図 3 328-5	1 D-10 4	土師質土器 かわらけ	 15～16世紀	ロクロ成形？	1.7	口径：(6.8)cm
第63図 4 148	1 D-9 3	土師質土器 かわらけ	 15～16世紀	ロクロ成形？	6.0	口径：(7.4)cm
第63図 5 323-6	1 F-9 3	土師質土器 かわらけ	 15～16世紀	ロクロ成形？	1.4	口径：(8.2)cm
第63図 6 408	1－2 C-8 4	土師質土器 かわらけ	 15～16世紀	ロクロ成形？	7.7	口径：(8.8)cm
第63図 7 295 296	1 D-9 4	土師質土器 かわらけ	 15～16世紀	ロクロ成形？	10.7	口径：(9.0)cm

表12　中世の土器観察表(3)

図版番号 遺物番号	区 ｸﾞﾘｯﾄﾞ 層位・遺構	器質 器種	生産地 分類 年代	技法・文様等	重量 (g)	備考
第63図 8 308	1 E-9 3	土師質土器 かわらけ	15～16世紀	ロクロ成形？	4.2	口径：(8.9)cm
第63図 9 129	1 D-9 3	土師質土器 かわらけ	15～16世紀	ロクロ成形？	5.4	口径：(9.5)cm
第63図 10 390	1 E-10 2	土師質土器 かわらけ	15～16世紀	ロクロ成形？	5.2	底径：(3.2)cm
第63図 11 066	1 E-8 3	土師質土器 かわらけ	15～16世紀	ロクロ成形？	3.1	底径：(3.2)cm
第63図 12 063	1 E-7 3	土師質土器 かわらけ	15～16世紀	ロクロ成形？	3.8	底径：(4.0)cm
第63図 13 116	1 C-10 3	土師質土器 かわらけ	15～16世紀	ロクロ成形？	5.4	底径：(3.8)cm
第63図 14 272	1 E-9 3	土師質土器 かわらけ	15～16世紀	ロクロ成形？	13.1	底径：(7.6)cm
第63図 15 323-7	1 F-9 3	土師質土器 かわらけ	15～16世紀	ロクロ成形 底部回転糸切り	5.7	底径：(5.2)cm
第63図 16 115	1 D-10 3	土師質土器 かわらけ	15～16世紀	ロクロ成形 底部回転糸切り	5.4	底径：(6.8)cm
第63図 17 322-5	1 D-9 4	土師質土器 かわらけ	15～16世紀	ロクロ成形 底部回転糸切り	26.5	底径：(6.0)cm
第63図 18 146-2	1 D-9 3	土師質土器 かわらけ	15～16世紀	ロクロ成形 底部回転糸切り	15.3	底径：(6.8)cm
第63図 19 090	1 D-10 3	土師質土器 かわらけ	15～16世紀	ロクロ成形 底部回転糸切り	8.4	
第63図 20 099	1 D-10 3	土師質土器 かわらけ	15～16世紀	ロクロ成形 底部回転糸切り	8.9	
第63図 21 107	1 D-10 3	土師質土器 かわらけ	15～16世紀	ロクロ成形 底部回転糸切り	4.3	
第63図 22 327-3	1 E-9 3	土師質土器 羽釜？	15～16世紀	外面：ハケ目	1.7	
第63図 23 257	1 E-9 3	土師質土器 不明	15～16世紀	外面：叩目	12.2	
第63図 24 439 444 484	1－2 D-8 4	土師質土器 不明	15～16世紀	不明	129.9	

第3節　近世から近代

Ⅰ　遺　構

(1)　道路状遺構－1（ＳＴ－1）（第64図）

この遺構は、松林Ａ遺跡の西方にある竹倉の集落から調査区を横断し、東方の玉沢の集落に至る古道「竹倉街道」として調査前から確認でき、遺構としては谷部から斜行して尾根部に至る部分にあたる１区－２のＡ－４および５グリッドからＢ－５グリッドにかけて検出された。

検出面は「竹倉街道」を覆っていた腐食土を20cmほど掘り込んだ面である。検出時の規模は、最大幅約2.5mで、確認された長さは10mを測る。全体としてはわずかな掘込みと硬質土が確認されているに過ぎないが、南西側で底面が皿状に浅く掘り込まれ、礫層と硬質土による構築が確認できる。以下、南西側の様相を中心に記述する。

南西側トレンチ断面からは、一旦地山を溝状に掘り込んだ後、礫混じりの土（覆土⑥層）を山側からかき入れた様子が窺える。その後、覆土⑪層から②層までの礫層と硬質土を互層に版築したものと思われる。小砂利を含む覆土②層上面が街道としての道路面と思われる。

また、断面に見られる地山である第30層茶褐色粘性土と異なる⑪層黄褐色のロームは、遺構の南側斜面では表土直下で確認される。２区－１では、第30層の下層で検出している非常に硬いロームである。

南西側トレンチの西側には、根石と思われる40cm大の石が、遺構と同じ方向に並んでいたが、東側の底面では検出されなかった。

出土遺物は、覆土③層および⑤層から検出されている。

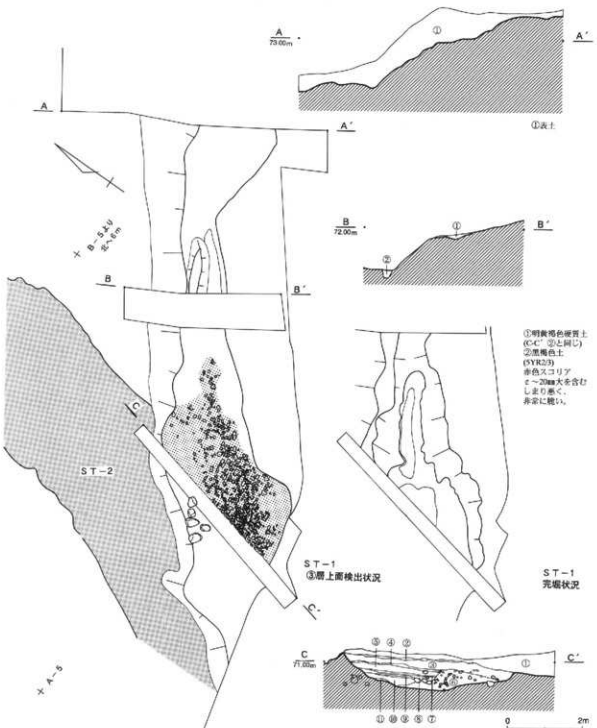
③層からは、縄文時代の石鏃から、器種や時期不明の土師質土器、中世から近世および近代にいたる瀬戸美濃の陶磁器の他に鉄砲玉など、11点が検出されている。

⑤層からは、志戸呂の擂鉢の他、やはり幕末から近代と思われる瀬戸美濃・肥前の磁器など、３点が検出されている。

北側に延びる同様の道路状遺構２（ＳＴ－２）との新旧関係は、ＳＴ－１がＳＴ－２を切って構築されている。

また、確認のため調査区外の「竹倉街道」と推定される所に横断するいくつかのトレンチを入れてみたが、同様の堆積や遺構は見られなかった。よって、ここが谷から斜面への登り口に当たるので、崩落を防ぐため、このような構築を行ったと思われる。

出土遺物から遺構の年代を決定するのは困難であるが、戦前から使われていたという地元の方の証言から近代に降るものと考えている。



①表土
②明黄褐色硬質土
(10YR6/6)
③黄褐色礫層
(10YR5/4)
④黄褐色硬質土
(10YR6/8)
⑤黒褐色礫層
(10YR5/4)
⑥褐色礫層
(7.5YR4/3)

スコリア・礫など含まないが、小粒利を含んだ層。よく締まり、均一で非常に硬い。地山のローム(旧耕熟似)を衝り盛り土した後、強烈なような圧密を受ける。

φ5～20cm大の礫を小なりの割合で含む。礫を含む割合は③層より少ない。礫を含む土は、にぶい黄褐色で全体に均一で締まりが良い。近世～近代の遺物を検出した。

②層に類似する。同様によく締まり、非常に硬い。色調はやや白色がかる。

③層に無似した礫層。同様に遺物を検出した。

地山のローム層と思われる茶褐色の土に、φ～10cmほどの礫を人為に含む(層位4)で均一な礫が多いが、ヨ～下層は径の人きな礫の割合が多い。また、礫を含む割合は遺構南の山側よりも北の谷側に向って多くなる。

⑦黄褐色硬質土
(10YR5/4)
⑧黄褐色礫層
(10YR6/4)
⑨明黄褐色硬質土
(10YR6/6)
⑩黄褐色礫層
(10YR5/4)
⑪黄褐色粘性土
(10YR7/3)

②・④層に類似する。②・④層よりもやや締まりに欠けるが色調は④層に類似する。

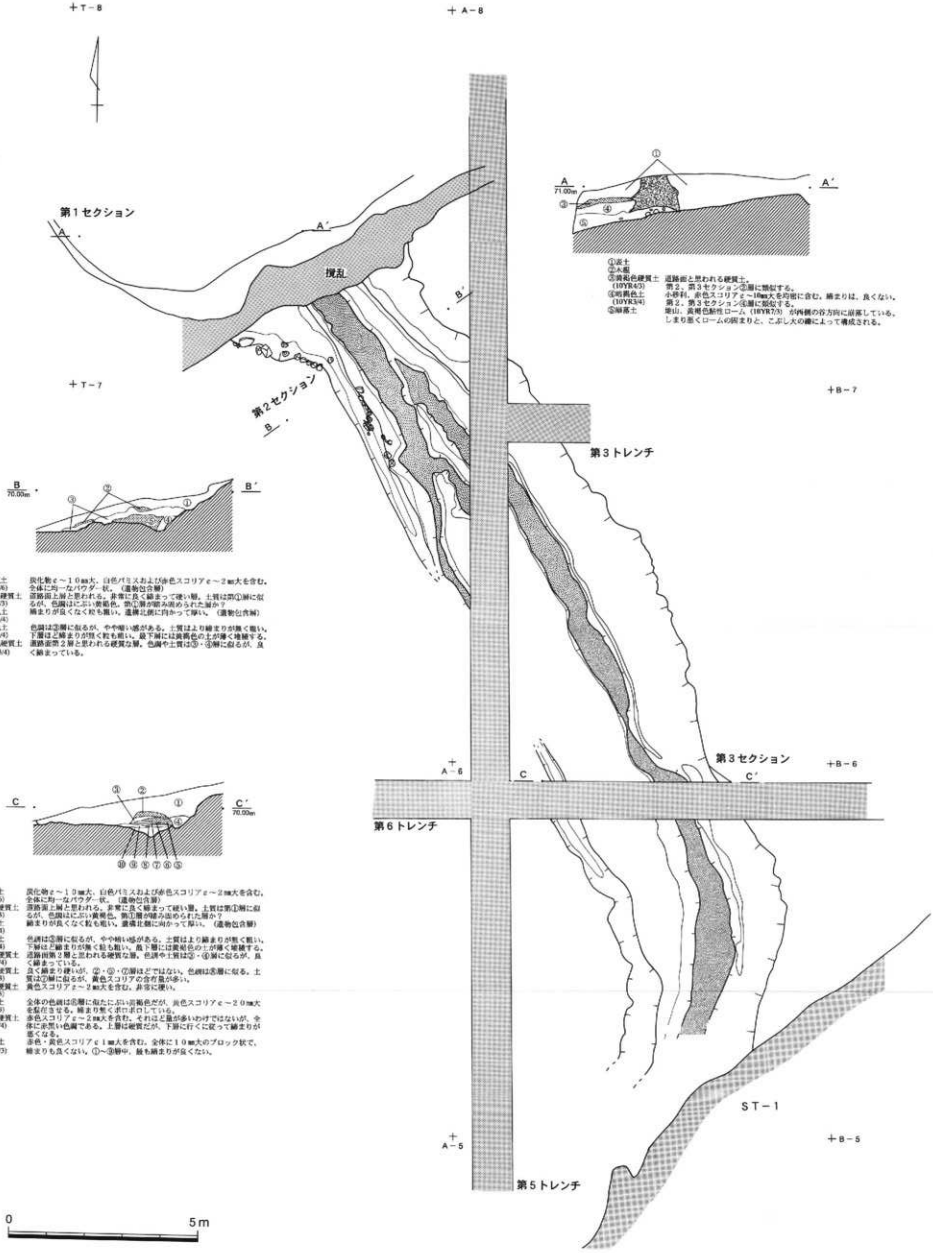
③・⑤層に類似する。色調はややにぶい黄褐色。遺物は検出されなかった。

②・④・⑧層に類似する。⑦層よりやや締まりに欠け粘性を持つ。色調は②・③・⑦層に比べて明るい。

②・⑤・⑧層に類似した礫を含む層だが、礫を含む割合は最も少ない。

粘性に富むローム質土。

第64図　道路状遺構ＳＴ－１

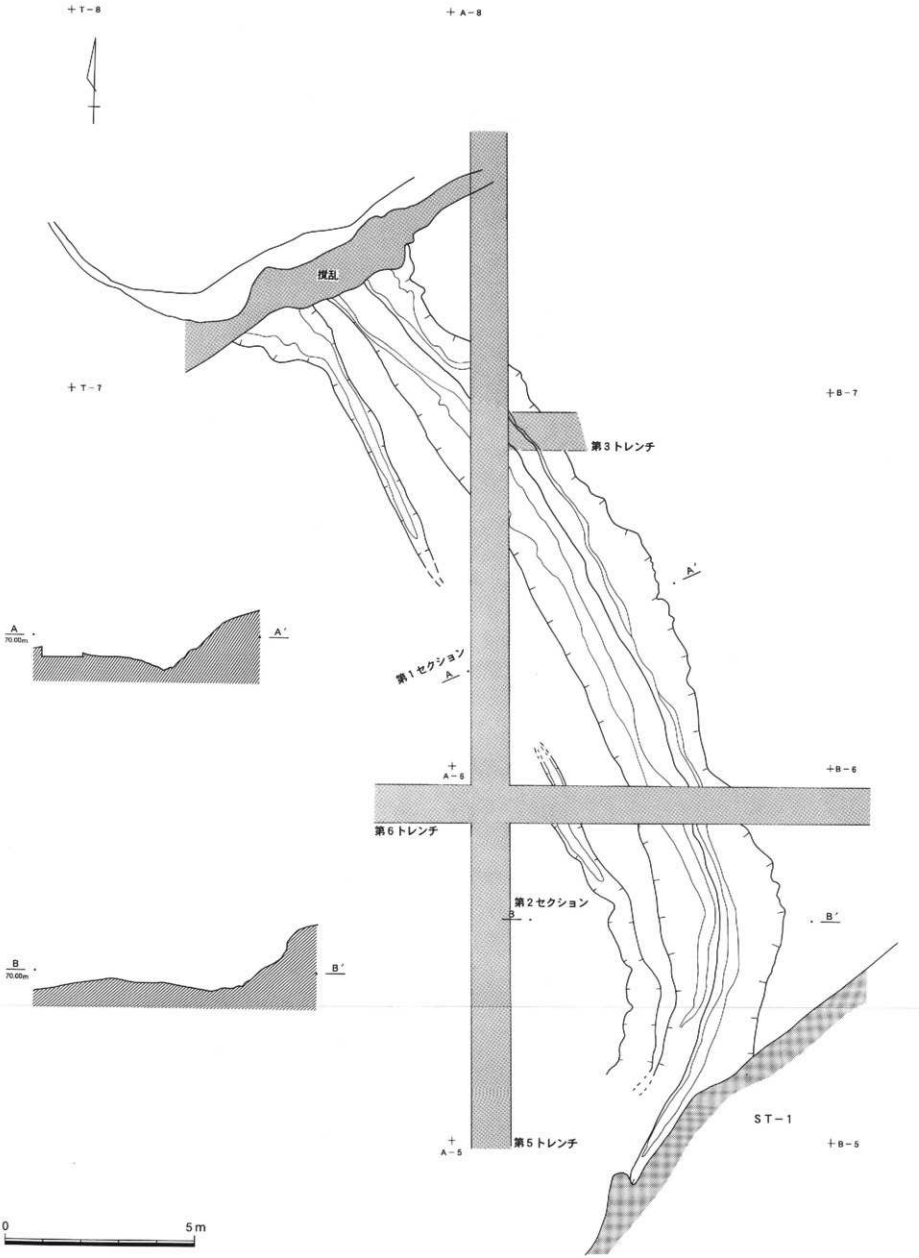


①黒褐色土　(10YR3/6)　炭化物2～10mm大、白色パミスおよび赤色スコリア2～3mm大を含む。全体に均一なパウダー状。（遺物包含層）
②暗赤色硬質土　(10YR4/3)　道路面と掘と思われる。非常に良く締まって硬い層。土質は③の層に似るが、色調はにぶい黄橙色。撹乱層が混ぜられた層か？
③暗褐色土　(10YR3/4)　締まりが良くなく粒も粗い。遺構比較に向かって厚い。（遺物包含層）
④暗褐色土　(10YR3/4)　色調は③層に似るが、やや暗い感がある。土質は③より締まりが無く粗い。下層は②層まりが強く粒も粗い。最下層には黄褐色の土が薄く堆積する。
⑤暗褐色硬質土　(7.5YR3/4)　道路面第2層と思われる硬質な層。色調や土質は③・④層に似るが、良く締まっている。

①黒褐色土　(10YR3/6)　炭化物2～10mm大、白色パミスおよび赤色スコリア2～3mm大を含む。全体に均一なパウダー状。（遺物包含層）
②黒褐色硬質土　(10YR3/3)　道路面と掘と思われる。非常に良く締まって硬い層。土質は第Ⅱ層に似るが、色調はにぶい黄橙色。撹乱層が混ぜられた層か？
③暗褐色土　(10YR3/4)　締まりが良くなく粒も粗い。遺構比較に向かって厚い。（遺物包含層）
④暗褐色土　(10YR3/4)　色調は③層に似るが、やや暗い感がある。土質はより締まりが無く粗い。下層は②層まりが強く粒も粗い。最下層には黄褐色の土が薄く堆積する。
⑤暗褐色硬質土　(7.5YR3/4)　道路面第2層と思われる硬質な層。色調や土質は②・④層に似るが、良く締まっている。
⑥黒褐色硬質土　(10YR2/3)　良く締まり硬いが、②・④・⑦層はどではない。色調は③層に似る。土質は②層に似るが、黄色スコリアの含有量が多い。
⑦黒褐色硬質土　(10YR2/3)　黄色スコリア2～3mmを含む。非常に硬い。
⑧黒褐色土　(10YR3/2)　全体の色調は⑦層に似ちたにぶい黒褐色だが、黄色スコリア2～20mm大を点在させる。締まり無くポロポロしている。
⑨暗褐色硬質土　(7.5YR3/4)　赤色スコリア2～3mmを含む。それほど量が多いわけではないが、全体に赤黒い色調である。上層ほど硬質だが、下層に行くに従って締まりが悪くなる。
⑩黒褐色土　(7.5YR2/3)　赤橙・黄橙スコリア1mm大を含む。全体に10mm大のブロック状で、締まりも良くない。①～③撹中、最も締まりが良くない。

①表土
②A層
③褐色硬質土　(10YR4/3)　道路面と思われる硬質土。第2、第3セクション③層に類似する。
④暗褐色土　(10YR3/4)　小砂利、赤色スコリア2～10mm大を均質に含む。締まりは、良くない。第2、第3セクション⑤層に類似する。
⑤褐色土　撹山、黄褐色粘性ローム（10YR7/6）が斜横の谷方向に崩落している。しまり悪くロームの固まりと、こぶし大の礫によって構成される。

第659図　遺構状況実測　ST－2検出状況



第66図　遺跡状遺構ST－2完掘状況

(2) 道路状遺構－2（ＳＴ－2）（第65図・第66図）

１区－２のＡ－４・５・６・７グリッドおよび、Ｔ－６・７グリッドにかけて検出された。なお現地調査時中、ＳＴ－１「竹倉街道」に対してＳＴ－２を「竹倉古道」と呼称して取り扱っていた。

１－２区の谷底から斜面への立ち上がりを切り込んで構築され、検出面は第７層黒色土（ＦＢａ相当）で、ＳＴ－１同様、茶褐色粘性ロームまで掘り込まれていた。検出時の規模は、全長約28m、最大幅約５m、深さ1.1mを測る、南北方向に谷裾をめぐるように伸びる道路状遺構である。南側はＳＴ－１によって切られており、北側は石積み遺構に続く溝及び攪乱によって切られていた。ただし北側に続く斜面地でも部分的に確認されていることから、本来はさらに北に向って続いていたものと思われる。

道全体の断面形は大きく開いたU字形で、斜面地形のため東側の尾根側が急に、西側の谷側が緩やかにたちあがる。その立ち上がりの基部は浅い溝を伴っている。ＳＴ－１のように、礫層・粘性土を互層に版築した様相や礫・砂利の利用といった造作はなされていない。

検出した断面より遺構の変遷を想像すると、まず、左右に溝を伴う道が地山を切り込んで構築され、使用されることにより自然に踏み固められたのだろう。硬化面と溝は少なくとも二面以上確認できることから、その後、何回かにわたって溝を掘り込むことによって改修したものと思われる。

硬質面は平面上でも、やや東よりに１本と、西寄りで枝わかれする短い２本が検出されている。幅は平均で約80cmを測る。この硬質面は第１セクションでは１面、第２セクションでは３面が、第３セクションでは５面が確認されている。

遺物は褐土①層・③層および④層から検出されている。縄文土器２点、土師器および土師質土器４点、中世から近代までの陶磁器31点のほか、尖頭器・磨石などを含む石器11点が検出されており、遺物からは時期を決定するのは困難である。しかし、東側のＳＴ－１に切られることから、ＳＴ－１以前、もしくは同時期に存在したと考えており、本道構の使用年代はＳＴ－１同様中世末から近代の長い時期幅を考えている。

(3) 石積み遺構（第67図）

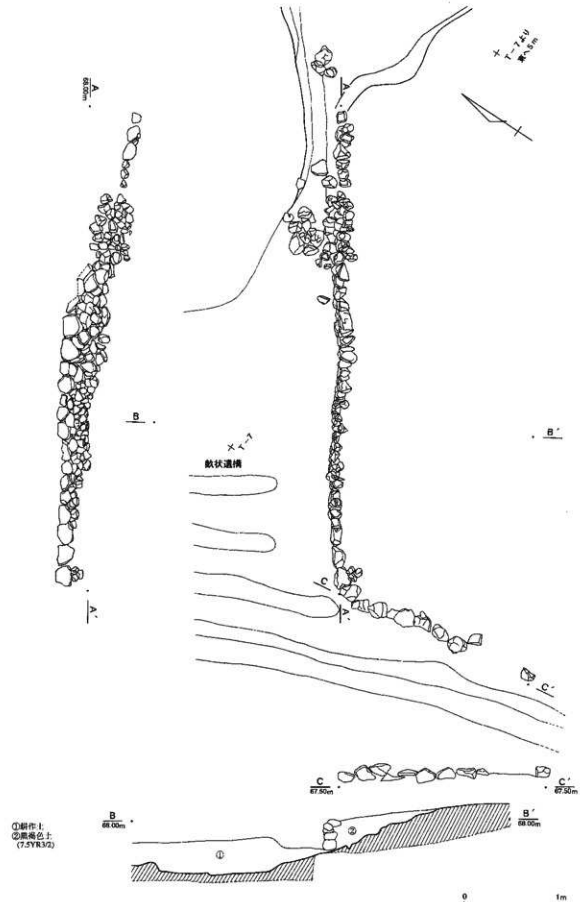
１区－２のＳ－６およびＴ－６・７グリッドから検出された。検出面は、松の植林による腐食土を除去した面である。検出された規模は、東西方向に約７m、西側がＬ字に南方向に折れ曲がり、約３mを測る。最大30cmまでの石を積み重ね、最も高い部分で約70cmほどの高さを測った。東側は一部崩落しているもののやや高く、西側に薄くなっていく。

東西方向は北側に面を揃え、南北方向は西側に面を揃えた様子が窺える。ただし、きちんとした裏込めのような構築は見られない。基部に、角ばった偏平な人頭大の石をほぼ一列に並べ、上部にこぶし大の石を最大４段ほど積み上げていた。遺存状態の良かった東側中央部分では、さらに上段に手のひら大の偏平な石をのせていた。

中央断面からは、地山であるローム層を掘り込み、黒褐色の土（覆土②）を詰めた様子が窺える。掘り込みは、石積みから幅約1.3m、深さ約40cmを測る。底部の断面は、石積みに向って緩い階段状に下る。東側で深く、西に向って浅く立ち上がり、Ｌ字に折れ曲がる部分では見られなくなる。

石積みの外側にあたる北側および西側に畝状遺構が見られ、覆土は上述覆土②が撹拌された様子が窺える。石積み本体および覆土①・②ともに、遺物の検出は見られなかった。

遺構の性格としては、ＳＴ－２を切っていることや、現在の地形図（第３図）にも石積みは見られないが段差が描かれていることなどから、元来「古田（こでん）」と呼ばれた畑地であったこの場所の、地境および土留めのためにあった遺構といったことが考えられる。


A
67.50m
B
B'
A'
C
C'
67.50m
B
68.00m
B'
68.00m
焼状遺構
①耕作土
②黒褐色土
(7.5YR3/2)
0
1m

第67図　石積み遺構

(4) 畝状遺構（第68図）

１区－２のＳ－６および７グリッドから６本が検出された。石積み遺構の外側（北側および西側）にあたる部分である。検出面は石積み遺構の基部と同じ面である。北西側から南東側に、合計６本が検出され、全長は最大8.6m、幅は20から40cm、深さは約30cmほどである。西側の３本は、さらに南北方向に続くと思われるが、東側３本の南側は石積み遺構北側で終わっていた。

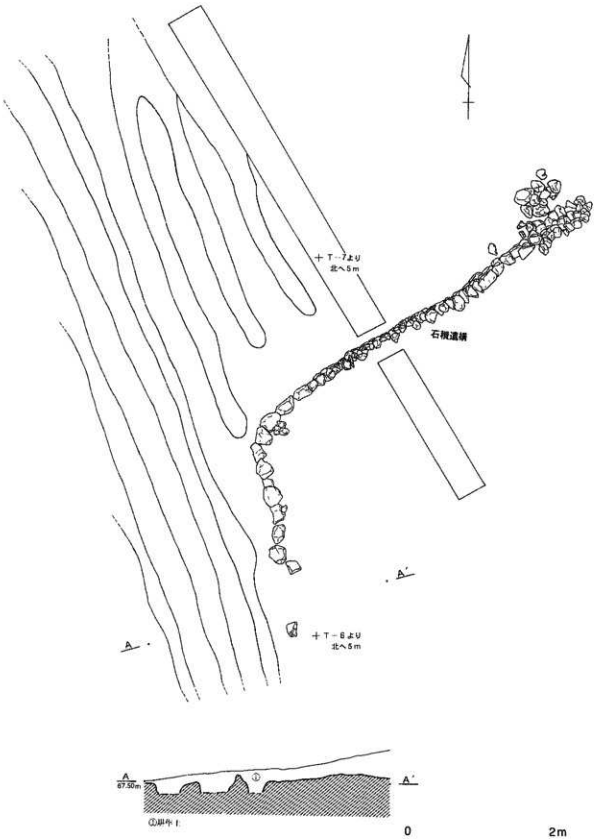
地山であるローム層を掘り込み、覆土は石積み遺構で見られた黒褐色の土に、地山のロームが最大20cm大までのブロック状に混入していた。遺物は検出されなかった。

石積み遺構同様、桧の植林が行われる以前の「古田（こでん）」と呼ばれ、現地が畑地であった頃を物語る遺構と考えられる。

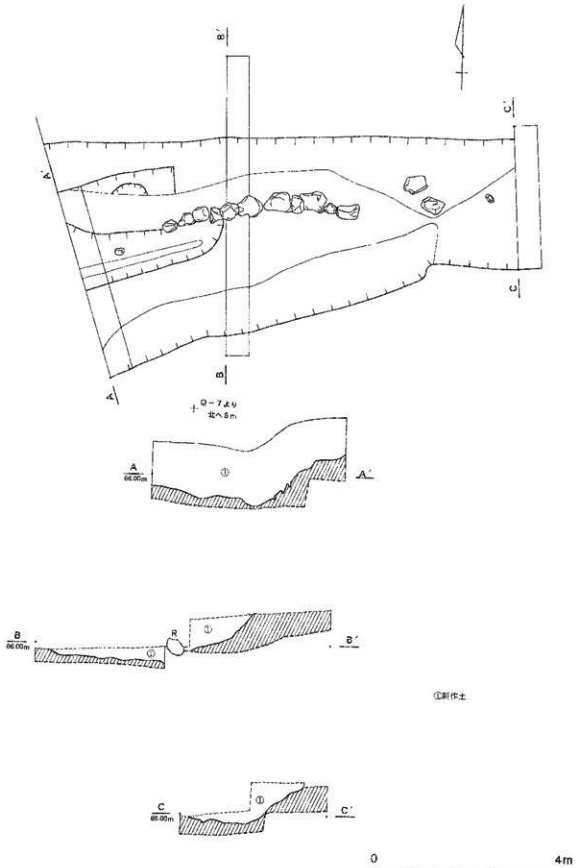
(5) 配石遺構（第69図）

１区－２のＰ－７およびＱ－７グリッドから検出された。１区－２北西側の畑地が南西側の畑地に落ち込む段差の部分にあたる。調査前の高低差は１ｍを超えていた。東西方向に約８ｍ、最大60cmまでの石を17個、ほぼ一列に並べて置かれていた。配石のための掘り込みは、地山であるローム層（第30層茶褐色粘性土）まで達しており、検出面からの深さは最大1.2mを測る。本遺構の西側は調査区外にあたるため不明であるが、東側では同様の遺構は確認されなかった。

遺物は、縄文土器から近世の陶磁器まで８点を検出した。しかし、覆土①は撹拌された耕作土であることから、近代の範疇に属する遺構と思われ、石積み遺構と同様に畑地の地境、もしくは上段にあたる北側の畑地の崩落を防ぐために作られたものと思われる。



第68図　畝状遺構


B
B'
C
C'
A
A'
⑤
⑥
⑦
⑧
⑨
⑩
⑪
⑫
⑬
⑭
⑮
⑯
⑰
⑱
⑲
⑳
㉑
㉒
㉓
㉔
㉕
㉖
㉗
㉘
㉙
㉚
㉛
㉜
㉝
㉞
㉟
㊱
㊲
㊳
㊴
㊵
㊶
㊷
㊸
㊹
㊺
㊻
㊼
㊽
㊾
㊿
D-7より
北へ5m
A
66.00m
A'
①
B
66.00m
B'
R
C
66.00m
C'
①新作土
0
4m

第69図　配石遺構

Ⅱ 遺 物

今回検出された近世の遺物は確認できる範囲で陶器が瀬戸66点、美濃30点、志戸呂14点、肥前５点である。磁器は肥前91点、瀬戸美濃１点である。瓦質・土師質の土器もいくつか確認できるが、器種等が明らかにできるものは僅かであった。また、砥石、金属製品は近世として取り扱っているが、銭貨を除くそれらは中世に遡る可能性をもつ。

中世同様、出土した土器類は小破片のものが多数を占め、図化どころか分類するのも困難なものが多い。ここでは本遺跡としては比較的多く出土した瀬戸・美濃産の陶器を中心に略述する。中世のところで述べたように、17世紀代（第１小期～第４小期）の年代を示すものが少ない。17世紀代は器種構成の面でも志野丸皿・輪禿皿を中心とする皿類の比重が大きく、17世紀末以降に器種のヴァラエティーが増えるのと対称的である。特に摺鉢は第５小期以降のものしか確認できず、志戸呂の摺鉢が、16世紀と17世紀末の間、それを補完しているように認識できる。

肥前系の磁器も17世紀末以降のものが多数を占め、瀬戸・美濃の土器様相と対応している。17世紀末以降、遺物が種・量共に増加するのは近世の遺跡とではごく一般的なことであるが、甕類、鉢類、徳瓶？戸車等の生活用具や香炉等の仏具の出土から１区－１の平坦部に坊舎もしくは人家が存在した可能性が指摘できる。遺物の分布は１区－１の平坦部およびＳＴ－２道路状遺構付近で多く検出したが、攪乱や、新旧の耕作土層出土のものがほとんどであり、それ以上のことは指摘することはできなかった。

また、近代の遺物についても道路状遺構等、使用年代が近代まで降るものがあるため、比較的大きな破片で、産地が明らかな製品のみ掲載した。

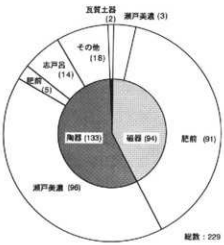


表13 近世の土器組成（破片数比）

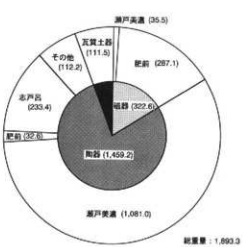
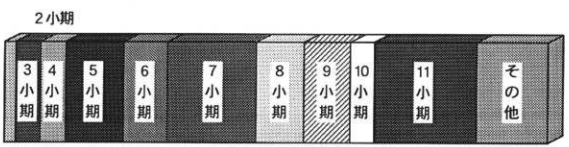
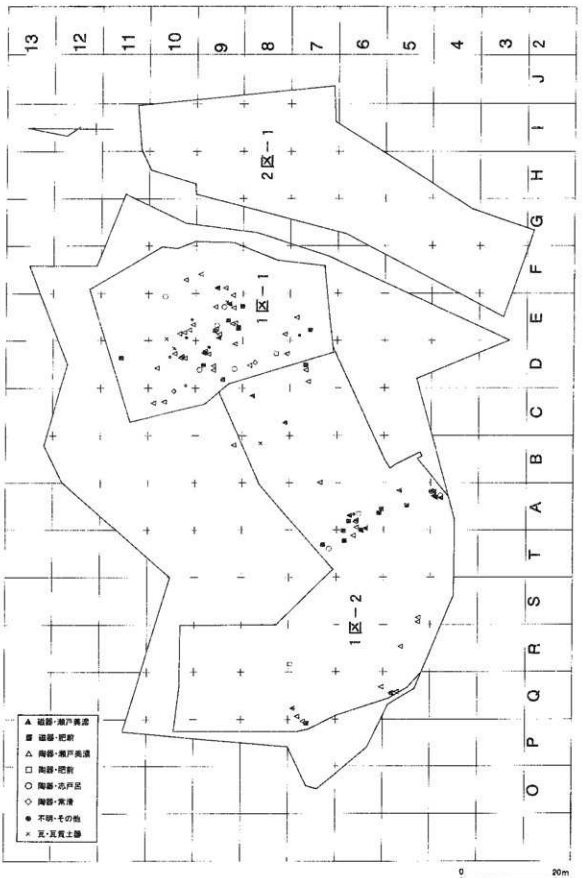


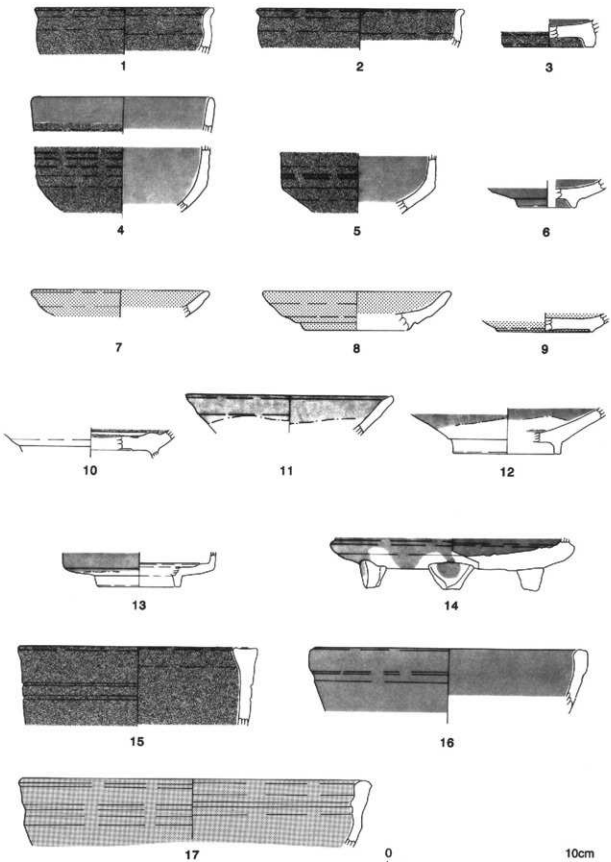
表14 近世の土器組成（重量比）



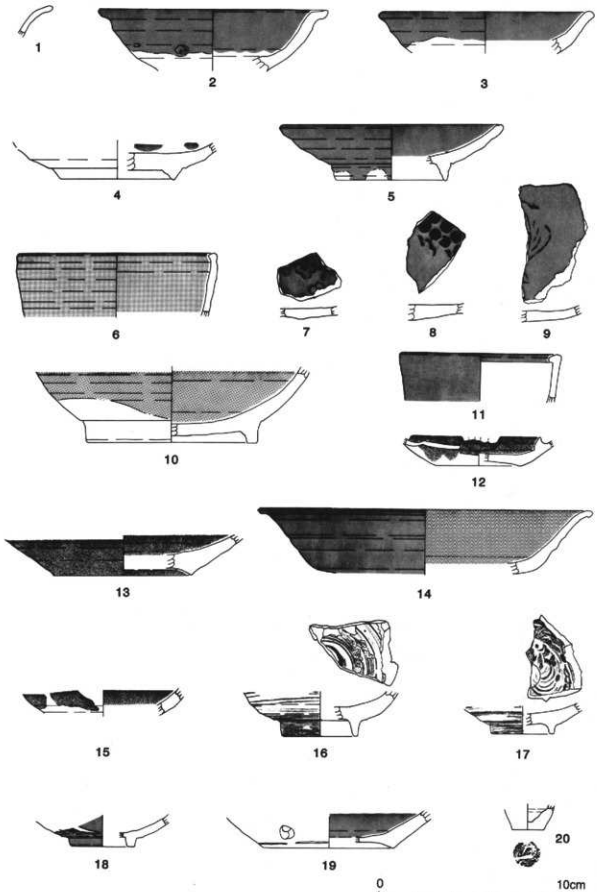
近世：瀬戸・美濃 土器組成（重量比）



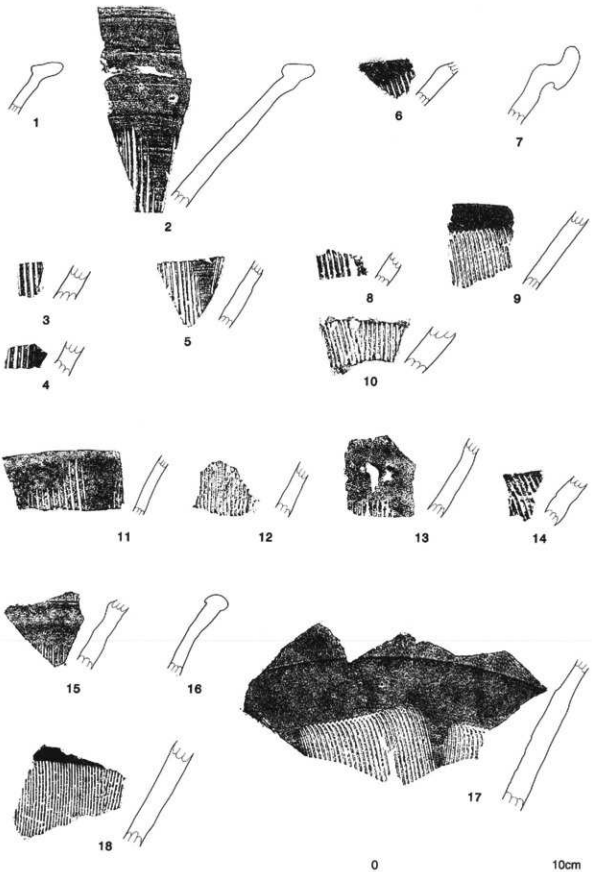
第70図　近世～近代の遺物分布図



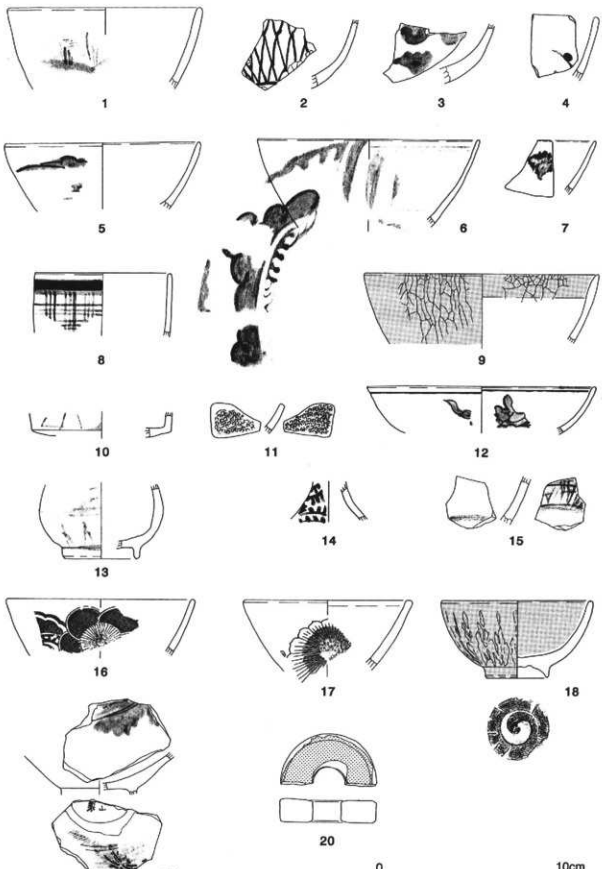
第71図　近代の陶器（瀬戸）



第72図　近世の陶器（その他）



第73図　近世～近代の陶器（擂鉢）



第74図　近世～近代の磁器

表15　近世～近代の土器観察表 (1)

図版番号 遺物番号	区 ｸﾞﾘｯﾄﾞ 層位・遺構	器質 器種	生産地 分類 年代	釉薬・文様等	重量 (g)	備考
第71図 1 680	1 - 表採	陶器 天目茶碗	瀬戸 3小期 17世紀中葉	鉄釉	4.6	口径：(9.4)cm
第71図 2 315	1 E-9 3	陶器 天目茶碗	瀬戸 3・4小期 17世紀中葉～後葉	鉄釉	3.2	口径：(10.8)cm
第71図 3 098	1 D-10 3	陶器 腰錆碗 or 湯呑	瀬戸 5・6小期 17世紀末～18世紀前葉	外面：錆釉 内面：灰釉	13.4	底径：(4.8)cm
第71図 4 152 153 421	1 D-7 D-9 撹乱 3	陶器 腰錆碗 or 湯呑	瀬戸 8・9小期 18世紀後葉～19世紀初頭	外面：灰釉、鉄釉 内面：灰釉	9.8	口径：(9.8)cm
第71図 5 234	1 E-10 3	陶器 糸目湯呑	瀬戸 8・9小期 18世紀後葉～19世紀初頭	外面：鉄釉 内面：灰釉	15.7	
第71図 6 289-17	2 - 撹乱	陶器 小碗	瀬戸 10・11小期 19世紀前葉～中葉	灰釉	10.1	底径：(3.0)cm
第71図 7 499-1	1－2 Q-10 表採	陶器 志野丸皿	瀬戸 3・4小期？ 17世紀中葉～後葉？	長石釉	3.4	口径：(9.6)cm
第71図 8 053-1	1 - 撹乱	陶器 志野丸皿	瀬戸 3・4小期 17世紀中葉～後葉	長石釉	9.5	口径：(9.8)cm
第71図 9 653	1－2 T-6 ST-2	陶器 志野丸皿	瀬戸 3・4小期 17世紀中葉～後葉	長石釉	9.3	口径：(5.0)cm
第71図 10 042-2	1 - 撹乱	陶器 輪禿皿	瀬戸 3・4小期 17世紀中葉～後葉	鉄釉	8.8	
第71図 11 317-3	2 - 3	陶器 輪禿皿	瀬戸 5・6小期 17世紀末～18世紀前葉	灰釉	6.3	口径：(11.0)cm
第71図 12 036-3	1 - 撹乱	陶器 輪禿皿	瀬戸 8小期 18世紀後葉	灰釉	16.7	底径：(5.8)cm
第71図 13 560-2	1－2 R-5 撹乱	陶器 火入	瀬戸 8・9小期 18世紀後葉～19世紀初頭	灰釉	6.0	底径：(4.2)cm
第71図 14 065	1 E-9 3	陶器 香炉	瀬戸 3・4小期 17世紀中葉～後葉	灰釉	39.8	底径：(13.0)cm
第71図 15 042-4	1 - 撹乱	陶器 半胴甕	瀬戸 8・9小期 18世紀後葉～19世紀初頭	鉄釉	17.5	口径：(12.6)cm
第71図 16 289-11	2 - 撹乱	陶器 片口鉢	瀬戸 5～7小期 17世紀末～18世紀中葉	灰釉	10.7	口径：(14.6)cm
第71図 17 320-6	2 - 2	陶器 片口鉢	瀬戸 11小期 19世紀中葉	飴釉	14.3	口径：(18.6)cm

表15　近世～近代の土器観察表 (2)

図版番号 遺物番号	区 ｸﾞﾘｯﾄﾞ 層位・遺構	器質 器種	生産地 分類 年代	釉薬・文様等	重量 (g)	備考
第72図 1 094	1 D-10 3	陶器 小碗	美濃 1・2小期 17世紀前葉	灰釉	1.9	
第72図 2 321-7	1 E-9 3	陶器 輪禿皿	美濃 2小期 17世紀前葉	灰釉	22.2	口径：(10.0)cm
第72図 3 097	1 D-10 3	陶器 丸皿	美濃 5・6小期 17世紀末～18世紀前葉	灰釉	7.0	口径：(11.6)cm
第72図 4 433	1－2 B-9 表土	陶器 丸皿	美濃 5小期 17世紀末	灰釉	25.1	底径：(6.0)cm
第72図 5 624	1－2 Q-6 表土	陶器 丸皿	美濃 5・6小期 17世紀末～18世紀前葉	灰釉	15.7	口径：(11.6)cm 器高：2.9cm 底径：(5.8)cm
第72図 6 064	1 E-8 3	陶器 小片口鉢	美濃 7小期 18世紀中葉	飴釉	7.8	口径：(10.4)cm
第72図 7 287-12	2 - 撹乱	陶器 摺絵小皿	美濃 7小期 18世紀中葉	摺絵付梅花文	5.1	
第72図 8 119	1 E-7 3	陶器 摺絵中皿	美濃 5～7小期 17世紀末～18世紀中葉	摺絵付	9.4	
第72図 9 270	1 E-9 3	陶器 摺絵中皿	美濃 5～7小期 17世紀末～18世紀中葉	摺絵付	15.9	
第72図 10 36-1 086 159	1 D-9 D-10 3　撹乱	陶器 丸形片口鉢	美濃 7小期 18世紀中葉	飴釉	142.4	底径：(8.8)cm
第72図 11 534	1－2 A-6 ST-2	陶器 筒形香炉	美濃 8・9小期 18世紀後葉～19世紀初頃	灰釉	8.9	口径：(8.6)cm
第72図 12 665	1－2 P-7 撹乱	陶器 灯明受皿	美濃 10・11小期 19世紀前葉～中葉	鉄釉	18.6	器高：1.5cm 底径：(4.6)cm
第72図 13 316-1	2 - 3	陶器 皿	志戸呂 17世紀	鉄釉	28.6	底径：(7.4)cm
第72図 14 535　565	1－2 A-6 Q-5 ST-2 撹乱	陶器 端反皿	肥前 Ⅳ期 17世紀末～18世紀前葉	外面：灰釉 内面：銅緑釉	13.8	口径：(17.8)cm
第72図 15 196	1 D-8 3	陶器 不明	肥前唐津系 Ⅱ期 17世紀前葉	鉄釉	4.4	
第72図 16 036-4	1 - 撹乱	陶器 小碗	肥前現川系 Ⅳ期 17世紀末～18世紀前葉	白泥刷毛目	15.2	底径：(3.9)cm
第72図 17 674	1－2 R-7 表土	陶器 小碗	肥前現川系 Ⅳ期 17世紀末～18世紀前葉	白泥刷毛目	13.0	底径：(3.2)cm

表15　近世～近代の土器観察表 (3)

図版番号 遺物番号	区 ｸﾞﾘｯﾄﾞ 層位・遺構	器質 器種	生産地 分類 年代	釉薬・文様等	重量 (g)	備考
第72図 18 678	1－2 T-6 ST-2	陶器 小碗？	京・信楽系？ 19世紀？	上絵付	5.9	底径：(4.4)cm
第72図 19 317-4	2 - 3	陶器 不明	不明	内面：灰釉	23.3	底径：(7.0)cm
第72図 20 286-2	2 - 表土	土師質土器 ミニチュア土器 鉢形？	在地系 １８世紀以降	透明釉	5.2	底部回転糸切り痕 底径：(1.6)cm
第73図 1 080	1 D-9 3	陶器 摺鉢	志戸呂 17世紀	錆釉	13.1	
第73図 2 531-1	1－2 A-5 ST-1	陶器 摺鉢	志戸呂 17世紀	錆釉	64.2	
第73図 3 595	1－2 A-5 ST-1	陶器 摺鉢	志戸呂 17世紀	錆釉	5.5	
第73図 4 657	1－2 T-7 ST-2	陶器 摺鉢	志戸呂 17世紀？	錆釉	5.1	
第73図 5 600	1－2 A-4 ST-1	陶器 摺鉢	志戸呂 17世紀	錆釉	12.0	
第73図 6 067	1 F-9 3	陶器 摺鉢	瀬戸 ５小期 17世紀末	錆釉	8.8	
第73図 7 248	1 E-9 3	陶器 摺鉢	瀬戸 ６小期 18世紀前葉	錆釉	50.0	
第73図 8 111-2	1 C-10 3	陶器 摺鉢	瀬戸 ５小期 17世紀末	錆釉	4.1	
第73図 9 243	1 F-10 3	陶器 摺鉢	瀬戸 ５小期以降 17世紀末以降	錆釉	21.3	
第73図 10 059	2 K-9 3	陶器 摺鉢	瀬戸 ５小期 17世紀末	錆釉	19.6	
第73図 11 675-4	1－2 T-7 表土	陶器 摺鉢	瀬戸 ８小期以降 18世紀後葉～19世紀前葉	錆釉	21.6	
第73図 12 659	1－2 A-6 ST-2	陶器 摺鉢	瀬戸 ８小期以降 18世紀後葉～19世紀前葉	錆釉	9.4	
第73図 13 448	1－2 D-7 4	陶器 摺鉢	瀬戸 ８小期以降 18世紀後葉～19世紀前葉	錆釉	21.0	
第73図 14 287-6	2 - 撹乱	陶器 摺鉢	瀬戸 ９小期 19世紀初頭	錆釉	6.4	

表15　近世～近代の土器観察表 (4)

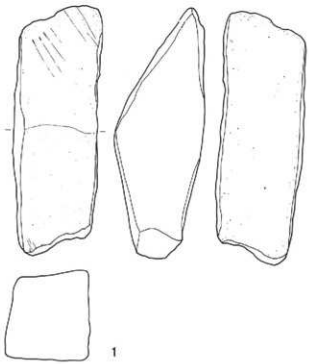
図版番号 遺物番号	区 ｸﾞﾘｯﾄﾞ 層位・遺構	器質 器種	生産地 分類 年代	釉薬・文様等	重量 (g)	備考
第73図 15 318-2	2 - 3	陶器 摺鉢	瀬戸 9小期 19世紀初頃	錆釉	28.6	
第73図 16 523	1－2 A-6 ST-2	陶器 摺鉢	瀬戸 10・11小期 19世紀前葉～中葉	錆釉	30.3	
第73図 17 530-1	1－2 - ST-2	陶器 摺鉢	瀬戸 11小期 19世紀中葉	錆釉	151.0	
第73図 18 256	1 E-9 3	陶器 摺鉢	瀬戸 19世紀後葉以降（近代）	錆釉	38.7	
第74図 1 267	1 E-9 3	磁器 碗	肥前波佐見系 Ⅳ期 18世紀前～中葉	染付山水文	14.2	口径：(10.1)cm
第74図 2 317-1	2 - 3	磁器 碗	肥前 Ⅳ期 18世紀前～中葉	染付一重網目文	10.6	
第74図 3 634	1 E-9 3	磁器 碗	肥前波佐見系 Ⅳ期 18世紀前～中葉	染付コンニャク印	12.5	
第74図 4 610	1－2 T-6 ST-2	磁器 碗	肥前波佐見系 Ⅳ期 18世紀前～中葉	染付草花文？	5.8	
第74図 5 658	1－2 T-7 ST-2	磁器 碗	肥前 Ⅴ期 19世紀前葉	染付山水文？	7.0	口径：(10.3)cm
第74図 6 675-5	1－2 T-7 表土	磁器 碗	肥前 Ⅴ期 19世紀前葉	染付柳松梅文	48.1	口径：(11.8)cm
第74図 7 327-2	1 E-9 3	磁器 碗	肥前 Ⅳ期 18世紀前～中葉	染付草花文	3.2	
第74図 8 289-9	2 - 撹乱	磁器 筒碗	肥前 Ⅴ期 19世紀前葉	染付格子目文	8.0	口径：(7.2)cm
第74図 9 321-9	1 E-9 3	磁器 碗	肥前 Ⅴ期 19世紀前葉	青磁／貫入	8.2	口径：(10.0)cm
第74図 10 464	1－2 D-9 4	磁器 筒碗	肥前 Ⅴ期 18世紀末～19世紀前葉	染付菊花散らし文	4.0	
第74図 11 385	1 E-8 表土	磁器 小皿	肥前 Ⅲ期 17世紀後葉	染付みじん唐草文	2.9	
第74図 12 536	1－2 A-6 ST-2	磁器 皿	肥前 Ⅳ期 17世紀末～18世紀前葉	牡丹文	3.8	口径：(12.0)cm
第74図 13 287-7	2 - 撹乱	磁器 瓶類	肥前波佐見系 Ⅳ期 18世紀前～中葉	染付	10.4	底径：(3.8)cm

表15　近世～近代の土器観察表 (5)

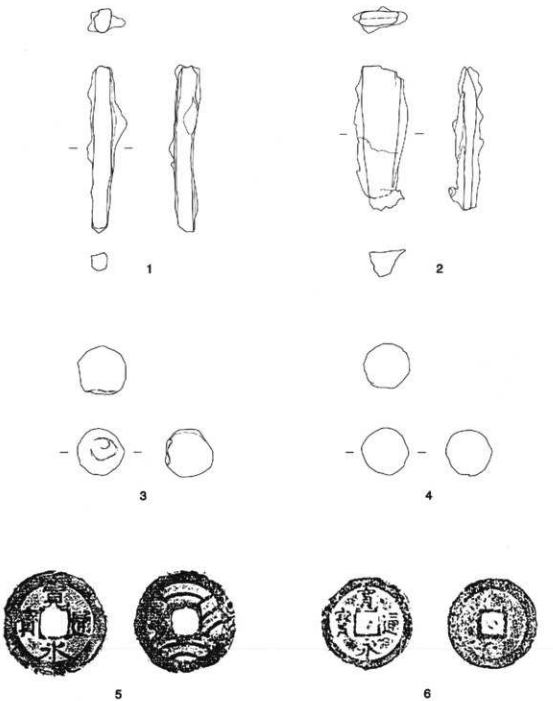
図版番号 遺物番号	区 ｸﾞﾘｯﾄﾞ 層位・遺構	器質 器種	生産地 分類 年代	釉薬・文様等	重量 (g)	備考
第74図 14 312	1 E-9 3	磁器 徳利	肥前 V期 18世紀末～19世紀前葉	染付蛸唐草文	2.9	
第74図 15 320-7	2 - 2	磁器 広東碗	美濃 第10小期 19世紀前葉	染付	6.1	
第74図 16 576	1－2 - 撹乱	磁器 碗	瀬戸美濃 19世紀後葉以降（近代）	銅板染付	9.6	口径：(10.0)cm
第74図 17 463	1－2 C-8 4	磁器 碗	瀬戸美濃 19世紀後葉以降（近代）	銅板染付	11.0	口径：(9.5)cm
第74図 18 451-1 491	1－2 C-8 D-8 撹乱 表土	磁器 小碗	瀬戸美濃 19世紀後葉以降（近代）	青磁 縦縞の筋彫	98.8	口径：8.0cm 器高：4.1cm 底径：3.2cm
第74図 19 530-2	1－2 - ST-2	磁器 一括	瀬戸美濃 19世紀後葉以降（近代）	染付草花文	43.5	
第74図 20 650	1－2 Q-7 配石遺構	磁製品 戸車	肥前 不明	透明釉 両面に砂目付着	21.4	直径：5.7cm 孔径：1.7cm 厚　：1.2cm

表16　中世～近世の石製品計測表

図版No.	器種	層位	遺物No.	石　材	産地	縦長mm	横長mm	厚 mm	重量 g	備　考
75-01	砥石	表土	S-404	流紋岩		95	33	34.3	139.2	
75-02	砥石	3	S-26	流紋岩		87	27	30.0	121.0	
75-03	砥石	3	S-43	流紋岩		37	36	12.0	27.3	
75-04	砥石	3	S-92-2	流紋岩		36	19	14.0	12.8	
75-05	砥石	3	S-92-1	流紋岩		60	25	14.0	25.9	
75-06	硯石	5	S-532	粘板岩		55	19	2.5	3.9	線刻「南無」



第75図　中世～近世の砥石・その他



第76図　中世～近世の金属製品・銭貨

表17　金属製品計測表

図版No.	遺物No.	種　類	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	層位・遺構	材質	縦長・直径	横長	厚(mm)	重量(g)	備　考
76-01	M-014	釘？	Q-7	配石遺構	鉄製	44.0	6.0	6.0	4.6	
76-02	M-010	楔？	A-6	ST-2	鉄製	38.0	14.0	7.0	5.8	
76-03	M-011	鉄砲玉	A-6	ST-2	鉛製？	13.0	-	-	9.9	
76-04	M-013	鉄砲玉	A-4	ST-1	鉛製？	12.0	-	-	9.4	
76-05	M-009	寛永通宝	-	表土	銅製	28.0	-	1.5	4.8	四文銭・背十一波
76-06	M-012	寛永通宝	A-6	ST-2	銅製	24.0	-	1.0	2.6	新寛永

第VI章　調査の成果と課題

桧林遺跡に残された人間の残した痕跡は後期旧石器時代から近代までにわたる。以下、時代をおって成果をまとめる。

旧石器時代

旧石器時代の遺物は層位的にはＹＬ層主体に特にＹＬｕ層、ＹＬｍ層としたＹＬ層上部に多く検出された。ＹＬ層の堆積は一般に箱根西麓で厚く堆積することから、桧林遺跡でのＹＬ層での遺物の検出は当該期の研究の進展に大きく貢献することが期待された。事実１区－１のＥ－10グリッド付近に厚い堆積が見受けられた。しかし、接合資料や石器製作ブロックのような明確なまとまりはみられず、一応、Ｘ線および肉眼観察による産地分類を行い、分布を検討したが、十分な情報を得るに至らなかった。今後の当地域の旧石器研究の進展により、箱根西麓遺跡群全体の中で、改めて検討されることを望む。

石材を産地別にみると黒曜石では霧ヶ峰、和田峠といった信州系が多く、次に畑宿が続く。神津島産は１点しか確認できていない。これらの傾向は、当該期の石材の流通を考える上で興味深いものである。

出土した旧石器の石器群は一部の古相を示す第７群を除き、ＹＬ上層を主とする出土層位や、尖頭器と多様な形態のナイフ形石器を主体として構成されることから、愛鷹・箱根の旧石器編年でいう第４期に相当すると考える。（静岡県考古学研究会1995他）

また、次の第５期のメルクマールとなる細石刃などは出土しておらず、続いて縄文草創期の尖頭器群が検出されている。層序および分布でみる限り、両者の位置はやや草創期の尖頭器群が上位だが、両者は近接もしくは重複している。しかし、これは斜面という立地による作用が大きく影響したためと思われ、現状では、常識的に両者の間には文化的な断絶があったと考えている。

縄文時代

縄文時代の石器群の中では、特に槍先形尖頭器や有舌尖頭器などの草創期の石器群がひとつの遺跡例としては多く検出した。石材にはガラス質黒色安山岩、細粒安山岩が多く利用され、これらの石材は他器種にはほとんど用いられていない。また、石器の形態・技法から、強い安定性が伺われ、あまり、時間幅を持たないものと思われる。

縄文土器については、早期から晩期にわたる遺物を検出した。Ｐ69に組成比を掲載したが、データーの母集団が少ない上に、同一個体となるものも多いと思われ、実数はさらに少なくなる。そういった点からは、組成比はあまり有効なデーターとなり得ていない。それでも早期条痕文系、後期前葉の粗製土器が多いという印象は妥当と思われる。

縄文時代の遺構は性格が不明なものばかりで、ＳＸ－１も住居跡とするには決定的でなく、その他、土坑、溝もその性格は不明である。溝は形態は不整形であるが、底部が硬質化しており、長時間にわたって溝として機能していたことが推測できる。落とし穴とも考えられるが、一部に階段状の凹凸が認められ、遺構の性格の把握を困難にしている。今後、資料の増加をまって、時期的な位置づけも含めた再検討を行いたい。

中世から近代

弥生から古代においても少数ながら断続的に遺物の出土が確認されたが、次にまとまった遺物の検出が確認されたのは、中世、特に15世紀～16世紀の時期の土器である。中世の遺物はほとんどが小破片で数が少ないものの産地・器種のヴァリエーションは比較的豊富である。陶器の産地としては瀬戸・美濃の製品が多く、器種としては擂鉢が多い。時期的には古瀬戸後期Ⅳから大窯前期のものが中心で16世紀後半の遺物と確認できるものがきわめて少ない。中世の遺物でもっとも多く検出したのが、かわらけであるが、小破片ばかりで十分な検討ができなかった。出土分布状況を見るとそのほとんどが１区－１の平坦部から出土しており、分布に偏りがみられる。他の土師質土器や瓦質土器は不明な点が多いが、羽釜や風炉、火鉢などが推定される。これらの遺物から、尾根の平坦部に住居等が存在したことが考えられるが、今回の調査ではそれに伴う明確な遺構を確認できなかった。また、文献資料等にも当地に中世城館が存在したことを記すものは確認できない。平坦部の面積を考慮すると、大規模な城館等の建築物を想定することは難しく、砦などの小規模城館が考えられるが、一定量のかわらけの出土の解釈は、今後の城館、集落遺跡の出土例の増加、再検討を待たねばならない。

中世の道構としては上坑群があげられる。一応土壙墓と考えられる。土壙墓は静岡県東部で一般的な中世の墓制形態であり、時期的には中世後葉から近世初頭に位置づけられる。遺物の共伴のないため、断定はできないものの、前例と共通する層序や形態からそのように判断したい。

検出された道路状道構を文献資料状からみると、いくつかの傍証が述べられる。「北條記」の中にある「山中合戦之事」天正18年（1590）の記述の中「山中の城の東の上の山より敵陣を見わたせば、南の方より日金の方、長谷川藤五郎・木村常陸守・堀左衛門等押しありさま、山越おびただしく見ゆる。」（津山町史第３巻（下）より引用）とあり、具体的な進軍のルートの記述はないものの、玉沢方面から別働隊が、攻めよった可能性は十分に考えられる。また、「日本戦史」によれば、その根拠は必ずしも明確でないが、玉沢筋からの進軍を想定している。調査区全体の出土遺物の様相からみても15世紀以降にある程度のまとまりがうかがえることや、鉄砲玉の出土などからみて、当該期における小規模な城館の存在、ひいてはそれと山中城とを結ぶ街道の存在を想定してもよいであろう。

近世に到り、妙法華寺の寺領となっても、道として機能していることは出土遺物からも想定できる。近世の遺物は17世紀がやや少ないものの、近世全時期にわたって検出することができた。特に志戸呂と瀬戸の擂鉢の年代がそれぞれ17世紀と17世紀末以降でまとまりを見せているのは、当地方の17世紀における志戸呂の隆盛とその後の衰退を明示しており、今後注目すべき事柄であろう。

本遺跡の近世時の様相を示す資料として妙法華寺が所有する境内絵図の存在があげられる。その詳細は付編２を参照していただき、本遺跡との関係では、境内絵図中に桧林Ａ遺跡に比定される所が山稜線により道が隠れた表現で表されている。このことは、道が谷部を通っていることを表しているものと考えられ、検出した道路状遺構に比定できよう。「竹倉街道」（玉沢道）の存在自体は上述の史料などから中世末にまで遡れる可能性があるが、検出した遺構の年代がどこまで遡るのかは不明である。一応、道路状遺構は切り合い関係からＳＴ－２が旧、ＳＴ－１を新とできることから、ＳＴ－２がＳＴ－１の前の「竹倉街道」で尾根の裾を廻り、１区の北側の比較的緩やかな斜面から尾根に上るルートを通ったのではないかと考えている。

「竹倉街道」はこのあたりにすむ年輩の方々にとっては、かつての生活空間の一部で身近な存在であった。しかし、この古道も先人より受け継がれた歴史的所産の一つとして明確に認識していた方はいなかったに違いない。我々も調査の当初、旧石器・縄文時代の道跡を想定していた。しかし、その予想に反してその後の人間の営みの痕跡も垣間見ることとなった。当然予想されるべき事なのだが、遺構・遺

物という具体的なものを目にして、ようやく我々はそのことを再認識できた。特に「竹倉街道」は玉沢が大木沢と呼ばれていた時代から存在したと思われ、東海道の脇街道として近世・近代にわたって使用され続けた。また、山中城攻防戦、箱根戦争といった東海道で起きた歴史的事件の際にもその協役として働いたようである。その道も近代化に伴う大きな変化によってその役目を南側の尾根や昭和２年に整備された県道「三ツ谷谷田線」などに譲り、文字通り歴史の中へ埋没していくところであった。

こうした、近年急速に忘れられていく地域の歴史を掘り起こすことの重要性を今更ながらではあるが指摘することにより、本報告を終えることにする。

注）（１）藤沢良祐氏のご指摘による。

（２）半田編1996の中の飯田裕彦氏の話によると、箱根戦争時、官軍の松代真田藩が、玉沢通りを進み、山中宿に向かったとされている。

〈参考文献一覧〉

江戸遺跡研究会

大橋康二　1989　『肥前陶磁』

小野正敏　1993　「出土陶磁よりみた一五、一六世紀における画期の素描」『MUSEUM』416

神奈川考古同人会　1979　『ナイフ形石器文化終末期の問題』神奈川考古第７号

後藤健一　1989　「湖西古窯跡群の須恵器と窯構造」『静岡県の窯業遺跡　本文編』

参謀本部編　1893　『日本戦史　小田原役』村田書店（1977年復刻）

静岡県　1992　『静岡県史　資料編３　考古３』

静岡県教育委員会　1981　『静岡県の中世城館跡』

静岡県考古学会　1997　『静岡県における中世墓』

静岡県考古学会シンポジウム実行委員会　1996　『愛鷹・箱根山麓の旧石器時代編年ー収録集ー』

静岡県考古学会シンポジウム実行委員会　1995　『愛鷹・箱根山麓の旧石器時代編年ー予稿集ー』

高尾好之　1994　「愛鷹山南麓・箱根西麓の後期旧石器時代石器群編年試案」『地域と考古学』

東国歴史考古学研究所・帝京大学山梨文化財研究所　1995　『シンポジウム　中世の火葬
ーその展開と地域性ー　資料集』

中野晴久　1994　『赤羽・中野　「生産地における編年について」『中世常滑焼をおって』資料集

奈良県立橿原考古学研究所　1993　『鴨神遺跡　第２次～第４次調査』

錦田郷土研究会編　1990　『三島の城跡』

韮山町史編纂委員会　1987　『韮山町史第三巻（下）　古代中世編』

箱根西麓調査委員会　1976　『箱根西麓調査報告書』

八王子市宇津木台地区遺跡調査会　1987　『宇津木台遺跡群Ⅸ』

半田衛編著　1996　『資料が語る郷土の歩み「三島郷土史論考ー慶応から平成までー」』

藤沢良祐　1986　「瀬戸大窯発掘調査報告」『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要Ⅴ』

藤沢良祐　1991　「古瀬戸古窯址群Ⅱ」『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要Ⅹ』

藤沢良祐　1994　「山茶碗研究の現状と課題」『研究紀要　第３号』

藤沢良祐　1995　「中世瀬戸窯の動態」『古瀬戸をめぐる中世陶器の世界～その生産と流通～』

藤沢良祐　1998　記念講演　「近世瀬戸・美濃窯の変遷ー窯業技術を中心にしてー」
『第８回　九州近世陶磁学会』資料

三島市教育委員会　1996　『接待茶屋遺跡』

〈附 編1〉

桧林A遺跡・生茨沢遺跡の基本層序と黒ボク土層の生成環境

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

箱根火山西麓では、西方の愛鷹火山南麓と同様に旧石器時代および縄文時代の遺跡が数多く分布している。当該地域は富士、箱根の両火山近傍にあることから、これらの遺跡の遺構や遺物を包含するローム層や黒ボク土層中には、対比指標となるテフラ層が比較的多く認められている。愛鷹火山南麓では、愛鷹ローム団研グループ（1969）にみられるように、比較的早くからローム層の層序が研究され、記載されてきたが、箱根火山西麓ではローム層の記載が最近になって増えてきている。これまで当社は焼場遺跡A地点、下原遺跡、加茂ノ洞B遺跡などにおいて土層断面の観察記載に重鉱物組成や火山ガラスの産状を重ね合わせることにより、ローム層から黒ボク土層に至る層序の確立を行ってきた。

今回の報告では、上記の遺跡と同じく箱根西麓に位置する桧林A遺跡においてローム層と黒ボク土層の層序対比を行う。ローム層については、斜面地のために削剥の著しい2区のローム層を対象とする。ここで認められるローム層は、現地所見では下部ローム層に対比されるともいわれている。黒ボク土層については、比較的厚い1区の土層を対象とする。また、その比較試料として、桧林A遺跡よりも30mほど標高が高く、幅広の尾根上に位置する生茨沢遺跡で認められた黒ボク土層の分析も行う。

ところで、愛鷹南麓および箱根西麓地域では、多くの遺跡が発掘されていながら、その当時の環境について言及した例は少ない。これは、その地形的な条件から、古環境解析に有効な花粉などの微化石を多く含む低地堆積物に乏しいことによると考えられる。しかし、最近ではローム層や黒ボク土層を土壌生成の視点から捉えて、その成因を考えることにより当時の環境に迫ろうとする研究が進められている。今回の報告では、上記の層序対比の対象とした桧林A遺跡および生茨沢遺跡の黒ボク土層について土壌の特性を分析し、その成因から当時の土壌の生成環境も検討する。

第1図　桧林A遺跡・生茨沢遺跡位置図

1　桧林A遺跡2区（第2地点）のローム層の層序対比

(1) 調査区断面および試料

対象とした断面は2区トレンチの両側セクションであり、ここでは第2地点とする。厚さ10cm～25cm程度の表土の直下にローム層が認められ、かなり削剥の著しい箇所である。表土直下のローム層は1層とされ、厚さ約80cm、スコリアを比較的多く含む暗褐色のローム層である。1層の上部には最大厚約10cmのスコリアまたは軽石質のテフラ層ブロックが2枚認められている。発掘調査者所見では、このテフラ層は愛鷹ローム層の中部ローム層中にある三島パミス（愛鷹ローム団研グループ，1969）に類似するとされているが、それよりも下位の下部ローム層中にあるテフラ層に対比されるとも考えられている。

試料は、表土層から1層の下底まで、厚さ5cm（層位により多少の変動あり）で層位的に連続して採取した。採取した試料は、上位より試料番号1とし、試料番号22までの22点である。このうち試料番号1～5は表土層、試料番号6～22は1層の試料である。また、試料番号7および11は、2枚あるテフラ層にそれぞれ相当する。分析には試料番号7～21までの奇数番号の8点を選択した。第2地点の柱状図と試料採取層位を第2図に示す。

(2) 分析方法

ローム層は、基本的にはテフラ層を鍵層として対比するが、テフラ層が認められない場合、または今回のようにテフラ層自体が対比できない場合には、ローム層およびテフラ層の重鉱物組成が対比の良い指標となる。愛鷹ローム団研グループ（1969）でも、重鉱物組成はローム層の層序の重要な要素となっている。ここでも、重鉱物組成を調べることにより対比を考える。試料の処理過程を以下に示す。

試料約40gに水を加え超音波洗浄装置により分散、250メッシュの分析篩を用いて水洗し、粒径1/16mm以下の粒子を除去する。乾燥の後、篩別し、得られた粒径1/4mm-1/8mmの砂分をポリタングステン酸ナトリウム（比重約2.96に調整）により重液分離、重鉱物を偏光顕微鏡下にて250粒に達するまで同定する。同定の際、不透明な粒については斜め上方からの落斜光下で黒色金属光沢を呈するもののみを「不透明鉱物」とする。「不透明鉱物」以外の不透明粒および変質等で同定の不可能な粒子は「その他」とする。

(3) 結　果

2枚のテフラ層のうち上位のテフラの試料である試料番号7は、不透明鉱物が多く、次に斜方輝石が多い。少量のカンラン石と単斜輝石を伴う。不透明鉱物のほとんどは磁鉄鉱であると考えられ、またカンラン石は、ほぼ全てが赤色に変質したイディングサイトになっている。試料番号9以下の試料は、下位のテフラの試料である試料番号11も含めて、カンラン石と不透明鉱物を主体とする組成である。カンラン石は、試料番号7と同様に全てイディングサイトであり、不透明鉱物もほとんどは磁鉄鉱である。そのうち、下位のテフラの試料である試料番号11はカンラン石が多く、2枚のテフラの間の試料番号9および1層下部の試料番号19、21はカンラン石と不透明鉱物が同量程度であり、1層中部の試料番号は13、15、17は不透明鉱物の方が多い。

各試料の分析結果を表1、第2図に示す。

(4) 層序対比

前述の当社がこれまでに分析した箱根西麓の遺跡では、いずれも調査対象が黒ボク上層または愛鷹ローム層の上部ローム層に対比される層準であったために、愛鷹ローム層の中部ローム層や下部ローム層に対比される箱根西麓のローム層の重鉱物組成に関する資料はない。しかし、地理的な位置と距離から

考えて、愛鷹ローム層も箱根西麓のローム層もその母材となっている火山砕屑物の給源や火山活動の影響による母材の変化などは共通すると考えて良い。したがって、ここでは、愛鷹ローム団研グループ（1969）に示されたテフラ層およびローム層の重鉱物組成と比較し、層序対比を行う。

まず、Ⅰ層上部に認められた２枚のテフラのうち、上位のテフラは両輝石を主体とする安山岩質のテフラであると考えられる。愛鷹ローム層の中では、安山岩質のテフラは、上部ローム層の第１スコリア、中部ローム層の三島パミス、下部ローム層の箱根軽石流、黄色パミス、オレンジパミスのいずれかである。このうち、層位的に上部ローム層の第１スコリアには対比されない。また、三島パミスの下位にはカンラン石を主体とする玄武岩質のテフラ層が何枚か記載されているが、下部ローム層中にはそのようなテフラは見出されていない。また、テフラ層以外のローム層の部分での重鉱物組成でも中部ローム層はカンラン石と不透明鉱物が多く、下部ローム層は斜方輝石と不透明鉱物が多い。したがって１層の上部に認められた２枚のテフラのうち、上位のテフラは三島パミスに対比される可能性が高く、１層は中部ローム層の中部付近に対比されると考えられる。三島パミスは箱根火山中央火口丘の活動により噴出したＨｋ－ＣＣ４に対比されている（町田・新井，1992）ことから、他の指標テフラとの層位関係によりおよそ4.5万～３万年前頃の噴出年代であろう。

２　桧林Ａ遺跡１区（第１地点）および生茨沢遺跡の黒ボク土層の層序と生成環境

(1)　調査区断面および試料

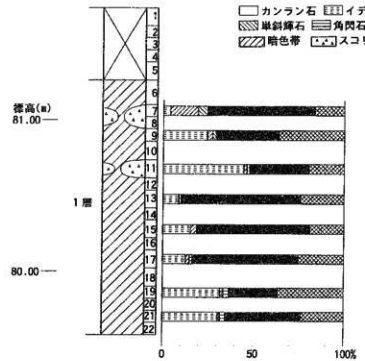
（ア）桧林Ａ遺跡１区（第１地点）

対象とした断面は、１区のＥ－９テストピット北壁であり、ここでは第１地点とする。厚さ約20cm程の耕作土層の下位に、層厚120cm程度の黒ボク土層が認められ、その下位の上部ローム層の最上部まで断面が作成された。黒ボク土層は、現地所見により上位よりⅠ層からⅤ層まで分層されている。Ⅰ層は層厚約50cmの褐色シルト層であるが、陶器の破片が出土し下部で下位のⅢ層のブロックが巻き上げられていることから、中世以降の耕作土層であると考えられている。Ⅲ層は、層厚20～30cm、軽石粒とスコリア粒が散在している黒色土層である。Ⅳ層は、層厚約20cmの褐色土層であり、Ⅲ層やⅤ層よりも明るい色調を呈する。Ⅴ層は、層厚約30cmの暗褐色土層であり、下半部は下位のローム層に由来するロームブロックを含んでいる。なお、現地所見では、Ⅴ層は焼場遺跡Ａ地点概報にある箱根西麓の基本土層の中の富士黒土層ｂに対比されると考えられている。黒ボク土層直下のローム層は、層厚約40cmあり、休場上層（ＹＬｕ）に対比されている。

試料は耕作土層からＹＬｕ下底まで厚さ５cm（層位により多少の変動あり）で層位的に連続して採取した。採取した試料は上位より試料番号１とし、試料番号32までの32点である。このうち試料番号１は耕作土層、試料番号２はⅠ層、試料番号３～10はⅡ層、試料番号11～13はⅢ層、試料番号14～18はⅣ層、試料番号19～23はⅤ層、試料番号24～32はＹＬｕである。分析には、層厚の薄いⅠ層とⅢ層については１点ずつ、他の層については上部と下部の２点ずつの合計10点を選択した。第１地点の柱状図と試料採取層位および選択した試料を図２に示す。

（イ）生茨沢遺跡

対象とした断面はＧ－３テストピット北壁である。厚さ10～30cmの表土の下位にそれとほぼ同様の厚さの耕作土層が認められている。黒ボク土層はその下位に層厚約50cm程で認められ、さらにその下位に上部ローム層が厚く認められている。表土層および耕作土層はそれぞれ１層および２層と云れ、黒ボク土層は３層および４層に分層されている。３層は層厚20～30cmの褐色土層であり、層相から桧林Ａ遺跡第１地点のⅣ層に対比されると考えられている。４層は、層厚30～40cmの暗褐色土層であり、層相から桧林Ａ地点のⅤ層に対比されると考えられている。ローム層は５層から20層まで分層されているが、こ



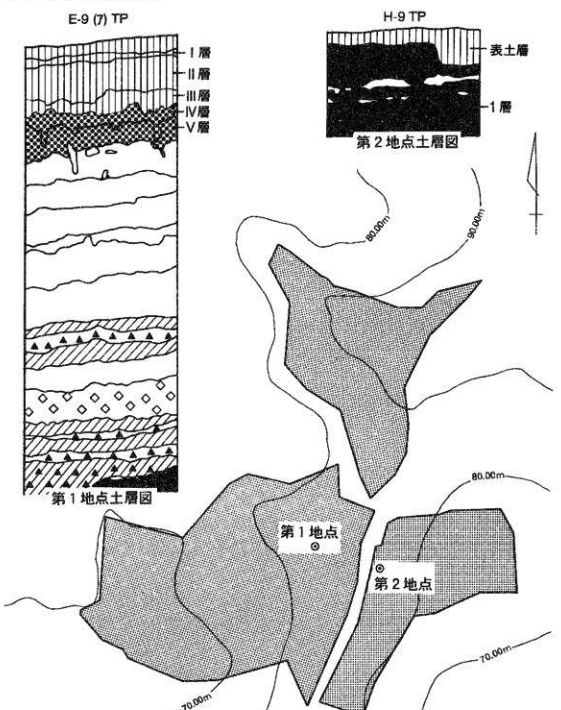
第２図　桧林Ａ遺跡第２地点の柱状図および重鉱物組成表

表１　鉱物分析結果

遺跡名	地点名	試料番号	カンラン石	イディングサイト	斜方輝石	単斜輝石	角閃石	不透明鉱物	その他	合計	バブル型火山ガラス	中間型火山ガラス	軽石型火山ガラス	石英	長石	その他	合計
桧林Ａ遺跡	第２地点	7	0	10	38	13	0	148	41	250	–	–	–	–	–	–	0
		9	0	61	7	5	0	87	90	250	–	–	–	–	–	–	0
		11	0	112	4	0	4	81	49	250	–	–	–	–	–	–	0
		13	0	22	3	0	1	164	60	250	–	–	–	–	–	–	0
		15	0	39	8	0	0	156	47	250	–	–	–	–	–	–	0
		17	0	32	5	0	4	146	63	250	–	–	–	–	–	–	0
		19	0	80	3	1	8	67	91	250	–	–	–	–	–	–	0
		21	0	76	2	2	7	104	59	250	–	–	–	–	–	–	0
	第１地点	2	22	22	72	21	5	57	51	250	3	1	5	0	22	219	250
		5	59	33	54	18	1	44	41	250	5	0	6	0	17	222	250
		9	63	28	48	15	4	45	47	250	6	9	9	0	19	207	250
		12	86	16	51	12	6	54	25	250	2	6	9	0	58	175	250
		15	69	15	43	15	5	44	59	250	10	1	16	0	19	204	250
		17	106	31	46	15	6	22	24	250	5	10	13	0	59	163	250
		20	149	33	18	13	1	7	29	250	3	3	1	0	8	235	250
		22	167	30	18	9	2	2	22	250	14	4	1	0	28	203	250
		26	109	76	23	11	1	6	24	250	7	8	1	0	24	210	250
		31	104	76	39	10	0	14	7	250	13	9	1	2	84	141	250
生沢遺跡		1	101	54	41	11	2	17	24	250	6	5	11	0	18	210	250
		9	81	87	26	12	4	21	19	250	6	0	9	0	8	227	250
		12	139	65	20	8	0	4	14	250	12	5	6	1	22	204	250
		14	159	51	19	8	0	2	11	250	5	3	3	0	35	203	250
		16	154	65	19	1	1	3	7	250	12	8	5	1	74	150	250
		19	71	78	52	8	12	22	7	250	18	16	7	2	78	129	250
		22	13	148	52	21	0	6	10	250	8	1	3	0	11	227	250

のうち、最上位の５層は、層厚20～40cmあり、ＹＬｕに対比され、その下位の６層はほぼ同様の層厚であり、休場中層（ＹＬｍ）に対比されている。

試料は耕作土層の２層から６層下部まで厚さ５cm（層位により多少の変動あり）で層位的に連続して採取した。採取した試料は上位より試料番号１とし、試料番号22までの22点である。このうち試料番号１～４は２層，試料番号５～10は３層、試料番号11～17は４層、試料番号18～20は５層、試料番号21，22は６層である。分析には、３層については上部と下部の２点、４層については上部、中部、下部の３点、５層と６層については各１点ずつの合計７点を選択した。生茨沢遺跡の柱状図と試料採取層位および選択した試料を第５図に示す。



第３図　桧林Ａ遺跡資料採集地点および土層図

(2) 分析方法

黒ボク土層の層序対比においても、前述した重鉱物組成は有効な対比指標になり得る。さらに、本地域の黒ボク土層からローム層上層にかけては、KgやK－Ah、UGなどの細粒ガラス質の指標テフラの検出も期待されるため、後述する土壌の特性分析として行う軽鉱物組成中の火山ガラスの産状も対比の指標とする。

さて、冒頭に述べたようにここでは、土壌の特性を捉えることにより、当時の環境についても考察を行う。土壌の特性としては1）鉱物組成（重鉱物組成、軽鉱物組成）、2）粒径組成、3）リン酸吸収量、4）酸性シュウ酸塩可溶のケイ酸・アルミニウム、5）ピロリン酸ナトリウム可溶のアルミニウム、6）腐植含量、7）腐植の光学性、8）植物珪酸体組成の8項目を選択した。以下に各項目について説明する。

1）鉱物組成

鉱物組成は、黒ボク土層の母材の給源を示し、その変化は火山活動の影響や砂塵の堆積状況などを反映している可能性がある。

処理過程：重鉱物組成は前述の通りである。軽鉱物組成は、重鉱物分析の処理により得られた軽鉱物分を偏光顕微鏡下にて同定した。火山ガラスは、便宜上軽鉱物にいれ、その形態によりバブル型・中間型・軽石型の3タイプに分類した。各型の形態は、バブル型は薄手平板状、中間型は表面に気泡の少ない厚手平板状あるいは破砕片状などの塊状ガラスであり、軽石型は小気泡を非常に多く持った塊状および気泡の長く伸びた繊維束状のものとする。また、重鉱物同様に風化変質粒、太分解粒は「その他」とした。

2）粒径組成

粒径組成は、母材の状況および土壌の風化度の指標となる。例えば砂分が多ければ、母材となった砕屑物の供給量が多かったかあるいは未風化の状況を表し、粘土含量が高ければ風化の進んだ土壌であるといえる。

処理過程：粒径組成の分析には、次のような調整を行った試料を使用する。試料は風乾後、軽く粉砕して2.00㎜φのふるいを通過させる（風乾細土）。この一部を細かく粉砕し、0.5㎜φのふるいを全通させる（粉砕上）。風乾細土の水分を加熱減量法（105℃、5時間）により測定する。なお、ここで調整した風乾細土と粉砕土は、粒径組成以下の土壌分析でも使用する。

粒径組成はピペット法（山根，1984）で行った。風乾細土試料10.00ｇに蒸留水と30%過酸化水素水を加え、熱板上で有機物を分解する。分解終了後、水を約500㎖加え、撹拌しながら30分間音波処理を行う。この液を1,000㎖沈底瓶に移し、分散剤を加える。往復振とう機で1時間振とうした後、水で1,000㎖にする。沈底瓶を1分間激しく振り、直ちに静置して所定の時間に5㎝の深さから懸濁液10㎖を採取する。採取懸濁液を湯煎上で蒸発乾固し、乾燥・秤量する（シルト・粘土の合量）。さらに所定の時間が経過した後、沈底瓶から懸濁液を5㎝の深さから10㎖採取し、蒸発乾固・乾燥・秤量する（粘土含量）。沈底瓶に残ったシルト・粘土をサイフォンを使ってすべて洗い流し、その残査を乾燥・秤量する（砂含量）。これを0.2㎜の篩でふるい分け、篩上の残留物を秤量する（砂含量中の粗砂含量）。

以上の測定値をもとに、粗砂・細砂・シルト・粘土4成分を合計を100とする各成分の重量%を求める。求められた粒径組成の値から国際法によって土性区分を行う。

3）リン酸吸収量

土壌のリン酸吸収能（リン酸固定力）は2.5%リン酸アンモニウム法（土壌標準分析・測定法委員会，1986）によるリン酸吸収係数がわが国の常法とされているが、この係数は2,000以上では火山灰土壌、1,500～2,000では火山灰の影響の強い土壌、1,000以下の場合では非火山灰土壌が多いといわれ、土壌分類において火山灰土壌と非火山灰土壌を区別するめやすとなっている（三好ほか，1983）。ここではさらに、火山灰土壌のアロフェン質黒ボク土と非アロフェン質黒ボク土の判別を行うため、加藤（1970

a）の研究報告に準拠した方法でリン酸吸収量を測定した。この方法は無処理（P０）試料と過酸化水素水処理（P１）した試料に0.1Mリン酸二ナトリウム（pH７）を加え、そのリン酸吸収量を測定する。三土（1985）によれば、P０では常法よりもリン酸吸収能の大小を拡大して示すが、火山灰土識別の慣行的目安とされるリン酸吸収係数1,500付近ではほとんど同じ値とされる。一方、P１ではP１／P０＜１が非アロフェン質黒ボク土のリン酸吸収量が過酸化水素処理によって著しく低下するのは、そのリン酸吸収を担っている重要な部分が腐植と結合したアルミニウムであるためで、過酸化水素処理によってそれが遊離し、上澄液除去の過程でなくなってしまうためといわれている（加藤，1970ｂ）。なお、腐植層下位のB層では、P１／P０＜１が必ずしも非アロフェン質の特徴であるとはいえない場合があるので、土壌層位区分がされていない断面では、P１／P０＜１だけを非アロフェン質の区分の指標としない方が良い。後述する酸性シュウ酸塩可溶ケイ酸、アルミニウムなどの無機非晶質物の組成結果と絡めて判断する必要がある。

処理過程：リン酸吸収量は0.1Mリン酸二ナトリウム塩溶液（pH７）抽出のバナドモリブデン酸比色法（加藤，1970ａ）で行った。風乾細土3.0ｇを遠沈管に秤とり、過酸化水素水（H_2O_2）処理をする。遠心分離して上澄液を捨て、３回水洗いする。これを50℃の熱風乾燥機中で乾燥し、土塊を遠沈管中でていねいに押しつぶす。これと別に風乾細土3.0ｇを遠沈管に秤とり、それぞれ0.1Mリン酸二ナトリウム（pH７）30mℓを加え、24時間接触させたのち、吸収量を測定する。

4）酸性シュウ酸塩可溶ケイ酸・アルミニウム

この塩に溶解するケイ酸（SiO）はアロフェン、イモゴライトなどのケイ酸アルミニウムに由来する。三土（1985）によればSiO含量が１％を境にアロフェン質と非アロフェン質の黒ボク土では明瞭に区別され、SiO ≧１％はアロフェン質、SiO ＜１％は非アロフェン質としている。また、この塩に溶解するアルミニウム（AlO）はSiOと同じアロフェン、イモゴライトあるいはアルミニウム－腐植質複合体に由来する。また、三土（1985）ではSiO／AlO比がSiO／AlO ≧0.45ではアロフェン質、SiO／AlO ＜0.45では非アロフェン質としている。

処理過程：酸性シュウ酸塩可溶ケイ酸・アルミニウムは0.2M酸性シュウ酸塩溶液（pH３）抽出で、ケイ酸はモリブデン青比色法、アルミニウムは原子吸光光度法（International Soil Reference and Information Center，1986）で行った。

ａ．抽出操作

粉砕土0.30ｇに0.2M酸性シュウ酸塩溶液（pH３）を30mℓ加え、液温25℃の暗条件で４時間振とうする。0.4％高分子凝集剤を２滴加えて激しく振とうし、3,000 rpmで15分間遠心分離し、測定試料液を得る。

ｂ．ケイ酸の測定

試料液0.2mℓを試験管に採取し、蒸留水9.8mℓ、１N硫酸１mℓ、発色液２mℓを加える。正確に２分後に20％酒石酸溶液を１mℓ加え、さらに還元剤0.2mℓを加えて30分後に650nmで比色定量する。定量値と風乾細土水分量から乾土あたりのケイ酸量（SiO_2）を求める。

ｃ．アルミニウムの測定

試料液１mℓを試験管に採取し、10,000 ppmの塩化カリウム溶液１mℓ、蒸留水８mℓを加える。これを原子吸光光度計で定量する。定量値と風乾細土水分量から乾土あたりのアルミニウム量（Al_2O_3％）を求める。

5）ピロリン酸ナトリウム可溶アルミニウム

この塩に溶解するアルミニウム（Alp）は、大部分が腐植と複合体を形成しているかまたはフェリハイドライドに由来する。また、三枝ほか(1993)ではAlp／AlO比によって非アロフェン質黒ボク土とア

ロフェン質黒ボク土を区分しており、Alp／AlO ≧0.5は非アロフェン質黒ボク土に区分される。一方、Alp／AlO <0.5では SiO ≧0.5%ならばアロフェン質、SiO <0.5%かつ粘土含量≧８%ならば非アロフェン質として区分している。これは三土(1985)の SiO 含量による区分とやや異なる。特に Alp／AlO ≧0.5は、活性アルミニウムの半分以上をアロフェン、イモゴライト以外のアルミニウム(主として腐植との複合体)が占めていることを意味し、前記したリン酸吸収量(P０、P１)と密接な関係がある。

処理過程：ピロリン酸ナトリウム可溶アルミニウムは0.1Mピロリン酸ナトリウム塩溶液抽出ー原子吸光光度法（International Soil Reference and Information Center，1986）で行った。

a．抽出操作

粉砕土0.30ｇに0.1Mピロリン酸ナトリウム溶液30mℓを加え、液温25℃で16時間振とうする。0.4%高分子凝集剤を２滴加えて激しく振とうし、3,000 rpm で15分間遠心分離し、測定試料液を得る。

b．アルミニウムの測定

試料液５mℓを試験管に採取し、蒸留水５mℓを加えて混合する。これを原子吸光光度計で定量する。定量値と風乾細土水分量から乾土あたりのアルミニウム量（Al_2O_3%）を求める。

6）腐植含量

土壌有機物、いわゆる腐植は土壌に供給された植物遺体が分解し、腐植物質といわれる高分子化合物として再合成されたものであるから、腐植含量は地表の植生環境の指標となりうる（竹迫，1990）。

処理過程：腐植含量（有機物量）はチューリン法（土壌標準分析・測定法委員会，1986）で行った。粉砕土0.100～0.500ｇを100mℓ三角フラスコに秤とり、0.4Nクロム酸・硫酸混液10mℓを正確に加え、約200℃の砂浴上で正確に５分間煮沸する。冷却後、0.2%フェニルアントラニル酸液を指示薬に0.2N硫酸第１鉄アンモニウム液で滴定する。滴定値および加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりの有機炭素量（Org　C 乾土%）を求め、1.724を乗じて腐植含量を算出する。

7）腐植の光学性

ここでは、ＣＤ値、⊿log Ｋ値、ＭＩ値の３つの値を求める。ＣＤ値は、従来の腐食形態分析法（熊田，1981）による「腐植抽出割合×ＰＱ（抽出腐植中の腐植酸部の割合）×ＲＦ（腐植酸単位あたりの色の濃さ）」的性格をもつ指標で、ＣＤ値が高いものほど芳香族な構造に富み、ＣＤ値の低いものほど脂肪族な構造に富むといわれている（本名・山本，1992）。

⊿log Ｋ値はＡ、Ｂ、Ｐ、Ｒｐの腐植酸型（熊田，1981）を決定する際の⊿log Ｋと対応し、腐植化度の指標としてみることができる。例えば、Ａ型腐植酸は黒ボク土特有の腐植酸とされているが、その⊿log Ｋは他の型の腐植酸に比較して低く、腐植の面からみた他の土壌型との区分の重要な指標とされている。大羽・本名（1984）では、この Ａ型腐植酸に分類される土壌を水酸化ナトリウム（NaOH）抽出液のみで抽出し、その⊿log Ｋ（今回と同じ手法による測定値）を数多く求めた結果、⊿log Ｋ≦0.650を黒ボク土の判定基準としている。

ＭＩ値は、腐植にとって最も特徴的な波長域における２波長の比。本名・山本（1992）ではＰｇによるスロープが急峻に現れる450 nm と520 nm の吸光度比を用いてＡ型腐植酸とＰ型腐植酸を明瞭に判別した。この値をＭＩ値として腐植の質的判定指標にしている。そこでは、我国の火山灰を母材とした土壌の分析結果（ほとんどが表層土の結果）からＭＩ＝1.70を境にそれ以下はすべてＡ型腐植酸で、それ以上はＰ型腐植酸に分類されている。また、数多くの分析結果から、ＭＩが1.7～2.0の場合はほとんどがＢ型腐植酸であり、Ｐ型、Ｒｐ型のほとんどは2.0以上という区分が明確にできるとしている。

処理過程：腐植の光学性は腐植簡易分析法（本名・山本，1992）で行った。腐植の抽出は、炭素含量100mgに相当する重量の粉砕土を100mℓ容三角フラスコに正確に秤とり、0.5% NaOH（水酸化ナトリウム）溶液50mℓ（炭素：液＝１：500）を加える。30℃で１時間振とう後、0.1%高分子凝集剤溶液１～２滴

を加え、よく振り混ぜる。その後、4,000 rpm（回転）、15分間の遠心分離で透明な抽出腐植溶液を得る。

吸光度の測定は、抽出された腐植溶液10mlを50mlメスフラスコにとり、水で定容とする。（この時点で5倍に希釈され、NaOHの濃度は0.5%となる）。この希釈溶液について400、600 nmの吸光度を測定する（色が濃い場合には600 nmの吸光度が0.100近くなるように、0.1% NaOH溶液でさらに希釈するが、測定時間は抽出後、3時間以内とする）。

結果表示は次のように示す。

- $\Delta \log K$値＝$\log K400 - \log 600 = \log (K400 / K600)$
- CD値（抽出腐植原液の600 nmの吸光度）＝600 nmの吸光係数×希釈倍率

一方、MI値（Melanic Index）は、風乾細土約1.0 gを50ml容遠心管に入れ、分注器で0.5% NaOH溶液約25mlを加える。遠心管に蓋をしてテープで密封し、室温で1時間振とうする。振とう終了後、0.1%高分子凝集剤溶液1～2滴を加え、よく振り混ぜた後、4,000 rpm、15分間の遠心分離で抽出腐植溶液を得る。得られた抽出腐植溶液の約1mlを試験管にとり、0.1% NaOH溶液20mlを分注器で加える（NaOHの濃度は約0.1%となる）。この溶液について、分光光度計により450、520 nmの吸光度を測定する。450 nmの吸光度が1を超える場合には、さらに0.1% NaOH溶液で希釈して測定する（測定時間は抽出後、3時間以内）。結果の表示は$MI値 = K_{450} / K_{520}$で示す。

8）植物珪酸体組成

黒ボク土中に残留する植物珪酸体の産状から、土壌形成の重要な要因となったイネ科草本植生の状況を考える。

処理過程：湿重約5 gの試料について、過酸化水素水・塩酸処理、超音波処理、沈定法、重液分離法の順に物理・化学処理を行い、植物珪酸体を分離・濃集する。これを検鏡し易い濃度に希釈し、カバーガラス上に滴下・乾燥する。乾燥後、プリュウラックスで封入し、プレパラートを作成する。400倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部（葉身と葉鞘）の短細胞珪酸体および機動細胞珪酸体を、近藤・佐瀬（1986）の分類に基づいて同定・計数した。

(3) 結　果

（ア）檜林A遺跡I区（第1地点）

1）鉱物組成

a）重鉱物組成

I層は、斜方輝石と不透明鉱物が多く、少量のカンラン石と単斜輝石を伴う組成である。カンラン石の半分ほどはイディングサイトに変質している。II層からIV層上部まではカンラン石、斜方輝石、不透明鉱物の3鉱物を主体とする組成である。どの試料においても3鉱物の中ではカンラン石がやや多い。カンラン石の一部はイディングサイトに変質している。IV層下部以下では、カンラン石が多く、少量の斜方輝石と単斜輝石および不透明鉱物を伴う組成である。中でもV層のカンラン石の割合が最も多い。IV層下部およびV層では、イディングサイトの割合は低いが、YLuではカンラン石のほとんどがイディングサイトに変質している。

b）軽鉱物組成

どの試料においても、軽鉱物組成は「その他」とした未分解粒がほとんどであり、それを除くと長石が多い。石英は試料によって極めて微量認められるのみである。火山ガラスは、どの試料にも少量認められるが、その量比と形態に層位による変化が若干認められる。I層およびII層上部では、バブル型と軽石型の火山ガラスが微量あるのみであるが、II層下部からIV層下部にかけては、中間型および軽石型の火山ガラスが比較的多く認められる。V層上部では火山ガラスは極微量であるが、

V層下部ではバブル型火山ガラスが若干多くなる。YLuでは、バブル型および中間型の火山ガラスが少量認められる。

以上の重鉱物組成および軽鉱物組成の結果を、表1、第4図に示す。

2）粒径組成

各層ともシルト、粘土含量の多い細粒質な組成を示し、いずれも粘土質な埴土（C：Clay）の土性に区分される。これを各層毎に細かくみてみると、YLuでは試料番号31、試料番号26ともに細粒質な組成を示す。特に上部の試料番号26は粘土含量が60%近くもあり、より細粒質な組成を示す。土性も試料番号31の軽埴土（LiC：LightCray）に対し、最も粘土質な重埴土（HC：HeavyCray）に区分される。V層では試料番号22、試料番号20ともに砂含量は同じであるが、シルト、粘土含量は上部の試料番号20で粘土含量が高く、下部の試料番号22でシルト含量が高い。土性はこの違いによって重埴土（HC：HeavyCray）とシルト質埴土（SiC：SiltyCray）に区分される。Ⅳ層、Ⅲ層では試料番号17、試料番号15、試料番号12ともに粘土含量が50%以上と高く、シルト含量を合わせるといずれも80%以上の高い値となる。土性はすべて重埴土（HC：HeavyCray）に区分される。Ⅱ層では試料番号9、試料番号5ともに近似した組成を示し、上部、下部に大きな組成変化は認められない。但し、下位のⅣ層、Ⅲ層との比較では粘土含量がやや低く、細砂（FS：FineSand）含量が高い傾向にある。土性も軽埴土（LiC：LightCray）に区分され、異なる。Ⅰ層では試料番号2が粘土含量の50%以上の値を示し、より細粒質な組成を示す。土性は重埴土（HC：HeavyCray）に区分される。

3）リン酸吸収量

P0においてYLuの試料番号31、試料番号26、V層の試料番号22、試料番号20は、いずれも2,000以上と著しく高く、明らかに火山灰土壌に区分される。一方、Ⅳ層の試料番号17、試料番号15、Ⅲ層の試料番号12、Ⅱ層の試料番号5、試料番号9は1,500前後を示し、常法の区分では火山灰の影響が強い土壌に区分され、V層以深とは異なったリン酸吸収量である。Ⅰ層の試料番号2は1,000以下を示し、非火山灰土壌に区分され、さらに異なったリン酸吸収量である。次にP1ではYLuの試料番号31、試料番号26、V層の試料番号22、試料番号20がいずれもP0／P1＜1である。一方、Ⅳ層の試料番号17、試料番号15、Ⅲ層の試料番号12、Ⅱ層の試料番号5、試料番号9、Ⅰ層の試料番号2はP1／P0＞1であり、V層以深とは区別される。

4）酸性シュウ酸塩可溶ケイ酸・アルミニウム

a）ケイ酸

各層の各試料ともに1%以上である。その中で、V層を境にさらに値が異なり、V層以深で2%以上を示す。これは、リン酸吸収量のP1／P0の境と同様である。さらにV層以深では層の上部（試料番号20、試料番号26）、下部（試料番号22、試料番号31）で差があり、下部で高い傾向が認められる。この傾向はⅣ層においても認められる。

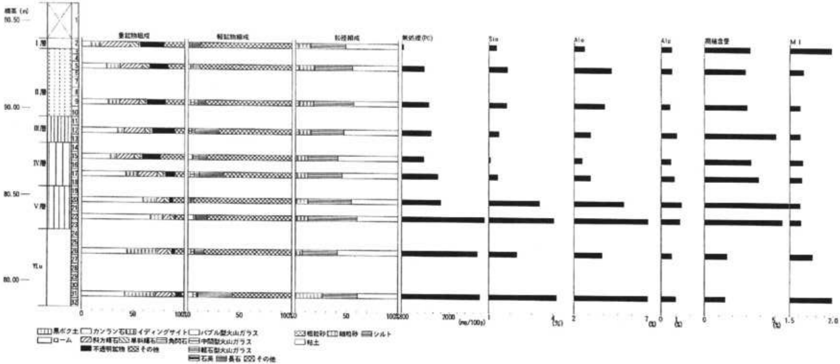
b）アルミニウム

YLuの試料番号は31、V層の試料番号22の下部で7%以上と最も高い。これは、SiOと同じ傾向である。一方、SiO／AlOは各層各試料ともに0.45より高い。特にV層以深の試料は0.9前後でありⅣ～Ⅰ層の試料とは区別される。

5）ピロリン酸ナトリウム可溶アルミニウムAlpがV層の試料番号22で1%以上あり、他の試料に比較して高い。一方、Alp／AlOは各層の試料ともに0.1～0.3前後であり、0.5よりも明らかに低い。

6）腐植含量

各層によって腐植含量が大きく異なる。YLuは試料番号26、試料番号31とも1.5%前後であり、腐植含量が最も低い。一方、すぐ上位のV層では各試料とも5.5～6.0%であり、腐植含量が最も高い。

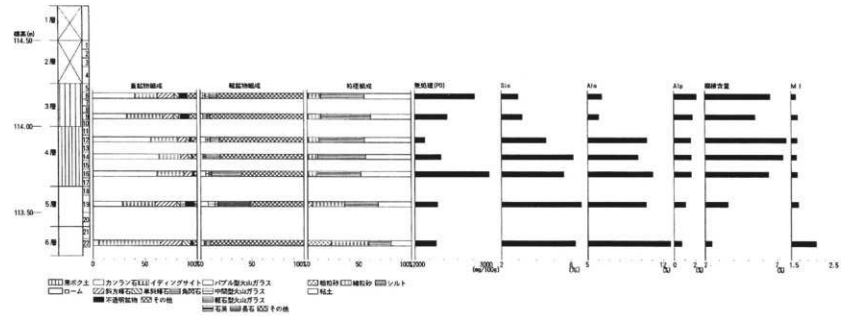


第４図　桧林Ａ遺跡第１地点の柱状図および土壌特性

表２　桧林Ａ遺跡第１地点の土壌理化学分析結果

層名	試料番号	粒径組成 粗粒砂 (wt%)	細粒砂 (wt%)	シルト (wt%)	粘土 (wt%)	土性	リン酸吸収量 無処理(P0) (mgP205/乾土100g)	H2O2処理(P1) (mgP205/乾土100g)	P1/P0	選択溶解処理 Sio (乾土%)	Alo (乾土%)	Alp (乾土%)	Sio/Alo (mol. ratio)	Alp/Alo	腐植組成 腐植含量 (乾土%)	CD	⊿logK	MI
I	2	2.8	11.8	34.4	51.0	HC	842	1147	1.36	1.35	2.71	0.71	0.74	0.26	3.24	1.35	0.78	1.98
II	5	3.2	15.4	36.9	44.5	LiC	1366	1707	1.25	1.86	4.57	0.75	0.61	0.16	2.93	3.71	0.62	1.66
	9	3.4	14.0	39.5	43.1	LiC	1481	1584	1.07	1.82	4.08	0.60	0.67	0.15	3.03	4.41	0.60	1.62
III	12	3.2	12.1	31.9	52.8	HC	1544	1598	1.03	1.47	3.13	1.06	0.70	0.34	5.04	5.34	0.61	1.62
IV	15	1.6	10.1	29.8	58.5	HC	1360	1420	1.04	1.07	2.55	0.66	0.63	0.26	3.32	3.72	0.64	1.65
	17	1.4	10.4	34.0	54.2	HC	1716	1748	1.02	1.42	3.13	0.91	0.68	0.29	3.85	4.19	0.64	1.64
V	20	0.7	11.5	42.4	45.6	HC	1784	2370	1.33	3.37	5.41	1.40	0.94	0.26	5.96	5.82	0.63	1.62
	22	1.0	11.3	47.7	40.0	SiC	2888	2543	0.88	4.04	7.09	1.30	0.85	0.18	5.49	5.50	0.64	1.63
YLu	26	0.2	6.6	34.5	58.7	HC	2705	1811	0.67	2.29	3.93	0.71	0.87	0.18	1.58	1.50	0.69	1.76
	31	0.3	26.3	34.0	39.4	LiC	2774	2170	0.78	4.17	7.07	1.00	0.88	0.14	1.45	0.46	0.67	1.99

P0：無処理リン酸吸収量
P1：H2O2処理後のリン酸吸収量
Sio、Alo：酸性シュウ酸塩可溶SiO2、Al2O3
Alp：ピロリン酸Na可溶Al2O3
CD：Color density（K600×希釈倍率）
⊿logK：log(K400/K600)
MI：Meranic index（K450/K520）



第５図　生茨沢遺跡の柱状図および土壌特性

表３　生茨沢遺跡の土壌理化学分析結果

層名	試料番号	粒径組成					リン酸吸収量			選択溶解処理				腐植組成				
		粗粒砂(wt%)	細粒砂(wt%)	シルト(wt%)	粘土(wt%)	土性	無処理(P0)(mgP2O5/乾土100g)	H2O2処理(P1)(mgP2O5/乾土100g)	P1/P0	Sio(乾土%)	Alo(乾土%)	Alp(乾土%)	Sio/Alo(mol. ratio)	Alp/Alo	腐植含量(乾土%)	CD	⊿logK	MI
3	6	0.9	12.4	41.9	44.8	LiC	2836	3375	1.19	2.98	6.34	2.20	0.70	0.35	6.55	6.50	0.59	1.61
	9	0.5	12.8	47.8	38.9	SiC	2458	2655	1.04	3.22	6.04	1.82	0.80	0.30	5.49	4.50	0.63	1.65
4	12	0.8	10.8	43.4	45.0	LiC/HC	2145	3406	1.59	4.57	10.52	1.65	0.65	0.16	7.67	5.58	0.62	1.64
	14	0.6	9.6	45.8	44.1	SiC	2368	3501	1.48	6.15	9.72	1.68	0.95	0.17	7.42	5.58	0.62	1.63
	16	0.5	9.0	41.9	48.6	HC	3032	3421	1.13	5.60	11.04	1.67	0.76	0.15	6.43	4.90	0.61	1.64
5	19	4.6	30.9	32.5	32.0	LiC	2318	3169	1.37	6.61	10.44	1.13	0.95	0.11	3.60	2.58	0.62	1.67
6	22	22.7	36.4	21.3	19.6	CL	2301	3019	1.31	6.27	12.65	0.76	0.74	0.06	2.47	0.53	0.67	2.09

P0：無処理リン酸収着量
P1：H2O2処理後のリン酸収着量
Sio,Alo：酸性シュウ酸塩可溶Si02,Al203
Alp：ピロリン酸Na可溶Al203
CD：Color density（K600×希釈倍率）
⊿logK：log(K400/K600)
MI：Meranic index（K450/K520）

この他にⅢ層の試料番号12でも5.0%あり、腐植含量の高い傾向が認められる。その他は、いずれも3%前後の含量である。

7）腐植の光学性

a）CD値

腐植含量が5%以上のV層の試料番号20、試料番号22、Ⅲ層の試料番号12で5を超える高い値が認められる。一方、腐植含量が2%未満のYLuではCD値も相対的に低い。

b）⊿log K値

YLuの試料番号26、試料番号31、Ⅰ層の試料番号2が0.65を超える値であるが、その他の試料はいずれも0.65以下である。

c）MI値

YLuの試料番号26、試料番号31、Ⅰ層の試料番号2が1.70を超える値であるが、その他の試料はいずれも1.70以下である。これは⊿log K値と全く同じ傾向である。

以上2）～7）までの分析結果を表2、第4図に示す。

8）植物珪酸体組成

各試料からは植物珪酸体が検出されるが、保存状態は悪く、表面に多数の小孔（溶食痕）の認められるものもある。YLu（試料番号31・26）では、植物珪酸体検出個数が少なく、タケ亜科がわずかに認められるに過ぎない。V層～Ⅲ層（試料番号22～12）ではネザサ節を含むタケ亜科の優占する組成であり、ウシクサ族やイチゴツナギ亜科も認められる。試料番号17では検出個数が少ないが、タケ亜科の算出が目立つ。また、試料番号12では、イネ族の機動細胞珪酸体が認められる。Ⅱ層～Ⅰ層（試料細胞9～2）でも、下位と同様にタケ亜科が優先するが、イネ属が増加する傾向が見られ、ヨシ属も認められる。また、オオムギ族も認められたが、形態から栽培種か否かの判別はつかない。

各試料の分析結果を表4、第6図に示す。

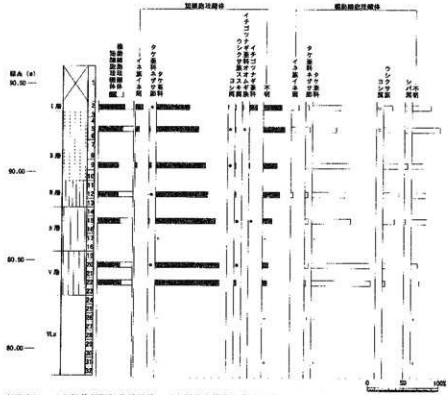
（イ）生茨沢遺跡

1）鉱物組成

a）重鉱物組成

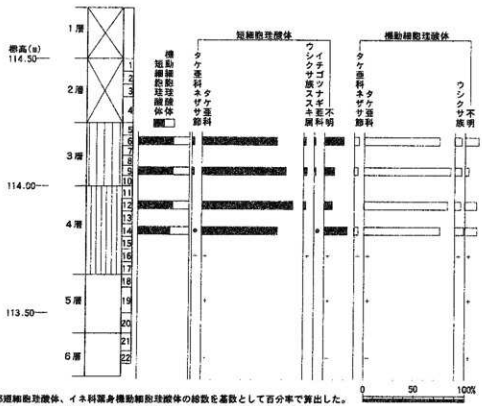
表4　植物珪酸体分析結果

種類	遺跡名	検鏡A遺跡第1地点										生茨沢遺跡						
	試料番号	2	5	9	12	15	17	20	22	26	31	6	9	12	14	16	19	22
イネ科葉部短細胞珪酸体																		
イネ族イネ属		39	16	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
タケ亜科ネザサ節		2	5	7	2	3	-	2	-	-	-	6	5	-	2	1	-	
タケ亜科		160	168	155	157	180	22	181	215	30	35	169	188	199	157	28	6	27
ヨシ属		4	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ウシクサ族ススキ属		5	3	4	4	2	-	1	9	-	-	5	7	5	-	2	-	-
イチゴツナギ亜科オオムギ族		6	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
イチゴツナギ亜科		39	3	4	-	1	-	-	-	-	-	3	4	-	2	-	-	-
不明キビ型		18	35	23	18	13	1	4	7	1	-	16	8	3	15	2	-	1
不明ヒゲシバ型		41	37	14	22	8	2	9	3	1	1	18	14	11	20	1	-	-
不明ダンチク型		32	15	5	12	9	1	5	6	1	-	11	1	4	14	3	1	-
イネ科葉身機動細胞珪酸体																		
イネ族イネ属		13	7	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
タケ亜科ネザサ節		6	8	10	6	6	-	6	2	1	-	5	4	-	5	1	-	-
タケ亜科		50	40	86	73	67	5	89	92	33	4	78	92	88	95	9	7	14
ヨシ属		1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
ウシクサ族		15	10	33	35	20	-	4	4	-	-	7	7	6	11	4	-	-
シバ属		4	5	7	7	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
不明		33	48	26	31	27	-	10	13	3	1	14	4	12	15	5	1	2
合計																		
イネ科葉部短細胞珪酸体		346	284	223	215	215	26	292	240	33	36	228	227	222	210	37	7	28
イネ科葉身機動細胞珪酸体		122	119	162	157	122	5	109	111	37	5	104	107	106	126	19	8	16
総計		468	403	385	372	337	31	311	351	70	41	332	334	328	336	56	15	44
組織片																		
イネ属珪酸体		9	2	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
イネ属短細胞列		2	4	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-



出現率は、イネ科葉部短細胞珪酸体、イネ科葉身機動細胞珪酸体の総数を基数として百分率で算出した。なお、●○は１％未満の種類、＋はイネ科葉部短細胞珪酸体で200個未満、イネ科葉身機動細胞珪酸体で100個未満の試料で検出された種類を示す。

第６図　桧林Ａ遺跡第１地点の植物珪酸体組成



出現率は、イネ科葉部短細胞珪酸体、イネ科葉身機動細胞珪酸体の総数を基数として百分率で算出した。なお、●は１％未満の種類、＋はイネ科葉部短細胞珪酸体で200個未満、イネ科葉身機動細胞珪酸体で100個未満の試料で検出された種類を示す。

第７図　生茨沢遺跡の植物珪酸体組成

3層から6層までどの試料においてもカンラン石が最も多く、少量の斜方輝石、単斜輝石と不透明鉱物を伴う組成である。中でも4層は他の層に比べてカンラン石の量比が最も高い。3層上部および4層ではイディングサイトに変質しているカンラン石は一部であるが、3層下部と5層ではほぼ半分程度、6層ではほとんどが変質している。また、5層および6層では斜方輝石の割合が他の層に比べて多い。

b）軽鉱物組成

どの試料においても、軽鉱物組成は「その他」とした未分解粒がほとんどであり、それを除くと長石が多い。石英は、試料によって極めて微量認められるのみである。火山ガラスは、どの試料にもバブル型、中間型、軽石型の3形態が少量認められる。その量比と形態の層位による変化はあまり明瞭ではない。その中で、3層上部および下部にやや軽石型が多く、5層に中間型が多い傾向が読み取れる。

以上の重鉱物組成および軽鉱物組成の結果を表1、第5図に示す。

2）粒径組成

6層の試料番号22を除く各層の各試料ともにシルト、粘土含量の多い細粒質な組成を示し、いずれも粘土質な埴土（C ： Cray）の土性に区分される。これは檜林A遺跡と大きく変わらないが、細かいところで若干異なる。まず、5層の試料番号19では檜林A遺跡のYLuの試料よりやや砂含量が高い。全体の組成は檜林A遺跡の試料番号31とほぼ同じである。一方、同じ層位に檜林A遺跡の試料番号26のように粘土含量が60%近くにも達する部分が認められず、直上の4層の試料番号19でそれに近い組成が認められる。4層の試料番号14、試料番号12は、檜林A遺跡V層の試料番号22、試料番号20とほぼ同じ組成であり、粒径組成での対応関係も認められる。しかし、3層の試料番号9、試料番号6は、対応する檜林A遺跡IV層の試料番号17、試料番号15とは粘土含量が10%近く異なり、シルトの高い組成である。土性も重埴土（HC ： HeavyCray）に対し、軽埴土（LiC ： LightCray）、シルト質埴土（SiC ： SiltyCray）に区分される。

3）リン酸吸収量

各試料ともにP0は2,000以上と著しく高く、いずれもが火山灰土壌に区分される。これは、檜林A遺跡のYLu～V層の各試料とはほぼ対応するが、IV層の試料番号17、試料番号15とは異なる。次にP1では各試料ともにP0より高い値を示し、いずれもP1／P0＞1である。この点は、檜林A遺跡のYLu～V層とは全く異なった傾向である。

4）酸性シュウ酸塩可溶ケイ酸・アルミニウム

a）ケイ酸

各試料ともに1%以上であることはもちろんであるが、その量は6%に達する試料もあり、檜林A遺跡とは量的に異なる。ただし、同層の上部と下部では下部の方が高い傾向にあること、および檜林A遺跡V層とIV層に対応する4層と3層の境において含量が上位で急減することは共通する。

b）アルミニウム

6層の試料番号22が最も高く、3層の試料番号6、試料番号9が最も低い。その差は約2倍である。いずれにしてもSiOと同じ傾向にあり、量的には檜林A遺跡よりも明らかに高い。SiO／AlOはいずれも0.45より高く、この点で檜林A遺跡と共通する。

5）ピロリン酸ナトリウム可溶アルミニウム可溶アルミニウム

3層の試料番号6が最も高く、2%を超える。最も低いのは6層の試料番号22で1%未満である。全体的に檜林A遺跡よりも高い。一方、Alp／AlOは各層の各試料ともに0.1～0.3前後であり、0.5よりも明らかに低い。この点は檜林A遺跡と共通する。

6）腐植含量

6層、5層を除く各層試料5％以上の高い腐植含量である。また、全体的に檜林A遺跡よりも各層とも含量が高い傾向にある。ただし、V層で極大値、ローム層で極小値を示す点で檜林A遺跡と共通する。

7）腐植の光学性

a）CD値

腐植含量が5％以上の4層、3層の各試料では、5に近い値またはそれ以上の値が認められる。一方、腐植含量が低い6層、5層ではCD値も相対的に低い。この点は檜林A遺跡と共通する。

b）⊿log K値

6層の試料番号22を除く各層試料ともに0.65以下である。

c）Mi値

6層の試料番号22を除く各層各試料ともに1.70以下である。これは、⊿log K値と全く同じ傾向である。

以上2）～7）までの分析結果を表3、第5図に示す。

8）植物珪酸体組成

各試料から植物珪酸体が検出されるが、檜林A遺跡第1地点と同様に保存状態は悪い。6層（試料番号22）、5層（試料番号19）、4層下部（試料番号16）では、檜林A遺跡第1地点と同様な産状を示し、タケ亜科がわずかに認められるに過ぎない。

4層中部～3層（試料番号14～6）では同様な組成が見られ、ネザサ節を含むタケ亜科が優占し、ウシクサ族、イチゴツナギ亜科なども見られる。これは、檜林A遺跡の第1地点のV層やⅣ層と類似する組成である。また、檜林A遺跡第1地点で見られたイネ属やヨシ属は全く算出しない。

各試料分析結果を表4、第7図に示す。

(4) 層序対比

箱根西麓および愛鷹南麓のローム層上部から黒ボク土層にかけては当社の分析例により、天城カワゴ平軽石（Kg：町田ほか，1984）、鬼界アカホヤ火山灰（K－Ah：町田・新井，1978）、立川ローム上部ガラス質火山灰（UG：山崎，1978）の3枚の細粒ガラス質の広域テフラが検出される可能性が高い。これらのテフラは、それぞれ降灰年代が、2,800～2,900年前、6,300年前、1.2万年前とされている（町田・新井，1992）。今回の分析では、檜林A遺跡第1地点、生沢遺跡の両地点ともに明瞭な火山ガラスの濃集層準が得られなかったため、これらのテフラの降灰層準はわからない。しかし、火山ガラスの層位的な産状から、その由来するテフラを推定することができる。

檜林A遺跡第1地点では、Ⅳ層下部以上散在する中間型および軽石型火山ガラスはKgに由来すると考えられ、V層下部にやや多いバブル型火山ガラスは、褐色のガラスを伴うことからK－Ahに由来し、YLuの中間型火山ガラスはUGに由来すると考えられる。生沢遺跡では、3層にやや多い軽石型火山ガラスはKgに由来し、4層に全体的にやや多いバブル型火山ガラスは、褐色のガラスを伴うことからK－Ahに由来し、5層に多い中間型火山ガラスはUGに由来すると考えられる。

一方、この地域の黒ボク土層の重鉱物組成の層位的な変化では、富士黒土層（FBaおよびb）においてカンラン石の量比が最も高くなることが、よい対比の指標となっている。今回の分析では檜林A遺跡第1地点のV層および生沢遺跡の4層にそれが認められる。

以上のことから、今回対象とした2ヵ所の地点における黒ボク土層からローム層上部にかけての層序は、次のように考えることができる。

（ア）檜林A遺跡第1地点

1層およびII層の年代指標となるものは今回の分析では見出されていないため、II層からの陶器片出土などから推定されている中世以降という年代観に従う。この層準ではイネ属の植物珪酸体が検出されているが、周辺での栽培を反映したものであろう。また、検出されたオオムギ族が栽培種であれば、ムギ栽培の存在も想定できる。

III層およびIV層は、Kgが分散していることと下位のV層がFBに対比されることから、概ね縄文時代前期以降中世に至るまでの間に形成された土層であると考えられる。特にIV層は、その色調と層位から焼場遺跡A地点の基本土層にある栗色土層（Ku）に対比される可能性がある。

V層は、K－Ahの産状と重鉱物組成から、焼場遺跡A地点の基本土層にある富士黒土層（FB）に対比される。基本土層では上部のFBaと下部のFBbとに分けられているが、本地点では分層できない。焼場遺跡A地点では縄文時代早期の遺物包含層および遺構検出面となっているが、本地点でもおよそその時期に形成されたと考えて良い。

YLuは、基本土層のYLuに対比される。UGの産状は明瞭ではないが、同テフラが検出される南関東における立川ローム層の最上部に対比される。

（イ）生炭沢遺跡

3層は、Kgの産状と下位の4層がFBに対比されることから、檜林A遺跡第1地点のIII層～IV層に対比される。色調などからは、IV層すなわちKuに対比される可能性が高い。

4層はK－Ahの産状と重鉱物組成からFBに対比される。檜林A遺跡第1地点と同様にFBの中での細分はできない。

5層は、UGの産状からYLuに対比される。6層ではUGの拡散がほとんど認められないので、6層はYLmに対比してよい。

(5) 黒ボク土層の生成環境

いわゆる褐色の火山灰土を指すローム層は、最近では古環境復元の試料としても認識されている。ローム層（ここではいわゆる関東ローム層のような細粒の火山砕屑物を母材とする土壌を指すものとして用いる）の成因については、従来は小噴火による降下火山灰の累積したもの（例えば町田（1964）など）とする説が主に支持されてきたが、最近では、一旦堆積した火山灰が風によって移動させられて累積したものとする説が主張されるようになってきた。この説は、中村（1970）により提示され、早川（1986）、早川・山井（1989）、早川（1990）、早川（1995）などにおいて火山学および火山灰編年学上の種々の観察事実を根拠として述べられている。さらに最近では、鈴木（1995）により、過去5万年間において累積した火山灰上の層厚が1mを上回る地域では、近傍火山のテフラの一次堆積がローム層の形成に大きく寄与しているという考えも出されている。また、火山灰以外でも大陸起源の風成塵（張ほか，1994）や河畔、台地上の裸地の砂・シルトも風塵の給源になり得ると言われている（吉永，1995a）。以上のことから、ローム層が噴火によって降り積もった火山灰でないとすれば、黒ボク土層を火山噴火のない時期の土壌層であるという説明も成り立たない。ここでは、まず、黒ボク土層とローム層の特性の違いから考えてみたい。

本分析結果の中で、ローム層と黒ボク土層の違いが最も明瞭に認められるのは、腐植含量と腐植の光学性である。檜林A遺跡第1地点のV層および生炭沢遺跡の4層以上では、それぞれの下位の層に比べて腐植含量が高く、しかもMI値から腐植酸型がA型に推定される。この特徴は、黒ボク土層が腐植の集積が促進されるような環境下で形成されたことを示唆しているとも考えられる。土壌の形成において腐植の集積を促進する条件としては、1）草本植生、2）火山灰の緩やかな堆積、3）暖温帯～温帯の

多雨域、4）地形は平坦ないし浅い凹地、5）土壌年齢が1,500年以上を経ているの5つが呈示され（加藤，1983）、また、新井（1983）は、1）多量の有機物の供給、2）中庸の微生物活性、3）適当な水熱環境、4）無機物の腐植保持の4つを腐植集積の条件としてあげている。これらのうち、新井の1）と3）を具体的に表現したものが加藤の1）と3）にそれぞれ相当すると考えられる。また、新井は4）の無機物について活性アルミニウムを含む非晶質鉱物のあることが腐植の大量集積をもたらし、母材の風化が過度に進むとそれが失われると述べている。加藤の2）は、おそらく活性アルミニウムの供給と常に新鮮な砕屑物が供給されるということを表していると考えられ、新井のいう母材の風化が過度に進まない条件に相当すると考えられる。したがって、加藤の2）については、噴火による火山灰の降下を考えなくても、火山砕屑物を多量に含んだ風成塵が緩やかに堆積すれば、条件は同じことである。新井の2）の微生物については、その条件についてまだ、研究の余地があると述べられており、ここでも触れない。以上をまとめると、腐植の集積に関わる主な要因は、1）植生、2）気候、3）母材の堆積（特に堆積速度）、4）地形、5）土壌年齢の5つであると考える。この5つの要因のどれか一つにでも変化が起きれば、そのバランスが崩れて腐植の集積する条件が変わり、土壌の色調が変化すると考えられる。

さて、本分析では、上記5要因について部分的、間接的ながらも以下のような考察をすることができる。まず、植生については、今回の植物珪酸体分析により、ローム層上部から黒ボク土層の形成時期を通じて、タケ亜科、ウシクサ族などのイネ科植物が山麓の尾根上に生育していたと推定される。ただし、検出された植物珪酸体の保存状態が悪かったこととタケ亜科植物珪酸体は他の種類の物よりも土壌中に残りやすい（近藤，1982：杉山・藤原，1986）ことから、今回の分析結果に見られるほどタケ亜科が優占する植生であったとは考えられない。しかし、比較的乾いた場所に生育する種類が多く含まれることや遺跡の立地を考慮すれば、タケ亜科は尾根上のイネ科植物のなかでも主要な種類であった可能性が考えられる。また、タケ亜科の中にはネザサ節が認められた。ネザサ節は、地面に光の射す開けた場所に生育する（室井，1960）。これより、山麓には開けた場所が存在した可能性がある。

関東地方では、いくつかの遺跡で立川ローム層から黒ボク土の土層断面について植物珪酸体組成が調べられている（杉山ほか，1992：馬場・鶴原，1995：パリノサーヴェイ株式会社考古学研究室，1995など）。それらによれば、タケ亜科が優占し、その中ではクマザサ属よりもネザサ節の割合が高い傾向が多く見られる。また、黒ボク上の形成期にネザサ節とススキ属を主とする草原植生の存在が想定されている。本地域においても、これらの植物がローム層および黒ボク土層の形成における有機物の重要な供給源になっていたことは確かである。ただし、今回の分析結果からは、その層位的な変化を読み取ることはできないため、土層の色調の違いがどのような植生の変化を表しているのかはわからない。また、MI値は、土壌形成における有機物供給量の変化を概ね表し、イネ科植生の消長ひいてはそれを取り巻く植生の変化を部分的に表しているとも考えられる。

次に気候については、現時点では検討する材料に乏しい。また、ローム層中の微細石英の含有率や乾燥密度の変化などは気候変動を示すという分析例もある（青永，1995b）が、本分析のような分層単位に対応できるほどの分解能であるかどうかは検討する必要がある。MI値が示すところの腐植化度にに若干影響していると思われるが、今後の課題としてここでは特に触れない。

3番目の母材の堆積については、本地域の場合、富士山と箱根火山が主体である。また、UGやK－Ahの存在から浅間火山や大規模噴火を起こしたはるか遠方の火山も、母材の供給源になっている。また、アロフェン質黒ボク上であることからも、母材の主体が火山砕屑物であることがわかる。したがって、風で舞い上がるにせよ噴火で放出されるにせよ、母材の給源の主体である火山とその周辺で何らかの変化があれば、母材の堆積状況にも変化が起こるはずである。例えば、富士山や箱根火山および浅間火山の噴火があれば、噴火時には当然本地域への砕屑物の供給量は増えるし、噴火により裸地が拡大す

ることで、噴火後もしばらくは、噴火前より多量の砕屑物の供給が続く。さらにＫｇやＫ－Ａｈの降灰は母材の堆積に変化をもたらしている。以上のことから、母材の堆積を左右するのはやはり火山活動であると言える。したがって、本分析における層序対比の結果と粒径組成の変化および既存の火山活動に関わる資料（ここでは、町田・新井（1992）、上杉（1990）を参照する）から、ローム層および黒ボク土層形成時期の母材の堆積状況の変化を推定することができる。これについては、各層ごとに後述する。

４番目の地形については、本地域は例えば南関東の台地に比べると明瞭な斜面であり、腐植の集積条件としてはあまり良好とはいえない。この違いは、南関東の台地上の黒ボク土に比べて色調が全体的にやや明るく、腐植含量が全体的に数％少ないことに現われているといえる。

５番目の土壌年齢について問題となるのは、檜林Ａ遺跡第１地点のⅡ層以上であろう。以上述べた５つの要因のうち、ここで各層ごとにその変化を議論できるのは、現時点では３番目の母材の堆積についてのみである。以下に、この変化を軸として各層形成時の環境について触れてみたい。

・檜林Ａ遺跡第１地点ＹＬｕ、生沢遺跡５層、６層

腐植の集積条件は、後の時期よりも不良な状況にあったと考えられる。母材の堆積は、Ｙ－138、139の富士山テフラの活動と浅間火山の軽石流期のテフラの活動の影響があり、比較的砂質の堆積量が多かった可能性がある。これは、粒径組成で砂分の含量が高くなっていることからもわかる。ＵＧが検出されたように土壌形成においては浅間火山の影響も比較的大きかったと考えられる。これらのことが、腐植の集積を妨げる一因となっていた可能性がある。

一方、これとは全く別の見方として、時間の経過によって色調が変化した可能性もある。これは、これまでの当社におけるローム層の分析により、ローム層の暗色帯の腐植の集積条件が黒ボク土と同じくらい黒味の強い色調を呈する暗色帯がほとんど存在しないことから推定される。

なお、檜林Ａ遺跡第１地点のＹＬｕ上部では、アロフェンの量比が低く、粘土含量が高くなっていることから結晶質の粘土鉱物が生成するような、母材の風化が過度に進行した状況が推定される。現時点ではこの要因は不明であるが、気候や植生に変化があったのかもしれない。

・檜林Ａ遺跡第１地点Ⅴ層、生沢遺跡４層

いわゆる富士黒層である。形成された時期は、富士山の活動の最も静穏な時期であり砂塵の供給がおそらく適度であったことで、腐植の集積条件は非常に良好であったのであろう。Ｋ－Ａｈの降灰も腐植の集積を妨げる要因とはならなかった。火山活動は静穏であるが、砂塵の主体は富士山や箱根火山の斜面から舞い上がる火山砕屑物が主体であり、そのためリン酸吸収量も高い値を示す。

・檜林Ａ遺跡第１地点Ⅳ層

新期富士テフラの活動が活発化するのは、約3,000年前に噴出した湯船第１スコリア以降であるが、本層はそれより以前に形成された可能性がある。すなわち、粒径組成において砂分の増加は認められず、逆に粘土含量が高くなっているのである。また、リン酸吸収量も低く、母材の中に占める火山砕屑物の割合が減少したことが考えられる。さらに、アロフェン量も低いことから、ここでも結晶質の粘土鉱物が生成されるような風化の進行した状況が考えられる。ただし、腐植含量も低いから、腐植の集積条件は以前に比べて悪くなったといえる。この変化は、生沢遺跡では明瞭ではないが、４層の上部でリン酸吸収量が下がり、アロフェンの量も低くなっている傾向は読み取れる。箱根西麓地域に環境の変化があった可能性がある。

・檜林Ａ遺跡第１地点Ⅲ層、生沢遺跡３層

層位的に新期富士テフラの活動が活発となっている時期に相当するが、粒径組成に若干砂分の増加が見られる程度で、母材の堆積にあまり大きな変化はなかったように見える。また、Ｋｇの影響も認められない。檜林Ａ遺跡第１地点は、腐植含量がⅣ層よりも高くなっており、腐植の集積条件は良好になっ

たといえる。おそらく，本地域は，多くの新期富士テフラの分布主軸（例えば宮地（1988）など）からはずれた位置にあるため，母材となる砂塵の堆積に絶大な変化が起きるということはなかったと考えられる。むしろ，Ⅳ層の時期よりも腐植の集積に有利になるような母材の堆積状況に変化したのであろう。一方，生茨沢遺跡3層では，下部に前述の檜林A遺跡第1地点Ⅳ層で認められた環境変化の影響に寄り腐植含量が下がっているが，上部では腐植含量が4層と同じ程度に高くなっている。これも上述の檜林A遺跡第1地点Ⅲ層での変化と同様に考えられる。

• 檜林A遺跡第1地点Ⅱ層、Ⅰ層

Ⅱ層もⅠ層もおそらく加藤のいう腐植の集積条件の一つである土壌年齢が1,500年より若いと考えられるため，下位のⅢ層よりも腐植含量は下がっている。ただし，Ⅱ層はM1偏から腐植酸型はA型とされるから，腐植化度は下がっていない。また，リン酸吸収量が低いことから，母材に占める火山砕屑物の割合がⅢ層形成時よりも下がっている可能性がある。すなわち，火山砕屑物に由来しない砂あるいは土壌そのものの混入があったと考えられる。この傾向はⅠ層で顕著に現れ，明らかに非火山灰土と判断されるリン酸吸収量である。さらに，植物珪酸体組成でも，山麓の尾根上に生育していたとは考えにくいヨシ属が認められることなどから，耕作に伴う客土の存在が示唆される。

本分析では黒ボク土層の分析による環境解析を試みたが，まだかなりわからないことが多く，推測の域を出ない考察となった。ただし，環境変化の一端を解明することはできたと思う。今後は，ここで検討できなかった植生や気候などの条件について，さらに新たな分析や資料の蓄積をはかりたい。

（注）分析依頼当時と報告書作成時では，土層の表記，認識が変化している。

付編1中の檜林A遺跡の層序は，本報告中の基本土層に以下のように対応する。

（本文第5図　基本土層柱状図参照）

第1地点　Ⅰ層→2層　Ⅱ層・3層　Ⅲ層→5層　Ⅳ層→7層　Ⅴ層→8層

第2地点　表土層→1層　1層→30層以下

（引用文献）

新井重光（1983）3．火山灰土の腐植．日本土壌肥料学会編「火山灰土－生成・性質・分類－」，p. 73-98，博友社．

愛鷹ローム団研グループ（1969）愛鷹山麓のローム層工事現場を中心として－．第四紀研究，8，p. 10-21．

馬場健二・鶴原　明（1995）第6節　市兵衛谷遺跡および新道遺跡における縄文時代早期の古植生と生活痕跡．市兵衛谷遺跡・新道遺跡－綾瀬市における縄文早期遺跡の研究－．綾瀬市埋蔵文化財調査報告　4，綾瀬市教育委員会，165 p．p. 143-160．

張　一平・井上克弘・佐瀬　隆（1994）洞爺火山灰以降に堆積した岩手火山テフラ層中の広域風成層．第四紀研究，33，p. 131-151．

土壌標準分析・測定法委員会編（1986）『土壌標準分析・測定法』．354 p．，博友社．

早川由紀夫（1986）火山灰土の成因と堆積速度．1986年度春季人会日本火山学会講演予稿集，p. 34．

早川由紀夫（1990）堆積物から知る過去の火山噴火．火山第2集，34，火山学の基礎研究特集号，p.S 121-S 130．

早川由紀夫（1995）日本に広く分布するローム層の特徴とその成因．火山，40，p. 177-190．

早川由紀夫・山井将雄（1989）草津白根火山の噴火史．第四紀研究，28，p. 1-17．

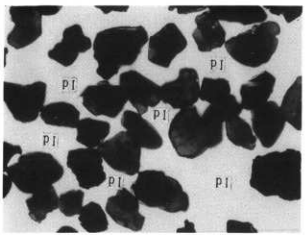
International Soil Reference and Information Center（1986）Procedures for soil analysis. 106 p．

加藤芳郎（1970 a）東海地方の「黒ボク」土壌のH_2O_2脱鉄・タム溶液処理によるリン酸吸収係数の変化について．土肥誌，41，p. 218-224．

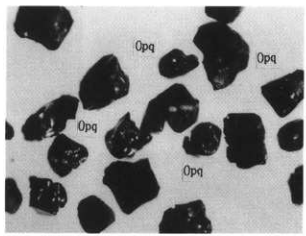
加藤芳郎（1970 b）腐植質土壌の非晶質成分の形態に関する一つのモデル（予報），ペドロジスト，14，p. 16-21．

加藤芳郎（1983）1．火山灰土の生成メカニズム．日本土壌学会編「火山灰土－生成・性質・分類－」，p. 5-30，博友社．
近藤錬三（1982）Plant opal 分析による黒色腐植層の成因究明に関する研究．昭和56年度科学研究費（一般研究C）研究成果報告書，32 p．
近藤錬三・佐瀬　隆（1986）植物珪酸体分析，その特性と応用．第四紀研究，25，p. 31-64.
熊田恭一（1981）腐植酸の科学的性質(2)．『土壌有機物の科学　第2版』，304 p. 学会出版センター：p. 43-79.
町山　洋（1964）Tephrochronology による富士火山とその周辺地域の発達史－第四紀末期について－（その1）（その2）．地学雑誌，73，p. 293-308, 337-350.
町田　洋・新井房夫（1978）南九州鬼界カルデラから噴出した広域テフラーアカホヤ火山灰．第四紀研究，17，p. 143-163.
町田　洋・新井房夫（1992）火山灰アトラス．276 p.，東大出版．
町山　洋・新井房夫・杉原重夫・小田静夫・遠藤邦彦（1984）テフラと日本考古学－考古学研究と関連するテフラのカタログ－．渡辺直経編「古文化財に関する保存科学と人文・自然科学」，p. 865-928.
三土正則（1985）無機非晶質物の量と組成に関する分類学的指標．土肥誌，56，p. 189-196.
宮地直道（1988）新富士火山の活動史．地学雑誌，94，p. 433-452.
二好　洋・鳴田永生・石川昌男・伊達　昇（1983）リン酸吸収係数．『土壌肥料用語事典』，259 p.，農文協：p. 103-104.
本名俊正・山本定博（1992）腐植の簡易分析法．日本土壌肥料学会編『土壌構成成分解析法』，126 p. 博友社：p. 7-35.
室井　綽（1960）竹笹の生態を中心とした分布．富士竹類植物園報告，p. 103-122.
中村一明（1970）ローム層の堆積と噴火活動．岩石学雑誌，3，p. 1-7.
大羽　裕・本名俊正（1984）黒ボク土判定のための腐植の分析法．土肥誌，55，p. 55-61.
パリノ・サーヴェイ株式会社考古学研究室（1995）第Ⅰ章　自然科学分析調査－地形・環境変遷と人間活動のかかわり－．東京外かく環状道路練馬地区関連遺跡　自然科学分析編，東北縦貫自動車道弘前線（東京外かく環状道路）に係る埋蔵文化財発掘調査報告書，日本道路公団・東京外かく環状道路練馬地区遺跡調査会，164 p．
一枝正彦・松山信彦・放　阿部篤郎（1993）東北地方におけるアロフェン質黒ボク土と非アロフェン質黒ボク土の分布．土肥誌，64，p. 423-430.
杉山真二・藤原宏志（1986）機動細胞珪酸体の形態によるタケ亜科植物の同定－古環境推定の基礎資料として－．考古学と自然科学，19，p. 69-84.
杉山真二・前原　豊・大工原豊（1992）植物珪酸体（プラント・オパール）分析による遺跡周辺の古環境復元．日本文化財科学会第9回大会研究発表要旨集，p. 14-15.
鈴木毅彦（1995）いわゆる火山灰土（ローム）の成因に関する一考察－中部-関東に分布流する火山灰土の層厚分布－．火山，40，p. 167-176.
竹迫　紘（1990）土壌分析法．浅海重夫「土壌地理学」，302 p.，古今書院：p. 122-147.
上杉　陽（1990）富士山東方地域のテフラ標準柱状図－その1：S 25～Y-114－．関東の四紀，16，p. 3-28.
山根一郎（1984）粒径組成（粒径分布）．『環境科学実験法』，273 p.，博友社：p. 196-199.
山崎晴雄（1978）立川断層とその第四紀後期の運動．第四紀研究，16，p. 231-246.
吉永秀一郎（1995 a）風化火山灰土の母材の起源．火山，40，p. 153-166.
吉永秀一郎（1995 b）土壌ローム層の磁性質の変化．第四紀研究，34，p. 345-358.

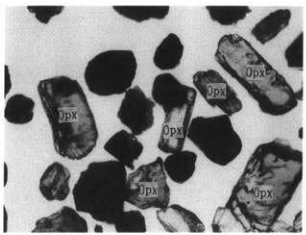
図版1　鉱　物



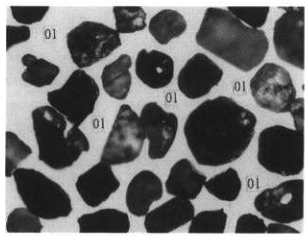
1．重鉱物（桧林A遺跡第2地点：11）



2．重鉱物（桧林A遺跡第2地点：13）

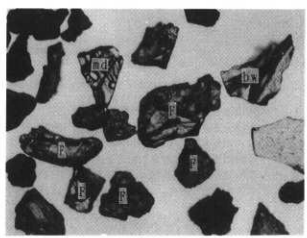


3．重鉱物（桧林A遺跡第1地点：2）



4．重鉱物（桧林A遺跡第1地点：22）

5．重鉱物（生茨沢遺跡：19）

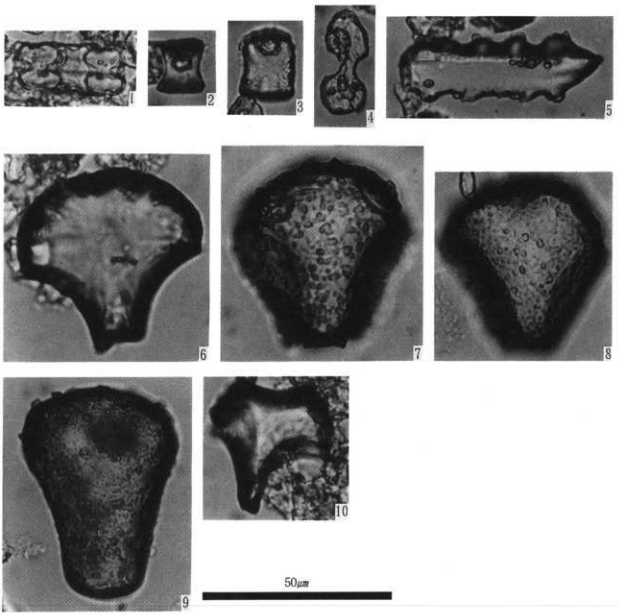


6．軽鉱物（生茨沢遺跡：19）

0.5mm

Ol：カンラン石．Id：イディングサイト．F：長石．bw：バブル型火山ガラス．md：中間型火山ガラス．pm：軽石型火山ガラス．Opx：斜方輝石．Opq：不透明鉱物．

図版２　植物珪酸体



1．イネ属短細胞列(桧林Ａ遺跡第１地点：２)
2．タケ亜科短細胞珪酸体(生茨沢遺跡：６)
3．タケ亜科短細胞珪酸体(桧林Ａ遺跡第１地点：12)
4．ススキ属短細胞珪酸体(生茨沢遺跡：14)
5．オオムギ属短細胞珪酸体(桧林Ａ遺跡第１地点：２)
6．イネ属機動細胞珪酸体(桧林Ａ遺跡第１地点：２)
7．タケ亜科機動細胞珪酸体(生茨沢遺跡：６)
8．タケ亜科機動細胞珪酸体(桧林Ａ遺跡第１地点：12)
9．ウシクサ属機動細胞珪酸体(生茨沢遺跡：14)
10．シバ属機動細胞珪酸体(桧林Ａ遺跡第１地点：２)

〈附 編2〉

豆州田方郡玉澤経王山妙法華寺境内絵図について

國學院大学大学院　栗木　崇

1　はじめに

本絵図は現地調査の期間中に、三島市玉沢に所在する経王山妙法華寺の館主小池政臣氏、同執事高田政人氏（現通猛寺住職）に聞き取り調査を行った際、その存在を知り、拝見させていただいたものである。今回、妙法華寺のご快諾を得、この資料を調査する機会を得た、記して感謝の意を表す次第である。

2　沿　革

妙法華寺は日蓮宗四四本山の一つで、山号を経王山、本尊は十界互具大曼陀羅とする、当地方屈指の名刹である。以下簡単にその沿革をまとめると次のようになる。

弘安七年（1284）12月	日蓮の法弟日昭が鎌倉玉沢に創立。（異説有り）
康安元年（1361）	震災に遭い鎌倉材木座に移る
天文七年（1538）	兵火に遭い一時越後国村田妙法寺へ移る。
文禄三年（1594）	伊豆加殿（現修善寺字加殿？）に移る。
慶長八年（1603）	第14世日産、大木沢の地を得る。
年月不明	第15世日達、大木沢を玉澤と改称する。
元和七年（1621）11月	第16世日亮、現地玉沢に移る。
寛永二年（1625）	徳川秀忠より玉沢全地（80町歩）を朱印地として寄進される。
寛政三年（1791）	火災によりほぼ全山焼亡。鐘楼以外はその後の再建。

3　絵図の伝来

絵図の寄贈者、太田松子氏（旧掛川藩主太田家）に伺ったところ、1966年に前当主太田資博氏が亡くなった際、遺品の整理中に発見されたもので、詳しい伝来は現在のところ不明である。発見時は折り畳んだ状態で封筒に入れられており、料紙の縁辺部の傷みもひどかったようである。太田氏の話では東京大空襲の時、蔵が焼失しており、絵図はその際焼け残ったもので、他に関連する資料などは失われてしまったのであろうということである。その後、妙法華寺の絵図だからということで、妙法華寺に寄贈されたとのことである。額装はその後寺側で行われたようである。また、妙法華寺では寄贈時から現在までの間に館主が代替わりをされていて、絵図の詳しい来歴をお聞きすることができなかった。

4　料紙・体裁

まず、絵図の描かれている料紙からみていくことにする。絵図は現在額装されており、額の内側の寸法はタテ×ヨコ211×168.5cmを測る。また、絵図は複数の料紙をつないだものに描かれており、基本的な料紙一枚の大きさは40.5×28.5cmで6×6の36枚を数える（第3図）。上下左右のの端は切り詰められており、そのことは下方の「韮山下田道」の文字が半裁されているなど画像からも読みとれる。太田氏に伺ったような、縁辺部に大きな傷みは確認できないことから、額装時に切り詰められたのであろう。次に料紙の貼り合わせをみるとタテ行は下の紙を上に重ね、ヨコ列は右2列は左が上、左4列は右が上となるように貼り合わせている。このことから料紙の貼り合わせはまずタテ行をつなげ中央2列のどち

らかを軸にヨコ列をつないでいったと考えられる。また、絵図に描かれた道で料紙の境目の所には朱印が確認でき、料紙の貼り合わせの段階で道の位置を確定していたと考えられ、絵図の性格をしめす重要な手がかりである。

5　文字情報

まず目に付くのが同筆と思われる右下に書かれた「豆州田方郡玉澤経王山妙法華寺境内絵図」と四隅に書かれた東西南北の文字である。これらの文字は、他の文字に比べ墨書が際立ってはっきりしている。また、絵図の四隅に東西南北を配置することはあまり例のないことや、額装時に切り詰められる以前の構図のバランスから考えて、額装時を含めた後筆の可能性を考えるべきであろう。

次に「豆州田方郡玉澤経王山妙法華寺境内絵図」の左側に書かれた文字である。

「安政六己未年10月玉沢妙法華寺江

申談総山並総

御廟所絵図都合貳枚外

御石碑明細書一冊差越之」＊文字は現代仮名遣いに改めている。

この注記から安政六年（1859）10月に総山絵図と御廟所絵図２枚と御石碑の明細書１冊を妙法華寺側に差し出させたということが言える。その主体は大檀家である太田家と考えるのが普通であろう。しかしながら、上述のように伝来が不明なことから、この絵図が総山絵図、総御廟所絵図のどちらかにあたるのか、別物なのか、また、残りの絵図、明細書については、現在不明である。よって、この絵図の作成目的、意図は現段階では現存の絵図から判断しなければならない。

その他、図像に付随する文字注記は第２図の各番号の位置に表１に示した文字が記されている。

6　図像情報

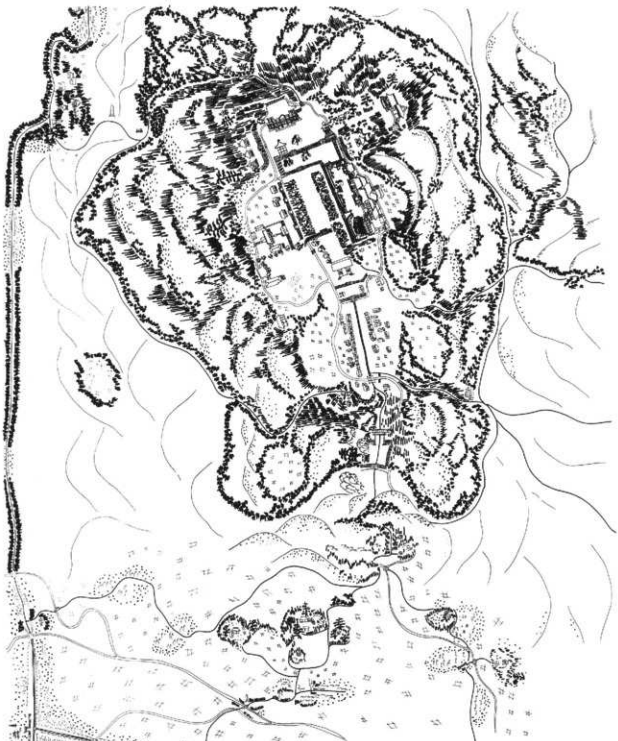
次に描かれた図像の考証に移るが、まず、全体の構図の概観から始める。一見して絵図の中央上部を惣門から奥にむかって左側に屈曲するように寺の伽藍が占め、その外側を松樹がめぐり、およそ絵図の面積の半分を占める。以後、この範囲を境内内空間と呼称する。さらにその外側の山下空間に三島宿や村落が配置されるが、そのほとんどが、やはり松樹や、針葉樹、点描等の表現により囲われている。それらを結ぶ道は比較的地形図に対応するように描かれているが、絵図左端の東海道は三島宿から妙浄寺前の宝塔まで直線的に描かれている。また、道は一部山稜線や樹木表現に隠れ、山谷の地形を表現している。

個別の図像表現に注目すると講堂から二王門に到る境内の建築物は立体的に細部にわたるまで細かく描かれており、写実的である。立体画像は門前百姓や一部の寺社に見受けられるが、全体の傾向として境内から離れるに従い、図像が粗雑になる。境内内空間の外側では、妙法華寺の末社内でも立体画像、平面画像の双方があり、また、長泉寺や三嶋明神は立体図像であり、末社とその他の社寺とを明確に描き分けてはいない。ただ、一般集落は屋根だけの簡略な表現で共通している。また、末社は「豆州志稿」で確認できる寶塔山妙行寺等が記載されていないなど、絵図の図像の範囲内にあるもの全てを描いているわけではない。絵図に描かれた地物は境内内の社殿、僧坊、宝塔や代官制札を除けば、概ね現存、もしくは現地比定できる（第４図）。

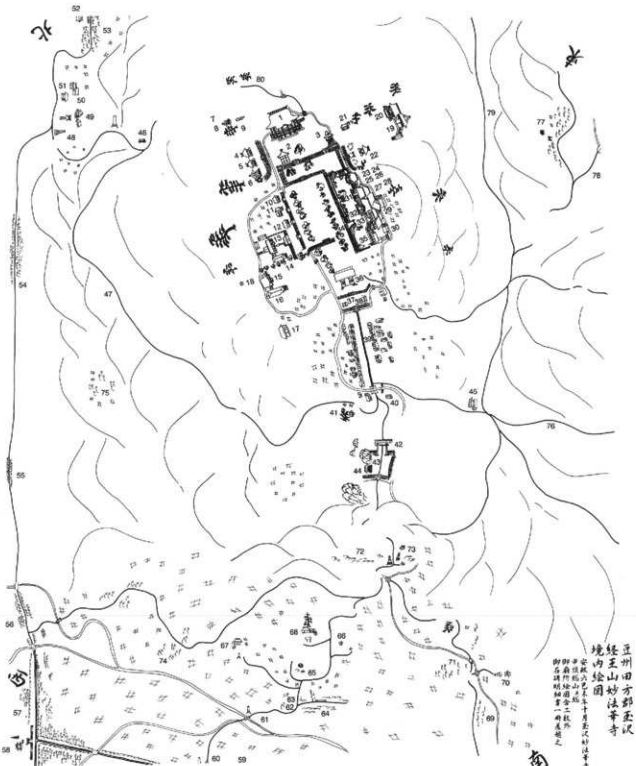
7　考　察

以上、絵図について観察所見を述べてきたが、いくつかの気になる点をまとめてみたい。

まず、非常に気になるのが境内内の図像の輪線が曲がっていることである。それと対照的に東海道が



第１図　境内絵図トレースその１

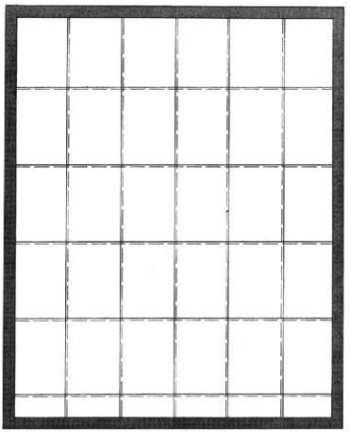


第２図　境内絵図トレースその２

表１　境内絵図文字注記

No.	文字注記	No.	文字注記	No.	文字注記
1	本堂	41	山神	61	イキサハ川
2	経蔵	42	惣門	62	玉沢末 妙音寺
3	鐘楼	43	立石	63	玉沢末 妙源寺
4	千仏堂	44	御代官制札	64	谷田村
5	三光堂	45	御代官制札	65	山伏
6	供鐘	46	御代官制札	66	天神社
7	当山ノ八角堂歴代廟	47	牛馬道	67	玉沢末 受法寺
8	祖師開山三祖ノ廟	48	玉沢末 妙浄寺	68	禅宗 長泉寺
9	御廟所	49	七面社	69	中村
10	覚源坊	50	セッタイ	70	玉沢末 妙泉寺
11	唯本坊	51	玉沢末 法善寺	71	夏梅木村
12	圓融坊	52	玉沢末 松雲寺	72	竹倉村
13	閑居口	53	三ツ谷新田	73	玉沢末 通猛寺
14	覚林院	54	市ノ山新田	74	小山村
15	本堂	55	塚原新田	75	阿辺野村
16	庫裏	56	川原ヶ谷村	76	韮山 修善寺 下田道
17	実相坊	57	三島宿	77	熱海 寝船川道
18	イナリ	58	三島明神	78	桑原村
19	奥ノ院	59	韮山下田道	79	山中新田 箱根道
20	客殿	60	玉沢道	80	箱根市ノ道
21	教順坊				
22	口神社				
23	祖師堂				
24	太鼓				
25	客殿				
26	書院				
27	座鋪				
28	座鋪				
29	土蔵				
30	土蔵				
31	客殿門				
32	玄関				
33	庫裏				
34	方丈門				
35	土蔵				
36	二王門				
37	制札				
38	下馬				
39	門前百姓				
40	安立坊				

注）表記はすべて現代仮名遣いに改めている。口は判読不明の文字。



第３図　寸法・料紙

直線的に描かれており、東海道と軸として描いたことは理解できる。しかし、地形図と比較すると東海道と玉沢道はほぼ平行しており、東海道を軸としたことだけで境内の軸が屈曲する理由とするには不十分である。妙法華寺には第25世日宗の代、享保六年～十三年（1721～1728）に作成とされるの「玉澤境内圖」が存在しており、今回は写真でしか確認できなかったが、絵図の左側に直線的が東海道に描かれ、境内内空間が安政絵図よりさらに大きく左に屈曲する構図を持つ。安政の絵図は享保絵図を参考にして描かれたということが推測できるが、何故2つの絵図に共通してこのような構図がとられたことについては一考を要する。それについては、今のところ玉沢道から妙法華寺境内へ入山する際の知覚的な印象によるものではないかと考えている。絵図をもとに竹倉から妙法華寺へ向かって現地踏査した際、門前の集落から山門、境内にかけて左側に曲がるような印象を持った。また、周辺集落の配置、それらを結ぶ道の表現も明治20年「三島宿」と比べて見ると、絵図に描かれた道の屈曲がデフォルメされているが、地形図の道の特徴と合致しており、とてもよくその特徴を捉えている（第4図）。そうした道の表現や料紙の張り合わせ段階から道の位置を確定していたことを考えると図像の空間的位置関係を重視した絵図といえよう。しかしながら、厳密な測量を行って描いたわけではないので、このような境内内空間の軸線が屈曲する構図で描かれたのではないだろうか。

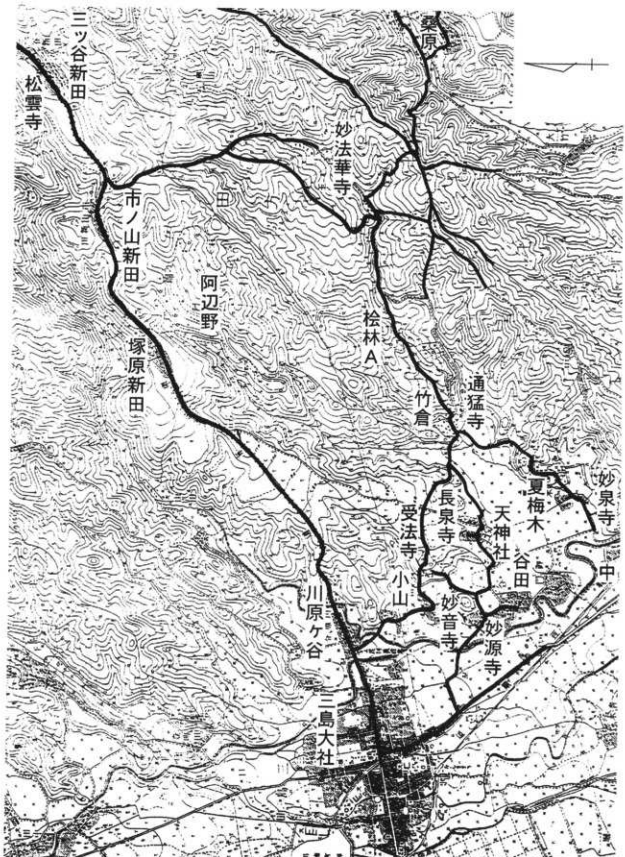
一方で、境内内空間は聖域としての閉ざされた空間を示している。一般に濃密な樹木表現は聖域を表すことが多い。樹木による囲い込みは、その他の社寺、集落、耕作地などでも見受けられるが、密度の違いは一目瞭然である。また、道、宝塔、御代官制札も同様に空間を区切る役割を果たしており、特に御代官制札がすべて境内内空間と外の境界に位置することは興味深い。

最後に、この絵図が総山絵図なのか総御廟所絵図なのか、前二者とは別物なのか、一応の結論を出しておく。まず、総山絵図と考えた場合、上述のように、絵図の上方の大部分を境内を松樹で囲われた空間が占め、宝塔、御代官制札のランドマークにより山下の空間と区別されており、ひとつの閉ざされた空間を構成している。このことから「総山」というものを意識してこの絵図が描かれているとみてよいであろう。一方、御廟所絵図と考えた場合、御廟所は講堂の左に一つ描かれているにすぎず、文字注記にしてもそこに「当山の八角堂歴代廟」「祖師開山三祖の廟」「御廟所」と描かれているにすぎない。どちらにも当てはまらない、とする積極的な理由が見いだせない以上、現状では総山絵図として描かれたものとして考えるのが妥当と思われる。

8　おわりに

今回、原資料にあたったのは安政年間の絵図のみに過ぎず、また安政の絵図自体の考察も絵図研究の門外漢の筆者の力量もあって十分な検討が行われたとは言えない。絵図については上述の享保年間の絵図の外、明治20年代の絵図も存在しているらしく、また、文献資料では第四十四世日能による嘉永六年（1853）の過去帳、第三十三世日通による18世紀中葉の「玉沢手鏡草稿」、建物の棟札の一部が存在しているらしいが、それらの内容は、いまだ十分な検討はなされていない。それらの内容の比較検討により、妙法華寺の変遷が明らかになろう。特に享保絵図と安政絵図の間の享保三年（1791）に火災によって鐘楼以外の堂社は焼亡したといわれており、その後の堂社の再建などは、文献資料の記録とあわせて検討することにより、具体的に明らかにできると思われる。妙法華寺はその規模、徳川氏、太田氏などの政治権力とのつながりから、近世を通じて当該地域の大寺社権力であったことは容易に想像できる。妙法華寺の変遷が明らかにされることは当地域の近世の様相を知る大きなてがかりになろう。

小稿作成にあたっては國學院大学教授吉田敏弘先生、同大学院地図学研究Ⅰ受講生の諸氏に貴重なご意見をいただいた。記して感謝の意を表したい。



第４図　現地比定図（明治20年「三島宿」より作成）

〈参考文献〉

三島市誌編纂委員会　1968(復刻1980)　『三島市誌　上巻』　三島市
三島市誌増補版編纂委員会　1987　『三島市誌　増補』　三島市
秋山富南著　萩原正平・荻原正夫増訂　荻原民治・戸羽山瀚編　1936　『増訂豆州志稿』
友野　博　1983　「妙法華寺調査報告」　三島市教育委員会
宮脇泰一　1983　「妙法華寺鐘楼調査報告」　三島市教育委員会
葛川絵図研究会編　1989　『絵図のコスモロジー』下巻　地人書房
小山靖憲・下坂　守・古山敏弘編　1997　『中世荘園絵図大成』第1部・第2部

出土石器一覧表

表18　出土石器一覧表 (1)

遺物No.	層　位	グリッド	器　種	石　材	最長mm	横長mm	厚mm	重量g	X座標	Y座標	H座標	図版No.
001	7	E-9	礫器	An(Py)	100	90	31.0	250.0	-	-	-	
003	表採	-	ナイフ形石器 4	Hor	25	13	4.4	1.3	-	-	-	25-09
004	表土	-	石鏃	An(Py)	380	265	85.0	12,200.0	-	-	-	
005	FBb	G-4	剥片	Ob	13	11	4.0	0.5	40.933	60.826	80.806	
006	FBb	G-4	敲石	An(Py)	79	61	51.0	360.0	40.984	61.140	-	54-04
008	表土	-	石皿	An(Py)	340	220	85.0	6,500.0	-	-	-	55-02
010	表土	-	礫器	Hor	72	60	23.3	218.7	-	-	-	52-03
011	耕作土	E-9	敲石	SS	33	21	17.5	203.0	-	-	-	
014	撹乱	K-9	石鏃（未製品）	KRM	16.5	14	3.5	0.6	98.876	108.152	76.051	
016	撹乱	K-9	石鏃	Ob	20	15	4.5	1.1	98.552	109.238	75.907	49-15
017	撹乱	L-8	削器	Hor	40	15	7.0	4.9	89.143	119.824	75.170	27-02
018	撹乱	-	剥片	Ob	20	10.5	4.3	1.1	-	-	-	
019	表土	-	剥片	Ob	17	12	6.8	1.5	-	-	-	
020	3	E-10	剥片	Ob	16	7	1.3	0.1	102.492	41.505	81.160	
021	YLu	E-10	剥片	WDT1	20	18	4.4	1.6	107.408	41.393	81.180	
022	4	E-8	剥片	Ob	20	12	9.0	2.0	82.250	40.663	80.361	
023	表土	F-8	剥片	Ob	24	17	6.0	1.7	-	-	-	
024	3	D-11	剥片	Ob	19	8	3.9	0.6	111.686	33.433	79.828	
025	3	C-11	磁石	Rhy	39	36	8.0	13.1	112.064	25.138	79.444	
026	3	D-9	磁石	Rhy	87	27	30.0	121.0	90.962	36.417	80.152	75-02
027	3	D-9	剥片	Ob	46	34	28.0	35.2	97.817	36.280	80.121	
028	3	D-9	楔形石器	Ob	20	19	6.0	1.8	95.717	36.414	80.155	51-08
029	3	D-9	石鏃（有茎）	KRM	28	18	5.0	1.6	90.468	34.382	79.923	49-22
030	3	D-9	剥片	Ob	16	10	4.0	0.7	96.962	31.894	80.103	
031	FBb	E-10	剥片	Ob	22	18	5.3	2.5	-	-	-	
032	3	E-10	掻器	Da	54	40	4.7	13.5	102.277	43.241	80.973	51-05
033	3	E-10	剥片	RJa	35	25	12.7	10.1	102.748	42.243	80.826	
036	3	E-10	剥片	Ob	20	15	3.0	0.8	102.207	46.657	81.218	
037	3	F-10	石鏃（残核）	KRM	40	30	9.4	12.5	102.872	50.419	81.519	28-08
038	3	F-10	剥片	Ob	15	10	2.7	0.4	102.550	50.737	81.576	
039	3	E-10	剥片	Ob	15	15	4.8	0.8	105.412	41.782	81.061	
040	3	E-10	剥片	RJa	20	15	2.5	0.8	108.217	45.061	81.456	
041	3	E-10	剥片	Hor	35	25	9.4	8.0	103.123	40.362	80.823	
043	3	E-9	磁石	Rhy	37	36	12.0	27.3	94.394	48.628	81.476	75-03
044	3	E-9	剥片	Ob	15	10	17.0	0.3	91.144	49.675	81.589	
045	4	D-9	打製石斧	Hor	80	57.5	22.0	108.8	98.128	38.383	80.196	50-03
048	4	D-9	剥片	Hor	20	10	3.4	0.7	99.166	38.595	79.891	
048	4	E-9	剥片	Hor	20	15	2.3	1.1	98.695	41.935	79.914	
049	撹乱	D-10	使用痕剥片	TTS	15	7	4.0	0.5	107.813	30.352	81.473	51-02
050	4	E-9	剥片	GAn	25	15	4.0	1.1	99.350	49.407	81.783	
051 -1	撹乱	-	石鏃	KOZ1	16	13	2.7	0.3	-	-	-	49-19
051 -2	撹乱	-	石鏃（未製品）	KRM	16	11	4.0	0.7	-	-	-	49-21
051 -3	撹乱	-	石鏃（五角形）	Ch(B)	24	13	4.1	1.6	-	-	-	49-07
052	撹乱	-	剥片	Ob	10	8	1.0	0.1	-	-	-	
053	FBb	D-10	剥片	Ob	15	8	1.3	0.2	103.855	39.572	80.742	
054	FBb	D-10	剥片	Hor	30	25	11.0	9.8	100.719	38.440	80.272	
055	FBb	E-10	剥片	Ob	10	10	2.0	0.3	102.285	46.232	80.738	
056	FBb	E-10	剥片	Ob	10	8	3.0	0.3	101.290	48.432	81.076	
057	YLu	E-10	ナイフ形石器 4	KRM	37	15	4.0	1.6	102.928	43.311	80.450	25-08
058	YLu	E-10	剥片	Hor	20	15	6.0	1.7	103.416	43.532	80.557	
059	YLu	E-10	削器（抉入）	HFT	45	20	6.0	7.0	104.368	42.691	80.550	27-01
060	YLu	E-10	剥片	Rhy	15	10	3.0	0.4	104.699	42.544	80.616	
061	YLu	E-10	剥片	Hor	25	10	5.5	1.6	104.745	42.503	80.640	
062	YLu	E-10	剥片	WDT4	15	13	2.6	0.4	105.336	42.845	80.784	
063	YLu	E-10	剥片	Hor	25	20	8.0	3.0	104.925	43.444	80.818	
064	YLu	E-10	剥片	Hor	30	20	5.0	3.4	105.727	43.737	80.800	
065	YLu	E-10	剥片	Hor	25	25	8.0	4.7	105.807	43.606	80.895	
066	YLu	E-10	剥片	Hor	20	10	2.6	0.7	106.086	44.942	81.000	
067	YLu	E-10	剥片	Hor	12	4	2.5	0.2	106.698	44.708	81.110	
068	YLu	E-10	打面調整剥片	STu	40	35	7.0	5.0	106.772	43.839	80.915	29-01
069	YLu	E-10	剥片	Rhy	30	10	5.5	1.7	107.701	43.938	81.084	
070	YLu	E-10	剥片	Hor	45	30	8.0	10.8	107.496	45.538	80.963	
071	YLu	E-10	剥片	Hor	9	4	2.4	0.1	108.033	45.623	81.255	
072	YLu	E-10	剥片	Hor	12	7.5	7.0	0.4	108.230	46.665	81.389	
073	YLu	E-10	ナイフ形石器 3	GAn	26	11.5	5.0	1.4	109.631	41.990	81.131	24-07
074	YLu	E-10	剥片	Hor	20	10	5.3	1.3	107.690	42.290	80.814	
074	YLu	E-10	剥片	Hor	10	6	1.0	0.1	107.690	42.290	80.814	

表18　出土石器一覧表(2)

遺物No.	層　位	グリッド	器　種	石　材	縦長mm	横長mm	厚mm	重量g	X座標	Y座標	H座標	図版No.
075	YLu	E-10	剥片	Hor	45	30	14.0	17.4	107.202	42.461	80.827	
076	YLu	E-10	剥片	Rhy	20	10	3.5	0.8	106.534	42.240	81.089	
077	YLu	E-10	剥片	Hor	25	15	5.0	2.3	106.395	41.428	80.418	
078	YLu	E-10	剥片	Hor	20	15	3.8	1.1	106.182	42.571	80.634	
079	YLu	E-10	楔器	Hor	65	30	7.5	21.3	105.906	42.659	80.582	27-04
080	YLu	E-10	ナイフ形石器4	GAn	27.5	11.5	4.5	1.0	105.329	45.711	81.243	25-02
081	YLu	F-10	剥片	KRM	20	10	4.0	0.7	104.857	52.938	81.737	
082	YLu	F-10	剥片	Hor	30	12	13.0	7.8	100.724	53.633	81.630	
083	YLu	D-10	剥片	Hor	34	15	8.0	4.9	106.503	39.481	80.732	
083	YLu	D-10	剥片	Hor	33	16	10.0	6.3	106.503	39.481	80.732	
083	YLu	D-10	剥片	Hor	34	14	7.0	3.4	106.503	39.481	80.732	
084	YLu	D-10	剥片	WDT1	13	10	3.5	0.3	107.256	38.159	80.922	
085	YLu	D-10	剥片	WDT1	25	10	5.8	3.0	104.688	39.475	80.582	
086	YLu	D-10	剥片	Hor	20	18	5.4	1.6	104.472	39.455	80.639	
087	YLu	D-10	剥片	Hor	40	30	8.8	10.6	103.991	38.281	80.634	
088	YLu	D-10	剥片	Hor	30	15	7.5	3.6	102.423	38.905	80.300	
089	YLu	D-10	剥片	KRM	10	10	1.4	0.1	101.992	31.553	80.284	
090	YLu	D-10	ナイフ形石器7	HTJ	34.5	19	8.5	3.9	103.503	30.085	80.431	26-06
091	3	E-9	石鏃（未製品）	Ob	12	10	3.8	0.6	93.765	48.193	81.187	
092 -1	3	-	磁石	Rhy	60	25	14.0	25.9	-	-	-	75-05
092 -2	3	-	磁石	Rhy	36	19	14.0	12.8	-	-	-	75-04
093 -1	3	-	石鏃	KRM	21	15	4.0	0.7	-	-	-	49-18
093 -2	3	-	剥片	Ob	22	12	6.0	1.2	-	-	-	
094	表土	E-9	剥片	Ob	14	10	5.5	0.7	-	-	-	
096	3	F-9	剥片	Ob	12	12	5.5	0.7	-	-	-	
097	3	F-9	剥片	Hor	36	20	8.9	8.8	-	-	-	
098	YLu	D-10	剥片	HFT	40	11	4.1	2.9	101.225	38.259	79.959	
099	YLu	E-10	剥片	Hor	32	19	7.4	4.1	105.858	48.877	80.460	
100	YLu	E-10	剥片	WDT1	23	10	4.3	0.9	103.221	47.075	80.525	
101	YLm	E-10	剥片	Hor	25	17	7.2	3.3	104.300	49.800	81.048	
102	YLm	E-10	剥片	Hor	22	15	4.8	1.5	101.887	42.589	79.973	
103	YLm	E-10	剥片	Hor	28	22	5.7	3.1	103.589	42.573	80.286	
104	YLm	E-10	剥片	Hor	17	10	3.1	0.5	105.303	42.753	80.262	
105	YLm	E-10	石刃	Rhy	27	19	3.3	1.4	102.333	43.207	79.957	29-02
106	YLm	E-10	剥片	Rhy	32	17	3.5	2.1	104.586	43.173	80.246	
107	YLl	E-10	剥片	Ob	12	9	2.8	0.3	107.042	49.712	81.199	
108	YLl	F-10	剥片	GAn	24	24	6.7	4.7	102.712	54.580	81.377	
109	YLl	F-10	剥片	KRM	16	0.8	2.2	0.3	104.494	53.783	81.446	
110	YLm	E-10	剥片	GAn	45	26	11.1	8.2	102.403	43.676	80.191	
111	YLm	E-10	剥片	GAn	29	13	11.0	3.1	103.685	42.314	80.293	
112	YLl	E-10	剥片	PO	33	17	8.0	2.8	102.573	43.294	80.151	
113	FBb	E-10	剥片	Rhy	30	20	5.4	3.0	103.281	41.054	80.512	
114	FBb	E-9	ナイフ形石器4	KRM	32	17	5.0	1.8	99.965	48.871	81.285	25-07
115	YLl	E-10	剥片	Rhy	25	22	7.5	3.2	102.322	41.899	79.772	
116	YLl	E-10	剥片	KOZ1	18	10	2.1	0.3	102.657	42.829	80.009	
117	YLm	F-10	剥片	GAn	24	12	3.3	0.8	102.684	51.276	81.126	
118	攪乱	F-8	ナイフ形石器2	KRM	36	21	7.0	3.9	-	-	-	24-01
119	FBb	F-9	角錐状石器	GAn	47	13.5	4.0	2.2	91.898	52.543	81.372	48-09
120	7	E-9	剥片	STu	30	25	6.8	2.9	97.767	41.920	80.012	
121	YLu	D-9	石刃	STu	30	22	4.1	2.7	99.117	39.411	79.657	29-04
122	7	D-9	ナイフ形石器5	Hor	32	10	4.1	1.6	96.029	39.964	79.804	25-12
123	7	E-9	剥片	GAn	22	12	4.4	1.0	92.024	49.651	80.931	
124	7	E-9	剥片	Ob	12	10	2.1	0.3	93.256	49.251	81.025	
125	7	E-9	剥片	Ob	20	15	9.9	1.7	94.284	46.859	80.596	
126	YLu	F-8	使用痕剥片	HTJ	36.5	19	7.0	4.1	83.246	50.920	81.276	27-08
127	YLm	F-9	石刃	KRM	56	11.5	12.0	5.0	93.097	56.693	81.744	28-01
128	YLm	F-9	剥片	HTJ	20	13	3.2	0.7	98.494	53.785	81.579	
129	FBb	E-8	剥片	Ob	11	8	2.4	0.2	81.913	48.311	81.214	
130	FBb	E-8	剥片	Ob	23	15	7.3	1.8	81.947	48.816	81.189	
131	YLl	F-10	石核	HTJ	27	23	7.3	4.5	101.828	52.506	81.189	
132	FBb	E-8	剥片	Ob	35	35	11.0	9.3	82.163	48.090	81.055	
133	7	E-9	剥片	GAn	27	13	3.7	1.2	95.733	46.200	80.367	
134	7	E-9	剥片	GAn	22	12	3.3	0.9	94.128	44.192	80.084	
135	7	E-9	剥片	Rhy	25	18	5.4	1.9	91.420	43.127	79.674	
136	7	E-9	剥片	FAn	24	22	5.1	2.3	90.198	47.735	80.861	
137	FBb	E-9	剥片	FAn	47	25	6.2	8.3	90.569	40.872	79.130	
138	7	E-9	剥片	FAn	84	25	22.0	26.6	94.128	45.038	80.173	

表18　出土石器一覧表(3)

遺物No.	層　位	グリッド	器　種	石　材	縦長mm	横長mm	厚mm	重量g	X座標	Y座標	H座標	図版No.
139	FBb	F-8	剥片	FAn	36	16	3.8	2.1	89.755	50.557	81.034	
140	7	E-8	剥片	Hor	22	20	4.5	2.5	85.381	43.298	80.060	
141	FBb	E-8	剥片	Hor	43	19	7.6	7.3	88.416	49.282	80.790	
142	7	E-9	剥片	Ob	13	7	4.2	0.3	90.505	49.520	80.995	
143	7	E-8	剥片	Hor	27	11	2.3	0.6	87.170	46.776	80.560	
144	7	E-8	剥片	FAn	22	20	4.2	1.8	89.021	44.528	80.096	
145	7	E-8	剥片	Ob	25	10	6.3	1.7	87.019	48.846	80.820	
146	7	E-8	剥片	Ob	14	14	3.6	0.7	81.469	42.721	80.019	
147	4	D-8	模形石器	Ob	24.5	13	6.0	1.5	89.023	37.857	79.137	28-07
148	FBb	F-9	ナイフ形石器7	KRM	30	16	8.0	2.7	94.543	51.885	81.149	28-05
149	7	E-9	剥片	GAn	17	12	2.8	0.6	92.365	47.254	80.502	
150	7	E-9	剥片	GAn	14	9	1.4	0.2	90.062	41.933	79.302	
151	7	E-8	剥片	FAn	44	42	4.3	8.0	88.876	45.411	80.257	
152	7	E-9	槍先形尖頭器	FAn	42	30.5	10.0	8.4	93.779	48.318	80.799	47-04
153	7	E-8	剥片	Ob	14	12	1.7	0.3	86.980	48.323	80.770	
154	7	E-8	剥片	Ob	8	6	1.2	0.1	88.728	48.426	80.631	
155	7	E-9	ナイフ形石器7	WDT1	32.5	14.5	7.5	2.6	95.651	49.569	80.717	26-04
156	7	E-9	ナイフ形石器4	TTS	15.5	10	2.5	0.4	96.229	45.139	80.014	25-06
156	7	E-9	剥片	GAn	22	18	2.8	1.3	94.320	44.947	79.960	
159	7	E-9	槍先形尖頭器	GAn	31	20.5	5.0	2.1	92.161	47.349	80.304	47-06
160	7	E-9	剥片	GT	15	10	2.2	0.4	96.415	44.010	79.800	
161	7	E-9	剥片	GAn	23	19	4.7	1.4	90.631	44.710	79.837	
162	FBb	F-9	ナイフ形石器6	KRM	60	21.5	8.0	7.5	92.122	52.421	81.239	26-01
163	FBb	F-9	削器	Ob	37	35	11.0	16.6	92.502	50.869	80.875	51-04
164	FBb	F-9	チップ	Ob	7	5	1.2	0.1	92.050	52.072	80.585	
165	FBb	F-9	チップ	Ob	6	4	0.5	-	91.980	52.538	81.285	
166	FBb	F-9	チップ	Ob	5	3	0.7	-	92.079	52.533	81.288	
167	FBb	F-9	チップ	Ob	4	2	0.4	-	91.934	52.210	81.203	
168	FBb	F-9	チップ	Ob	3	2	0.3	-	91.923	52.432	81.259	
169	FBb	F-9	剥片	Hor	30	30	3.5	3.2	93.299	50.580	80.877	
170	FBb	F-9	剥片	GAn	18	14	3.2	0.8	93.444	51.776	81.055	
171	FBb	F-9	剥片	GAn	25	15	2.9	1.0	92.142	50.825	80.931	
172	7	F-9	剥片	GAn	28	25	3.7	2.8	94.833	50.535	80.841	
173	7	D-8	石刃	GAn	36	13	5.7	3.5	87.277	38.406	79.118	29-05
174	YLu	E-8	剥片	HTJ	40	20	8.2	5.9	87.541	41.195	78.888	
175	7	E-8	石鏃	SI	30	14	4.0	1.7	87.463	47.807	80.574	49-05
176	7	E-8	石鏃	SI	40	15	3.5	1.6	89.027	42.001	79.389	49-01
177	FBb	E-8	剥片	GAn	22	13	4.6	0.8	89.680	41.088	78.972	
178	FBb	E-9	剥片	GAn	20	13	1.4	0.3	94.970	45.490	79.805	
179	FBb	E-9	剥片	Hor	8	7	1.4	0.1	95.779	48.903	80.517	
180	FBb	E-9	石刃	Hor	25	22	4.4	2.4	94.159	42.203	79.297	29-06
181	FBb	E-9	剥片	GAn	35	18	3.7	2.4	93.911	43.005	79.381	
182	FBb	E-9	剥片	GAn	24	17	2.9	0.9	93.361	45.339	79.713	
183	FBb	E-9	剥片	Ob	40	28	5.9	5.1	95.744	42.401	79.454	
184	FBb	E-9	石鏃	SI	32	14.5	3.0	1.6	94.346	46.271	79.917	49-02
185	FBb	E-9	有舌尖頭器	GAn	47.5	14	6.0	3.7	97.944	49.592	80.700	48-07
186	FBb	E-9	剥片	WDT1	23	10.5	4.0	0.5	94.198	48.111	80.334	28-09
187	FBb	E-9	剥片	Ob	15	14	5.2	1.0	95.403	42.870	79.607	
188	FBb	E-9	剥片	Ob	13	12	1.8	0.3	95.967	46.230	80.063	
189	FBb	E-9	剥片	GAn	30	26	16.9	16.4	94.269	42.444	79.337	
190	7	E-9	剥片	Ob	29	12	10.9 2..9		94.527	42.179	79.426	
191	7	E-9	剥片	GAn	15	11	2.4	0.3	93.387	45.059	79.722	
192	YLu	E-9	剥片	Ob	25	23	9.6	4.4	96.949	41.951	78.521	
193	YLu	E-9	剥片	Ob	27	22	8.9	3.3	93.836	41.996	79.211	
194	YLu	E-9	剥片	HTJ	24	17	4.1	1.4	97.309	44.424	79.760	
195	YLu	E-9	剥片	Rhy	28	25	10.2	8.0	99.233	42.965	79.857	
196	YLu	E-9	剥片	Rhy	19	15	4.2	1.0	99.254	48.254	80.464	
197	FBb	F-9	剥片	GAn	35	22	5.5	4.1	94.097	51.816	80.991	
198	FBb	F-9	剥片	Ch	28	15	9.5	3.3	91.351	52.241	81.170	
199	YLu	F-9	剥片	WDT1	22	10	1.5	0.3	90.754	53.207	81.307	
200	FBb	E-9	剥片	Ob	16	11	2.4	0.4	95.195	49.743	80.828	
201	YLu	F-8	有舌尖頭器	Hor	86	18	4.0	7.4	88.604	51.194	81.027	48-01
202	YLu	E-7	ナイフ形石器5	KRM	30	16	5.0	2.5	79.134	44.526	80.298	25-11
203	FBb	E-8	剥片	Ob	19	15	5.8	1.3	82.991	43.957	79.808	
204	FBb	E-8	剥片	Ob	16	10	1.7	0.2	87.763	48.859	80.600	
205	FBb	E-8	剥片	Ob	18	13	4.4	0.9	85.515	47.714	80.440	
206	FBb	E-8	剥片	Ob	12	8	1.9	0.3	85.356	48.611	80.691	

表18　出土石器一覧表(4)

遺物No.	層　位	グリッド	器　種	石　材	縦長mm	横長mm	厚mm	重量g	X座標	Y座標	H座標	図版No.
207	FBb	E-9	使用痕剥片	KRM	40	17	7.4	4.8	95.047	44.824	79.615	27-06
208	YLu	E-8	剥片	Ob	25	22	11.1	5.9	82.475	48.632	80.817	
209	YLu	E-8	剥片	KRM	24	13	5.1	1.4	81.741	46.342	80.367	
210	FBb	E-8	剥片	Ob	10	6	2.3	0.2	89.588	45.731	79.859	
211	FBb	E-9	剥片	Ob	22	15	6.2	2.0	90.681	43.198	79.412	
212	FBb	E-9	石鏃	KRM	19	15	4.0	0.7	96.775	40.752	79.278	49-14
213	FBb	E-9	剥片	GT	24	12.5	6.3	1.5	93.972	42.978	79.343	
214	FBb	E-9	剥片	GAn	28	25	4.6	2.6	95.312	47.271	80.178	
215	FBb	E-9	剥片	GAn	15	12	2.1	0.4	94.123	47.019	80.006	
216	FBb	E-9	剥片	GAn	32	17	4.3	2.2	93.537	41.263	79.052	
217	YLu	E-9	ナイフ形石器 6	GT	24	19	5.7	2.3	95.004	41.467	79.036	26-03
218	YLu	F-8	尖頭器	TTS	44	24.5	9.5	7.9	85.477	50.435	81.002	23-01
219	YLu	F-8	有舌尖頭器	GAn	65	15	3.5	6.3	84.882	51.626	81.239	48-02
220	FBb	E-8	剥片	Hor	25	14	6.3	3.6	87.040	47.240	80.252	
220	FBb	E-8	剥片	Hor	15	7	6.0	0.4	87.040	47.240	80.252	
220	FBb	E-8	剥片	Hor	15	7	7.0	0.5	87.040	47.240	80.252	
221	7	E-8	剥片	Hor	50	24	10.4	8.3	84.681	41.741	79.317	
222	YLu	E-9	剥片	Hor	16	14	4.8	0.8	96.074	41.341	79.172	
223	YLu	E-9	剥片	Hor	25	18	5.6	1.9	97.592	40.829	79.319	
224	YLm	E-9	剥片	GAn	39	34	7.1	9.1	99.149	48.970	79.743	
225	YLu直上	E-8	有舌尖頭器	Hor	63	20	5.3	7.3	87.703	55.063	79.697	48-04
226	YLu	E-8	剥片	GAn	18	12	1.6	0.3	89.633	45.746	79.826	
227	FBb	E-8	石鏃	Sl	30.5	16	3.0	1.7	86.205	45.980	79.976	49-03
228	FBb	E-8	剥片	Ob	17	14	1.5	0.4	88.810	43.771	79.405	
229	FBb	E-8	剥片	Ob	14	8	2.0	0.1	87.561	46.730	80.061	
230	FBb	E-9	石鏃	KOZ1	17	13	4.0	0.7	91.663	48.360	80.148	
231	YLu	E-9	削器	KRM	43	25	11.9	12.6	95.176	45.653	80.062	27-05
232	YLu	E-9	チップ	KRM	8	5	2.8	0.1	95.120	47.472	80.012	
233	YLu	E-9	剥片	KRM	16	13	3.2	0.7	90.355	44.556	79.406	
234	YLu	E-9	剥片	Hor	19	12	1.8	0.4	95.548	48.663	80.257	
235	YLu	E-9	ナイフ形石器 8	Rhy	39	28	10.7	7.2	98.160	47.511	80.138	26-10
236	YLu	E-9	剥片	Ba	40	20	7.2	3.6	93.768	46.811	79.878	
237	YLu	E-9	剥片	Hor	30	24	9.7	8.3	96.421	43.430	79.494	
238	YLu	E-9	剥片	GAn	30	19	3.1	1.1	93.954	47.502	80.055	
239	YLu	E-9	剥片	FAn	18	14	3.2	0.7	98.212	49.081	80.413	
240	YLu	E-9	剥片	Rhy	22	12	4.3	1.0	94.799	43.092	79.321	
241	YLu	E-9	剥片	GAn	19	15	3.2	0.7	93.799	48.902	80.233	
242	YLu	E-9	剥片	GAn	19	18	2.2	0.7	93.241	46.374	79.792	
243	YLu	F-8	チップ	Ob	7	5.5	1.2	-	87.067	51.538	81.081	
244	YLu	F-8	ナイフ形石器 3	KRM	21.5	13.5	4.0	0.7	85.774	53.591	81.438	24-09
245	YLu	F-8	剥片	GAn	13	11	1.5	0.3	89.738	52.411	81.126	
246	YLu	F-9	剥片	Ch	28	20	3.3	1.7	94.982	55.114	81.460	
247	YLu	F-9	尖頭器	Ob	19	17	4.0	1.0	92.310	54.313	81.344	23-09
248	YLu	F-9	剥片	Ch	19	11	4.1	0.7	92.127	52.096	80.913	
249	YLu	F-9	剥片	GAn	24	15	3.5	1.3	94.985	50.690	80.645	
250	FBb	E-7	敲磨	FAn	94	72	33.6	209.7	78.563	40.589	79.520	52-01
251	FBb	E-7	剥片	Da	16	15	2.6	0.4	77.115	40.543	79.603	
252	YLu	E-7	剥片	Hor	65	27	12.3	14.4	77.767	44.193	80.307	
253	YLu	F-8	剥片	WDT1	35	16	16.2	11.2	88.059	50.397	80.599	
254	YLu	E-8	剥片	KRM	17	9	2.7	0.5	86.749	43.358	79.304	
255	YLu	E-8	二次加工剥片	HTJ	14	12.5	5.5	0.8	85.834	49.100	80.562	28-12
256	YLu	E-8	ナイフ形石器 5	KRM	25	18	5.3	1.7	85.143	40.950	78.700	25-17
257	YLu	E-8	使用痕剥片	KRM	40	18	6.8	4.0	86.641	44.391	79.436	28-02
258	FBb	E-8	石鏃	Ch	16.5	12	3.0	0.5	89.477	48.268	80.164	49-17
259	FBb	E-8	剥片	Ch	20	15	3.6	1.0	88.383	49.732	80.534	
260	YLu	E-8	石鏃	GAn	39	24	5.5	3.3	81.428	42.264	79.320	49-09
261	YLu	E-8	剥片	GAn	22	17	3.9	1.5	83.051	43.492	79.623	
262	FBb	E-8	剥片	FAn	23	17	3.4	1.1	87.830	46.237	79.845	
263	FBb	E-8	剥片	Hor	18	7	2.7	0.4	86.751	49.781	80.624	
264	FBb	E-8	剥片	FAn	19	18	6.6	2.1	86.927	48.854	80.424	
265	YLu	E-9	ナイフ形石器 2	WDT2	23.5	14	5.5	1.5	95.289	41.382	79.050	24-04
266	YLu	E-9	尖頭器	TTS	25.5	18	5.5	1.5	96.734	45.920	79.787	23-06
267	YLu	E-9	ナイフ形石器 3	TTS	28	12	4.0	1.0	94.590	45.530	79.607	24-06
268	YLu	E-9	ナイフ形石器 3	KRM	19	12	4.0	0.7	95.408	43.136	79.352	24-10
269	YLu	E-9	剥片	KRM	24	12	4.9	1.2	92.226	44.946	79.501	
270	YLu	E-9	剥片	HTJ	17	14	4.0	0.5	96.937	43.083	79.442	
271	YLu	E-9	模形石器	HTJ	27	18	11.5	4.8	97.306	42.383	79.394	28-10

表18　出土石器一覧表(5)

遺物No.	層　位	グリッド	器　種	石　材	縦長mm	横長mm	厚mm	重量g	X座標	Y座標	H座標	図版No.
272	YLu	E-9	ナイフ形石器 3	KRM	26	10.5	4.0	0.9	93.525	40.593	78.849	24-06
273	YLu	E-9	剥片	GAn	20	13	2.4	0.7	94.856	48.740	80.181	
274	YLu	E-9	槍先形尖頭器	GAn	37	31	10.4	11.2	92.839	46.702	79.763	47-07
275	YLu	E-9	剥片	GAn	19	18	4.8	1.2	91.626	43.347	79.194	
276	YLu	E-9	剥片	GAn	14	12	1.5	0.2	92.185	44.785	79.488	
277	FBb	E-9	剥片	GAn	15	10	2.0	0.2	92.764	47.784	79.961	
278	YLu	E-9	剥片	GAn	15	14	1.9	0.4	92.170	44.232	79.373	
279	YLu	E-9	剥片	Rhy	22	18	3.3	0.8	97.397	49.696	80.488	
280	YLu	E-9	剥片	Hor	27	22	9.3	5.8	98.629	42.035	79.383	
281	YLu	E-9	剥片	Hor	21	12	6.2	1.4	95.430	45.983	79.724	
282	FBb	E-9	剥片	Hor	20	19	4.4	1.8	99.997	41.880	80.210	
283	FBb 直下	E-9	有舌尖頭器	GAn	47.5	15	6.0	4.1	92.591	47.070	79.902	48-08
284	FBb	F-9	剥片	Ob	28	13	4.2	0.9	92.751	50.556	80.621	
285	FBb	F-9	剥片	Ob	12	11	2.4	0.3	99.660	53.431	81.162	
286	YLu	F-9	剥片	HTJ	16.5	13	3.6	0.5	97.121	50.976	80.652	
287	YLu	F-9	ナイフ形石器 4	RJa	16.5	10	3.5	0.5	92.874	52.494	81.008	25-05
288	YLu	F-9	槍先形尖頭器	GAn	25.5	27	10.5	6.3	94.548	51.371	80.700	47-05
289	YLu	F-9	剥片	GAn	32	20	5.7	2.5	91.020	54.009	81.323	
290	YLu	F-9	剥片	GAn	32	10	5.2	1.6	92.836	51.387	80.807	
291	YLu	F-9	剥片	Hor	23	22	6.1	2.6	97.944	51.140	80.784	
292	FBb	E-10	ナイフ形石器 2	KRM	31	16.5	6.0	2.3	100.015	42.052	80.217	24-02
293	YLu	E-8	剥片	Ch	38	25	7.3	6.0	89.461	45.028	79.355	29-07
294	YLu	E-8	剥片	GAn	17	9	2.7	0.5	85.983	44.745	79.348	
295	YLu	E-9	ナイフ形石器 5	GAn	22	12	5.8	1.3	97.754	40.582	79.220	25-13
296	YLu	E-9	尖頭器	TTS	30	15	5.0	2.7	96.951	41.266	78.937	23-05
297	YLu	E-9	剥片	HTJ	18	13	4.2	1.0	93.788	41.408	78.804	
298	YLu	E-9	二次加工剥片	WDT1	26	17	6.9	2.1	94.748	41.396	78.870	28-11
299	YLu	E-9	剥片	WDT2	28	25	11.2	6.4	97.604	40.645	79.170	
300	YLu	E-9	剥片	FAn	18	14	8.0	1.7	95.144	40.626	78.882	
301	YLu	E-9	剥片	Rhy	26	18	3.6	1.9	94.398	41.080	78.782	
302	YLu	E-9	剥片	Hor	29	20	7.3	3.8	97.559	41.442	79.223	
303	YLu	E-9	剥片	Hor	40	26	6.4	6.4	94.331	48.667	80.100	
304	YLu	E-9	剥片	Rhy	18	12	2.6	0.4	94.967	43.789	79.334	
305	YLu	E-9	剥片	GAn	26	17	2.6	1.1	92.073	45.881	79.518	
306	YLu	E-9	剥片	GAn	17	15	3.1	0.8	93.803	47.212	79.831	
307	YLu	E-9	剥片	FAn	30	25	5.7	2.1	93.979	46.396	79.640	
308	YLu	E-9	剥片	GAn	18	13	5.4	1.4	95.496	43.609	79.350	
309	YLu	E-9	剥片	GAn	25	15	4.5	1.5	96.964	48.243	80.036	
310	YLu	E-9	剥片	GAn	25	17	7.8	3.3	96.365	46.907	79.765	
311	YLu	E-9	剥片	Ch	25	12	3.2	0.8	94.337	45.802	79.572	
312	YLu	E-9	剥片	GAn	18	15	2.5	0.5	93.699	41.946	79.053	
313	YLu	E-9	有舌尖頭器	FAn	72	16	3.6	5.5	96.515	46.650	79.758	48-03
314	YLu	F-9	剥片	GAn	27	17	3.2	1.2	93.174	50.986	80.505	
315	YLu	F-9	剥片	GAn	15	10	2.1	0.4	92.411	50.468	80.409	
316	YLu	E-10	剥片	Rhy	30	23	8.5	5.3	103.418	48.693	80.709	
317	YLu	E-10	剥片	Rhy	19	15	2.3	0.9	104.151	43.249	80.128	
318	YLu	E-10	剥片	STu	21	15	4.8	1.3	104.405	44.698	80.328	
319	YLu	E-10	剥片	Hor	40	25	9.4	13.2	103.193	45.420	80.135	
320	YLm	E-10	剥片	Hor	26	15	5.6	2.4	103.201	42.666	79.735	
321	YLm	E-10	剥片	Hor	30	21	7.1	5.0	104.998	45.367	80.316	
322	YLm	E-10	剥片	GAn	11	8	2.4	0.3	100.756	49.207	80.581	
323	YLm	F-10	ナイフ形石器 8	Rhy	17	14	5.2	1.5	101.870	51.685	80.756	26-12
324	YLm	F-10	剥片	Ob	15	12	4.8	0.8	102.054	50.390	80.924	
325	YLm	F-10	剥片	Ob	17	15	2.1	0.6	102.046	50.473	80.930	
326	FBb	D-10	横刃	FAn	68	13	6.3	7.3	100.996	39.689	80.010	48-10
327	YLu	E-8	剥片	Da	23	20	3.2	1.3	87.670	42.674	78.854	
328	YLu	E-9	尖頭器	WDT2	16	14.5	5.5	1.0	95.930	45.581	79.498	23-06
329	YLu	E-9	剥片	Ob	12	7	2.3	0.2	93.780	48.134	79.932	
330	YLu	E-9	剥片	HTJ	16	12	4.3	1.1	90.764	47.812	79.791	
331	YLu	E-9	ナイフ形石器 5	HTJ	28	17	5.0	1.0	91.769	44.984	79.312	25-15
332	YLu	E-9	ナイフ形石器 5	WDT1	23	18	4.5	1.7	90.325	46.123	79.508	25-16
333	YLu	E-9	剥片	GAn	20	15	1.7	0.6	92.548	47.318	79.799	
334	YLu	E-9	剥片	Rhy	18	18	3.0	0.6	94.937	43.328	79.147	
335	YLl	E-10	剥片	Hor	53	42	15.3	30.5	100.997	43.393	79.403	
336	YLl	E-10	剥片	HFT	32	19	4.8	2.4	100.734	42.548	79.470	
337	YLu	F-9	ナイフ形石器 8	HTJ	17	12	5.4	1.2	93.361	52.010	80.616	26-07
338	YLu	E-8	剥片	GAn	23	15	2.8	1.0	89.045	43.804	78.967	

表18　出土石器一覧表 (6)

遺物No.	層　位	グリッド	器　種	石　材	縦長mm	横長mm	厚mm	重量g	X座標	Y座標	H座標	図版No.
339	YLu	E-9	石刃	STu	27	16	3.0	1.8	99.927	42.209	79.728	29-03
340	YLu	E-9	石鏃	Sl	33	13.5	2.0	1.1	99.754	46.416	80.246	49-04
341	YLu	E-9	剥片	GAn	19	10	7.5	0.9	99.947	48.366	80.189	
342	YLu	E-9	剥片	FAn	22	13	3.8	0.9	99.995	41.087	79.600	
343	YLu	E-9	剥片	STu	25	25	7.8	3.9	95.200	41.965	79.080	
344	YLu	E-9	剥片	Hor	23	17	3.6	1.7	97.613	49.319	80.123	
345	YLu	E-9	剥片	GAn	25	10	1.5	0.6	92.882	48.430	79.899	
346	YLu	F-9	剥片	HTJ	14	8	6.3	0.9	93.928	50.627	80.268	
347	YLu	E-10	剥片	KRM	25	17	9.0	3.3	100.509	41.815	79.645	
348	FBb	E-10	石鏃（未製品）	HTJ	22	12	5.0	1.0	100.540	40.625	79.968	
349	YLu	E-10	剥片	KRM	14	10	3.3	0.4	100.186	47.594	80.155	
350	YLu	F-10	剥片	GAn	30	20	5.2	3.5	100.327	54.245	81.313	
351	FBb	E-9	磨石	An(Py)	50	35	20.4	36.2	99.721	42.361	80.091	53-04
352	FBb	E-9	磨石	An(Py)	48	25	24.6	29.0	99.616	42.266	80.057	53-03
353	FBb	D-10	剥片	Da	80	48	12.3	41.8	106.294	39.706	80.577	
354	FBb	E-10	剥片	Hor	24	13	4.2	1.2	100.448	43.371	79.616	
355	YLm	E-10	剥片	Hor	34	28	5.5	4.8	103.053	42.297	79.353	
356	YLu	E-9	石核	FAn	97	45	28.6	127.3	99.935	40.701	79.279	
357	YLu	D-7	使用痕剥片	KRM	32	15	10.3	5.1	75.713	39.887	79.371	27-07
358	YLm	E-9	剥片	Hor	21	21	7.6	3.3	92.829	46.022	79.445	
359	YLm	E-9	剥片	GAn	31	30	7.8	3.0	92.949	47.781	79.752	
360	YLu	E-9	ナイフ形石器 8	FAn	32	15.5	3.5	1.1	91.267	42.948	78.946	26-09
361	YLu	E-9	剥片	Hor	21	16	4.3	1.4	94.141	40.200	79.408	
362	YLu	D-9	石皿	An(Py)	270	267	103.0	8,800.0	91.401	39.208	79.179	55-01
363	YLu	D-9	台石	An(Py)	540	315	61.0	21,000.0	91.138	34.419	78.879	
364	YLu	E-8	剥片	HTJ	16	12	4.3	0.6	88.924	40.982	78.478	
365	YLu	E-8	打面調整剥片	WDT2	25	16	5.3	2.6	84.057	40.426	78.734	26-06
366	YLu	E-9	剥片	HTJ	30	18	11.3	4.3	93.776	44.669	79.250	
367	YLu	E-9	剥片	Hor	50	17	13.8	7.7	99.052	40.112	79.056	
368	YLu	E-9	剥片	Hor	32	20	7.8	5.5	95.114	43.707	79.175	
369	NL	F-9	剥片	Rhy	24	21	6.8	3.0	97.585	55.493	80.481	
370	YLu	D-10	剥片	Hor	34	17	7.0	4.5	100.066	34.233	79.479	
371	YLm	E-10	ナイフ形石器 4	WDT1	25.5	15.5	4.0	1.1	102.021	46.845	79.584	25-03
372	FBb	D-9	剥片	Ob	16	10	3.2	0.3	97.054	34.942	79.481	
373	YLu	D-9	ナイフ形石器 3	WDT1	27	12	4.0	1.0	96.631	34.823	79.226	24-05
374	YLm	E-9	剥片	WDT1	20	15	3.3	0.9	91.948	45.204	79.270	
375	YLm	E-9	剥片	KRM	23	16	3.3	1.5	94.365	43.423	78.876	
376	YLm	E-9	剥片	HTJ	19	14	3.5	0.8	98.249	46.011	79.464	
377	YLm	E-9	剥片	HTJ	18	10	5.8	0.8	91.589	43.313	78.932	
378	YLm	E-9	尖頭器	WDT1	42.5	21	8.5	6.1	94.589	45.647	79.304	23-02
379	YLm	E-9	ナイフ形石器 6	HTJ	40.5	25	5.5	5.0	96.236	46.533	79.552	26-02
380	YLu	E-9	剥片	GAn	16	15	5.7	1.0	96.617	42.254	79.261	
381	YLm	E-9	剥片	GAn	19.5	16	2.0	0.7	91.359	42.405	78.808	
382	YLm	E-9	剥片	GAn	20	7	5.4	0.8	96.839	46.557	79.480	
383	YLm	E-9	剥片	GAn	40	35	6.7	8.8	93.461	45.554	79.238	
384	YLm	E-9	剥片	GT	26	15	2.9	1.1	96.948	46.980	79.666	
385	YLu	E-9	剥片	Hor	27	16	2.5	1.0	96.472	42.065	79.121	
386	YLm	E-9	剥片	Hor	15	11	3.2	0.5	90.877	42.357	78.782	
387	YLm	E-9	剥片	FAn	22	20	4.3	1.5	92.091	41.944	78.780	
388	YLm	E-9	ナイフ形石器 5	RJa	34	15	4.0	1.6	97.781	41.748	79.256	25-14
389	YLu	D-9	剥片	KRM	17	7	1.7	0.2	92.408	37.909	78.786	
390	YLu	D-9	剥片	HTJ	19	17	6.2	1.6	95.152	30.891	78.116	
392	YLu	D-9	剥片	WDT2	39	25	14.5	12.2	90.170	39.781	78.499	28-03
393	YLu	D-9	剥片	KRM	21	9	3.2	0.4	94.950	33.129	78.869	
394	YLu	D-9	剥片	KRM	28	14	3.1	0.8	95.856	32.691	79.197	
395	YLu	D-9	剥片	KRM	12	10	3.0	0.3	91.823	38.723	78.693	
396	YLu	D-9	剥片	Hor	23	11	3.0	0.9	95.074	37.866	79.037	
397	YLu	D-9	剥片	HFT	25	14	5.4	1.9	95.045	39.315	79.096	
398	YLm	E-9	剥片	GAn	33	16	6.3	3.3	91.227	41.603	78.412	
399	YLm	E-9	剥片	GAn	33	33	4.1	4.6	96.372	45.877	78.885	
400	YLu	E-9	剥片	Hor	25	18	3.8	2.2	93.582	40.048	78.872	
401	FBb	E-9	剥片	Ob	21	10	2.0	0.4	94.600	40.297	79.388	
402	FBb	E-9	剥片	Hor	30	12	5.7	2.5	95.091	40.295	79.439	
403	FBb	E-9	剥片	STu	38	24	5.4	4.0	93.750	40.054	79.193	
404	表土	E-12	磁石	Rhy	95	33	34.3	139.2	-	-	-	75-01
405	3	R-5	剥片	Ob	17	13	2.8	0.5	57.721	-27.404	65.694	
406	3	R-5	石鏃（未製品）	KOZ1	22	16.5	7.0	1.7	56.956	-26.921	66.117	51-03

表18　出土石器一覧表 (7)

遺物No.	層　位	グリッド	器　種	石　材	幅長mm	横長mm	厚mm	重量g	X座標	Y座標	H座標	図版No.
407	FBb	D-8	剥片	Hor	29	20	4.2	2.7	88.905	36.013	77.960	
408	YLm	D-9	剥片	Hor	13	11	3.2	0.6	95.749	38.555	78.715	
409	YLu	D-9	剥片	Hor	20	10	3.1	0.5	90.897	36.481	78.159	
410	YLu	D-9	剥片	Hor	27	16	5.2	2.3	90.146	36.844	78.018	
411	FBb	D-8	剥片	Hor	34	29	14.1	13.1	89.129	35.560	77.907	
412	FBb	D-9	石鏃	Si	24	14	3.0	1.0	90.285	35.441	77.984	49-06
413	YLm	D-9	剥片	Hor	26	18	7.4	3.2	92.658	39.263	78.335	
414	YLu	D-9	剥片	Ob	25	23	4.8	2.5	94.705	39.367	78.830	28-04
415	YLu	D-9	剥片	KRM	19	18	3.3	1.0	94.194	38.503	78.677	
416	YLu	D-9	剥片	GAn	17	12	8.6	1.6	92.542	38.240	78.478	
417	YLu	D-9	有舌尖頭器	GAn	51	19	4.8	6.0	91.451	36.438	78.257	48-06
418	SX-1	D-8	窪み石	An(Py)	105	73	55.6	588.9	-	-	-	
419	YLu	D-7	剥片	GAn	14	14	1.7	0.4	77.954	38.886	78.924	
420	FBb	D-7	剥片	Da	37	30	6.7	5.5	76.916	37.017	78.443	
421	4	D-8	柱状片刃石斧	Tu	29	27	8.2	6.6	84.089	33.003	78.316	57-01
422	7	D-8	石核（残核）	Ob	37	25	15.3	8.1	81.589	35.915	78.585	
423	7	D-8	尖頭器	WDT1	20	18	6.0	1.9	87.184	33.404	78.343	23-07
424	7	D-8	剥片	Hor	21	16	6.9	2.0	82.677	33.969	78.405	
426	SD-5	D-8	尖頭器	TTS	34.5	18	6.0	3.9	86.821	35.176	78.528	23-03
427	7	D-8	二次加工剥片	FAn	30	17	7.6	4.6	80.194	35.452	78.656	51-07
428	SD-2	C-9	敲石	An(Py)	125	83	95.4	1,200.0	94.660	29.470	78.936	54-05
429	7	D-8	磨石	An(Py)	85	80	48.4	517.8	87.334	32.834	78.100	54-01
430	7	D-8	磨製	Rhy	90	70	32.2	291.2	86.873	30.580	77.853	52-02
431	7	D-8	剥片	GAn	16	14	2.1	0.5	87.513	34.050	78.360	
432	7	D-8	剥片	Hor	22	19	8.0	3.3	86.543	33.215	77.981	
433	FBb	D-8	剥片	Da	25	23	3.2	1.4	80.605	37.487	78.384	
434	SD-7	C-7	石鏃	KOZ1	17.5	19.5	4.0	1.2	77.707	28.735	76.160	49-16
435	YLu	C-8	剥片	HTJ	31	17	7.1	4.0	85.456	28.371	76.701	
436	SD-7	C-8	剥片	Ob	25	23	13.3	8.3	84.448	28.010	76.773	
437	7	D-8	剥片	Ob	18	10	3.1	0.4	88.571	34.494	78.298	
438	7	D-8	剥片	Ob	20	10	3.4	0.4	88.140	34.353	78.156	
439	FBb	D-8	剥片	Ob	12	10	2.3	0.2	88.184	32.532	77.933	
440	7	D-8	使用痕剥片	GAn	62	50	21.8	54.3	88.092	31.530	77.833	51-01
441	SD-4	D-9	二次加工剥片	WDT2	18	16	5.5	1.7	91.910	31.570	78.301	51-06
442	SD-4	D-9	剥片	Hor	33	9	4.4	1.3	92.290	32.610	78.542	
443	7	D-8	磨石	An(Py)	88	58	31.6	175.7	84.120	34.992	78.024	53-02
444	7	D-8	剥片	Ob	12	10	8.4	1.1	83.633	32.973	77.721	
445	7	D-8	剥片	Hor	23	17	5.6	1.6	89.003	32.808	78.380	
446	7	D-8	剥片	Rhy	20	15	2.6	0.8	86.358	31.504	77.633	
447	FBb	D-9	剥片	Hor	21	13	3.3	1.0	92.440	33.101	78.558	
448	FBb	D-9	剥片	Ob	15	9	4.9	0.6	90.319	33.244	78.387	
449	YLu	D-9	剥片	Ag	20	18	15.1	4.4	93.774	30.955	78.584	
450	SD-7	C-8	剥片	Ob	21	15	2.6	0.9	84.450	28.010	76.827	
451	7	B-6	剥片	Ob	14	12	3.5	0.6	89.389	13.079	72.615	
452	7	B-6	剥片	Ob	15	12	3.3	0.5	88.144	10.259	71.654	
453	7	B-6	石鏃	KOZ1	29	19	6.5	2.2	88.618	15.118	72.690	49-13
454	7	B-7	剥片	Ob	27	19	8.2	3.5	74.925	11.832	73.552	
455	7	B-7	剥片	RJa	22	14	3.7	1.7	74.575	10.414	72.461	
456	7	B-7	剥片	Rhy	22	10	4.6	1.1	77.201	19.409	74.152	
457	YLu	B-7	石鏃（未製品）	KRM	19	14	3.0	0.7	77.777	13.818	73.182	49-08
458	7	B-7	剥片	Ag	36	10	6.1	1.8	72.750	14.120	72.816	
459	7	B-6	敲石	An(Py)	103	78	60.9	506.9	89.379	16.362	72.913	
461	YLm	D-7	ナイフ形石器 4	KRM	36	14.5	6.0	2.4	74.807	34.744	77.842	25-01
462	YLm	D-7	剥片	HTJ	35	21	6.6	6.6	78.048	35.033	77.634	
463	YLm	D-7	ナイフ形石器 4	KRM	17	18	4.0	1.0	77.836	35.948	77.796	25-04
464	YLm	D-7	剥片	GAn	15	15	2.6	0.9	73.588	36.428	78.130	
465	YLm	D-8	剥片	Hor	20	11	5.2	0.9	82.272	33.182	77.385	
466	YLu	D-7	ナイフ形石器 2	TTS	34	17.5	5.0	2.4	76.040	33.427	77.089	24-03
467	7	D-8	剥片	Ob	16	12	3.8	1.0	85.636	30.536	77.131	
468	FBb	D-8	剥片	Rhy	22	18	4.0	1.4	88.868	32.697	77.985	
469	FBb	D-8	剥片	GAn	25	14	2.7	1.1	89.047	33.078	78.124	
471	YLu	D-8	石鏃	GAn	23.5	18	3.5	0.8	83.409	31.400	77.069	49-11
472	YLu	D-8	尖頭器	Ob	34	21	6.5	5.0	82.674	36.413	77.935	23-04
473	YLu	D-9	剥片	HTJ	29	26	7.6	5.3	91.877	32.642	78.202	
474	YLu	D-9	剥片	KRM	19	12	3.6	0.5	91.582	33.898	78.240	
475	FBb	G-3	石皿	An(Py)	100	90	50.3	377.2	38.010	61.274	80.319	
477	7	E-8	剥片	PO	50	45	26.3	56.0	87.338	40.596	79.171	

表18　出土石器一覧表(8)

遺物No.	層　位	グリッド	器　種	石　材	縦長mm	横長mm	厚mm	重量g	X座標	Y座標	H座標	図版No.
478	SD-7	C-7	敲石	An(Py)	94	41	58.0	366.1	75.470	24.010	75.043	
479	7	B-6	打製石斧	Sh	107	55	16.9	120.8	67.402	15.558	72.895	50-01
480	YLm	D-8	ナイフ形石器 5	KRM	30	10	5.8	2.1	87.519	31.807	77.351	25-10
481	YLm	D-8	剥片	KRM	23	11	4.3	0.7	87.616	33.322	77.474	
482	YLm	D-8	尖頭器	GAn	36	13	4.7	2.0	85.757	34.366	77.647	23-10
483	YLm	C-8	ナイフ形石器 8	HTJ	27	20	5.3	3.0	82.928	28.526	76.611	26-11
484	YLu	C-8	槍先形尖頭器	Da	97	30	7.7	27.1	81.131	26.802	76.037	47-01
485	YLm	C-7	剥片	Ob	25	22	6.9	4.3	75.195	29.227	76.216	28-05
486	7	B-7	剥片	Ob	7.8	5	3.0	0.2	75.039	15.783	73.231	
487	FBb	D-8	剥片	Ch	26	17	5.0	3.0	84.400	35.431	77.646	
488	YLu	B-7	石鏃	KOZ1	28	16	3.7	1.2	78.620	13.687	73.678	49-10
489	YLu	D-8	剥片	Ob	9	7	1.6	0.1	80.512	33.237	77.456	
490	FBb	D-8	剥片	Da	45	40	7.9	11.1	81.563	33.042	77.999	
491	7	D-8	石皿	An(Py)	103	85	48.3	369.2	85.417	33.147	77.988	
492	7	D-8	台皿	An(Py)	200	137	61.0	1,700.0	88.338	34.667	78.109	
494	7	A-6	剥片	Ob	18	10	3.4	0.6	63.161	2.647	70.092	
495	7	A-6	剥片	Ob	14	11	6.4	1.3	69.068	7.966	71.309	
496	7	B-7	剥片	Ob	18	14	2.4	0.4	70.751	15.605	72.673	
497	7	B-6	剥片	Hor	52	25	10.9	13.8	67.968	11.539	71.772	
500	ST-2	A-6	槍先形尖頭器	GAn	105	26	9.3	25.4	63.361	3.804	70.044	47-02
501	ST-2	A-6	槍先形尖頭器	GAn	56	19	5.3	5.0	61.895	5.829	70.202	47-03
502	SD-7	A-6	剥片	Ob	19	12	4.8	1.0	62.850	9.100	71.073	
503	7	C-9	剥片	Ob	16	12	5.5	0.8	98.800	-32.659	67.583	
504	7	A-6	剥片	Ob	15	10	1.6	0.3	69.307	8.683	71.203	
505	7	A-6	剥片	Ob	28	19	4.7	1.9	68.617	5.947	70.544	
506	7	A-7	ナイフ形石器 8	HTJ	24	14	5.5	1.3	71.527	8.986	71.125	26-08
507	7	B-6	剥片	Ob	24	21	7.6	3.9	69.533	10.531	71.336	
508	7	B-7	剥片	Ob	28	14	4.3	1.6	72.182	13.581	72.206	
509	7	B-7	剥片	Ob	20	14	2.8	1.0	70.582	13.864	72.122	
510	7	B-7	剥片	Ob	13	10	3.4	0.3	75.634	14.781	72.776	
511	7	B-7	有舌尖頭器	GAn	56	19	5.4	5.8	73.841	15.203	72.302	48-05
512	7	B-7	剥片	Ob	37	28	9.9	6.7	72.901	12.231	71.887	
513	7	B-7	剥片	Ob	25	21	10.7	4.0	72.496	16.564	72.497	
514	7	B-7	剥片	Ob	15	12	4.8	0.8	72.512	16.397	72.479	
515	ST-2	A-6	剥片	Ob	24	22	8.3	4.4	66.660	1.793	70.203	
516	ST-2	A-6	剥片	GAn	58	27	11.9	19.0	68.147	1.916	69.353	
517	FBb 相当	C-9	赤化礫	An(Py)	210	190	130.0	8,500.0	99.124	-35.276	67.671	
518	7	B-7	石錐	An(Py)	240	210	92.0	7,500.0	74.903	15.181	72.988	54-06
519	7	B-6	赤化礫	An(Py)	105	96	51.0	600.0	69.546	11.057	71.376	
521	7	B-7	石錐	KRM	24	18	3.8	1.1	70.518	11.875	71.585	49-12
522	7	A-6	剥片	Ob	17	6	2.8	0.1	66.109	9.183	71.128	
523	YLu	B-7	剥片	KRM	25	20	4.0	2.3	74.627	18.085	72.792	
524	YL相当落	B-7	剥片	KRM	16	15	5.0	1.3	72.885	17.878	71.865	
526	7	S-6	有孔扁平石器	Si	29	11	2.0	0.8	62.294	-19.411	66.909	57-02
528	7	R-9	凝灰石	An(Py)	95	86	58.0	700.0	96.431	-29.206	68.625	54-02
529	7	T-5	剥片	Ob	18	11	3.5	0.7	51.568	-8.189	68.313	
530	7	S-5	剥片	Ob	20	11	4.0	0.5	58.459	-10.223	67.421	
531	撹乱	A-5	石鏃	KSW	14	12	3.5	0.5	51.390	9.290	71.203	49-20
532	7	S-5	磨石	Si	55	19	2.5	3.9	52.267	-19.419	67.173	75-06
535	ST-2	T-6	剥片	Ob	40	15	15.0	6.5	68.085	-0.311	69.853	
536	ST-2	T-7	剥片	GAn	15	13	11.0	2.7	71.391	-2.054	69.887	
538	7	S-5	削器	KRM	34	12	5.0	2.1	58.015	-13.566	67.080	27-03
539	7	R-5	磨石	An(Py)	120	85	47.0	500.0	58.280	-24.180	65.889	54-03
541	KU	R-9	打製石斧	SS	89	44	18.0	89.0	96.501	-28.900	67.621	50-02
542	ST-2	T-6	剥片	Ob	15	13	5.0	0.8	66.190	-0.880	69.349	
543	ST-2	T-7	磨石	AnL	87	84	41.0	371.2	73.160	-2.500	69.444	53-01
544	7	R-9	剥片	Ob	18	9	4.0	0.4	93.573	-28.554	67.058	
546	ST-2	T-6	剥片	Ob	18	12	7.0	2.0	67.890	-0.450	69.361	
547	ST-2	T-6	剥片	Ob	23	17	9.5	3.0	66.610	-0.440	69.347	
548	ST-2	T-6	剥片	FAn	15	14	2.5	0.5	68.000	-1.410	69.335	

蛍光X線分析
結果一覧表

表19　蛍光X線分析結果一覧表 (1)

分析No.	遺物No.	産地	Al	Si	K	Ca	Ti	Mn	Fe	Rb	Sr	Y	Zr	SUM	Rb%	Sr%	Y%	Zr%	Fe/K	logFeK	Mn/Fe
IHB-001	S-028	?	12.265	113.838	39.048	10.472	9.450	1.077	5.081	59.277	13.849	4.187	5.622	148.063	71.474	16.699	5.049	6.779	0.130	-0.886	21.197
IHB-002	S-029	KRM	11.622	110.146	37.007	9.089	1.341	4.974	57.672	11.964	3.242	4.734	11.450	141.473	38.114	10.328	15.081	36.477	1.558	0.193	8.626
IHB-003	S-037	KRM	11.753	108.216	36.484	8.906	2.130	4.711	62.939	13.066	3.456	4.739	10.610	147.041	40.997	10.844	14.869	33.290	1.725	0.237	7.485
IHB-004	S-406	KOZ1	10.368	90.235	22.714	10.638	2.314	4.059	67.025	4.581	6.551	3.297	10.076	131.255	18.694	26.733	13.454	41.118	2.951	0.470	6.056
IHB-005	S-093-1	KRM	10.585	93.019	32.854	8.403	2.807	4.402	51.334	10.627	2.848	4.325	9.280	128.880	39.243	10.517	15.971	34.269	1.562	0.194	8.575
IHB-006	S-147	?	14.458	117.871	52.380	10.963	1.735	4.764	68.838	14.551	4.256	5.003	12.269	174.759	40.331	11.796	13.867	34.006	1.314	0.119	6.921
IHB-007	S-155	WDT1	11.684	102.722	37.115	9.429	1.555	6.918	62.513	26.036	0.000	10.874	11.288	165.528	54.243	0.000	22.239	23.518	1.684	0.226	11.067
IHB-008	S-156	TTS	10.801	101.105	35.262	11.742	3.058	3.534	90.389	10.086	11.794	3.595	15.676	185.356	24.391	28.522	8.694	38.393	2.562	0.409	3.910
IHB-009	S-423	WDT1	12.548	107.196	38.999	9.336	0.739	7.035	64.414	28.543	0.000	10.232	10.832	166.131	55.755	0.000	21.492	22.753	1.741	0.241	10.921
IHB-010	S-453	KOZ1	10.213	94.121	24.501	10.442	2.704	4.258	78.575	5.948	8.434	4.533	12.118	151.513	19.167	27.178	14.607	39.049	3.207	0.506	5.419
IHB-011	S-506	HTJ	9.844	89.087	8.823	21.142	8.304	5.656	222.520	0.955	12.387	4.057	20.277	302.120	2.534	32.878	10.769	53.819	25.221	1.402	2.542
IHB-012	S-521	KRM	11.131	104.851	36.803	8.552	3.170	5.186	54.926	11.862	2.649	4.568	10.199	136.915	40.515	9.048	15.602	34.835	1.534	0.186	9.442
IHB-013	S-538	KRM	10.697	103.137	33.720	8.336	1.173	4.186	53.529	10.875	2.997	4.386	8.652	127.853	40.412	11.137	16.299	32.152	1.587	0.201	7.820
IHB-014	S-114	KRM	10.408	96.045	33.511	8.515	1.449	4.214	52.341	10.824	3.283	4.414	9.641	128.192	38.435	11.658	15.674	34.234	1.562	0.194	8.051
IHB-015	S-148	KRM	11.175	100.308	35.474	8.881	3.406	4.469	58.243	13.046	3.493	5.029	9.421	141.462	42.099	11.272	16.228	30.401	1.642	0.215	7.673
IHB-016	S-162	KRM	12.785	113.045	37.971	9.531	1.631	4.836	56.801	13.203	4.497	5.404	11.061	146.735	36.645	13.163	15.817	32.375	1.549	0.190	7.884
IHB-017	S-163	?	10.902	104.858	24.260	10.314	2.332	4.047	78.196	5.239	7.574	3.896	11.844	147.705	18.348	26.526	13.646	41.481	3.223	0.508	5.175
IHB-018	S-186	WDT1	13.037	130.627	48.950	13.021	1.452	9.125	82.124	30.585	0.199	11.178	12.045	208.679	56.631	0.369	20.697	22.303	1.678	0.225	11.112
IHB-019	S-207	KRM	11.201	107.104	37.600	9.234	1.850	4.500	59.096	13.340	3.757	5.720	10.633	145.532	39.880	11.232	17.100	31.788	1.572	0.196	7.614
IHB-020	S-212	KRM	9.935	102.552	37.878	10.642	2.390	5.001	58.790	12.738	3.336	5.059	10.194	146.029	40.858	10.650	16.150	32.543	1.552	0.191	8.506
IHB-021	S-230	KOZ1	9.867	98.348	24.400	11.566	3.152	5.008	77.229	5.200	7.595	3.372	10.623	148.345	19.266	28.140	12.494	40.100	3.165	0.500	6.485
IHB-022	S-292	KRM	11.449	105.375	36.581	8.742	1.584	4.840	58.291	12.636	3.107	4.427	10.572	140.760	41.103	10.107	14.400	34.389	1.593	0.202	8.303
IHB-023	S-348	HTJ	9.541	98.545	9.455	22.062	6.182	6.092	226.592	0.504	13.872	3.647	21.456	309.861	1.277	35.137	9.238	54.347	23.966	1.380	2.688
IHB-024	S-109	KRM	10.095	98.478	40.064	10.875	1.807	5.407	71.813	12.533	3.870	4.937	10.913	162.220	38.858	11.999	15.307	33.836	1.792	0.253	7.529
IHB-025	S-116	KOZ1	15.867	154.273	38.354	18.217	3.516	7.322	125.801	8.472	10.891	5.690	14.569	232.834	21.382	27.487	14.361	36.770	3.280	0.516	5.820
IHB-026	S-131	HTJ	4.995	51.449	6.448	16.935	4.090	5.683	201.226	1.350	13.370	3.909	20.245	273.256	3.473	34.393	10.056	52.079	31.208	1.494	2.824
IHB-027	S-127	KRM	7.014	59.862	26.243	6.947	2.030	3.896	53.151	10.534	2.940	4.378	9.464	119.583	38.363	10.763	16.027	34.646	2.025	0.306	7.330
IHB-028	S-128	HTJ	8.117	80.986	8.807	20.395	4.582	5.257	207.960	1.322	12.649	4.019	20.091	285.185	3.472	33.216	10.554	52.759	23.613	1.373	2.528
IHB-029	S-324	?	10.019	96.438	40.279	11.629	1.926	5.765	85.396	22.941	1.695	8.703	11.739	190.072	50.892	3.760	19.307	26.042	2.120	0.326	6.751
IHB-030	S-325	?	11.304	99.007	41.130	10.381	2.398	6.206	91.388	21.536	1.109	7.731	12.105	193.986	50.698	2.610	18.198	28.494	2.222	0.347	6.793
IHB-031	S-371	WDT1	11.323	108.185	38.077	9.671	0.959	7.131	68.012	27.629	0.090	10.744	11.556	173.868	55.237	0.180	21.479	23.104	1.786	0.252	10.484
IHB-032	S-374	WDT1	11.310	92.838	36.501	9.302	1.336	8.669	84.512	33.022	0.165	13.768	10.831	196.126	57.125	0.285	23.853	18.738	2.315	0.365	10.258
IHB-033	S-375	KRM	10.381	105.062	35.599	8.584	1.547	4.920	56.389	11.279	2.982	4.540	10.163	136.003	38.941	10.296	15.675	35.088	1.584	0.200	8.725
IHB-034	S-376	HTJ	9.269	94.785	8.795	22.468	4.833	5.971	221.734	0.936	13.930	4.900	21.362	304.922	2.281	33.877	11.917	51.925	25.211	1.402	2.693
IHB-035	S-377	HTJ	10.305	78.659	9.404	20.794	7.193	6.936	257.773	0.647	13.657	4.891	20.099	341.194	1.655	34.934	12.000	51.411	27.411	1.438	2.691
IHB-036	S-378	WDT1	11.630	110.383	36.666	9.111	0.834	6.106	60.774	25.097	0.146	10.082	11.186	160.002	53.959	0.313	21.677	24.051	1.658	0.219	10.046
IHB-037	S-379	HTJ	9.313	89.145	8.688	21.453	5.007	5.721	210.251	0.906	13.240	3.902	19.163	288.333	2.436	35.581	10.486	51.497	24.200	1.384	2.721
IHB-038	S-461	KRM	13.793	132.685	46.878	11.446	1.827	6.683	72.081	14.334	4.025	5.311	11.285	173.870	41.007	11.515	15.194	32.284	1.538	0.187	9.272
IHB-039	S-462	HTJ	10.474	103.121	9.589	21.394	5.314	5.526	223.675	1.707	13.133	4.465	20.805	305.610	4.258	32.742	11.132	51.870	23.326	1.368	2.471
IHB-040	S-463	KRM	11.235	109.518	35.486	8.709	3.152	4.162	56.683	11.903	3.724	4.524	8.894	137.237	40.961	12.821	15.576	30.621	1.597	0.203	7.343
IHB-041	S-480	KRM	11.425	116.048	38.053	9.179	1.457	5.501	61.142	12.824	3.280	5.686	9.558	146.760	40.804	10.437	18.029	30.731	1.607	0.206	8.997
IHB-042	S-481	KRM	11.924	115.100	45.349	10.761	1.864	5.781	61.293	12.113	3.380	4.686	9.694	154.723	40.546	11.314	15.692	32.449	1.352	0.131	9.432
IHB-043	S-483	HTJ	10.121	100.930	8.331	21.283	4.862	5.553	224.539	1.081	14.360	3.959	21.461	305.449	2.644	35.175	9.684	52.496	26.952	1.431	2.473
IHB-044	S-485	?	13.247	113.348	39.425	8.579	1.431	4.402	61.162	12.814	3.184	5.011	10.996	147.003	40.039	9.949	15.657	34.355	1.551	0.191	7.197
IHB-045	S-021	WDT1	12.096	109.026	42.563	10.567	3.921	6.899	65.055	26.267	0.035	11.358	12.063	178.788	52.825	0.069	22.825	24.281	1.528	0.184	10.605
IHB-046	S-057	KRM	11.620	110.791	37.528	9.170	1.675	5.391	58.477	12.474	3.641	5.028	9.985	143.370	40.072	11.696	16.152	32.079	1.558	0.193	9.219
IHB-047	S-062	WDT4	10.981	105.685	39.516	1.180	1.871	5.171	80.322	18.081	2.852	6.679	12.420	167.892	45.196	7.124	16.684	31.025	2.033	0.308	6.438
IHB-048	S-081	KRM	12.837	116.154	41.194	10.523	1.958	5.537	75.659	13.353	3.441	5.387	11.221	168.273	39.877	10.302	16.128	33.594	1.837	0.264	7.316
IHB-049	S-084	WDT1	12.677	122.867	47.343	12.272	0.950	6.616	75.711	25.716	0.090	8.992	9.943	189.632	57.477	0.201	20.098	22.224	1.599	0.204	11.380
IHB-050	S-085	WDT1	11.614	110.362	37.543	9.369	1.031	7.065	65.552	25.364	0.000	10.056	9.848	165.829	56.278	0.000	22.313	21.408	1.746	0.242	10.776
IHB-051	S-089	KRM	18.093	179.456	60.651	15.798	2.196	7.881	94.583	14.710	4.846	7.057	12.452	220.174	37.656	12.405	18.066	31.875	1.559	0.193	8.332
IHB-052	S-090	HTJ	10.934	104.401	8.913	21.182	7.362	6.018	233.292	1.605	13.757	4.375	22.006	318.512	3.845	32.955	10.480	52.720	26.174	1.418	2.580
IHB-053	S-100	WDT1	14.802	139.415	47.720	11.792	1.339	8.994	84.420	29.876	0.000	11.677	12.076	207.895	55.706	0.000	21.773	22.520	1.769	0.248	10.654
IHB-054	S-126	HTJ	8.969	96.279	8.825	21.039	6.716	5.813	217.781	1.024	13.454	4.360	19.220	298.232	2.691	35.351	11.456	50.502	24.678	1.392	2.669
IHB-055	S-174	HTJ	9.578	85.105	8.060	18.303	4.757	5.209	203.938	0.781	12.250	4.067	18.089	275.455	2.220	34.815	11.557	51.409	25.301	1.403	2.554
IHB-056	S-192	?	9.766	96.224	29.429	6.703	0.974	2.940	46.309	9.607	2.957	4.090	8.591	111.600	38.056	11.715	16.200	34.030	1.574	0.197	6.349
IHB-057	S-193	?	4.054	43.621	6.936	13.409	3.789	5.137	203.528	1.403	12.622	4.982	23.339	276.146	3.313	29.807	11.765	55.115	29.344	1.468	2.524
IHB-058	S-194	HTJ	11.577	99.302	10.075	21.237	6.879	6.156	248.862	1.330	14.027	5.002	20.802	334.370	3.231	34.078	12.152	50.538	24.701	1.393	2.474
IHB-059	S-199	WDT1	12.170	125.022	43.593	11.076	0.947	8.251	73.250	27.750	0.394	10.838	11.299	187.387	56.190	0.783	21.586	22.472	1.680	0.225	11.263
IHB-060	S-202	KRM	10.706	107.807	38.351	8.341	1.689	4.272	54.885	12.840	3.628	4.764	10.088	136.858	40.996	11.584	15.211	32.209	1.510	0.179	7.784
IHB-061	S-208	?	11.790	105.654	49.080	10.368	1.299	4.223	54.945	12.162	4.204	5.028	10.671	152.180	37.694	13.030	15.583	33.693	1.119	0.049	7.686
IHB-062	S-209	KRM	12.605	117.361	39.910	9.277	1.304	5.500	58.636	12.367	3.872	5.111	11.618	147.597	37.512	1.745	15.503	35.240	1.489	0.167	9.380
IHB-063	S-218	TTS	11.900	110.318	32.020	11.108	2.589	3.492	81.197	8.493	11.056	3.267	14.860	168.162	22.542	[illegible]9.345	8.671	39.442	2.536	0.404	4.301
IHB-064	S-231	KRM	11.622	116.578	38.130	8.886	1.888	4.694	58.467	12.316	3.446	5.116	11.168	143.910	38.43[illegible]	[illegible]3.754	15.962	34.851	1.533	0.186	8.028
IHB-065	S-233	KRM	11.899	106.400	35.391	8.692	1.392	4.735	60.821	13.593	3.321	5.826	10.670	144.440	40.687	9.940	17.435	31.938	1.713	0.235	7.785
IHB-066	S-244	KRM	12.759	119.721	42.101	10.138	2.590	6.238	67.990	14.033	4.120	5.473	11.749	165.032	40.675	11.452	15.213	32.659	1.615	0.208	9.175
IHB-067	S-247	?	11.722	107.413	37.328	9.427	0.568	8.630	71.694	33.958	0.200	14.571	11.489	187.873	66.381	0.331	24.194	19.092	1.921	0.283	12.037

表19　蛍光X線分析結果一覧表(2)

分析No.	遺物No.	産地	Al	Si	K	Ca	Ti	Mn	Fe	Rb	Sr	Y	Zr	SUM	Rb%	Sr%	Y%	Zr%	Fe/K	logFeK	Mn/Fe
IHB-068	S-253	WDT1	11.086	101.323	35.562	7.865	0.858	6.100	57.750	25.318	0.000	11.189	11.597	156.349	52.632	0.000	23.261	24.108	1.623	0.210	10.562
IHB-069	S-254	KRM	10.530	102.963	37.863	9.621	1.604	5.267	65.046	12.699	3.667	5.728	11.383	152.898	37.934	10.954	17.110	34.002	1.717	0.235	8.097
IHB-070	S-255	HTJ	8.732	81.780	7.162	18.508	4.860	5.366	198.433	0.969	12.350	3.306	18.910	269.663	2.728	34.756	9.303	53.215	27.706	1.443	2.704
IHB-071	S-256	KRM	12.531	114.011	38.825	9.699	1.656	6.504	61.926	13.228	4.356	5.444	10.518	151.154	39.434	12.983	16.229	31.355	1.595	0.203	8.888
IHB-072	S-257	KRM	10.849	106.099	36.295	8.109	1.100	4.367	55.542	12.074	3.058	4.305	9.325	133.175	41.979	10.632	14.968	32.421	1.574	0.197	7.863
IHB-073	S-265	WDT2	9.867	91.548	34.420	8.682	1.915	6.086	63.592	25.256	0.000	10.033	11.634	161.619	53.625	0.000	21.382	24.793	1.848	0.267	9.570
IHB-074	S-266	TTS	9.564	101.360	30.293	9.992	2.629	2.397	77.781	8.871	11.185	2.714	15.550	161.412	23.150	29.188	7.082	40.579	2.568	0.410	3.082
IHB-075	S-267	TTS	11.746	115.764	39.580	13.392	3.819	3.184	99.902	10.039	12.676	3.518	16.540	202.740	23.470	29.636	8.225	38.669	2.526	0.402	3.184
IHB-076	S-268	KRM	10.915	108.742	37.750	9.806	1.982	4.512	56.677	13.068	3.538	5.064	10.025	142.422	41.230	11.163	15.977	31.630	1.501	0.176	7.961
IHB-077	S-269	KRM	10.465	95.978	33.296	8.082	0.909	4.289	54.366	11.172	3.367	5.106	8.962	129.578	39.012	11.756	17.830	31.402	1.633	0.213	7.889
IHB-078	S-270	HTJ	9.554	97.472	10.262	24.325	5.532	6.606	241.031	1.109	14.251	5.178	22.653	330.946	2.568	32.995	11.989	52.448	23.486	1.371	2.740
IHB-079	S-271	HTJ	9.817	89.682	9.176	23.599	6.060	5.921	237.351	0.924	14.406	4.322	22.489	324.240	2.192	34.189	10.256	53.363	25.866	1.413	2.495
IHB-080	S-272	KRM	10.220	102.967	43.331	11.105	1.962	5.686	66.567	13.610	3.259	5.716	12.470	163.706	38.625	9.297	16.306	35.573	1.536	0.186	8.542
IHB-081	S-286	HTJ	9.840	97.947	9.775	22.255	5.640	6.004	226.734	1.799	13.418	4.669	21.330	311.624	4.365	32.555	11.328	51.752	23.196	1.365	2.648
IHB-082	S-296	TTS	11.465	108.776	33.297	11.344	3.718	2.792	83.640	9.321	11.735	3.491	16.221	174.559	23.438	29.509	8.778	38.274	2.512	0.400	3.338
IHB-083	S-297	HTJ	10.564	95.196	9.008	21.024	5.292	5.920	228.226	0.905	13.782	5.164	22.156	311.497	2.154	32.794	12.334	52.719	25.337	1.404	2.594
IHB-084	S-298	WDT1	11.059	103.016	36.387	9.124	0.797	7.015	62.874	25.414	0.000	10.020	10.612	182.243	56.192	0.000	21.790	23.047	1.728	0.238	11.158
IHB-085	S-299	WDT2	9.480	93.272	35.203	7.192	0.939	5.274	53.753	20.730	0.028	9.076	9.203	141.399	53.103	0.071	23.250	23.575	1.527	0.184	9.812
IHB-086	S-328	WDT2	10.117	94.622	36.472	6.934	1.708	5.696	64.803	23.396	0.328	8.907	12.680	162.927	51.637	0.723	19.656	27.984	1.777	0.250	8.792
IHB-087	S-330	HTJ	10.414	95.537	9.879	22.958	5.049	6.205	226.053	0.739	14.686	5.297	22.150	313.216	1.716	34.562	12.297	51.425	22.881	1.359	2.745
IHB-088	S-331	HTJ	10.506	91.083	9.664	22.974	6.400	5.936	232.877	1.261	14.920	4.505	21.304	319.860	3.049	35.515	10.724	50.712	24.097	1.382	2.549
IHB-089	S-332	WDT1	11.147	107.600	40.190	9.414	1.106	7.062	62.410	25.299	0.000	9.843	12.008	167.323	53.657	0.000	20.876	25.467	1.553	0.191	11.300
IHB-090	S-337	HTJ	8.951	74.698	10.405	22.452	7.576	6.050	251.938	0.843	14.558	4.197	21.733	339.748	2.039	35.222	10.155	52.583	24.214	1.384	2.401
IHB-091	S-346	HTJ	7.121	47.878	6.433	14.611	6.047	4.703	214.766	0.435	11.835	3.865	17.206	279.902	1.304	35.498	11.592	51.607	33.386	1.524	2.190
IHB-092	S-347	KRM	9.575	88.922	33.760	8.490	1.403	4.116	56.766	12.160	3.542	4.463	9.939	134.639	40.393	11.766	14.825	33.016	1.681	0.226	7.251
IHB-093	S-349	KRM	10.669	99.228	36.102	10.020	1.618	4.834	64.947	12.483	3.185	5.565	10.560	149.314	39.263	10.018	17.504	33.215	1.799	0.255	7.443
IHB-094	S-357	KRM	10.213	94.823	40.321	8.228	1.088	3.811	49.096	10.748	2.648	4.672	8.976	129.589	39.740	9.791	17.274	33.195	1.218	0.086	7.763
IHB-095	S-364	HTJ	9.318	94.345	9.307	20.694	5.445	6.264	218.940	1.190	13.321	4.012	22.179	301.352	2.924	32.728	9.857	54.491	23.524	1.372	2.861
IHB-096	S-365	WDT2	10.602	101.079	37.217	9.036	1.565	6.523	70.109	26.855	0.298	11.427	12.307	177.326	54.560	0.563	21.607	23.271	1.884	0.275	9.304
IHB-097	S-366	HTJ	10.346	95.919	8.972	21.833	4.819	5.792	232.160	0.793	13.328	4.478	21.687	313.863	1.989	33.083	11.116	53.831	25.876	1.413	2.495
IHB-098	S-373	WDT1	11.025	108.032	36.929	8.770	0.821	6.645	61.115	25.316	0.000	10.481	11.785	161.864	53.206	0.000	22.027	24.767	1.655	0.219	10.873
IHB-099	S-389	KRM	11.943	128.017	48.012	14.323	1.795	6.864	73.111	13.249	4.147	6.070	10.614	176.185	38.876	12.168	17.811	31.144	1.523	0.183	9.388
IHB-100	S-390	HTJ	9.250	90.096	8.355	20.556	5.186	5.679	219.451	1.076	11.827	3.657	19.554	296.339	2.979	32.749	10.126	54.145	26.266	1.419	2.588
IHB-101	S-392	WDT2	10.973	106.346	33.556	8.422	1.018	5.721	57.649	23.917	0.319	9.446	11.341	151.388	53.123	0.708	20.980	25.190	1.718	0.235	9.924
IHB-102	S-393	KRM	12.794	125.542	43.606	11.235	1.806	6.012	69.294	14.437	4.253	6.517	11.197	167.361	40.776	12.013	15.583	31.626	1.589	0.201	8.676
IHB-103	S-394	KRM	10.603	109.354	34.957	9.468	1.278	4.996	57.238	10.946	2.992	5.197	9.375	136.446	38.391	10.496	18.229	32.884	1.637	0.214	8.728
IHB-104	S-395	KRM	13.867	144.816	49.070	13.428	1.543	6.606	74.611	13.418	4.779	6.520	11.936	181.915	36.606	13.038	17.787	32.569	1.521	0.182	8.857
IHB-105	S-414	?	11.228	110.251	36.720	8.976	1.266	4.085	59.424	12.832	3.523	4.641	10.861	142.328	40.280	11.059	14.568	34.093	1.618	0.209	6.874
IHB-106	S-415	KRM	11.692	112.499	37.961	9.469	1.387	4.949	60.162	13.372	3.469	5.249	10.720	146.736	40.756	10.573	15.998	32.673	1.585	0.200	8.226
IHB-107	S-435	HTJ	10.081	101.347	10.337	22.748	5.258	6.285	238.140	1.293	14.429	4.351	22.919	325.760	3.006	33.562	10.120	53.310	23.038	1.362	2.639
IHB-108	S-457	KRM	10.828	105.398	38.218	10.047	2.016	4.934	59.178	12.208	3.542	4.769	10.420	145.332	39.458	11.448	15.414	33.679	1.548	0.190	8.338
IHB-109	S-466	TTS	10.837	103.274	32.001	11.364	2.780	2.790	79.913	8.087	11.667	3.174	14.122	165.896	21.827	31.490	8.567	38.116	2.497	0.397	3.491
IHB-110	S-472	?	0.411	3.212	21.262	7.509	2.527	3.790	79.064	12.600	7.353	5.421	19.077	158.823	28.666	16.468	12.141	42.724	3.719	0.570	4.793
IHB-111	S-473	HTJ	10.882	101.415	9.377	23.958	5.413	5.572	235.796	1.184	14.524	4.509	22.300	322.633	2.785	34.160	10.606	52.450	25.146	1.400	2.363
IHB-112	S-474	KRM	12.377	120.049	40.205	10.371	1.769	5.834	69.361	11.967	3.855	4.746	9.889	157.597	39.814	12.160	15.790	32.235	1.725	0.237	8.411
IHB-113	S-488	KOZ1	11.059	103.695	26.137	13.614	3.415	4.730	81.665	5.242	8.304	3.784	11.425	158.316	18.230	28.878	13.159	39.732	3.124	0.495	5.792
IHB-114	S-523	KRM	11.588	113.932	38.505	9.229	1.482	5.301	61.415	13.462	4.221	5.791	11.703	151.109	36.269	11.999	16.462	33.269	1.595	0.203	8.631
IHB-115	S-524	KRM	12.327	113.571	38.676	9.858	1.330	4.782	58.550	12.962	4.181	6.020	11.740	148.129	37.137	11.979	17.248	33.636	1.514	0.180	8.167
IHB-116	S-014	KRM	12.981	121.921	42.685	10.472	2.359	5.865	81.281	13.018	3.588	5.417	10.699	175.404	39.784	10.965	16.555	32.697	1.904	0.280	7.240
IHB-117	S-016	?	9.776	92.266	22.471	10.065	2.337	3.671	74.144	5.459	6.720	2.795	9.883	137.545	21.982	27.035	11.244	39.759	3.300	0.518	4.951
IHB-118	S-049	TTS	10.694	101.596	29.952	11.526	3.312	2.619	84.760	7.806	10.529	3.169	14.057	167.730	21.951	29.608	8.911	39.529	2.830	0.452	3.090
IHB-119	S-118	KRM	11.150	105.705	35.739	8.196	2.292	4.531	55.724	12.079	3.938	4.586	9.133	136.220	40.621	13.243	15.422	30.714	1.559	0.193	8.131
IHB-120	S-531	KSW	11.230	106.859	22.034	25.727	6.522	2.850	185.724	3.610	11.755	5.503	28.874	292.599	7.257	23.632	11.063	58.048	8.429	0.926	1.535
IHB-121	S-051-1	KOZ1	11.979	115.836	30.115	13.740	3.368	5.592	93.596	6.101	8.586	4.194	11.908	177.202	19.814	27.891	13.621	38.674	3.108	0.492	5.975
IHB-122	S-051-2	KRM	12.315	119.680	40.098	11.096	2.054	5.518	65.115	12.766	3.498	4.259	9.526	153.930	42.484	11.641	14.174	31.702	1.624	0.211	8.474
IHB-123	S-426	TTS	11.102	106.654	31.863	11.293	3.174	2.894	85.537	9.287	11.430	2.753	16.996	175.227	22.950	28.246	6.803	42.001	2.685	0.429	3.383
IHB-124	S-434	KOZ1	11.538	107.817	25.396	11.624	2.310	4.540	76.976	5.146	7.515	3.372	10.888	147.771	19.115	27.915	12.626	40.444	3.031	0.482	5.898
IHB-125	S-441	WDT2	10.777	101.220	33.346	8.117	1.743	5.695	59.058	24.486	0.189	10.234	10.607	153.677	53.796	0.418	22.484	23.305	1.771	0.248	9.961

出土土器一覧表

表20　出土土器一覧表(1)

遺物No.	区	グリッド	層位	種　　別	器　種	時　代	重量g	X座標	Y座標	H座標	遺構	図版No.
001	1	E-9	2	陶器	常滑	後	中世	11.0	-	-	-	
002	2	F-4	FBb	縄文土器			縄文	6.5	41.095	56.259	82.499	
003	2	F-4	FBb	縄文土器	早期条痕文系		縄文早期後葉～末	31.2	41.708	56.995	82.250	38- 02
004	3	K-20	暗褐直上	須恵器		長頸瓶	古代	15.2	201.171	104.342	97.580	58- 15
005	3	K-20	暗褐直上	土師器		壺	弥生～古墳	200.0	201.700	105.184	97.653	58- 06
006	3	K-20	暗褐直上	土師器		壺	弥生～古墳	-	201.890	105.152	97.631	58- 06
007	3	K-20	暗褐直上	土師器		壺	弥生～古墳	-	202.313	105.144	97.646	58- 06
008	3	K-20	暗褐直上	縄文土器	早期条痕文系		縄文早期後葉～末	4.4	202.155	105.127	97.684	38- 07
009	3	K-20	暗褐直上	縄文土器	早期条痕文系		縄文早期後葉～末	23.7	201.858	105.063	97.674	38- 07
010	3	K-20	暗褐直上	土師器		壺	弥生～古墳	-	201.595	105.071	97.642	58- 06
011	3	K-20	暗褐直上	土師器		壺	弥生～古墳	-	201.759	105.002	97.654	58- 06
012	3	K-20	暗褐直上	土師器		甕	弥生～古墳	-	201.424	104.919	97.693	58- 06
013	3	K-20	暗褐直上	土師器		壺	弥生～古墳	-	202.802	104.468	97.661	58- 06
014	3	K-20	暗褐直上	土師器		壺	弥生～古墳	-	202.057	104.579	97.649	58- 06
015	3	K-20	暗褐直上	土師器		壺	弥生～古墳	-	201.896	104.628	97.679	58- 06
016	3	K-20	暗褐直上	土師器		壺	弥生～古墳	-	201.836	104.802	97.669	58- 06
017	3	K-20	暗褐直上	土師器		壺	弥生～古墳	-	201.955	104.628	97.655	58- 06
018	3	K-20	暗褐直上	土師器		壺	弥生～古墳	-	201.760	104.890	97.650	58- 06
019	3	K-20	暗褐直上	土師器		壺	弥生～古墳	-	201.758	104.635	97.658	58- 06
020	3	K-20	暗褐直上	土師器		壺	弥生～古墳	-	201.498	104.483	97.641	58- 06
021	3	K-20	暗褐直上	土師器		壺	弥生～古墳	-	201.356	104.656	97.634	58- 06
022	3	K-20	褐灰直上	土師器		壺	弥生～古墳	-	201.744	104.340	97.669	58- 06
023	3	K-20	暗褐直上	土師器		壺	弥生～古墳	-	201.618	104.227	97.650	58- 06
024	3	K-20	暗褐直上	土師器		壺	弥生～古墳	-	201.739	104.280	97.663	58- 06
025	3	K-20	暗褐直上	土師器		壺	弥生～古墳	-	201.615	104.267	97.647	58- 06
026	3	K-20	暗褐直上	土師器		壺	弥生～古墳	-	201.410	104.281	97.626	58- 06
027	3	K-20	褐灰直上	土師器		壺	弥生～古墳	-	201.432	104.709	97.674	58- 06
028	3	K-20	暗褐直上	土師器		壺	弥生～古墳	-	201.300	104.670	97.611	58- 06
029 -1	3	K-20	撹乱	縄文土器	早期条痕文系		縄文早期後葉～末	9.5	-	-	-	38- 07
029 -2	3	K-20	撹乱	土師器		壺	弥生～古墳	7.7	-	-	-	58- 06
029 -3	3	K-20	撹乱	須恵器		長頸瓶	古代	10.2	-	-	-	
031	2	F-3	FBb	縄文土器	早期条痕文系		縄文早期後葉～末	34.8	39.448	59.144	80.979	
032	2	F-4	FBb	縄文土器	早期条痕文系		縄文早期後葉～末	9.2	41.451	59.856	80.592	
033	3	K-20	表土	須恵器		長頸瓶	古代	30.3	201.116	102.792	97.725	58- 17
034	3	K-20	表土	須恵器		長頸瓶	古代	5.6	200.133	102.510	97.702	
035	3	K-19	表土	縄文土器		不明	縄文	2.2	199.785	103.083	97.632	
036 -1	1	-	撹乱	陶器	美濃	丸形片口鉢	近世	12.3	-	-	-	72- 10
036 -2	1	-	撹乱	陶器	瀬戸	擂鉢or灯明皿	近世	5.7	-	-	-	
036 -3	1	-	撹乱	陶器	瀬戸	鉢完品	近世	16.7	-	-	-	71- 12
036 -4	1	-	撹乱	陶器	肥前磁川系	小皿	近世	15.2	-	-	-	72- 16
037	1	E-9	表土	陶器		不明	近世	25.3	-	-	-	
038	1	F-10	表土	瓦			近世以降	41.8	-	-	-	
039	1	D-10	3	土師質土器			不明	15.3	102.715	32.029	80.896	
040	1	D-10	3	かわらけ			中世	4.2	106.356	30.334	80.901	
041	1	D-10	3	縄文土器			縄文後期中葉	10.2	106.780	36.930	81.279	41- 03
042 -1	1	-	撹乱	須恵器		不明	古代	14.0	-	-	-	
042 -2	1	-	撹乱	陶器	瀬戸	鉢完品	近世	8.8	-	-	-	71- 10
042 -3	1	-	撹乱	磁器	肥前	一括	近世	計 12.5	-	-	-	
042 -4	1	-	撹乱	陶器	瀬戸	半筒袋	近世	17.5	-	-	-	71- 15
042 -5	1	-	撹乱	磁器	碗	台磁皿	中世	7.8	-	-	-	62- 03
042 -6	1	-	撹乱	磁器	瀬戸美濃	一括	近代	計 7.9	-	-	-	
042 -7	1	-	撹乱	磁器	不明	不明	不明	4.5	-	-	-	
043	2	K-9	撹乱	土師質土器		不明	不明	2.3	99.278	106.468	76.034	
044	2	L-8	撹乱	陶器	瀬戸	擂鉢	近世	10.7	88.719	118.406	74.936	
045	2	L-8	撹乱	磁器	肥前	碗？	近世	1.6	88.443	118.434	74.926	
046	2	L-8	撹乱	陶器	瀬戸	筒形？	近世	2.6	89.898	118.990	75.110	
047	2	L-8	撹乱	陶器	志野皿？	不明	近世	7.6	89.947	119.427	75.161	
048	2	L-8	撹乱	陶器	不明	不明	近世	1.4	89.279	119.665	74.909	
049	2	L-8	撹乱	陶器	不明	碗	近世	2.0	89.158	119.658	75.063	
050	2	L-8	撹乱	磁器	肥前	不明	不明	0.6	89.165	119.539	75.064	
051	2	L-8	撹乱	磁器	肥前	不明	不明	1.6	89.086	119.499	74.821	
052	2	K-9	表土	土師質土器		不明	不明	18.3	-	-	-	
053 -1	1	-	撹乱	陶器	瀬戸	志野丸皿	近世	9.5	-	-	-	71- 08
053 -2	1	-	撹乱	陶器	瀬戸？	壺？	近世	6.1	-	-	-	
054 -1	1	-	撹乱	縄文土器	大粒繊石含有		縄文	8.1	-	-	-	
054 -2	1	-	撹乱	土師質土器		不明	不明	18.3	-	-	-	
055 -1	2	K-9	撹乱	磁器	肥前？	一括	近世	計 4.7	-	-	-	
056 -2	2	K-9	撹乱	陶器	瀬戸	腐毛目鉢	近世	2.1	-	-	-	
055 -3	2	K-9	撹乱	陶器	不明	不明	不明	1.4	-	-	-	
057	2	L-8	撹乱	土師質土器		不明	不明	7.9	89.122	118.561	74.759	
058	2	L-8	撹乱	かわらけ			中世	3.1	89.288	118.529	74.761	
059	2	K-9	3	陶器	瀬戸	擂鉢	近世	19.6	97.659	108.578	75.602	73- 10
060	2	K-9	3	縄文土器			縄文	4.7	98.882	108.175	75.284	
061	2	L-8	4	かわらけ			中世	2.1	89.227	119.753	74.076	
062	1	F-9	4	陶器	瀬戸美濃	擂鉢	中世	89.1	96.520	50.080	81.520	62- 26
063	1	E-7	3	かわらけ			中世	3.8	74.793	46.792	81.130	63- 12
064	1	E-8	3	陶器	美濃	小片口鉢	近世	7.8	81.277	41.457	80.496	72- 06
065	1	E-9	3	陶器	瀬戸	香炉	近世	39.8	95.212	41.382	80.632	71- 14
066	1	E-8	3	かわらけ			中世	3.1	89.571	40.644	80.376	63- 11
067	1	F-9	3	陶器	瀬戸	擂鉢	近世	8.8	99.163	54.235	81.956	73- 06

表20　出土土器一覧表(2)

遺物No.	区	グリッド	層位	種	類	器 種	時 代	重量g	X座標	Y座標	H座標	遺構	図版No.
068	1	E-10	3	瓦質土器		七輪	近世	22.5	106.500	40.583	81.314		
069	1	D-9	3	陶器	瀬戸美濃	擂鉢	中世	27.0	99.470	37.412	80.589		62- 17
070	1	E-7	3	陶器	不明	鍋?	近世	3.0	78.219	41.250	80.355		
071	1	E-8	3	陶器	瀬戸美濃	擂鉢	中世	7.4	89.810	40.684	80.310		62- 21
072	1	E-7	4	縄文土器			縄文	7.1	77.200	40.759	80.344		
073	1	E-7	3	縄文土器			縄文	3.6	78.688	40.071	81.487		
074	1	E-9	3	縄文土器			縄文	4.1	92.271	40.636	80.453		
075	1	D-9	3	瓦質土器		不明	不明	3.7	98.513	33.637	80.337		
076	1	E-10	3	縄文土器			縄文	1.8	103.068	41.344	80.754		
077	1	E-9	3	磁器	瀬戸美濃	不明	近代	3.4	95.381	40.590	80.761		
078	1	D-9	3	磁器	瀬戸美濃	不明	近代	9.9	98.490	37.308	80.761		
079 -1	1	D-9	3	磁器	肥前	不明	近世	2.2	98.519	34.711	80.539		
079 -2	1	D-9	3	磁器	瀬戸美濃	不明	近世	2.8	-	-	-		
080	1	D-9	3	陶器	志戸呂	擂鉢	近世	13.1	99.383	33.729	80.579		73- 01
082	1	D-9	3	かわらけ			中世	2.0	98.555	35.717	80.689		
083	1	E-7	3	かわらけ			中世	1.7	78.599	42.898	80.529		
084	1	E-10	3	陶器	瀬戸	擂鉢	近世	2.3	109.649	41.478	81.086		
085	1	E-8	3	土師質土器		不明	不明	4.3	87.195	40.601	80.497		
086	1	D-10	3	陶器	美濃	片口鉢	近世	15.8	104.630	37.127	79.791		72- 10
087	1	D-10	3	土師質土器		不明	不明	5.4	104.099	36.632	79.893		
088	1	D-11	3	須恵器		不明	古代	10.7	115.044	35.252	80.026		58- 14
089	1	C-10	3	陶器	常滑?	不明	近代	9.8	104.808	29.225	79.465		
090	1	D-10	3	かわらけ			中世	8.4	102.895	36.017	79.930		63- 19
091	1	D-10	3	陶器	不明	不明	近世	2.5	102.250	30.403	79.582		
092	1	C-11	3	陶器	瀬戸美濃	丸皿 or 菊皿	中世	5.0	106.043	29.855	79.687		62- 16
093	1	D-10	3	陶器	美濃	壺片	近世	4.1	103.126	36.506	79.829		
094	1	D-10	3	陶器	美濃	小鉢	近世	1.9	102.463	36.186	79.736		72- 01
095	1	D-10	3	陶器	不明	不明	近世	7.5	105.646	36.458	79.856		
096	1	D-10	3	かわらけ			中世	4.6	101.440	31.318	79.487		
097	1	D-10	3	陶器	美濃	丸皿	近世	7.0	108.295	34.052	79.886		72- 03
098	1	D-10	3	陶器	瀬戸	腰錆碗 or 湯呑	近世	13.4	104.345	36.245	79.772		71- 03
099	1	D-10	3	かわらけ			中世	8.9	100.823	30.284	79.337		63- 20
100	1	C-10	3	縄文土器			縄文	5.2	109.682	27.540	79.827		
101	1	D-11	3	かわらけ			中世	3.0	115.620	36.288	80.101		
102	1	D-10	3	土師器		不明	古墳	3.0	108.434	37.432	80.098		
103	1	D-10	3	かわらけ			中世	3.2	104.132	30.224	79.543		
105	1	D-11	3	かわらけ			中世	4.9	113.096	36.695	80.247		
106	1	D-10	3	土師質土器		不明	不明	4.7	104.132	30.224	79.543		
107	1	D-10	3	かわらけ			中世	4.3	102.557	35.831	79.612		63- 21
108	1	C-10	3	陶器	美濃	灯明皿?	近世	1.4	109.042	26.722	79.624		
109	1	D-10	3	かわらけ			中世	1.0	103.673	32.379	79.543		63- 02
110	1	D-10	3	縄文土器	大粒繊石含有		縄文	2.0	104.022	37.003	79.892		
111 -1	1	C-10	3	土師質土器		不明	不明	4.3	106.823	26.990	79.488		
111 -2	1	C-10	3	陶器	瀬戸	擂鉢	近世	4.1	106.823	26.990	79.488		73- 08
112	1	C-10	3	縄文土器	大粒繊石含有		縄文	4.7	105.463	27.081	79.443		
113	1	D-11	3	磁器	肥前?	不明	近世	1.2	115.837	36.244	80.090		
114	1	C-10	3	陶器	瀬戸美濃	縁釉皿	中世	4.1	101.915	28.154	79.312		62- 12
115	1	D-10	3	かわらけ			中世	5.4	102.407	35.412	79.651		63- 16
116	1	C-10	3	かわらけ			中世	5.4	105.814	29.542	79.699		63- 13
117	1	D-10	3	かわらけ			中世	4.6	102.036	36.799	79.706		
118	1	D-10	3	瓦			近世以降	5.6	104.903	36.418	80.003		
119	1	E-7	3	陶器	美濃	擂鉢皿	近世	9.4	78.771	45.070	80.732		72- 08
120	1	E-10	3	陶器	不明（在地系?）	不明	近世	3.7	102.157	40.656	81.094		
121	1	E-7	3	土師質土器		不明	不明	1.4	78.106	43.892	80.451		
122	1	D-9	3	縄文土器	称名寺		縄文後期前葉	4.5	94.165	31.523	79.722		40- 09
123	1	D-9	3	縄文土器	井戸沢 or 藤内 I		縄文中期前葉	20.7	91.339	35.341	80.081		39- 14
124	1	D-9	3	縄文土器	加曽利E III or IV		縄文中期後葉	6.3	97.128	37.705	80.410		39- 29
125	1	D-9	3	縄文土器	称名寺		縄文後期前葉	3.6	97.713	35.674	80.129		40- 04
126	1	D-9	3	縄文土器	大粒繊石含有		縄文	8.6	90.525	38.796	80.281		
127	1	D-9	3	縄文土器	大粒繊石含有		縄文	8.9	98.511	35.091	80.183		
128	1	D-9	3	縄文土器	大粒繊石含有		縄文	3.8	94.405	36.567	80.133		
129	1	D-9	3	かわらけ			中世	5.4	95.205	31.724	80.109		63- 09
130	1	D-9	3	土師器		甕	古墳～古代	5.7	95.554	36.353	80.158		
131	1	C-9	3	かわらけ			中世	1.6	97.287	29.561	79.853		
132	1	D-9	3	かわらけ			中世	4.1	97.894	35.744	80.501		
133	1	C-9	3	かわらけ			中世	2.4	98.163	28.655	79.860		
134	1	D-9	3	かわらけ			中世	5.0	90.713	35.506	80.075		
135	1	D-9	3	かわらけ			中世	8.0	96.319	32.989	80.233		
136	1	D-9	3	かわらけ			中世	3.2	94.224	32.114	79.722		
137	1	D-9	3	かわらけ			中世	4.6	94.965	32.854	80.223		
138	1	D-9	3	かわらけ			中世	5.9	94.059	32.497	80.129		
139	1	D-9	3	土師質土器		不明	不明	1.7	94.934	35.892	80.127		
140	1	D-9	3	土師質土器		不明	不明	3.5	94.968	33.049	79.975		
141	1	D-9	3	かわらけ			中世	5.1	95.424	33.919	80.016		
142 -1	1	D-9	3	土師質土器		不明	不明	3.8	94.910	35.864	80.403		
142 -2	1	D-9	3	かわらけ			中世	2.0	94.910	35.864	80.403		
143	1	D-9	3	土師質土器		不明	不明	4.2	93.098	37.983	80.307		
144	1	D-9	3	土師質土器		不明	不明	8.2	96.131	36.109	80.388		
145	1	D-9	3	かわらけ			中世	2.0	94.630	37.473	80.312		63- 01
146 -1	1	D-9	3	陶器	瀬戸美濃	洗鉢	中世	3.7	97.981	35.684	80.611		62- 07

表20　出土土器一覧表 (3)

遺物No.	区	グリッド	層位	種類		器種	時代	重量g	X座標	Y座標	H座標	遺構	図版No.
146 -2	1	D-9	3	かわらけ			中世	15.3	97.981	35.684	80.611		63- 18
147	1	D-9	3	陶器	瀬戸美濃	擂鉢	中世	8.7	95.879	34.682	80.364		
148	1	D-9	3	かわらけ			中世	6.0	96.919	38.276	80.241		63- 04
149	1	D-9	3	須恵器		坏	古代	4.5	96.715	39.162	80.217		
150	1	D-9	3	土師器		不明	古墳～古代	3.1	93.276	34.129	79.965		
151	1	D-9	3	陶器	常滑？	甕	中世	10.4	94.749	32.034	79.947		
152	1	D-9	3	陶器	瀬戸	腰錆碗 or 湯呑	近世	1.7	96.468	33.623	80.273		71- 04
153	1	D-9	3	陶器	瀬戸	腰錆碗 or 湯呑	近世	2.2	96.448	34.573	80.536		71- 04
154	1	D-9	3	陶器	瀬戸	志野丸皿	近世	4.5	97.505	37.086	80.298		
155	1	D-9	3	陶器	瀬戸	せんじ碗	近世	1.3	96.193	37.683	80.804		
156	1	D-9	3	陶器	不明	不明	近世	2.3	97.406	38.579	80.813		
157	1	D-8	3	陶器	瀬戸美濃	不明	近世	4.0	88.739	34.661	79.863		
158	1	D-9	3	陶器	瀬戸美濃	天目茶碗	中世	4.7	90.292	33.760	79.762		
159	1	D-9	3	陶器	美濃	丸形片口鉢	近世	114.3	91.880	39.294	80.554		72- 10
160	1	D-9	3	陶器	常滑？	甕	中世	32.3	91.281	35.121	79.808		
161	1	E-9	3	瓦質土器		双耳壺 or 手焙り	中世	25.1	97.077	40.429	81.093		
162	2	G-3	表土	陶器	美濃	徳利	近世	1.8	32.466	60.632	80.677		
163	2	G-3	表土	須恵器		不明	古代	4.5	34.317	61.644	80.450		
164	2	G-3	FBb 相当	縄文土器	絡条体圧痕文系		縄文早期後葉～末	10.3	35.710	62.252	79.852		37- 11
165	2	G-3	表土	須恵器		不明	古代	10.9	36.139	60.672	80.595		
166	2	F-3	表土	須恵器		不明	古代	5.1	36.953	59.879	80.862		
167	2	F-3	表土	土師質土器		不明	不明	3.6	39.979	59.014	80.686		
168	2	F-3	表土	土師質土器		不明	不明	8.3	39.971	59.082	80.659		
169	2	G-4	FBb 相当	縄文土器	早期条痕文系		縄文早期後葉～末	7.0	40.568	60.786	80.666		
170	2	G-4	FBb 相当	縄文土器	早期条痕文系		縄文早期後葉～末	4.0	40.442	60.800	80.433		
171	2	G-4	FBb 相当	縄文土器			縄文	2.6	40.442	60.722	80.430		
172	2	G-4	表土	須恵器		不明	古代	3.1	40.439	61.662	80.500		58- 13
173	2	G-4	FBb 相当	縄文土器	早期条痕文系		縄文早期後葉～末	4.9	40.392	62.115	79.702		
174	2	G-3	FBb 相当	縄文土器	早期条痕文系		縄文早期後葉～末	3.6	39.037	60.969	80.507		38- 04
175	2	G-3	FBb 相当	縄文土器			縄文	51.6	37.115	61.415	80.049		
176	2	G-3	FBb 相当	縄文土器	貝殻腹縁文		縄文早期末	23.8	37.504	62.840	79.468		38- 06
177	2	G-3	FBb 相当	縄文土器	早期条痕文系		縄文早期後葉～末	21.9	36.702	63.538	79.125		
178	2	G-3	表土	須恵器		不明	古代	7.0	38.978	64.326	79.503		58- 11
179	2	G-3	表土	弥生土器		壺？	弥生～古墳	31.6	39.230	64.153	79.389		58- 02
180	2	G-3	FBb 相当	縄文土器	絡条体圧痕文系		縄文早期後葉～末	49.2	39.794	64.389	78.996		37- 12
181	2	G-4	表土	弥生土器		甕？	弥生～古墳	87.0	40.474	64.267	79.378		58- 03
182	2	G-4	FBb 相当	縄文土器	早期条痕文系		縄文早期後葉～末	27.5	42.755	62.615	80.286		38- 04
183	2	G-4	FBb 相当	縄文土器	早期条痕文系		縄文早期後葉～末	36.9	41.676	61.976	80.817		38- 04
184	2	G-4	FBb 相当	縄文土器	早期条痕文系		縄文早期後葉～末	38.7	41.716	61.756	80.374		38- 04
185	2	G-4	FBb 相当	縄文土器	早期条痕文系		縄文早期後葉～末	12.2	42.916	61.158	80.546		
186	2	G-4	FBb 相当	縄文土器	早期条痕文系		縄文早期後葉～末	48.9	42.476	60.551	81.080		38- 04
187	2	G-4	FBb 相当	縄文土器	早期条痕文系		縄文早期後葉～末	5.8	42.963	61.153	80.561		
188	2	G-4	FBb 相当	縄文土器	早期条痕文系		縄文早期後葉～末	25.4	43.767	61.526	80.547		
189	2	G-4	FBb 相当	縄文土器	早期条痕文系		縄文早期後葉～末	20.7	44.223	61.958	80.688		
190	2	F-4	FBb 相当	縄文土器	早期条痕文系		縄文早期後葉～末	34.1	42.471	52.913	83.262		38- 04
191	2	F-4	FBb 相当	縄文土器	早期条痕文系		縄文早期後葉～末	56.0	41.966	53.029	83.045		38- 04
192	2	F-4	FBb 相当	縄文土器			縄文	69.5	47.681	54.506	83.443		40- 13
193	2	G-3	FBb 相当	縄文土器	早期条痕文系		縄文早期後葉～末	15.8	39.084	60.618	79.962		
194	1	D-8	3	土師器		高坏	古墳	19.4	89.534	39.353	80.310		58- 04
195	1	D-8	3	須恵器		不明	古代	4.3	87.131	36.425	79.956		
196	1	D-8	3	陶器	肥前唐津	不明	近世	4.4	83.079	37.228	80.052		72- 15
197	1	D-8	3	陶器	瀬戸美濃	丸皿	中世	12.1	83.138	37.385	80.058		62- 14
198	1	D-8	3	陶器	美濃	碗？	近世	2.9	80.849	37.175	80.092		
199	1	D-8	3	須恵器		不明	古代	4.8	80.987	36.737	80.007		
200	1	D-8	3	陶器	常滑	甕	近世	14.5	87.601	35.331	80.303		
201	1	D-8	3	縄文土器	大粒輝石含有		縄文	6.2	80.624	34.697	80.150		
202	1	C-10	覆土	縄文土器			縄文	4.9	102.613	27.851	79.848	SD-1	
203	3	K-20	礫層直上	土師器		甕	弥生～古墳	-	201.205	104.595	97.601		58- 06
204	3	K-20	礫層直上	土師器		甕	弥生～古墳	-	201.252	104.818	97.578		58- 06
205	3	K-20	礫層直上	土師器		甕	弥生～古墳	-	201.405	104.795	97.571		58- 06
206	3	K-20	礫層直上	土師器		甕	弥生～古墳	-	201.600	104.755	97.597		58- 06
207	3	K-20	礫層直上	土師器		甕	弥生～古墳	-	201.796	104.795	97.641		58- 06
208	3	K-20	礫層直上	土師器		甕	弥生～古墳	-	201.915	104.502	97.560		58- 06
209	3	K-20	礫層直上	土師器		甕	弥生～古墳	-	201.820	104.875	97.649		58- 06
210	3	K-20	礫層直上	土師器		甕	弥生～古墳	-	201.780	104.995	97.604		58- 06
211	3	K-20	礫層直上	土師器		甕	弥生～古墳	-	202.040	104.892	97.629		58- 06
212	3	K-20	礫層直上	土師器		甕	弥生～古墳	-	202.087	104.812	97.638		58- 06
213	3	K-20	礫層直上	土師器		甕	弥生～古墳	-	202.163	104.860	97.628		58- 06
214	3	K-20	礫層直上	土師器		甕	弥生～古墳	-	202.253	104.893	97.633		58- 06
215	3	K-20	礫層直上	土師器		甕	弥生～古墳	-	202.168	104.982	97.603		58- 06
216	3	K-20	礫層直上	土師器		甕	弥生～古墳	-	201.970	105.075	97.597		58- 06
217	3	K-20	礫層直上	土師器		甕	弥生～古墳	-	201.930	105.115	97.612		58- 06
218	3	K-20	礫層直上	土師器		甕	弥生～古墳	-	201.880	105.105	97.613		58- 06
219	3	K-20	礫層直上	土師器		甕	弥生～古墳	-	201.812	105.080	97.603		58- 06
220	3	K-20	礫層直上	土師器		甕	弥生～古墳	-	201.832	105.108	97.608		58- 06
221	3	K-20	礫層直上	土師器		甕	弥生～古墳	-	201.855	105.143	97.614		58- 06
222	3	K-20	礫層直上	土師器		甕	弥生～古墳	-	201.875	105.180	97.609		58- 06
223	3	K-20	礫層直上	土師器		甕	弥生～古墳	-	201.405	104.530	97.466		58- 06
224	3	K-20	礫層直上	土師器		甕	弥生～古墳	-	201.200	104.653	97.501		58- 06
225	3	K-20	礫層直上	土師器		甕	弥生～古墳	-	201.120	104.875	97.602		58- 06

表20　出土土器一覧表(4)

遺物No.	区	グリッド	層位	種類		器種	時代	重量g	X座標	Y座標	H座標	遺構	図版No.
226	3	K-20	礫層直上	土師器		甕	弥生～古墳	-	201.802	104.912	97.574		58- 06
227	3	K-20	礫層直上	土師器		甕	弥生～古墳	-	201.818	104.880	97.560		58- 06
228	3	K-20	礫層直上	土師器		甕	弥生～古墳	-	201.843	104.920	97.558		58- 06
229	3	K-20	礫層直上	土師器		甕	弥生～古墳	-	201.860	104.990	97.554		58- 06
230	3	K-20	礫層直上	土師器		甕	弥生～古墳	-	201.830	105.020	97.560		58- 06
231	2	G-4	FBb 相当	縄文土器	早期条痕文系		縄文早期後葉～末	23.3	41.377	60.116	79.043		
232	2	G-4	FBb 相当	縄文土器	早期条痕文系		縄文早期後葉～末	24.0	41.885	60.582	78.808		
233	2	G-4	FBb 相当	縄文土器	早期条痕文系		縄文早期後葉～末	6.9	41.931	60.605	78.790		
234	1	E-10	3	陶器	瀬戸	糸目湯呑	近世	15.7	100.754	43.460	80.928		71- 05
235	1	E-10	3	縄文土器			縄文	3.1	101.094	43.455	80.926		
236	1	E-10	3	陶器	瀬戸	不明	近世	12.5	101.558	42.315	80.758		
237	1	E-10	3	陶器	美濃	折縁鉄釉鉢	近世	2.2	102.618	41.735	81.008		
238 -1	1	E-10	3	土師質土器		不明	不明	3.0	102.756	42.142	80.843		
238 -2	1	E-10	3	縄文土器		不明	縄文	1.2	102.756	42.142	80.843		
239	1	E-10	3	縄文土器		不明	縄文	1.8	101.890	44.668	81.034		
240	1	E-10	3	土師質土器		不明	不明	0.8	102.531	45.103	81.106		
241	1	E-10	3	縄文土器	撚糸文系		縄文早期前葉	18.2	102.639	45.505	80.777		37- 02
242	1	E-10	3	陶器	不明	不明	近世	9.0	101.004	44.548	81.236		
243	1	F-10	3	陶器	瀬戸	擂鉢	近世	21.3	102.324	53.056	81.959		73- 09
244	1	E-10	3	陶器	常滑	甕	中世	15.8	104.724	43.861	81.249		
245	1	E-11	3	縄文土器	大粒輝石含有		縄文	4.2	110.179	47.262	81.637		
246	1	E-10	3	陶器	志戸呂	擂鉢	近世	11.3	106.633	49.479	81.739		
247	1	E-9	2	土師質土器		不明	不明	1.8	96.692	47.959	81.297		
248	1	E-9	3	陶器	瀬戸	擂鉢	近世	50.0	96.022	47.293	81.201		73- 07
249	1	E-9	3	陶器	瀬戸美濃	擂鉢	中世	9.5	95.674	49.623	81.391		
250	1	E-9	3	陶器	志戸呂	甕?	近世	4.3	94.163	47.294	81.358		
251	1	E-9	3	縄文土器			縄文	4.7	93.076	46.838	81.213		
252	1	E-9	3	陶器	瀬戸	刷毛目徳利	近世	1.5	92.165	47.115	81.219		
253	1	E-9	3	磁器	瀬戸美濃?	不明	近代	1.7	93.134	47.914	81.299		
254	1	E-9	3	陶器	瀬戸美濃	平碗?	中世	2.7	92.533	48.693	81.465		
255	1	F-9	3	磁器	瀬戸美濃	皿	近代	11.0	96.705	51.335	81.517		
256	1	E-9	3	陶器	瀬戸	擂鉢	近代	38.7	92.329	49.789	81.408		73- 18
257	1	E-9	3	土師質土器		羽釜	中世	12.2	92.206	49.898	81.425		63- 23
258	1	F-9	3	縄文土器	諸磯C		縄文前期	7.2	91.371	53.069	81.744		39- 10
259	1	F-9	3	縄文土器	諸磯C		縄文前期	11.6	92.817	52.755	81.708		39- 08
260	1	F-9	3	縄文土器	大粒輝石含有		縄文	7.2	94.067	53.243	81.692		
261	1	F-9	3	陶器	瀬戸	擂鉢	近世	5.9	93.884	51.359	81.516		
262	1	E-9	3	陶器	瀬戸美濃	擂鉢	中世	11.3	98.327	43.956	80.766		62- 19
263	1	E-9	3	陶器	美濃?	不明	近世	9.1	95.922	42.561	80.781		
264	1	E-9	3	土師器		坏	古代	4.0	95.445	42.543	80.763		58- 09
265	1	E-9	3	かわらけ			中世	6.7	92.644	41.922	80.828		
266	1	E-9	3	磁器	肥前	不明	近世	4.1	91.111	42.754	80.806		
267	1	E-9	3	磁器	肥前波佐見系	丸碗	近世	14.2	91.060	42.993	80.931		74- 01
268	1	E-9	3	陶器	志戸呂	徳利?	近世	19.6	95.682	43.311	80.990		
269	1	E-9	3	磁器	肥前	不明	近世	2.3	93.238	44.462	81.058		
270	1	E-9	3	陶器	美濃	擂絵中皿	近世	15.9	92.440	43.667	80.903		72- 09
271	1	E-9	3	土師器		甕	古墳～古代	25.9	91.629	45.326	81.104		
272	1	E-9	3	かわらけ			中世	13.1	94.730	41.953	80.405		63- 14
273	1	D-9	3	陶器	不明	甕	不明	110.2	97.466	39.017	80.309		
274	1	D-9	3	磁器	明	青磁碗	中世	13.7	99.480	34.162	80.215		62- 01
275	1	E-9	4	縄文土器	大粒輝石含有		縄文	5.0	97.381	41.076	80.055		
276	1	E-9	4	かわらけ			中世	3.9	92.227	41.155	80.128		
277	1	E-9	4	瓦質土器		不明	中世	9.3	92.214	41.248	80.144		
278	1	E-9	4	縄文土器			縄文	24.4	91.852	41.372	79.792		40- 12
279	1	E-9	4	土師質土器		不明	不明	4.5	90.779	40.863	80.179		
280	1	E-9	4	陶器	常滑	甕	中世	12.6	90.893	40.711	80.179		
281	1	E-9	4	縄文土器	称名寺		縄文後期前葉	4.6	90.983	40.622	80.187		
282	1	E-8	4	土師質土器		不明	不明	7.5	87.618	41.095	80.414		
283	1	-	表土	陶器	志戸呂	皿?	近世	5.3	-	-	-		
284	1	E 9	4	土師質土器		不明	不明	15.4	96.379	40.721	79.855		
285	1	E-8	4	土師器		甕	古墳～古代	6.9	88.718	40.960	79.867		
286 -1	2	-	撹乱	縄文土器			縄文	8.0	-	-	-		41- 12
286 -2	2	-	撹乱	土師質土器	(在地系)	ミニチュア土器	近世	5.2	-	-	-		72- 20
286 -3	2	-	撹乱	磁器	肥前?	不明	近代	5.2	-	-	-		
286 -4	2	-	撹乱	かわらけ			中世	8.3	-	-	-		
287 -1	2	-	撹乱	縄文土器	大粒輝石含有		縄文	18.5	-	-	-		
287 -2	2	-	撹乱	陶器	瀬戸美濃	擂鉢	中世	15.1	-	-	-		62- 22
287 -3	2	-	撹乱	陶器	美濃	徳利?	近世	9.0	-	-	-		
287 -4	2	-	撹乱	磁器	瀬戸美濃	一括	近世	計 7.8	-	-	-		
287 -5	2	-	撹乱	土師質土器		不明	不明	14.5	-	-	-		
287 -6	2	-	撹乱	陶器	瀬戸	擂鉢	近世	6.4	-	-	-		73- 14
287 -7	2	-	撹乱	磁器	肥前波佐見系	瓶類	近世	10.4	-	-	-		74- 13
287 -8	2	-	撹乱	陶器	瀬戸	不明	近世	6.3	-	-	-		
287 -9	2	-	撹乱	陶器	不明	不明	近世	1.4	-	-	-		
287 -10	2	-	撹乱	陶器	瀬戸	腰錆碗 or 湯呑	近世	1.0	-	-	-		
287 -11	2	-	撹乱	陶器	美濃	不明	近世	0.3	-	-	-		
287 -12	2	-	撹乱	陶器	美濃	擂絵小皿	近世	5.1	-	-	-		72- 07
287 -13	2	-	撹乱	磁器	瀬戸美濃	一括	近代	計 0.8	-	-	-		
287 -14	2	-	撹乱	磁器	肥前	一括	近世	計 23.4	-	-	-		
288 -1	2	-	撹乱	陶器	瀬戸美濃	擂鉢	中世	32.6	-	-	-		

表20　出土土器一覧表(5)

遺物No.	区	グリッド	層位	種類		器種	時代	重量g	X座標	Y座標	H座標	遺構	図版No.
288 -2	2	-	撹乱	陶器	瀬戸	片口鉢	近世	2.5	-	-	-		
288 -3	2	-	撹乱	磁器	肥前	一括	近世	計 2.1	-	-	-		
288 -4	2	-	撹乱	陶器	瀬戸	不明	近世	1.3	-	-	-		
288 -5	2	-	撹乱	陶器	瀬戸	不明	近世	2.2	-	-	-		
289 -1	2	-	撹乱	縄文土器	大粒輝石含有		縄文	14.7	-	-	-		
289 -3	2	-	撹乱	陶器	瀬戸美濃	小杯	中世	4.2	-	-	-		62- 08
289 -4	2	-	撹乱	陶器	美濃	一括	不明	計 1.5	-	-	-		
289 -5	2	-	撹乱	陶器	瀬戸	擂鉢	近世	17.6	-	-	-		
289 -6	2	-	撹乱	土師質土器		不明	不明	5.0	-	-	-		
289 -7	2	-	撹乱	瓦			不明	28.3	-	-	-		
289 -8	2	-	撹乱	縄文土器			縄文早期末	3.3	-	-	-		37- 13
289 -9	2	-	撹乱	磁器	肥前	筒碗	近世	8.0	-	-	-		74- 08
289 -10	2	-	撹乱	陶器	瀬戸	志野丸皿	近世	10.3	-	-	-		
289 -11	2	-	撹乱	陶器	瀬戸	片口鉢	近世	10.7	-	-	-		71- 16
289 -12	2	-	撹乱	陶器	瀬戸美濃	擂鉢	中世	33.1	-	-	-		
289 -13	2	-	撹乱	陶器	瀬戸美濃	擂鉢	中世	10.3	-	-	-		
289 -14	2	-	撹乱	陶器	瀬戸	擂鉢	近世	16.8	-	-	-		
289 -15	2	-	撹乱	陶器	瀬戸	志野丸皿？	近世	6.3	-	-			
289 -16	2	-	撹乱	陶器	美濃	折縁輪禿鉢	近世	3.6					
289 -17	2	-	撹乱	陶器	瀬戸	小碗	近世	10.1					71- 06
289 -18	2	-	撹乱	陶器	美濃	不明	近世	1.8					
289 -19	2	-	撹乱	陶器	不明	不明	近世	4.4					
289 -20	2	-	撹乱	磁器	瀬戸美濃	一括	不明	計 6.3	-	-	-		
289 -21	2	-	撹乱	磁器	肥前	一括	近世	計 30.0	-	-	-		
290	1	D-10	FBb	縄文土器			縄文	2.5	102.837	39.561	80.410		
291	1	E-10	FBb	縄文土器	撚糸文系		縄文早期前葉	4.5	102.592	47.203	80.966		
292	1	E-10	FBb	縄文土器	撚糸文系		縄文早期前葉	15.1	102.413	48.141	81.113		37- 03
293	1	E-10	FBb	縄文土器	撚糸文系		縄文早期前葉	10.9	104.507	44.249	81.020		37- 04
294	1	D-9	4	土師質土器		不明	不明	4.4	97.572	31.910	79.910		
295	1	D-9	4	かわらけ			中世	6.3	96.137	31.700	79.800		63- 07
296	1	D-9	4	かわらけ			中世	4.4	96.179	31.732	79.797		63- 07
297	1	D-9	4	かわらけ			中世	1.9	95.754	32.035	79.767		
298	1	D-9	4	かわらけ			中世	8.0	95.441	32.182	79.759		
299	1	D-9	4	瓦質土器		香炉？	中世	3.9	93.516	32.461	79.703		
300	1	D-9	4	土師器		台付甕	古墳～古代	17.5	95.818	35.024	79.838		58- 05
301	1	D-9	4	陶器	志戸呂	不明	近世	2.6	91.963	33.932	79.767		
302	1	D-9	4	土師質土器		不明	不明	0.9	91.275	34.975	79.765		
303	1	D-9	4	土師質土器		不明	不明	1.8	95.549	36.590	79.960		
304	1	D-9	4	陶器	瀬戸美濃	不明	中世	2.6	92.540	38.721	80.076		
305	1	D-9	4	陶器	常滑	甕	中世	12.3	92.142	37.077	79.985		
306	1	E-9	4	縄文土器	曽利Ⅳ～Ⅴ		縄文中期後葉	17.7	90.317	40.768	79.325		39- 23
307	1	E-8	4	縄文土器			縄文	6.1	82.153	41.312	79.681		
308	1	E-9	3	かわらけ			中世	4.2	92.593	45.532	80.981		63- 08
309	1	E-9	3	陶器	瀬戸美濃	擂鉢	中世	4.9	97.109	49.503	81.227		
310	1	E-9	3	瓦			近世以降	23.3	93.761	48.242	81.197		
311	1	E-9	3	土師質土器		不明	不明	14.1	90.169	47.586	81.077		
312	1	E-9	3	磁器	肥前	徳利	近世	2.9	90.224	47.521	81.080		74- 14
313	1	F-9	3	縄文土器	諸磯C		縄文前期	17.0	91.459	52.619	81.498		39- 07
314	1	F-9	3	縄文土器	諸磯C		縄文前期	5.5	91.960	53.287	81.452		39- 11
315	1	E-9	3	陶器	瀬戸	天目茶碗	近世	3.2	91.804	43.853	80.873		71- 02
316 -1	2	-	3	陶器	志戸呂	皿	近世	28.6	-	-	-		72- 13
316 -2	2	-	3	土師質土器		不明	不明	26.4	-	-	-		
316 -3	2	-	3	陶器	瀬戸美濃	天目茶碗（小型）	中世	6.2	-	-	-		62- 15
316 -4	2	-	3	土師質土器		不明	不明	6.5	-	-	-		
317 -1	2	-	3	磁器	肥前	丸碗	近世	10.6	-	-	-		74- 02
317 -2	2	-	3	磁器	肥前	一括	近世	計 28.2	-	-	-		
317 -3	2	-	3	陶器	瀬戸	輪禿皿	近世	6.3	-	-	-		71- 11
317 -4	2	-	3	陶器	不明	不明	近世	23.3	-	-	-		72- 19
317 -5	2	-	3	陶器	不明	不明	近世	0.9	-	-	-		
317 -6	2	-	3	陶器	瀬戸	灯明皿	近世	2.9	-	-	-		
317 -7	2	-	3	陶器	美濃？	不明	近世	1.9	-	-	-		
317 -8	2	-	3	磁器	瀬戸美濃	一括	近代	計 9.5	-	-	-		
318 -1	2	-	3	陶器	瀬戸美濃	擂鉢	中世	50.1	-	-	-		62- 20
318 -2	2	-	3	陶器	瀬戸	擂鉢	近世	28.6	-	-	-		73- 15
319 -1	2	-	3	縄文土器			縄文	3.4	-	-	-		
319 -2	2	-	3	陶器	不明	不明	不明	3.5	-	-	-		
319 -3	2	-	3	陶器	瀬戸美濃	卸皿？	中世	2.0	-	-	-		62- 06
319 -4	2	-	3	かわらけ			中世	1.1	-	-	-		
320 -1	2	-	2	土師質土器		不明	不明	5.4	-	-	-		
320 -2	2	-	2	磁器	肥前	一括	近世	計 3.9	-	-	-		
320 -3	2	-	2	土師質土器		不明	不明	1.7	-	-	-		
320 -4	2	-	2	陶器	瀬戸	志野丸皿	近世	7.1	-	-	-		
320 -5	2	-	2	陶器	美濃	擂絵皿	近世	3.1	-	-	-		
320 -6	2	-	2	陶器	瀬戸美濃	片口鉢	近世	14.3	-	-	-		71- 17
320 -7	2	-	2	磁器	美濃	広東碗	近世	6.1	-	-	-		74- 15
320 -8	2	-	2	陶器	瀬戸	刷毛目碗	近世	0.7	-	-	-		
320 -9	2	-	2	陶器	瀬戸	腰錆碗 or 湯呑	近世	3.8	-	-	-		
320 -10	2	-	2	陶器	不明	不明	不明	0.9	-	-	-		
320 -11	2	-	2	磁器	瀬戸美濃	一括	近代	計 3.3	-	-	-		
321 -1	1	E-9	3	縄文土器	大粒輝石含有		縄文	1.7	-	-	-		

表20　出土土器一覧表(6)

遺物No.	区	グリッド	層位	種類		器種	時代	重量g	X座標	Y座標	H座標	遺構	図版No.
321 -2	1	E-9	3	縄文土器			縄文	54.5	-	-	-		
321 -3	1	E-9	3	縄文土器	諸磯C		縄文前期	12.1	-	-	-		39- 09
321 -4	1	E-9	3	磁器	肥前	一括	近世	計 5.7	-	-	-		
321 -5	1	E-9	3	須恵器		不明	古代	12.2	-	-	-		
321 -6	1	E-9	3	陶器	常滑	甕	中世	11.3	-	-	-		
321 -7	1	E-9	3	陶器	美濃	輪禿皿	近世	22.2	-	-	-		72- 02
321 -8	1	E-9	3	土師質土器		不明	不明	15.2	-	-	-		
321 -9	1	E-9	3	磁器	肥前	碗	近世	8.2	-	-	-		74- 09
321 -10	1	E-9	3	磁器	瀬戸美濃	不明	近代	1.1	-	-	-		
322 -1	1	D-9	4	縄文土器	大粒輝石含有		縄文	13.9	-	-	-		
322 -2	1	D-9	4	陶器	渥美	甕	中世	53.8	-	-	-		
322 -3	1	D-9	4	土師質土器		不明	不明	8.8	-	-	-		
322 -4	1	D-9	4	陶器	不明	不明	不明	35.7	-	-	-		
322 -5	1	D-9	4	かわらけ			中世	26.5	-	-	-		63- 17
322 -6	1	D-9	4	陶器	瀬戸美濃	緑釉皿	中世	3.4	-	-	-		62- 11
322 -7	1	D-9	4	土師器		不明	古代	12.0	-	-	-		
323 -1	1	F-9	3	縄文土器	大粒輝石含有		縄文	13.4	-	-	-		
323 -2	1	F-9	3	土師質土器		不明	不明	7.7	-	-	-		
323 -3	1	F-9	3	陶器	瀬戸美濃	瓶 or 壺類	中世	11.9	-	-	-		62- 09
323 -4	1	F-9	3	磁器	瀬戸美濃	皿	近代	8.8	-	-	-		
323 -5	1	F-9	3	かわらけ			中世	3.4	-	-	-		
323 -6	1	F-9	3	かわらけ			中世	1.4	-	-	-		63- 05
323 -7	1	F-9	3	かわらけ			中世	5.7	-	-	-		63- 15
323 -8	1	F-9	3	土師質土器		不明	不明	1.8	-	-	-		
324	1	F-10	FBb	縄文土器	曽利Ⅳ～Ⅴ		縄文中期後葉	19.2	100.035	50.243	81.455		39- 22
325	1	F-10	FBb	縄文土器	曽利Ⅳ～Ⅴ		縄文中期後葉	12.0	100.151	50.535	81.475		39- 17
326	1	F-10	4	縄文土器			縄文	4.7	-	-	-		
327 -1	1	E-9	3	縄文土器	諸磯C		縄文前期	8.6	-	-	-		39- 13
327 -2	1	E-9	3	磁器	肥前	丸碗	近世	3.2	-	-	-		74- 07
327 -3	1	E-9	3	土師質土器		不明	不明	1.7	-	-	-		63- 22
327 -4	1	E-9	3	縄文土器			縄文	4.6	-	-	-		
328 5	1	D-10	4	かわらけ			中世	1.7	-	-	-		63- 03
328 -1	1	D-10	4	縄文土器	早期条痕文系		縄文早期後葉～末	8.9	-	-	-		
328 -2	1	D-10	4	縄文土器			縄文	9.8	-	-	-		
328 -3	1	D-10	4	縄文土器	称名寺		縄文後期前葉	2.7	-	-	-		40- 07
328 -4	1	D-10	4	須恵器		不明	古代	3.6	-	-	-		
329 -1	1	F-8	攪乱	縄文土器	諸磯C		縄文前期	11.1	-	-	-		39- 05
329 -2	1	F-8	攪乱	縄文土器			縄文	9.8	-	-	-		
329 -3	1	F-8	攪乱	磁器	瀬戸美濃	一括	近代	計 27.0	-	-	-		
330 -1	1	E-9	7	縄文土器	加曽利E		縄文中期後葉	8.9	90.569	46.312	80.533		39- 28
330 -2	1	E-9	7	縄文土器	称名寺		縄文後期前葉	2.4	90.569	46.312	80.533		
332	1	E-9	7	縄文土器			縄文	2.9	90.875	49.049	80.982		
333	1	F-8	FBb	縄文土器			縄文早期末	4.1	88.413	51.255	81.166		37- 14
334	1	E-9	7	縄文土器			縄文	3.3	92.990	47.006	80.622		
335	1	E-8	7	縄文土器	野島式～鵜ヶ島		縄文早期後葉～末	4.5	88.376	46.925	80.670		37- 10
336	1	E-9	7	縄文土器	安行Ⅲ or 清水天王山		縄文晩期	10.0	91.476	47.652	80.788		41- 06
337	1	E-9	7	縄文土器			縄文	1.8	92.452	44.466	80.084		
338	1	E-9	7	縄文土器			縄文	71.7	93.190	48.019	80.805		
339	1	E-9	7	縄文土器	諸磯C		縄文前期	4.4	91.281	49.432	80.643		39- 12
341	1	E-9	7	縄文土器			縄文	5.7	95.066	40.166	79.693		
342	1	E-9	7	縄文土器	野島式～鵜ヶ島		縄文早期後葉～末	10.2	91.006	43.606	79.828		37- 09
343	1	F-9	FBb	縄文土器	諸磯C		縄文前期	9.3	90.921	51.107	81.122		39- 02
344	1	E-9	7	縄文土器	称名寺		縄文後期前葉	4.5	93.900	45.508	80.292		40- 05
345	1	E-9	7	縄文土器	諸磯C		縄文前期	5.0	90.354	45.696	80.288		39- 04
346	1	E-9	7	縄文土器	諸磯C		縄文前期	9.0	91.546	45.663	80.356		39- 03
347	1	F-9	7	縄文土器	諸磯C		縄文前期	21.3	94.641	50.209	81.006		39- 06
348	1	E-8	7	縄文土器			縄文	15.1	84.571	44.619	80.493		
349	1	F-9	7	縄文土器			縄文	6.0	94.541	50.656	81.162		
350	1	E-8	7	縄文土器	諸磯C		縄文前期	2.1	89.873	43.826	80.495		
351	1	E-9	7	縄文土器	早期条痕文系		縄文早期後葉～末	5.9	90.535	43.091	79.746		
352	1	E-9	7	縄文土器	称名寺		縄文後期前葉	16.8	91.520	45.133	80.189		40- 01
353	1	E-8	7	縄文土器	堀ノ内		縄文後期前葉	16.3	82.573	47.038	80.941		40- 15
354	1	E-8	7	縄文土器			縄文	8.0	83.220	45.183	80.501		
355	1	D-9	4	土師質土器		不明	不明	2.5	95.752	38.366	79.681		
356 -1	1	E-8	4	縄文土器	大粒輝石含有		縄文	4.6	-	-	-		
356 -2	1	E-8	4	土師器		甑	古墳	41.1	-	-	-		58- 07
356 -3	1	E-8	4	土師質土器		不明	不明	6.3	-	-	-		
357	1	E-8	7	縄文土器	大粒輝石含有		縄文	10.5	81.510	43.000	80.037		
358	1	E-8	7	縄文土器			縄文	8.8	83.526	44.133	80.242		
359	1	E-8	4	土師質土器		不明	不明	2.1	85.228	45.549	80.421		
360	1	E-9	7	縄文土器	諸磯C		縄文前期	2.3	90.401	45.807	80.270		
361	1	E-8	7	縄文土器	大粒輝石含有		縄文	6.6	82.423	44.445	80.268		
362	1	E-8	7	縄文土器	野島式～鵜ヶ島		縄文早期後葉～末	12.1	84.048	46.104	80.471		37- 05
363	1	E-8	7	縄文土器			縄文	4.8	87.862	44.841	80.184		
364	1	E-8	7	縄文土器			縄文	10.1	87.235	43.360	79.955		
365	1	E-9	7	縄文土器	諸磯C		縄文前期	14.7	92.533	48.778	80.679		39- 01
366	1	E-8	7	縄文土器			縄文	6.8	87.438	42.582	79.700		
367	1	D-8	4	縄文土器			縄文	3.2	89.656	38.275	79.144		
368	1	D-9	4	須恵器		不明	古代	5.1	94.273	37.220	79.289		58- 12
369	1	E-8	FBb	縄文土器	大粒輝石含有		縄文	9.5	82.396	45.265	80.458		

表20　出土土器一覧表(7)

遺物No.	区	グリッド	層位	種類		器種	時代	重量g	X座標	Y座標	H座標	遺構	図版No.
370	1	E-8	FBb	縄文土器	堀ノ内		縄文後期前葉	5.6	81.827	45.211	80.430		40- 15
371	1	E-8	4	縄文土器	大粒輝石含有		縄文	8.3	86.212	40.445	79.460		
372	1	E-8	7	縄文土器	早期条痕文系		縄文早期後葉～末	26.3	88.753	43.797	79.772		
373	1	E-9	4	縄文土器	称名寺		縄文後期前葉	3.6	90.321	40.516	79.774		
374	1	E-9	7	縄文土器	早期条痕文系		縄文早期後葉～末	4.2	92.683	46.587	80.137		
375	1	D-8	7	縄文土器	野島式～鵜ヶ島		縄文早期後葉～末	5.7	89.270	37.677	79.011		37- 08
376	1	D-8	7	縄文土器			縄文	8.6	88.999	35.620	78.825		
377	1	D-8	7	縄文土器	曽利Ⅳ～Ⅴ		縄文中期後葉	5.9	89.752	37.655	79.036		39- 24
378	1	D-8	7	縄文土器	早期条痕文系		縄文早期後葉～末	10.6	87.618	36.396	78.926		
379	1	D-8	7	縄文土器	大粒輝石含有		縄文	12.2	88.715	35.551	78.771		
380	1	D-9	7	縄文土器			縄文	2.7	90.119	36.984	79.002		
381	1	D-9	7	縄文土器			縄文	3.5	91.093	38.477	79.139		
382	1	E-8	7	縄文土器	大粒輝石含有		縄文	10.9	84.323	40.553	79.468		
383	1	D-9	7	縄文土器	諸磯C		縄文前期	3.4	90.589	35.214	78.947		
384	1	D-9	FBb	縄文土器			縄文	5.0	95.920	31.396	79.413	SD-2	
385	1	E-8	表土	磁器	肥前	小皿	近世	2.9	75.901	42.438	80.378		74- 11
386	1	E-7	FBb	縄文土器			縄文	11.0	78.937	40.605	79.581		
387	1	D-8	7	縄文土器	曽利Ⅳ～Ⅴ		縄文中期後葉	12.8	82.735	39.175	79.111		39- 21
388	1	D-8	7	縄文土器			縄文	6.1	83.039	39.028	79.082		
389	1	E-8	7	縄文土器			縄文	89.5	86.676	40.432	79.217		40- 11
390	1	E-10	2	かわらけ			中世	6.2	-	-	-		63- 10
391	1	E-7	攪乱	須恵器		不明	古代	6.9	77.390	41.843	80.023		
392	1	E-8	覆土	縄文土器			縄文	4.3	86.915	40.980	78.718	SX-1	
393	1	D-9	覆土	縄文土器	早期条痕文系		縄文早期後葉～末	5.9	92.315	39.994	79.254	SX-1	
394	1	D-9	覆土	縄文土器			縄文	3.0	91.493	38.935	79.000	SX-1	
395	1	D-9	覆土	縄文土器			縄文	2.3	90.537	38.378	78.683	SX-1	
396	1	D-9	覆土	縄文土器			縄文	3.3	90.752	38.417	78.739	SX-1	
397	1	D-9	覆土	縄文土器	早期条痕文系		縄文早期後葉～末	5.0	91.442	36.606	78.711	SX-1	
398	1	D-9	覆土	縄文土器			縄文	4.4	91.373	36.611	78.696	SX-1	
399	1	D-9	覆土	縄文土器			縄文	2.7	91.409	36.602	78.695	SX-1	
400	1	D-9	覆土	縄文土器	早期条痕文系		縄文早期後葉～末	28.8	90.807	34.051	78.636	SX-1	38- 01
401	1	D-8	7	縄文土器	早期条痕文系		縄文早期後葉～末	35.6	88.769	35.456	78.351	SX-1	37- 18
402	1	D-8	7	縄文土器			縄文	4.5	88.684	35.387	78.115	SX-1	
403	1	D-9	覆土	縄文土器	早期条痕文系		縄文早期後葉～末	20.6	91.821	39.767	79.202	SX-1	
404	1	D-8	7	縄文土器			縄文	5.7	89.871	38.598	78.999	SX-1	
405	1	D-8	覆土	縄文土器	曽利Ⅳ～Ⅴ		縄文中期後葉	4.2	88.539	36.826	78.064	SX-1	39- 19
406	1-2	R-5	3	縄文土器			縄文	5.0	58.335	-27.875	65.939		
407	1-2	R-5	3	縄文土器			縄文	26.9	57.939	-26.611	65.619		
408	1-2	C-8	4	かわらけ			中世	7.7	85.078	23.278	76.207		63- 06
409	1-2	D-7	7	縄文土器	加曽利BⅠ		縄文後期中葉	16.8	77.953	35.169	78.542		41- 01
410	1-2	D-7	FBb	縄文土器	早期条痕文系		縄文早期末	37.1	78.558	35.374	78.796		37- 17
411	1-2	D-7	FBb	縄文土器			縄文	5.9	76.998	35.617	78.850		
412	1-2	D-8	4	瓦質土器		双耳壺 or 手焙り	中世	5.0	80.921	33.878	78.656		
413	1-2	D-7	4	土師質土器		不明	不明	6.6	78.823	36.008	78.734		
414	1-2	D-8	4	縄文土器	早期条痕文系		縄文早期後葉～末	8.1	84.315	35.414	78.941		
415	1-2	D-9	4	須恵器		不明	古代	5.4	90.137	33.402	78.996		
416	1-2	D-7	攪乱	磁器	肥前	不明	近世	2.1	76.837	34.892	78.668		
417	1-2	D-8	4	土師質土器		不明	不明	6.0	82.444	35.921	79.073		
418	1-2	D-8	4	土師質土器		不明	不明	4.4	86.975	35.355	78.892		
419	1-2	D-7	4	土師質土器		不明	不明	2.2	78.537	36.851	79.085		
420	1-2	D-8	4	土師器		甕	古墳～古代	6.5	84.169	35.829	78.964		
421	1-2	D-7	攪乱	陶器	瀬戸	腰錆碗 or 湯呑	近世	7.6	76.852	33.749	78.319		71- 04
422	1-2	C-9	FBb	縄文土器	早期条痕文系		縄文早期後葉～末	8.3	97.339	28.815	79.660		
423	1-2	D-9	4	陶器	常滑	甕	中世	81.9	91.562	31.328	79.073		
424 -1	1-2	D-9	4	縄文土器	大粒輝石含有		縄文	5.1	90.597	32.609	79.218		
424 -2	1-2	D-9	4	陶器	瀬戸美濃	平碗	中世	8.7	90.597	32.609	79.218		62- 10
425	1	D-8	7	縄文土器	称名寺		縄文後期前葉	6.4	88.296	34.385	78.828	SX-1	40- 03
426	1-2	D-9	4	縄文土器	称名寺		縄文後期前葉	3.7	93.446	30.968	79.143		40- 06
427	1-2	D-8	7	縄文土器	安行Ⅲor 清水天王山		縄文晩期	7.3	82.656	35.957	78.902		41- 06
428	1-2	D-7	7	縄文土器	野島式～鵜ヶ島		縄文早期後葉～末	23.8	78.712	35.902	78.568		37- 06
429	1-2	D-8	4	縄文土器			縄文	5.0	83.325	35.138	79.234		
430	1-2	D-7	4	土師質土器		不明	不明	11.6	77.917	35.543	78.637		
431	1-2	D-9	4	土師質土器		不明	不明	7.1	93.052	31.065	79.104		
432	1-2	D-7	4	土師器		不明	古墳～古代	9.1	78.961	31.529	76.814		
433	1-2	B-9	表土	陶器	美濃	丸皿	近世	25.1	92.041	17.849	77.671		72- 04
435	1-2	D-8	7	縄文土器	大粒輝石含有		縄文	9.9	84.116	34.916	78.480		
436	1-2	D-8	4	縄文土器	早期条痕文系		縄文早期後葉～末	13.9	80.288	35.706	79.214		
437	1-2	D-8	7	縄文土器	諸磯C		縄文前期	5.0	83.924	36.268	78.745		
438	1-2	D-8	7	縄文土器	大粒輝石含有		縄文	6.8	83.924	34.469	78.430		
439	1-2	D-8	4	土師質土器		不明	中世	64.4	80.733	33.808	78.157		63- 24
440	1-2	D-8	7	縄文土器			縄文	2.4	82.694	34.594	78.274		
441	1-2	D-8	4	土師質土器		不明	不明	1.1	80.631	36.296	78.498		
442	1-2	D-7	7	縄文土器	早期条痕文系		縄文早期末	25.4	79.449	36.302	79.050		37- 15
443	1-2	D-7	7	縄文土器	加曽利BⅠ		縄文後期中葉	15.3	79.917	36.809	78.832		41- 01
444	1-2	D-8	4	土師質土器		不明	中世	14.0	80.776	34.107	78.162		63- 24
445	1-2	D-7	7	縄文土器	加曽利E		縄文中期後葉	49.1	79.862	35.463	78.416		39- 25
446	1-2	D-8	覆土	縄文土器	曽利Ⅳ～Ⅴ		縄文中期後葉	5.8	86.313	34.588	78.364		39- 18
447	1-2	D-7	FBb	縄文土器	加曽利E		縄文中期後葉	3.7	76.442	33.315	77.466		
448	1-2	D-7	4	陶器	瀬戸	擂鉢	近世	21.0	76.358	31.314	76.913		73- 13
449	1-2	R-6	4	縄文土器	大粒輝石含有		縄文	14.8	68.282	-27.115	65.366		

表20　出土土器一覧表(8)

遺物No.	区	グリッド	層位	種	類	器 種	時 代	重量g	X座標	Y座標	H座標	遺構	図版No.
450	1-2	D-8	覆土	縄文土器			縄文	3.3	-	-	-	7号土坑	
451 -1	1-2	D-8	表土	磁器	瀬戸美濃	小碗	近代	98.8	-	-	-		74- 18
451 -2	1-2	D-8	表土	磁器	瀬戸美濃?	不明	近代	33.8	-	-	-		
454	1-2	D-8	7	縄文土器	早期条痕文系		縄文早期後葉~末	9.2	87.073	33.595	78.181	SX-1	
455	1-2	D-8	7	縄文土器	早期条痕文系		縄文早期後葉~末	23.2	87.386	33.212	78.085	SX-1	
456	1-2	D-8	7	縄文土器	早期条痕文系		縄文早期後葉~末	13.7	84.248	32.784	77.814		
457	1-2	D-8	7	縄文土器	早期条痕文系		縄文早期後葉~末	6.4	86.836	31.754	78.012	SX-1	
458	1-2	D-8	7	縄文土器	早期条痕文系		縄文早期後葉~末	11.2	86.945	32.604	78.040	SX-1	38- 03
459	1-2	D-8	7	縄文土器	早期条痕文系		縄文早期後葉~末	21.9	84.610	33.259	77.974	SX-1	38- 03
460	1-2	D-8	7	縄文土器	早期条痕文系		縄文早期後葉~末	20.1	85.131	32.654	77.855		
461	1-2	D-8	7	縄文土器	早期条痕文系		縄文早期後葉~末	32.6	84.880	33.029	77.913	SX-1	
462	1-2	D-7	攪乱	縄文土器			縄文	1.5	70.566	30.883	76.551		
463	1-2	C-8	4	磁器	瀬戸美濃	碗	近代	11.0	81.268	22.743	75.530		74- 17
464	1-2	D-9	4	磁器	肥前	筒型湯呑	近世	4.0	94.402	31.766	79.055		74- 10
465	1-2	D-8	FBb	縄文土器	早期条痕文系		縄文早期後葉~末	2.6	88.836	32.375	78.177		
466	1-2	D-8	7	縄文土器	早期条痕文系		縄文早期後葉~末	7.0	89.192	32.197	78.404		
467	1-2	D-8	7	縄文土器			縄文中期後葉	8.5	85.928	34.833	78.050		39- 31
468	1-2	D-8	7	縄文土器			縄文	3.2	85.894	32.717	77.785		
469	1-2	A-7	3	陶器	瀬戸美濃	緑釉皿	中世	2.5	71.857	9.016	71.981		
470	1-2	A-7	7	縄文土器			縄文	1.1	74.302	6.909	71.881		
471	1-2	A-7	3	陶器	瀬戸	腰錆碗 or 湯呑	近世	4.1	73.756	9.938	72.449		
472	1-2	A-7	7	縄文土器	安行III or 清水天王山		縄文晩期	9.4	74.036	7.079	71.896		41- 09
473	1-2	C-7	覆土	縄文土器	安行III or 清水天王山		縄文晩期	6.2	74.970	23.280	74.632	SD-7	41- 09
474	1-2	B-7	7	縄文土器			縄文	20.5	73.043	10.732	72.454		
476 -1	1-2	B-7	7	縄文土器	早期条痕文系		縄文早期後葉~末	9.7	76.179	18.319	73.867		
476 -2	1-2	B-7	7	縄文土器			縄文	1.7	76.179	18.319	73.867		
477	1-2	B-6	7	縄文土器	早期条痕文系		縄文早期後葉~末	28.6	66.503	12.948	72.185		
478	1-2	B-7	7	縄文土器	勝坂 or 加曽利E		縄文中期後葉	9.1	71.285	11.387	77.181	焼土2	39- 30
479	1-2	B-7	7	縄文土器			縄文	2.7	73.198	14.704	72.926	焼土2	
480	1-2	B-7	4	土師質土器			不明	1.7	73.809	14.961	73.026	焼土2	
481	1-2	B-8	表土	瓦			近世以降	15.5	86.443	18.349	75.298		
482	1-2	B-7	7	縄文土器	早期条痕文系		縄文早期後葉~末	9.4	74.460	14.092	72.960		
483	1-2	D-8	FBb	縄文土器	早期条痕文系		縄文早期後葉~末	48.8	89.864	34.470	78.099		38- 01
484	1-2	D-8	4	土師質土器		不明	中世	51.5	80.170	34.652	78.073		63- 24
485	1-2	D-8	4	縄文土器	加曽利E		縄文中期後葉	31.4	80.225	34.020	78.114		39- 26
486	1-2	D-8	7	縄文土器	加曽利E		縄文中期後葉	21.3	80.232	34.234	78.032		39- 27
487	1-2	C-7	攪乱	土師質土器		不明	不明	1.0	-	-	-		
488	1-2	C-7	攪乱	陶器	瀬戸美濃	緑釉皿	中世	2.1	-	-	-		
489	1-2	B-6	表土	土師質土器		不明	不明	3.2	66.866	13.342	72.582		
490	1-2	B-7	4	土師質土器		不明	不明	26.0	75.949	12.165	72.866		
491	1-2	C-8	攪乱	磁器	瀬戸美濃	小碗	近代	-	88.154	28.301	77.133		74- 18
492	1-2	-	表土	縄文土器	大粒輝石含有		縄文	3.5	-	-	-		
494	1-2	B-7	7	縄文土器	早期条痕文系		縄文早期後葉~末	20.1	72.263	17.013	73.125		
495 -1	1-2	B-7	7	縄文土器	早期条痕文系		縄文早期後葉~末	7.8	74.180	16.240	73.069		
495 -2	1-2	B-7	7	縄文土器	早期条痕文系		縄文早期後葉~末	15.6	74.180	16.240	73.069		
497	1-2	B-7	7	縄文土器	早期条痕文系		縄文早期後葉~末	49.2	74.511	15.460	72.868		
499 -1	1-2	Q-10	表採	陶器	瀬戸美濃	志野丸皿	近世	3.4	-	-	-		71- 07
499 -2	1-2	Q-10	表採	瓦質土器	常滑	火鉢	近世	89.0	-	-	-		
499 -3	1-2	Q-10	表採	陶器	不明	不明	不明	5.0	-	-	-		
499 -4	1-2	Q-10	表採	陶器	不明	不明	不明	3.0	-	-	-		
500	1-2	Q-9	表土	陶器	美濃	徳利	近世	4.9	-	-	-		
501	1-2	R-9	7	縄文土器			縄文	7.3	98.710	-25.141	68.028		
502	1-2	R-9	7	縄文土器	諸磯C		縄文前期	3.9	98.572	-29.644	67.522		
504	1-2	R-9	表土	土師質土器		不明	不明	5.7	98.065	-22.494	68.837		
505	1-2	S-9	5	陶器	常滑	大甕	中世	12.8	99.393	-19.667	68.950		62- 04
506	1-2	R-9	表土	陶器	瀬戸美濃	天目茶碗	中世	4.5	98.348	-24.969	68.902		
507	1-2	R-9	7	縄文土器	大粒輝石含有		縄文	22.2	98.813	-32.367	67.214		
508	1-2	R-9	5	縄文土器			縄文	4.6	98.865	-22.951	68.355		
509	1-2	R-9	7	縄文土器			縄文	5.3	98.570	-29.873	67.830		
510	1-2	Q-9	7	縄文土器	大粒輝石含有		縄文	8.9	98.824	32.185	67.264		
511	1-2	R-9	5	縄文土器	井戸尻III		縄文中期前葉	41.2	98.913	-25.401	68.402		39- 16
512	1-2	Q-9	7	縄文土器	安行III or 清水天王山		縄文晩期	11.5	98.934	-31.128	67.706		41- 07
513	1-2	Q-9	7	縄文土器	曽利IV~V		縄文中期後葉	19.4	98.833	-30.540	67.612		39- 20
514	1-2	R-9	4	土師質土器		不明	不明	15.4	99.256	-26.767	67.701		
515	1-2	R-9	5	須恵器		不明	古代	7.9	98.879	-23.889	68.536		58- 10
516	1-2	B-7	7	縄文土器	押型文		縄文早期前葉	18.7	74.845	14.857	72.552		37- 01
517	1-2	B-7	7	縄文土器	早期条痕文系		縄文早期後葉~末	88.3	70.984	12.900	72.026		38- 05
518	1-2	R-9	7	縄文土器			縄文晩期?	8.0	99.995	-29.730	77.570		41- 11
519	1-2	R-9	7	縄文土器	大粒輝石含有		縄文	9.3	98.746	-31.161	67.913		
520	1-2	Q-9	7	縄文土器	大粒輝石含有		縄文	5.4	99.243	-31.848	68.165		
521	1-2	A-6	覆土	縄文土器			縄文	11.2	65.898	2.258	70.029	ST-2	
522	1-2	A-6	覆土	土師器		不明	古墳~古代	3.9	62.893	1.818	69.794	ST-2	
523	1-2	A-6	覆土	陶器	瀬戸	擂鉢	近世	30.3	66.231	1.601	69.921	ST-2	73- 16
524	1-2	A-6	覆土	陶器	不明	不明	不明	5.6	65.934	0.569	69.831	ST-2	
525	1-2	A-6	覆土	縄文土器	大粒輝石含有		縄文	6.8	66.649	1.738	69.742	ST-2	
528	1-2	A-6	覆土	陶器	瀬戸美濃	擂鉢	中世	12.7	62.920	5.376	70.241	ST-2	62- 18
529	1-2	A-5	覆土	磁器	肥前	不明	近世	3.6	55.292	5.103	69.948	ST-2	
530 -1	1-2	-	覆土	陶器	瀬戸	擂鉢	近世	151.0	-	-	-	ST-2	73- 17
530 -2	1-2	-	覆土	磁器	瀬戸美濃	一括	近代	計 43.5	-	-	-	ST-2	74- 19
531 -1	1-2	A-5	黒層	陶器	志戸呂	擂鉢	近世	64.2	-	-	-	ST-1	73- 02

表20　出土土器一覧表(9)

遺物No.	区	グリッド	層位	種	類	器種	時代	重量g	X座標	Y座標	H座標	遺構	図版No.
531-2	1-2	A-5	礫層	磁器	瀬戸美濃？	一括	近代	計9.4	-	-	-	ST-1	
531-3	1-2	A-5	礫層	磁器	肥前	不明	近世	1.7	-	-	-	ST-1	
532-1	1-2	-	礫層	土師質土器		不明	不明	3.7	-	-	-	ST-1	
532-2	1-2	-	礫層	陶器	瀬戸	山茶碗／片口鉢	中世	17.6	-	-	-	ST-1	62-05
532-3	1-2	-	礫層	磁器	肥前？	不明	近代	6.3	-	-	-	ST-1	
532-4	1-2	-	礫層	陶器	不明	不明	不明	1.5	-	-	-		
533	1-2	A-6	覆土	陶器	不明	不明	近世	5.1	66.534	3.178	69.920	ST-2	
534	1-2	A-6	覆土	陶器	美濃	筒型香炉	近世	8.9	66.050	1.892	69.452	ST-2	72-11
535	1-2	A-6	覆土	陶器	肥前	端反皿	近世	13.8	65.461	3.377	70.018	ST-2	72-14
536	1-2	A-6	覆土	磁器	肥前	皿	近世	3.8	67.589	1.754	69.486	ST-2	74-12
537	1-2	A-6	覆土	陶器	瀬戸美濃	腰折皿	中世	0.7	67.099	3.512	70.138	ST-2	
538	1-2	A-6	覆土	陶器	志戸呂？	筒型碗？	不明	2.6	62.989	1.518	69.668	ST-2	
539	1-2	A-6	覆土	陶器	不明	徳利？	不明	3.8	60.405	2.953	69.597	ST-2	
540	1-2	A-6	覆土	陶器	不明	不明	不明	4.2	67.380	2.669	69.998	ST-2	
541	1-2	A-5	覆土	磁器	瀬戸美濃	皿	近代	4.4	56.979	8.259	70.516	ST-2	
542	1-2	A-6	覆土	磁器	瀬戸美濃？	不明	近代	5.1	67.513	2.919	70.154	ST-2	
543	1-2	A-6	覆土	磁器	肥前？	不明	不明	1.9	66.642	0.597	69.549	ST-2	
544	1-2	A-6	覆土	磁器	肥前	不明	近世	3.7	60.684	4.357	69.576	ST-2	
545	1-2	A-6	覆土	磁器	肥前？	不明	不明	2.8	69.101	0.506	69.751	ST-2	
546	1-2	A-6	覆土	土師質土器		不明	不明	6.7	68.642	1.707	69.727	ST-2	
548	1-2	A-6	覆土	磁器	肥前	不明	近世	3.1	61.160	3.493	69.873	ST-2	
549	1-2	A-6	7	縄文土器			縄文	5.0	64.499	8.841	71.112		
550	1-2	A-6	7	縄文土器	称名寺		縄文後期前葉	7.6	66.755	6.363	70.764		40-02
551	1-2	A-6	7	縄文土器			縄文	3.4	64.787	8.237	70.907		
552	1-2	A-6	7	縄文土器			縄文	9.4	61.530	6.532	70.485		41-10
553	1-2	A-6	7	縄文土器			縄文	2.6	63.305	6.416	70.618		
554	1-2	-	表採	瓦質土器		双耳壺 or 手焙り	中世	15.3	-	-	-		
555	1-2	S-9	5	弥生土器		甕？	弥生～古墳	6.6	97.031	-17.362	68.040		58-01
556	1-2	A-4	礫層	磁器	瀬戸美濃	不明	近代	4.2	-	-	-	ST-1	
557	1-2	R-9	7	縄文土器	早期条痕文系		縄文早期末	30.3	94.841	-21.891	68.623		37-16
558	1-2	S-5	7	縄文土器			縄文	6.7	53.720	-17.397	67.107		
559	1-2	S-6	7	縄文土器	野島式～鵜ヶ島		縄文早期後葉～末	12.6	60.996	-18.811	66.240		37-07
560-1	1-2	R-5	撹乱	陶器	瀬戸	片口鉢	近世	5.7	56.573	-24.791	66.533		
560-2	1-2	R-5	撹乱	陶器	瀬戸	火入	近世	6.0	56.573	-24.791	66.533		71-13
561	1-2	S-5	撹乱	陶器	瀬戸	志野丸皿？	近世	2.3	52.869	-19.487	67.405		
562	1-2	R-5	5	縄文土器			縄文	9.2	55.041	-28.509	66.387		
563	1-2	Q-5	撹乱	磁器	瀬戸美濃	碗	近代	5.6	58.620	-34.725	66.336		
564	1-2	Q-5	撹乱	陶器	瀬戸	湯瓶	近世	9.5	57.428	-34.456	66.535		
565	1-2	Q-5	撹乱	陶器	肥前	端反皿	近世	-	58.333	-34.732	66.680		72-14
566	1-2	Q-5	撹乱	陶器	瀬戸美濃	瓶類	中世	7.8	58.327	-32.648	66.698		
567	1-2	S-6	5	土師質土器		不明	不明	5.7	62.563	-18.859	66.890		
568	1-2	S-6	KU	縄文土器			縄文	4.1	64.972	-18.590	66.911		
569	1-2	S-5	KU	縄文土器	大粒輝石含有		縄文	7.9	59.484	-14.482	67.133		
570	1-2	S-5	KU	縄文土器	早期条痕文系		縄文早期後葉～末	34.5	56.021	-19.053	66.710		
571	1-2	S-5	KU	縄文土器	堀ノ内		縄文後期前葉	6.6	58.582	-18.701	66.620		40-15
572	1-2	S-5	KU	縄文土器	大粒輝石含有		縄文	3.2	57.891	-18.626	66.660		
573	1-2	S-5	KU	縄文土器	加曽利B1		縄文後期中葉	9.3	59.398	-15.245	67.046		41-04
574	1-2	R-5	KU	須恵器		不明	古代	14.0	58.509	-23.101	66.503		58-16
575	1-2	S-5	KU	縄文土器			縄文	6.7	58.505	-19.279	66.579		
576	1-2	-	撹乱	磁器	瀬戸美濃	碗	近代	9.6	-	-	-		74-16
577	1-2	S-5	7	縄文土器			縄文	7.2	58.857	-19.226	66.362		
578	1-2	S-5	7	縄文土器	堀ノ内		縄文後期前葉	18.6	59.276	-15.376	66.893		
579	1-2	T-5	7	縄文土器			縄文	11.1	57.093	-5.142	68.218		
581	1-2	S-5	7	縄文土器	大粒輝石含有		縄文	5.1	52.120	-17.186	67.138		
582	1-2	S-5	7	縄文土器	称名寺		縄文後期前葉	10.4	53.616	-17.419	67.075		40-10
583	1-2	S-5	7	縄文土器	堀ノ内		縄文後期前葉	17.1	59.117	-15.598	66.982		40-15
584	1-2	S-5	5	縄文土器	大粒輝石含有		縄文	3.1	58.451	-14.801	67.275		
585	1-2	S-5	5	かわらけ			中世	2.8	53.138	-18.551	67.411		
586	1-2	S-6	5	縄文土器	称名寺		縄文後期前葉	2.9	62.319	-19.523	66.843		
587	1-2	T-5	5	土師質土器		不明	不明	2.7	59.470	-6.765	68.176		
588	1-2	S-5	5	陶器	瀬戸	擂鉢	近世	4.7	52.815	-18.575	67.343		
589	1-2	A-4	礫層	陶器	瀬戸美濃	擂鉢	中世	19.6	48.520	8.200	71.109	ST-1	62-24
590	1-2	S-5	5	須恵器		不明	古代	12.8	58.187	-13.158	67.558		
591	1-2	A-5	礫層	磁器	瀬戸美濃	不明	近代	3.2	50.160	8.080	71.003	ST-1	
592	1-2	A-5	礫層	磁器	瀬戸美濃	不明	近代	1.3	50.150	8.120	71.003	ST-1	
593	1-2	A-5	礫層	磁器	肥前？	不明	不明	0.8	50.140	8.090	71.003	ST-1	
594	1-2	A-5	礫層	磁器	瀬戸美濃	不明	近代	1.6	50.110	8.100	71.003	ST-1	
595	1-2	A-5	礫層	陶器	志戸呂	擂鉢	近世	5.5	50.090	8.100	71.004	ST-1	73-03
596	1-2	A-4	礫層	磁器	瀬戸美濃	不明	近代	2.4	49.700	8.000	71.004	ST-1	
597	1-2	A-4	礫層	磁器	瀬戸美濃	不明	近代	3.6	49.640	7.980	70.993	ST-1	
598	1-2	A-4	礫層	磁器	瀬戸美濃	不明	近代	1.1	49.640	7.100	70.846	ST-1	
599	1-2	A-4	礫層	磁器	瀬戸美濃	不明	近代	5.0	49.300	6.820	70.773	ST-1	
600	1-2	A-4	礫層	陶器	志戸呂	擂鉢	近世	12.0	48.140	7.200	70.847	ST-1	73-05
601	1-2	A-4	礫層	磁器	瀬戸美濃	不明	近代	2.4	48.120	6.700	70.739	ST-1	
602	1-2	R-9	-	土師質土器		不明	不明	7.9	94.838	-24.700	68.433		
603	1-2	R-5	5	土師質土器		不明	不明	8.0	58.974	-28.352	65.563		
604	1-2	R-5	5	縄文土器	大粒輝石含有		縄文	6.7	58.241	-28.679	65.976		
605	1-2	Q-5	5	縄文土器	大粒輝石含有		縄文	4.1	58.964	-32.283	65.623		
606	1-2	Q-5	表土	磁器	明	青磁碗	中世	14.0	59.144	-35.200	66.107		62-02
607	1-2	Q-5	覆土	縄文土器			縄文	4.2	58.300	-31.480	65.480	焼土7	

表20　出土土器一覧表(10)

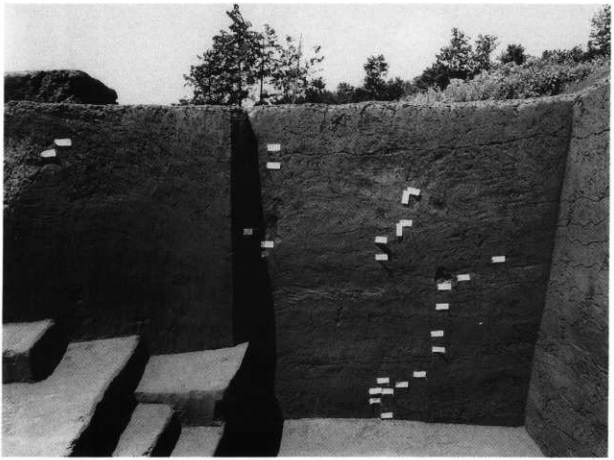
遺物No.	区	グリッド	層位	種	類	器種	時代	重量g	X座標	Y座標	H座標	遺構	図版No.
609	1-2	T-6	層土	陶器	瀬戸美濃	筒形碗	中世	4.1	68.621	-0.434	69.864	ST-2	62- 13
610	1-2	T-6	層土	磁器	肥前波佐見系	丸碗	近世	5.8	68.681	-0.312	69.720	ST-2	74- 04
611	1-2	T-7	層土	土師質土器		不明	不明		70.896	-0.678	69.446	ST-2	
612	1-2	T-6	層土	土師質土器		不明	不明	6.5	68.307	-1.863	69.307	ST-2	
613	1-2	A-6	層土	陶器	常滑	甕	中世	47.0	67.400	0.412	69.856	ST-2	
614	1-2	S-5	7	縄文土器			縄文	3.7	57.620	-16.442	66.962		
615	1-2	R-5	5	土師質土器		不明	不明	17.4	59.457	-24.838	65.794		
616	1-2	Q-5	KU	縄文土器	大粒輝石含有		縄文	10.7	58.180	-30.788	65.501		
617	1-2	S-6	KU	縄文土器			縄文	4.2	67.711	-19.247	66.721		
618	1-2	R-5	7	縄文土器			縄文	4.4	58.169	-25.250	65.552		
619	1-2	Q-7	5	土師質土器		不明	不明	2.1	75.924	-30.488	65.996		
620	1-2	Q-7	7	縄文土器			縄文	10.2	74.183	-30.503	65.800		
621	1-2	Q-7	7	縄文土器			縄文	3.2	71.616	-30.998	65.628		
622	1-2	Q-5	7	縄文土器			縄文	6.6	58.702	-34.645	65.003		
623	1-2	Q-7	7	縄文土器	大粒輝石含有		縄文	1.9	73.271	-30.668	65.785		
624	1-2	Q-6	表土	陶器	美濃	丸皿	近世	15.7	60.639	-33.432	66.340		72- 05
625	1-2	Q-5	KU	縄文土器			縄文	9.1	58.979	-33.287	63.273		
626	1-2	S-5	7	縄文土器	堀ノ内		縄文後期前葉	8.2	59.043	-18.354	66.229		40- 15
627	1-2	S-5	7	縄文土器	堀ノ内		縄文後期前葉	7.5	58.428	-12.126	67.194		40- 15
628	1-2	S-5	7	縄文土器	堀ノ内		縄文後期前葉	61.2	58.499	-12.245	67.105		40- 15
629	1-2	S-5	7	縄文土器	堀ノ内		縄文後期前葉	215.8	58.465	-12.249	67.143		40- 15
630	1	E-7	3	縄文土器	早期条痕文系		縄文早期後葉〜末	5.1	77.360	45.014	62.252		
632	1	D-9	表土	磁器	不明	不明	近代	1.4	96.972	34.656	60.466		
633	1	E-9	3	磁器	瀬戸美濃	不明	近代	3.0	96.188	42.010	60.933		
634	1	E-9	3	磁器	肥前波佐見系	碗	近世	12.5	96.054	42.214	60.929		74- 03
635	1	D-10	3	土師質土器		不明	不明	7.1	103.970	39.561	60.969		
636	1	D-9	4	陶器	常滑？	甕	不明	44.5	93.321	37.260	60.040		
637 -1	1	-	表採	陶器	瀬戸美濃	擂鉢	中世	42.5	-	-	-		62- 23
637 -2	1	-	表採	陶器	瀬戸	擂鉢	近代	31.9	-	-	-		
638	1-2	S-5	7 堀商	縄文土器	堀ノ内		縄文後期前葉	19.2	58.167	-12.149	67.233		40- 15
639	1-2	S-5	7 堀商	縄文土器	堀ノ内		縄文後期前葉	19.5	58.221	-11.971	67.266		40- 15
640	1-2	S-5	7 堀商	縄文土器	堀ノ内		縄文後期前葉	16.7	58.179	-12.643	67.182		40- 15
641	1-2	S-5	7 堀当	縄文土器	堀ノ内		縄文後期前葉	9.4	58.289	-12.877	67.152		40- 15
642	1-2	S-5	7 堀商	縄文土器	堀ノ内		縄文後期前葉	3.2	58.310	-12.018	67.204		40- 15
643	1-2	S-5	7 堀当	縄文土器	堀ノ内		縄文後期前葉	11.6	58.321	-12.339	67.342		40- 15
644	1-2	S-5	7 堀当	縄文土器	堀ノ内		縄文後期前葉	8.4	58.250	-12.399	67.444		40- 15
645	1-2	S-5	7 堀当	縄文土器	堀ノ内		縄文後期前葉	20.9	58.342	-12.544	67.105		40- 15
646	1-2	S-5	7 堀当	縄文土器	堀ノ内		縄文後期前葉	5.2	57.926	-12.857	67.196		40- 15
647	1-2	S-5	7 堀当	縄文土器			縄文	2.9	58.296	-12.069	67.183		
648	1-2	Q-7	表土	磁器	瀬戸美濃	碗	近代	4.1	-	-	-	配石遺構	
649	1-2	Q-7	表土	土師器		杯	古代	17.0	-	-	-	配石遺構	68- 08
650	1-2	Q-7	表土	磁器	肥前	戸栗	近世	21.4	-	-	-	配石遺構	74- 20
651	1-2	A-6	層土	磁器	瀬戸美濃	不明	近代	2.2	64.100	0.190	69.547	ST-2	
652	1-2	T-6	層土	磁器	肥前？	不明	近世	2.6	64.960	-0.050	69.580	ST-2	
653	1-2	T-6	層土	陶器	瀬戸	志野丸皿	近世	9.3	64.990	-0.280	69.516	ST-2	71- 09
654	1-2	T-6	層土	陶器	瀬戸	擂鉢	近世	7.6	66.690	-1.360	69.242	ST-2	
655	1-2	T-6	層土	磁器	肥前？	不明	近世	4.5	66.470	-2.410	69.212	ST-2	
656	1-2	T-7	層土	陶器	瀬戸美濃	擂鉢	中世	57.2	71.090	-4.270	69.113	ST-2	62- 27
657	1-2	T-7	層土	陶器	志戸呂	擂鉢	近世	5.1	71.780	-4.120	69.173	ST-2	73- 04
658	1-2	T-7	層土	磁器	肥前	丸碗	近世	7.0	73.070	-3.170	69.521	ST-2	74- 05
659	1-2	A-6	層土	陶器	瀬戸	擂鉢	近世	9.4	66.000	0.420	69.483	ST-2	73- 12
660	2	-	表土	縄文土器			縄文	36.3	-	-	-		41- 13
661	1-2	Q-7	撹乱	縄文土器	加曽利B I		縄文後期中葉	24.3	76.931	-34.790	65.946	配石遺構	41- 02
662	1-2	Q-7	撹乱	縄文土器			縄文	35.6	79.295	-32.700	65.611	配石遺構	
663	1-2	Q-7	撹乱	土師質土器		不明	不明	7.0	79.293	-38.060	66.182	配石遺構	
664	1-2	Q-7	撹乱	陶器	瀬戸	擂鉢	近世	10.1	78.404	-39.759	65.899	配石遺構	
665	1-2	P-7	撹乱	陶器	美濃	灯明受皿	近世	18.6	77.223	-40.790	65.809	配石遺構	72- 12
666	1-2	P-7	撹乱	磁器	肥前	不明	近世	2.3	76.372	-41.123	65.857		
667	1-2	Q-7	撹乱	磁器	瀬戸美濃	不明	近代	0.7	79.433	-38.061	66.191	配石遺構	
668	1-2	R-10	7	縄文土器	井戸尻？		縄文中期前葉	5.1	102.783	-28.976	67.850		39- 15
669	1-2	R-9	7	縄文土器	加曽利B I		縄文後期中葉	5.7	90.102	-29.467	66.671		41- 05
670	1-2	R-10	4	縄文土器			縄文	10.1	101.694	-29.166	68.051		
671	1-2	R-8	7	縄文土器			縄文	8.7	81.273	-29.084	66.430		
672	1-2	R-8	7	縄文土器	大粒輝石含有		縄文	9.1	83.435	-29.483	66.284		
673	1-2	R-8	7	縄文土器	称名寺		縄文後期前葉	13.1	87.726	-29.404	66.643		40- 06
674	1-2	R-7	表土	陶器	肥前唐川系	小碗	近世	13.0	79.873	-28.550	66.272		72- 17
675 -1	1-2	T-7	表土	縄文土器			縄文	34.0	-	-	-		40- 14
675 -2	1-2	T-7	表土	陶器	志戸呂	壺？	近世	54.2	-	-	-		
675 -3	1-2	T-7	表土	陶器	瀬戸美濃	擂鉢	中世	50.0	-	-	-		62- 25
675 -4	1-2	T-7	表土	陶器	瀬戸	擂鉢	近世	21.5	-	-	-		73- 11
675 -5	1-2	T-7	表土	磁器	肥前	碗	近世	48.1	-	-	-		74- 06
676	1-2	T-6	層土	磁器	肥前？	不明	不明	0.6	68.660	-2.790	69.202	ST-2	
677	1-2	T-6	層土	陶器	瀬戸美濃	擂鉢	中世	2.7	69.770	-1.770	69.337	ST-2	
678	1-2	T-6	層土	陶器	京信楽系？	小碗？	近世	5.9	67.800	-0.790	69.397	ST-2	72- 18
679	1-2	T-7	層土	土師質土器		不明	不明	2.3	70.570	-1.340	69.664	ST-2	
680	1	-	表採	陶器	瀬戸	天目茶碗	近世	4.6	-	-	-		71- 01

写真図版

調査区近景（1区－2、三島・沼津市街地）

調査区近景（1区－1・2、3区）

図版2

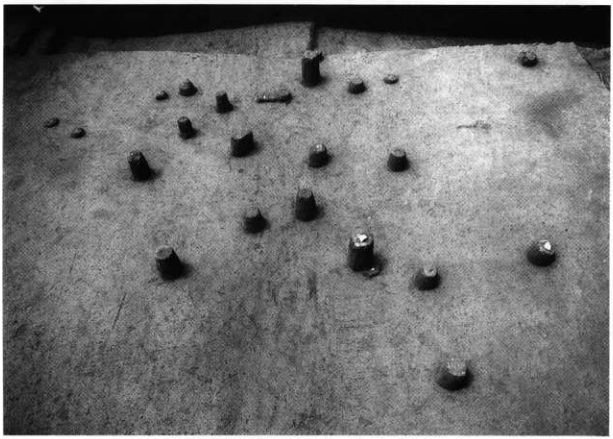


土層堆積状況（1区－1、D－8（イ）TP西壁）

土層堆積状況（1区－1、E－9（ア）TP北壁）

土層堆積状況（2区－1、第1トレンチ中部ローム層）

作業風景（1区－1）



YL層石器検出状況（1区－1・E－10、東から）

図版4

溝状遺構（ＳＤ－１）完掘状況（１区－１・Ｃ－10、東から）

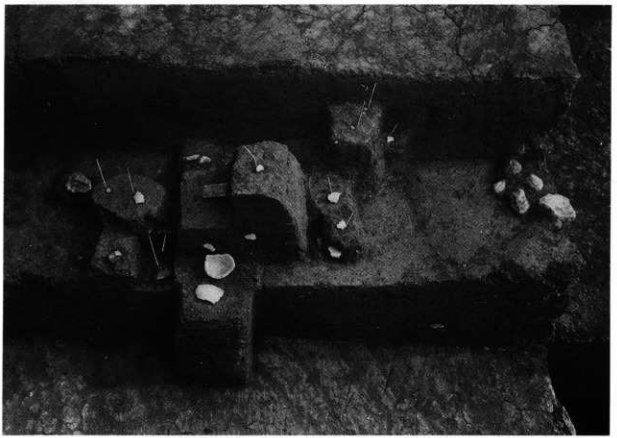
溝状遺構（ＳＤ－７・８）完掘状況（北から）

清状遺構（ＳＤ－７）土層堆積状況（第３トレンチ北壁）

４号土坑半裁状況（東から）

図版6

竪穴状遺構（ＳＸ－１）遺物検出状況（東から）



縄文土器検出状況（第６トレンチ・Ｓ－５、堀ノ内式）

中世土坑完掘状況（西から）

現「竹倉街道」（調査区東側残存部分）

図版８

道路状遺構１（ＳＴ－１）検出状況（西から）

道路状遺構１（ＳＴ－１）土層堆積状況

道路状遺構2（ＳＴ－2）遺物検出状況（北から）

道路状遺構2（ＳＴ－2）（北から）

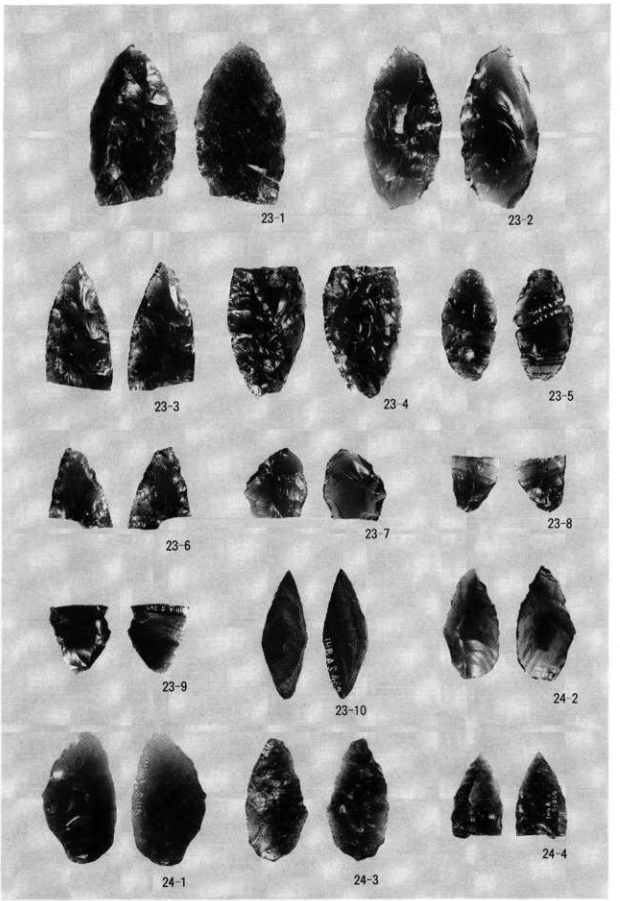
図版10

石積み遺構・畝状遺構検出状況（北から）

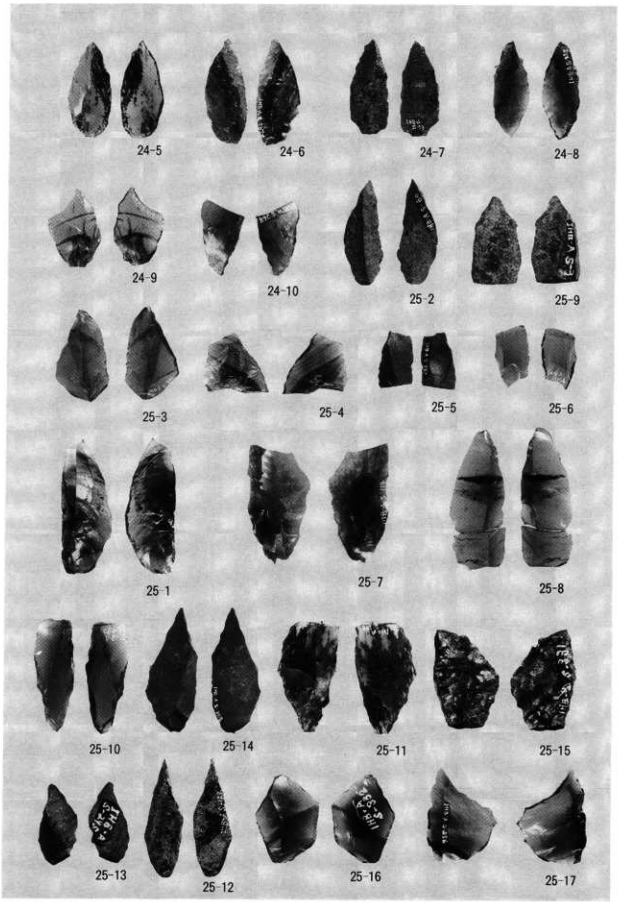
調査区近景（１区－２、第５トレンチより東半面）

豆州田方郡玉沢経王山妙法華寺境内絵図

図版12

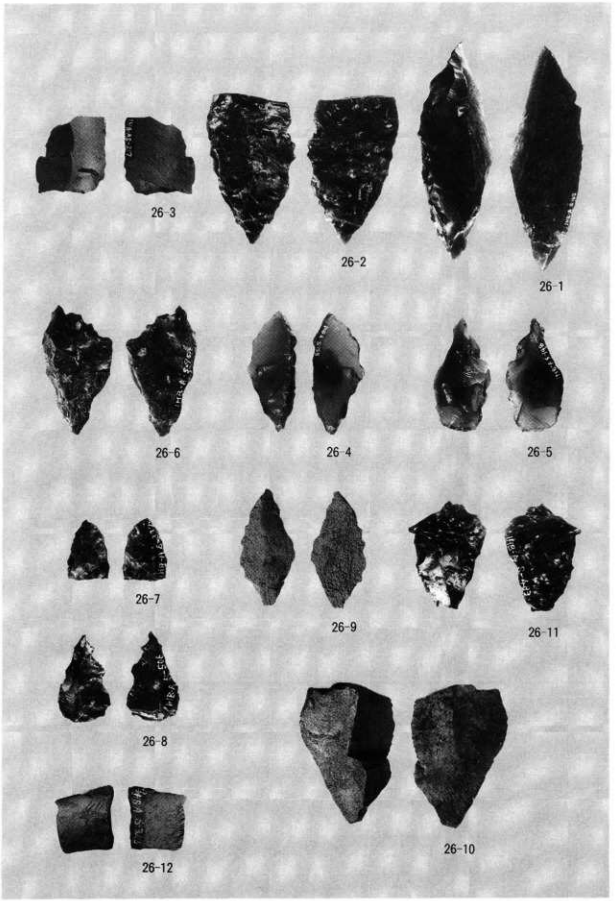


旧石器時代尖頭器

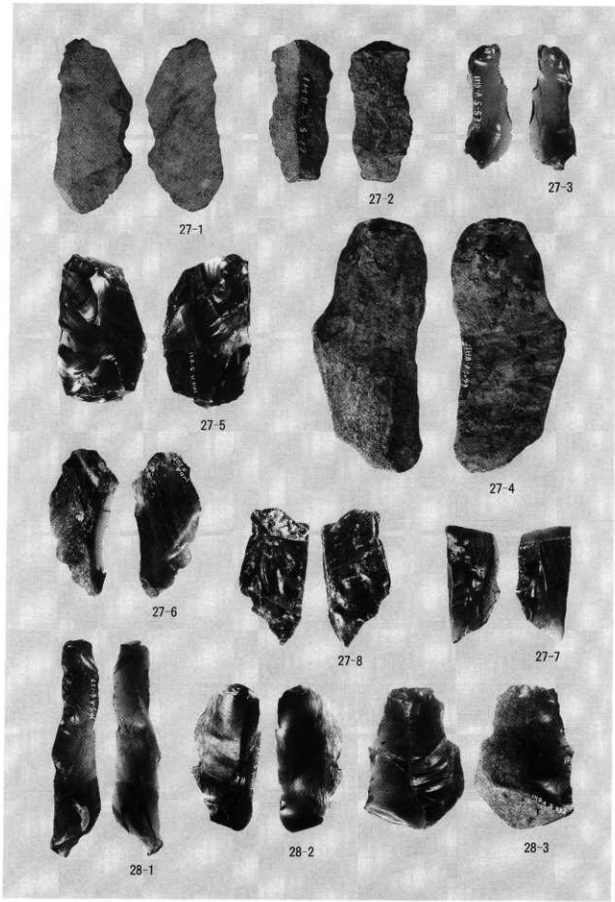

24-5
24-6
24-7
24-8
24-9
24-10
25-2
25-9
25-3
25-4
25-5
25-6
25-1
25-7
25-8
25-10
25-14
25-11
25-15
25-13
25-12
25-16
25-17

ナイフ形石器(1)

図版14

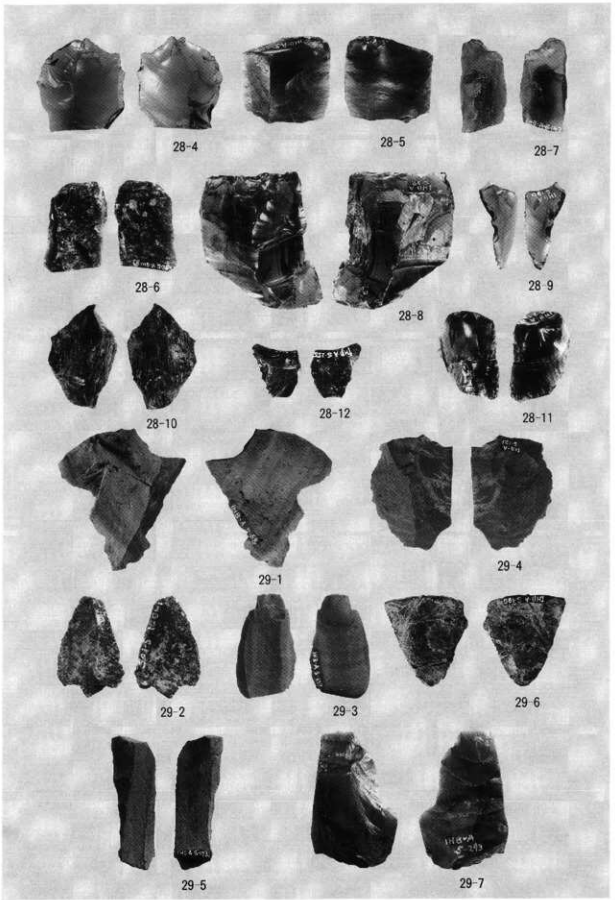


ナイフ形石器(2)

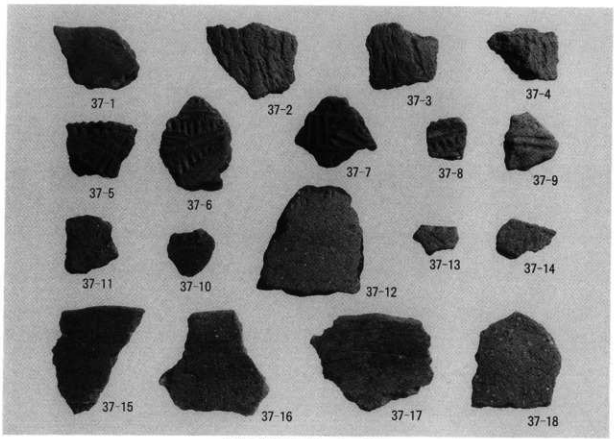


削器・抉入削器・掻器・石刃・剥片

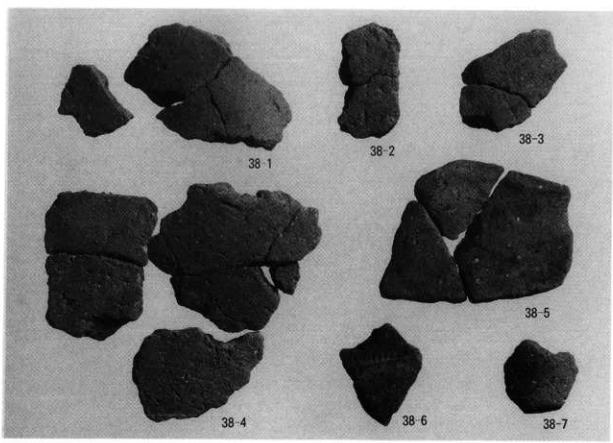
図版16


28-4
28-5
28-7
28-6
28-8
28-9
28-10
28-12
28-11
29-1
29-4
29-2
29-3
29-6
29-5
29-7

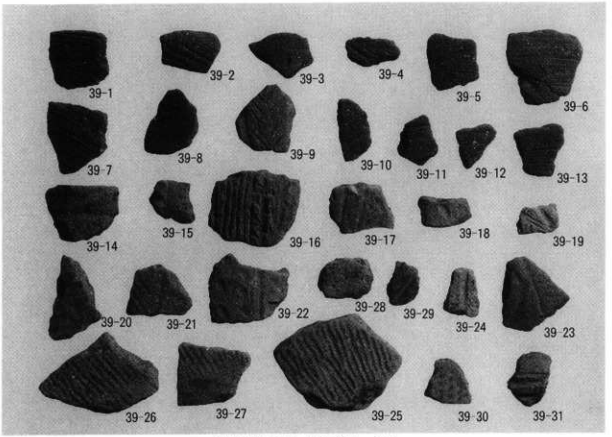
石刃・剥片



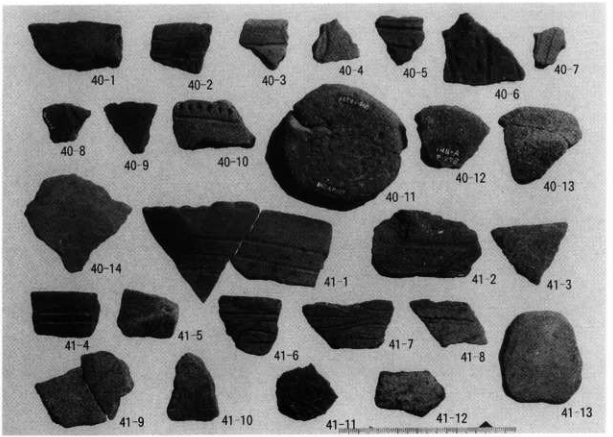
縄文土器第Ⅰ群1・2・3類



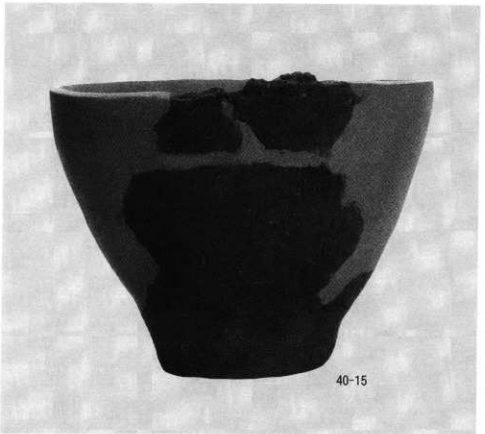
縄文土器第Ⅰ群3類



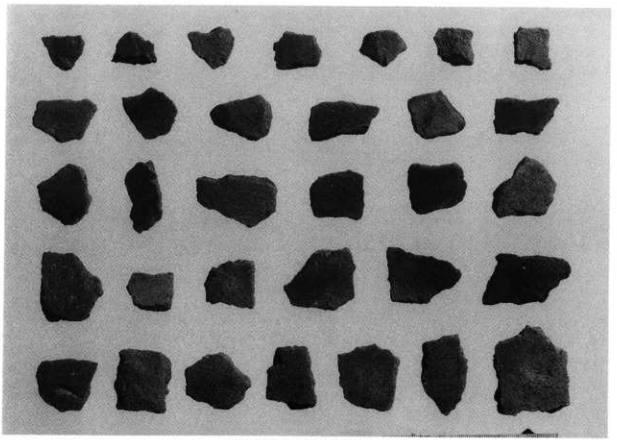
縄文土器第Ⅱ群、第Ⅲ群１・２類



縄文土器第Ⅳ群１・２・３類、第Ⅴ群

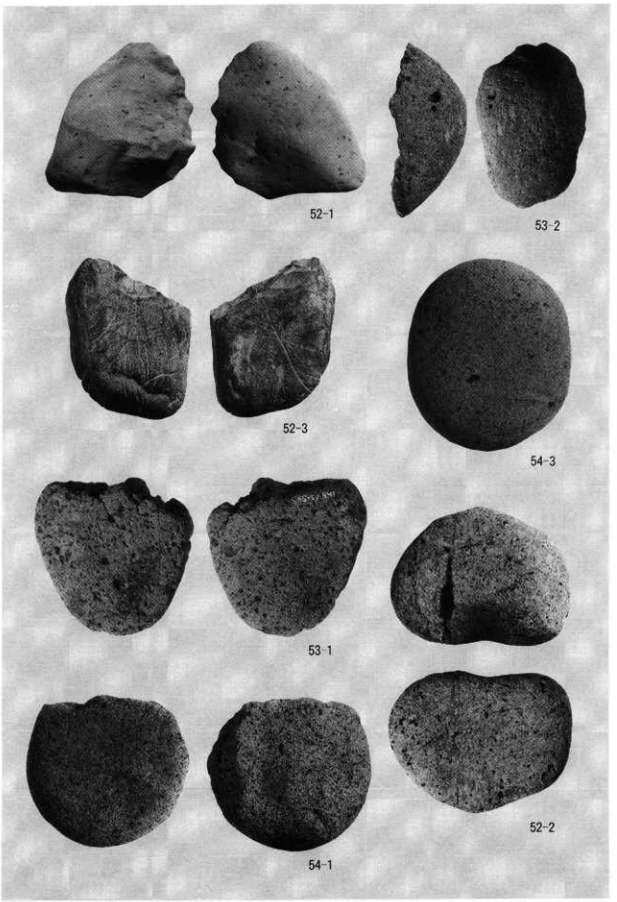


堀ノ内式土器

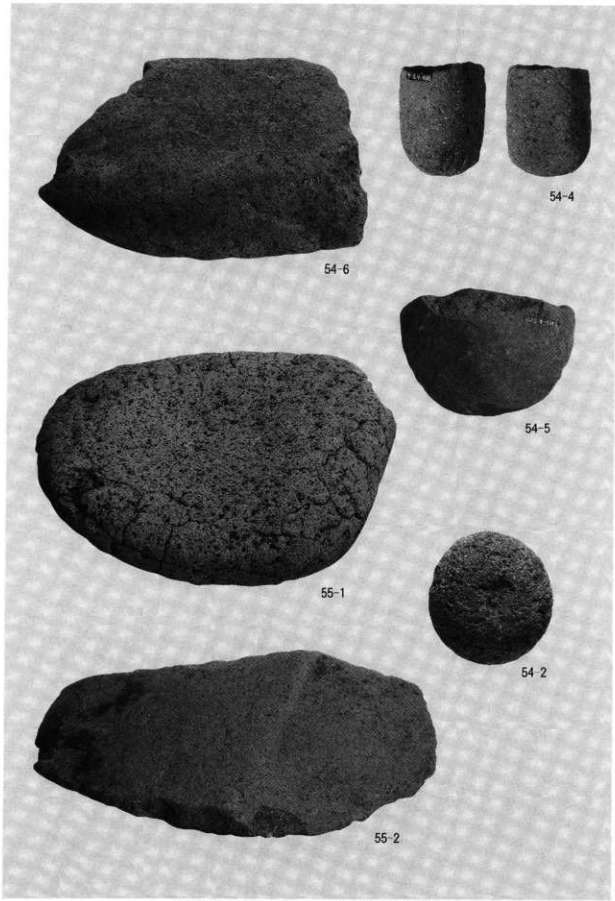


縄文土器（大粒輝石含有）

図版20

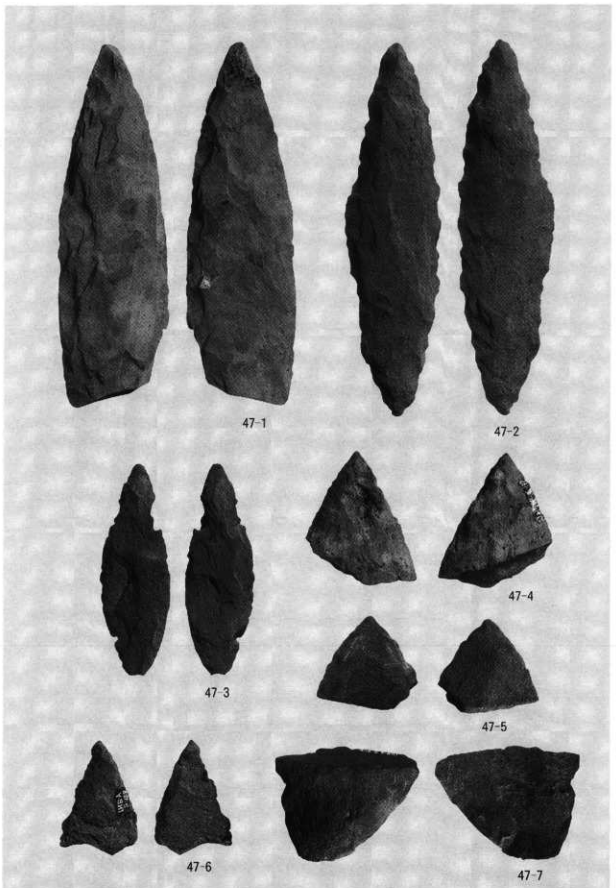


縄文時代石器集合（礫器・加工礫・磨石）

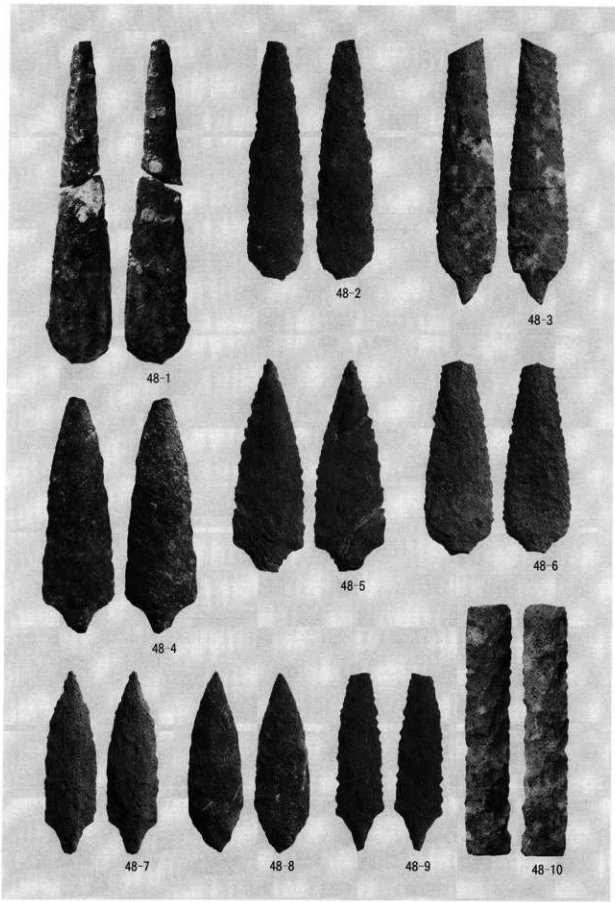


縄文時代石器集合（石皿・石座・敲石・凹石）

図版22

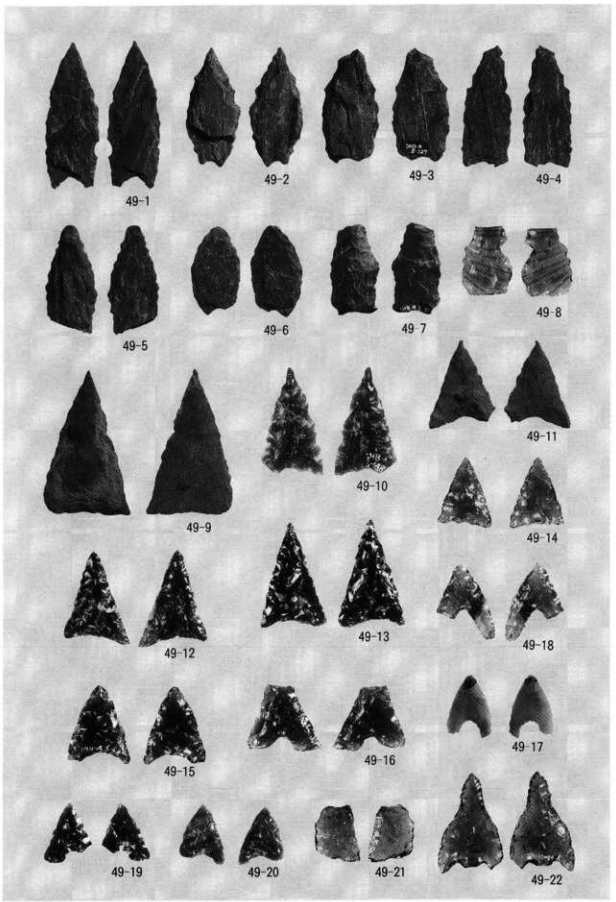


縄文時代尖頭器

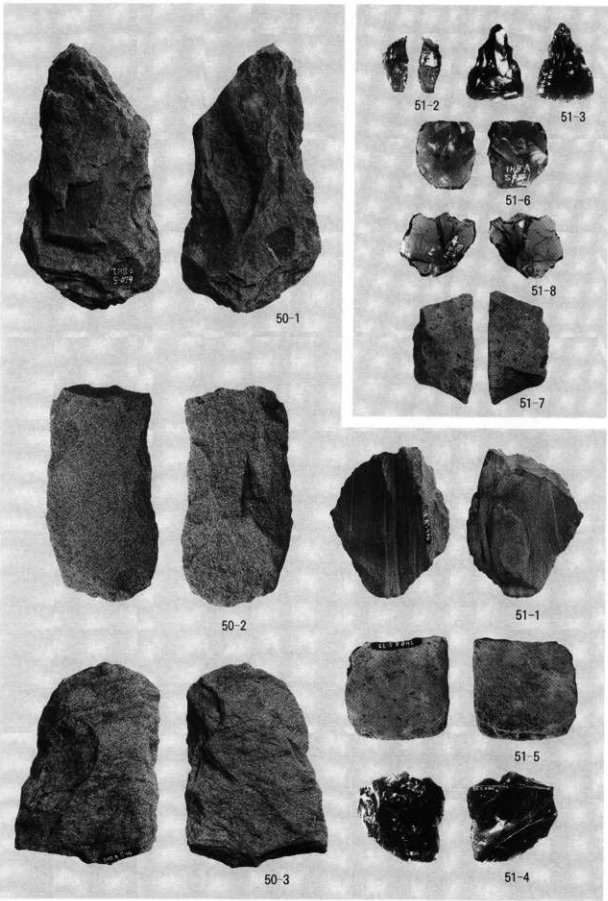


有舌尖頭器・槍刃

図版24

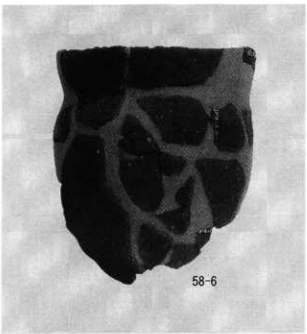

49-1
49-2
49-3
49-4
49-5
49-6
49-7
49-8
49-9
49-10
49-11
49-12
49-13
49-14
49-15
49-16
49-17
49-18
49-19
49-20
49-21
49-22

石 鏃

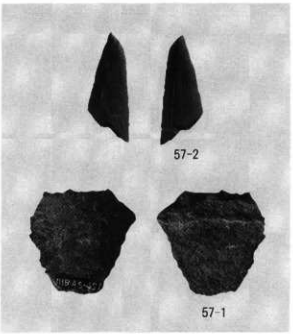


縄文時代石器集合（打製石斧・削器・楔形石器・剥片・石鏃未製品）

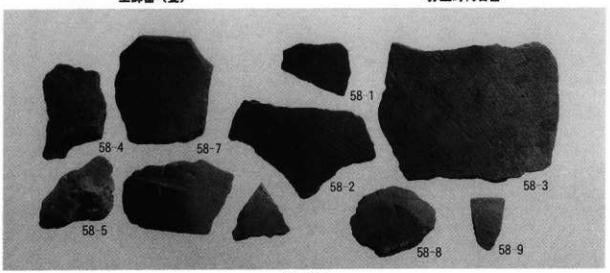
図版26



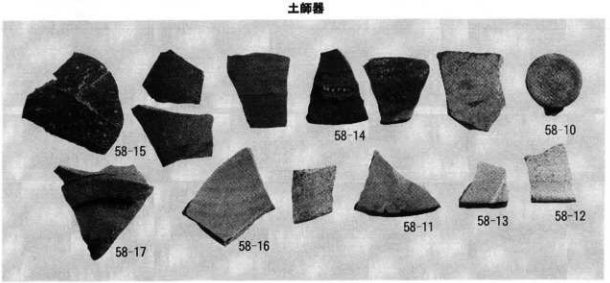
土師器（甕）



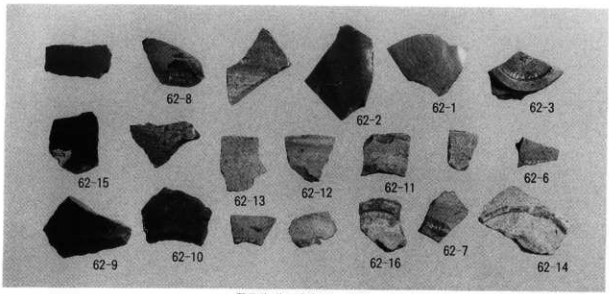
弥生時代石器



土師器

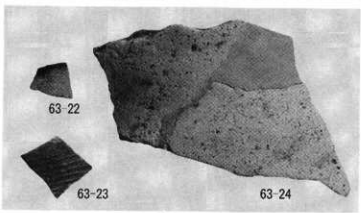


須恵器

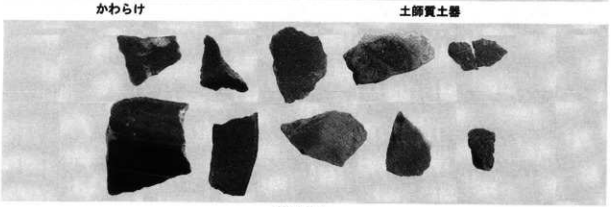


貿易陶磁・古瀬戸・大窯

かわらけ

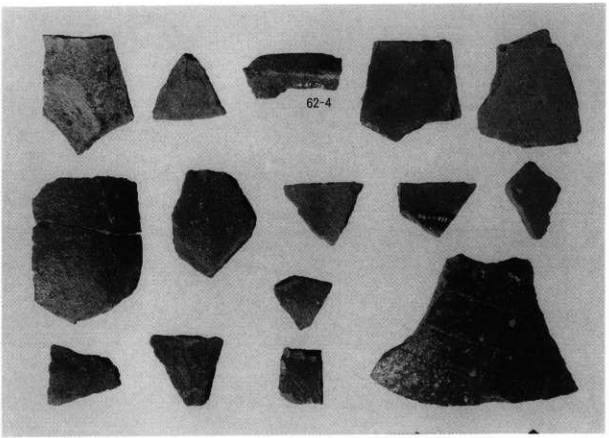


土師質土器

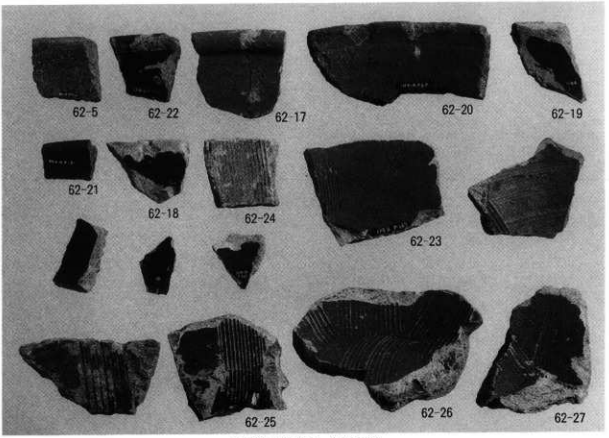


瓦質土器

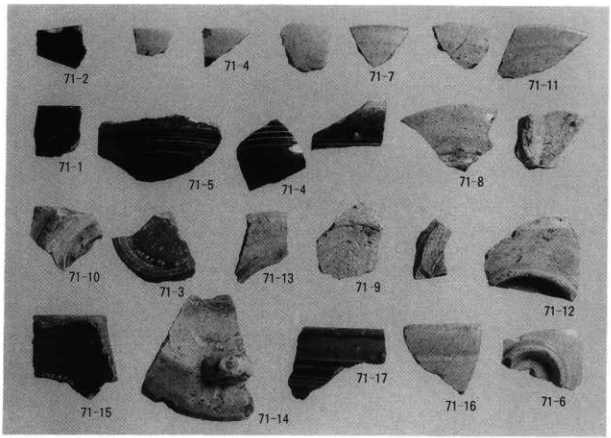
図版28



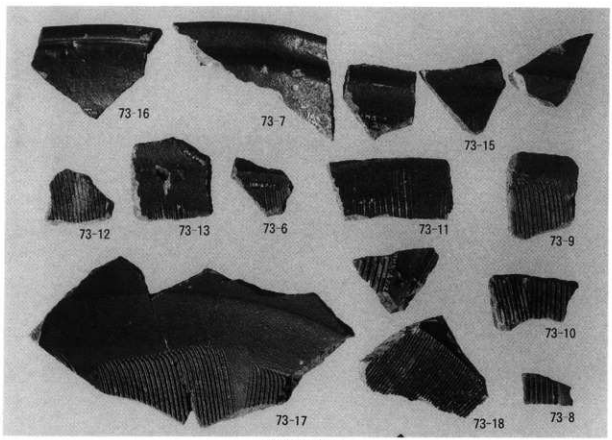
瀬美・常滑系・その他



山茶碗・古瀬戸、大窯擂鉢

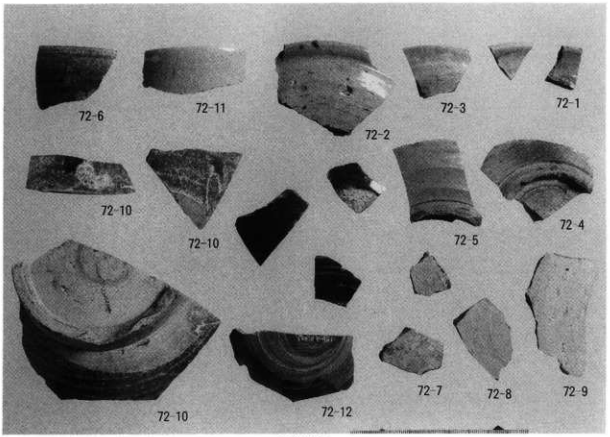

71-2
71-4
71-7
71-11
71-1
71-5
71-4
71-8
71-10
71-3
71-13
71-9
71-12
71-15
71-14
71-17
71-16
71-6

近世瀬戸

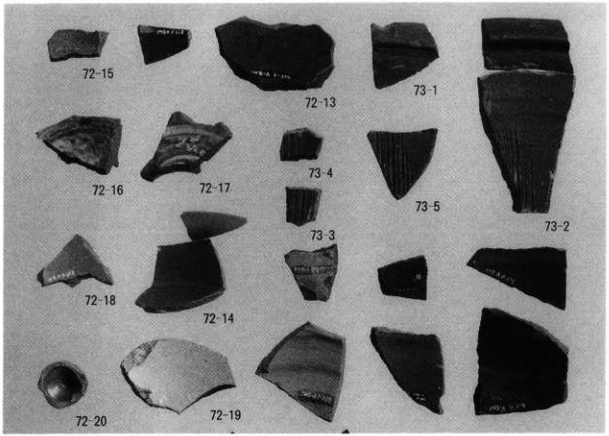

73-16
73-7
73-15
73-12
73-13
73-6
73-11
73-9
73-10
73-17
73-18
73-8

近世瀬戸摺鉢

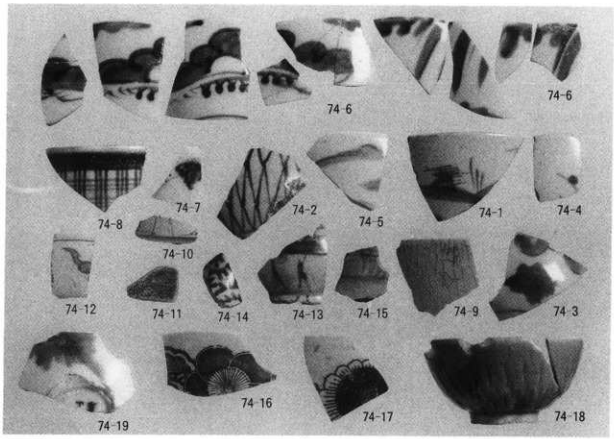
図版30



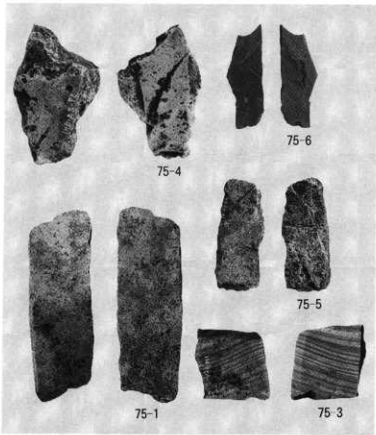
近世美濃

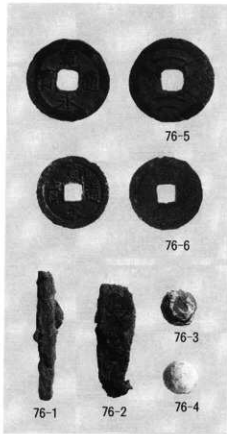


肥前系・志戸呂・その他



近世・近代の磁器





砥石・金属製品・銭貨

〈発掘調査参加者〉

武士　晴信　恒吉　正和　渡辺　俊一　富田　昌之　大坪　清吉　佐藤　忠
松田　武　金成　勉　山内　信弘　下山　貢　大屋　恵司　須田　守男
福島　孝　渡辺　潤　斎藤　憲一　林　正幸　岩名健太郎　栗木　崇
中村　秋江　前島　政恵　芹沢　志江　富岡てる子　土尾真優美　原口千代子
姥妙　洋子　福地　幸子　渡辺みな子　岩下恵美子　宮崎　京子　中山　秀子
井上恵美子　芹沢　光子　飯田美千代　福室　節子　青木ふさゑ　吉田こはる
小林奈緒子

〈整理作業参加者〉

栗木　崇　小林奈緒子　吉田こはる　田村みどり　杉村　桂子

〈石材同定〉

森島富士大（技術作業員）

〈土器観察表作成〉

栗木　崇（技術作業員）

〈調査協力〉

沼津市教育委員会
三島市教育委員会
長野県埋蔵文化財センター
長野県立歴史館
中伊豆町立歴史民俗資料館
上杉　陽（都留文科大学）－火山灰
角張　淳一（アルカ）－石器
柴田　徹（都立青山高等学校）・山本　薫（筑波大学大学院）－石材同定
小熊　博史（長岡市科学博物館）
池谷　信之（沼津市教育委員会）－縄文土器
池谷　初恵（三島市教育委員会）－土師器・須恵器・かわらけ
藤沢　良祐・青木　修（瀬戸市埋蔵文化財センター）－瀬戸・美濃・常滑
望月　昭彦（沼津工業高等専門学校）－蛍光X線分析
内川　隆志（國學院大學考古学資料館）－近世陶磁器
吉岡　康暢（国立歴史民族博物館）－中世陶器
鈴木　敏中（三島市教育委員会）
原　茂光（韮山町教育委員会）
小池　政臣（妙法華寺）
高田　政人（通猛寺）
太田　松子

報告書抄録

ふりがな	ひのきばやしエーいせき
書名	檜林A遺跡
副書名	平成8・9年度東駿河湾環状道路埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ名	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告
シリーズ番号	第101集
編著者名	小川正夫（パリノ・サーヴェイ株式会社、栗木崇）
編集機関	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
所在地	〒422 静岡県静岡市谷田23-20 TEL 054-262-4261
発行年月日	西暦1998年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	所在地	コード 市町村	 遺跡番号	北緯/東経	調査期間	調査面積	調査原因
ひのきばやし 檜林A	三島市谷田 字石神	22206		138°57′10″ /35°06′58″	1996年4月 ～ 1997年9月	14,477m²	東駿河湾環状道路埋蔵文化財発掘調査業務

所収遺跡名	種別	主な年代	主な遺構	主な遺物
檜林A	散布地 道路	旧石器時代	石器集中地点	尖頭器、ナイフ形石器、削器、掻器、石刃、剥片、石核
		縄文時代	遺物集中地点 溝状遺構 土坑 竪穴状遺構	槍先形尖頭器、有舌尖頭器、石族、打製石斧、礫器、楔形石器、削器、剥片、磨石、敲石、凹石、石皿、石皿、縄文土器（早期～晩期）
		弥生～近代	土坑 道路状遺構 石積み遺構 畝状遺構 配石遺構	弥生土器、土師器、須恵器、土師質土器、瓦質土器、陶磁器、古銭、鉛玉、金属製品

静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告　第101集

桧林A遺跡

平成8・9年度東駿河湾環状道路
埋蔵文化財発掘調査報告書

1998年3月31日

編集発行　財団法人
静岡県埋蔵文化財調査研究所
TEL(054)262−4261㈹
印刷所　みどり美術印刷株式会社
沼津市沼北町2丁目16番19号
TEL(0559)21−1839㈹